

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	当別まちづくり株式会社		
所在地	北海道石狩郡当別町末広380番地	設立年	2017年
運営主体	当別まちづくり株式会社		
事業目標	<p>本事業は、当別町の商店街を拠点にアートによる地域活性化活動に取り組んでいる当別まちづくり株式会社を中心となり、令和4年4月に新たに開校した一体型義務教育学校である当別町立とうべつ学園及び当別町教育委員会(学校運営協議会、地域学校協働本部含む)のほか、当別町商工会、当別町料飲店組合等の地域事業者、当別町文化協会等の地域団体及び地域住民、当別町及び近隣で活動するアーティストと連携して、学校における教職員の働き方改革を踏まえ、児童生徒に身近な商店街を活用し学校の部活動に代わり得る継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保するため、モデル事業として実施検証及び普及を目的として実施した。</p>		
きっかけ	<p>当別まちづくり株式会社では、当別町本町地区の商店街活性化の一環として、空き店舗をアトリエに転換して、アーティストインレジデンス事業を行ってきた。これにより新たに2名のアーティストが町内に移住し活動を始めたほか、町内外のアーティストとのネットワークを形成することができたため、これを活かして、当別町の子どもたちに良質なアート体験を提供したいと考え、本事業の検討をはじめた。</p>		
団体・組織等の連携	<p>当別まちづくり会社が事務局となり、下記の運営体制で事業を実施した。特に、実施場所であるとうべつ学園とは、緊密な連携を図ることができた。</p>		
活動場所	当別町立とうべつ学園美術室		
活動概要	<p>より多くの生徒が参加できるようにとの学校の配慮により、美術部が通常活動で使用しているとうべつ学園美術室を活動場所とすることとなった。 美術部は水曜日を除く毎平日に活動しており、常時15名前後が活動に参加している。本事業では、4組のアーティストが計22回訪問し、部活動の支援を行った。また、町内3か所で作品展示を実施したほか、3月11日に実施される第1回とうべつ学園卒業式において、学校内に作品展示を行うほか、来年度の入学式においても本事業で生徒たちが制作した作品が展示された。</p>		

## ○本事業による成果

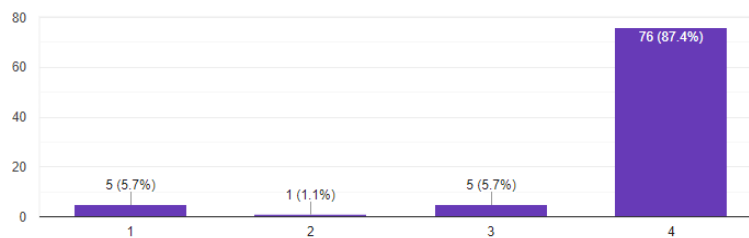
・参加した生徒は8年生(中学2年)が42.5%、7年生(中学1年)が42.5%で、5年生6年生も参加がみられた。これは、とうべつ学園では5年生以上が部活動にさんかできるためである。また9年生(中学3年)はすでに引退済みである。

・4段階評価で感想を求めたところ、87.4%が4点をつけており、生徒の評価はきわめて高い。

今日の感想を選択してください。

 コピー

87 件の回答



・とうべつ学園では、美術専科教員がおらず、美術部は地理教諭が指導している。このため、アーティストによる支援を歓迎し、極めて高い評価をいただいた。

・学校管理職からも評価が高く、特に教頭とは常時情報交換を行い、顧問教諭に負担をかけない運営を行うことができた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

・アーティストとともに常にまちづくり会社のサポートスタッフが入り、運営サポートを行った。顧問教諭等との連絡調整もまちづくり会社が行った。

・これによりアーティストが生徒対応に集中することができた。学校での指導経験がないアーティストでも、周辺業務をサポートすることで、スムーズな運営が行えた。

・当初不安感を訴えていたアーティストについては、まちづくり会社スタッフと2名体制(対談形式)でオリエンテーションを行うことで、スムーズな導入を行うことができた。

・美術部では、生徒が常時自主的に制作活動を行っている。本事業によって生徒の自主的な制作時間が奪われた側面があることから、来年度の課題として、顧問教諭・教頭とも共有している。

## ○運営上の工夫

・当月の予定は、前月中旬までにアーティストからスケジュール予定を聴取し、まちづくり会社が顧問教諭、教頭と調整を行い、美術部の月間スケジュールに組み込む形で前月末までに生徒に配布した。

・学校との連絡調整は原則としてまちづくり会社で行い、顧問教諭、アーティスト双方に負担がかからない運営を行った。

・毎回googleフォームでアンケートを行ったほか、顧問教諭・教頭と常時情報交換を行い、随時実施方法の見直しを行った。



### ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・本年度は9月末の文化祭に向けた作品制作がすでにはじまっていたことから、その制作に影響を与えないよう10月から本格的にスタートさせた。10月～2月までの事業費で約160万円がかかっており、財源確保が最大の課題である。
- ・教員の負担軽減につなげるためには、アーティストと学校の連絡調整をスムーズに行うことが緊要であり、コーディネーターが必須である。
- ・学校との日程調整にあたっては、学校側に希望日を確認するのではなく、事前に入手した学校暦をもとに事務局で候補日を作成し、その可否を尋ねる形式が望ましい。教員の負担が少ないため。

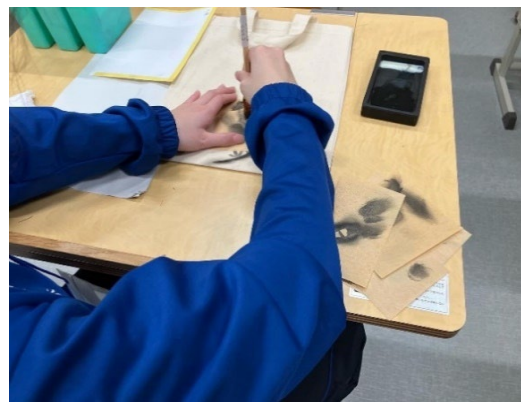
### ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・令和5年度についてはまちづくり会社の独自事業として、年間4組のアーティスト派遣を継続して実施する。
- ・当別町では、運動部の地域移行に向けたモデル事業を令和3年度に実施しているほか、生徒数の減少に伴い、一部部活動が拠点校方式となっている。このため、美術部単体ではなく、町内全域での調整が必要であり、社会教育課を中心に、整理を進めている。
- ・当別町議会3月定例会代表質問において、教育長から部活動の地域移行については、町内アーティストの協力も得ながら、できるところから進めていきたいとの答弁もあったことから、引き続き、とうべつ学園、まちづくり会社と教育員会で連携を密にしながら、体制構築を目指す。

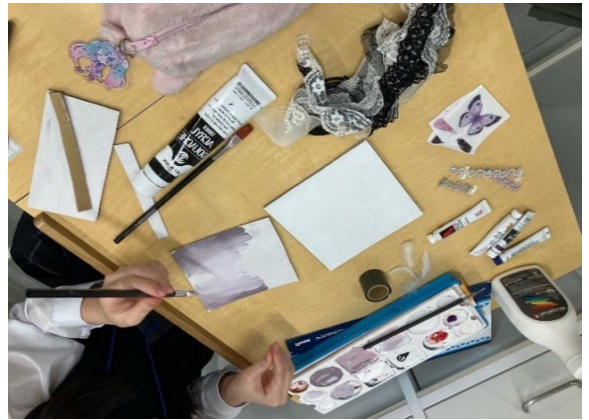
○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	美術部42名(なお常時参加は15名程度)
	学校名	当別町立とうべつ学園
	募集方法	美術部員に直接参加を呼びかけ。
指導者	人数等	4名
	募集方法	当別町内で活動するアーティスト2名、隣町の月形町で活動するアーティスト1名に加えて、当別町での活動経験がある町外アーティスト1組に依頼をした。
参加者の移動手段		学校内で実施したため、徒歩で参加した
活動費用	指導者謝金等	1時間5100円として支給した。町外アーティストは公共交通機関が少ないため、1kmあたり12.5円で交通費を支給した
	その他	
活動財源	会費	保護者負担について、本年度は求めなかった。 これは学校内で活動することとなったため、および、当別町は平均所得が低く、保護者負担を設けることで部活動すら参加できない生徒が生じる危険が大きいためである。
	その他	令和5年度については、まちづくり会社の自主財源で継続実施する。令和7年度を目途に、社会教育課で予算化するべく協議を続けている。 なお、当社の基本的な考え方として、家庭の経済状態によって部活動に参加できない状態を生じさせてはならないと考えている。
スケジュール	基本活動	おおむね2週間に1回程度
	年間	10月～2月に計22回実施した。
保険加入等		加入していない

【活動の様子（写真添付）】













# 地域文化倶楽部

美術部にアーティストがやってきた！

## とらびっ学園美術部

糸びと工房・久保奈月・小島柚穂・浜地彩

当別まちづくり株式会社



instagram

2023 2.25 sat 3.5 sun

ワークショップ開催

12-573026005 呉服店

2/26 (水) 講師：浜地彩

コラーージュを作ろう

3/6 (水) 講師：小島柚穂

型染体験をしよう

旧・カネヨよねぐち呉服店 / 11:00-16:00

ふれあい倉庫 (月曜休館) / 9:00-15:00

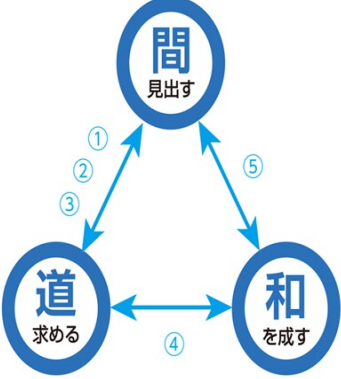
当別郵便局 (土日祝休み) / 10:00-16:00

入場  
無料

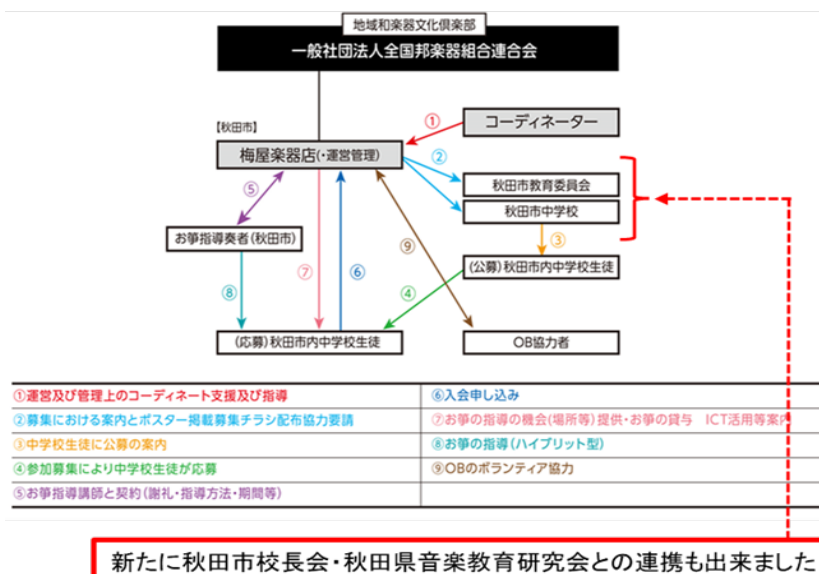
地域文化振興部は文化庁が推進する文化振興活動を地域に展開する取組事業です。本事業では、当別町内外で活動するアーティストを講師として招き、とらびっ学園美術部にて講座を開催しました。本展では、作品と共に活動の様子を展示いたします。

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	「秋田市日本伝統音楽箏曲クラブチーム おうちで琴倶楽部」		
所在地	秋田県秋田市	設立年	2021年
運営主体	全国邦楽器組合連合会(有限会社 梅屋)		
事業目標	二年目にあたる本年度も中学校における教職員の働き改革における部活動移行の課題と、少子化により中学校生部活動の縮小や廃止などで継続となる中学生が増えている中で秋田市の邦楽器文化の向上、演奏技能研鑽の環境整備を行うための活動として、秋田市に【秋田市 日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)クラブチーム」】の組織体制を創設。ハイブリッド型レッスン(オンラインと対面の併用)を活用することで、活動エリアを広くし生徒の受け入れを秋田市に限定せず可能とした。生徒自身の成長と生涯の糧となる機会を創発ことと教職員の働き方改革というテーマを目標として、地域部活動に移行させるために取組むモデル、生徒の生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指すことを実施していく。		
きっかけ	<p>趣味の多様化の普及により、「和楽器」の演奏奏者、愛好家など少なくなり手軽に「和楽器」を習う機会や鑑賞する機会が少なくなっており、日本伝統芸術「和楽器」の継承が危ぶまれております。そこでこの度の事業を通じて、中学生が日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会(注1)が「地域和楽器文化倶楽部」を創設して、秋田に持続可能な和楽器の文化芸術活動を支援することで【秋田市 日本伝統音楽「箏(そうきょく)クラブチーム」】の組織体制を立ち上げました。</p> <p>(注1) 一般社団法人全国邦楽器組合連合会は、全国の邦楽器にかかわる製造業、卸業、小売業で構成する全国20組合を設置。「邦楽器関連企業及び邦楽の健全たる発展を支援し、社会的地位向上に貢献し、豊かな社会作りに寄与することを目的としております」 全国ネットワークをいかし 演奏家と取り組んでおります。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p><b>和楽器の魅力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①和楽器造り(突きつめる)</li> <li>②和楽器演奏(学びとる)</li> <li>③和楽器体験(感じる)</li> <li>④多様性(地域・世代)</li> <li>⑤和文化(想い・感謝)</li> </ul> </div> </div>		

団体・組織等の連携



【秋田市 日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)」クラブチーム】を創設。「和楽器」の文化芸術活動の起点とし邦楽器に触れ、生徒自身の成長と生涯の糧となる機会を創発ことを目標として地域移行させるために取組むモデルの実証事業を発展的な取組む(生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指す)ことを説明出来ました。

1. 秋田市教育委員会、秋田県立教育委員会、秋田市中学校校長会(校長会に和楽器地、秋田県音楽教育研究会(秋田市中学校音楽先生の勉強セミナーでの講師)

活動場所

梅屋楽器秋田店 2F「梅屋スタジオ」と中学生の自宅によるハイブリット型併用指導

活動概要

児童・生徒が、生涯を通じて日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会が、持続可能な和楽器の文化芸術活動の課題を解決するために「地域和楽器文化倶楽部」を創設しました。その一つが秋田市日本伝統音楽「箏曲(そうきょく)」クラブチームです。秋田市日本伝統音楽「箏曲クラブチーム」は和楽器の「箏」を主に児童・生徒を対象として創設した倶楽部です。和楽器の魅力に触れながら『自己表現・協調性・達成感』を学び、生徒さんの健全な育成の一助となることを目的とし、この事業を通して日本伝統音楽及び「和楽器」への興味・理解を深めてもらう機会になることを目指しております。

レッスン方式は対面とオンラインレッスンを併用したハイブリッド型レッスンを実施。秋田県初の和楽器を活用したリモート校外型クラブチームです。

## ○本事業による成果

### 【学校現場での変化について】

昨年に続き中学校部活動と地域部活動がはっきりと区別する事ができた。中学校内で「和楽器」地域部活動の案内していくことで、地域部活動が認知されると学校教職員の就業時間は明らかに減ると思う。秋田県内の各小・中学校に対して校長先生、音楽の先生、中学校生徒に対して和楽器の音色を楽しみながら、自己表現、協調性、クリエイティブ力、自己肯定感、達成感、忍耐力なども学んでいくことが期待できると思う。次年度より有料化となるが継続希望の声は多く寄せられた。

### 【生徒の声】

アンケートの実施は3月下旬に予定している。生徒に対しヒヤリングは数回したが、オンラインでの指導方法、時間の活用、和楽器演奏などについて、スマホやPCなど生徒が普段から使用しているツールでの指導に対し我々が思う不安は生徒が気にしていない事も分かった。楽しみながら、リモートならではの一人一人の演奏・質問など中には対面より集中できるとの意見がありました。対面指導や友達と一緒にオンラインで練習する機会ができればとの意見もありました。他に各個人の受講に使用するアプリの設定が最初上手いことかとの相談がありましたが、2年間のトライ&エラーで蓄積した経験値は今後も更に増え、リモートレッスンの可能性を大きくする事と思います。在宅でレッスンという取り組みで、今後もどんな生徒でも和楽器に触れる機会を大きくしたい。

### 【既存の部活動に変わり得るか】

部活動としてそのクラブがどんな理念を持ち進行するのかが大切だと思う。弊社での部活動とは、「興味・関心を持って、集団や個人として目標を持ち切磋琢磨し、技能や記録に挑戦していく中で、人間関係の大切さや楽しさ、喜びを学ぶ」活動であると定義し今後も継続する。

生徒一人ひとりの性格等の違いから、技術習得までに個人差が生まれることは当然であり、それに寄り添っていく為の仕組みに講習開始前後の時間を活用したお話しタイムを設けた。生徒一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添いながら指導していくことが「和楽器」地域部活動として大切であり必要なスキルであると感じた。自宅で行うことで、近くに寄り添えない事。一つ一つの声掛けが大切だと改めて感じた。また活動時間の短縮は効果が大きく楽器の準備・片付けの時間は省かれ、オンラインではあるが他の学校の生徒との交流も生まれる。今回外部箏指導講師として参加いただいた小野玲子さんは、音楽療法士の資格をお持ちの他、支援学校での指導の経験も豊富で、そのスキルを生かした良い結果となった。これらの点から既存の部活動に変わり得ることは可能だと思う。小野さんには引き続き指導をお願いする予定。今後も蓄積した経験値を生かし本事業を発展させたい。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

### 【生徒への指導】

演奏指導については予定カリキュラム通り進める事ができた。もちろん対面レッスンより進行は進まないが講師と生徒の対話や個々の課題を乗り越える生徒の成長の伴走をしてきたと思う。創造力・読解力が育まれている事を実感できた。生徒の成長の一助となることが弊社の部活動に対する理解・理念である。次年度から中間・最終発表会を本年度同様にリアル開催することにした。

### 【演奏以外の知識】

本題の演奏・親しむ事が主になったが、予定していたカリキュラムには、楽器の製作現場とオンラインで繋ぎより理解を深める時間も組み込まれていた。楽器の知識や職人と直接お話することで更に関心が高まり良いレクリエーションとなった

### 【講師の研修】

昨年に続きZOOMアプリの研修を行った、演奏以外の機械操作やZOOMの特性、生徒に通信環境の説明がある程度出来るようにする狙いだが、各家庭の状況にトライ&エラーを続けていく事が大切という結果になった。



## ○運営上の工夫

### 【指導者の募集・研修について】

今後和楽器指導講師の増員を検討する、将来的に生徒が20名を超える傾向がある場合、芸歴・活動歴を参考に募集する。ハイブリット型のレッスンなので慣れが必要、そのためレッスンへの同席による研修・実習を実施して行きます。指導とZOOMアプリの研修を実施する。

### 【クラブ活動時間について】

本来の部活動時間を意識して取り組んだ、今回実施して気づいたのは各学校の時間数が違う事と学校から自宅までの帰宅に掛る時間がまちまちな事。この事を加味すると16:30スタートと部活開始時間としては遅めの設定となった。次年度からは4クラス編成となり個々の帰宅時間のずれにも対応する。

### 【生徒募集について】

本年度も各学校へ生徒一名ずつ案内チラシを配布、その他学校内掲示ポスターでクラブ案内をした。その他地元限定のSNS発信・黙食時間を利用してのPR用CDの放送・大手地元企業の休憩室など様々に声掛けとPR活動を行った。本年度はその時点より問い合わせが入るようになった。事業2年目となり徐々に周知されたと思う。本年度は秋田市教育委員会をはじめ秋田県教育委員会とも情報交換ができた。

### 【コーディネーターの仕事】

昨年に続き地域音楽コーディネーターにアドバイスをいただいた。秋田市教育委員会や秋田県教育委員会に訪問、情報交換や次年度へ向けて協議ができた。同席していただき地元の職員OBの方への説明や様々な分野において学ぶ事ができた。

### 【用具(楽器等)調達、運搬、保管】

運営が楽器店ということもあり用具の貸与・道具の整備・保管に関しては問題がなかった。

### 【ICT活用】

リモートレッスンははじめ募集の為にSNS発信・SNS広告、また他の団体グループとの交流を可能にした

### 【関係者全員にとって無理のない仕組みを構築について】

本年度は学校での募集活動になり、募集活動自体が現場の負担にならないよう最大限考慮した。学校内での案内だが学校では案内のみとする事で、学校への問い合わせ等がいかないように責任の線引き成文化をした。

指導者に関して本事業に携わる時間を明確にし予定時間内での活動を重視した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

### 【自治体・地域との連携】

地元の県教育庁・教育委員会との連携なくしては、事業を推進できない。相談・報告・協力依頼ができる連携を昨年同様につくる事ができた。生徒募集に関しては引き続きSNSを中心に発信していく。

### 【会費への理解】

会費については次年度より有料化となる。本年度が無料であったため継続する生徒と終了する生徒に分かれるが継続希望者が多かった。現場の教職員への働き方改革を推進する事業であり地域移行の一助となっていると思われる。今後本事業を更に発展させ事業継続化にスポンサー企業・クラウドファンディングなどの併用を検討している。

### 【芸術団体との連携】

地元文化団体(秋田県三曲連盟)から後援をいただいている

### 【継続に掛る資金】

運営資金調達の為、クラブの取り組みについて地元企業・県外企業に紹介、企業・クラブ共に良い関係性を築ける事を目指す。その為には外部への発信作業が最重要になる。

### 【保険・安全確保】

生徒・講師の本事業に関わっている時間に対し保険(一般保険会社)に加入。スタジオに防犯カメラの設備とガイドブックによる災害発生マニュアルを作成、その他感染予防対策として消毒液・空気清浄機を設置した。万が一の緊急連絡フローによる管理責任を明確にしている。



## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

### 【事業計画】

#### ①募集計画

昨年同様にエリアを秋田市内中学校から秋田県中学校を拡大する。世代の拡大として小学校4年生～の生徒児童へ募集拡大し、「和楽器」の魅力を発信します。小・中学生に周知できる自治体との仕組みづくりやICTを活用しハイブリッド型レッスンを実施します。リモートの強みを生かし全県の小学生(4・5・6年生)と中学生(1・2年生)にSNSを活用して募集を拡大します。

#### ②4コース

小学校コース(初級・中級)中学生(初級・中級)指導要領の確認、カリキュラム構成

#### ③活動経費と地域との連携

本事業をPRします。スポンサー企業・クラウドファンディングを意識したPR活動をいたします。積極的に発信して「和楽器」の素晴らしさを地域の企業、SNSなどにアピールします、協賛いただけるような仕組みづくり。またイベントなどを開催し地域活動にも参加します。

#### ④教育機関との連携

文化庁と取組活動等について情報共有化と地域自治体との関係を強化します。

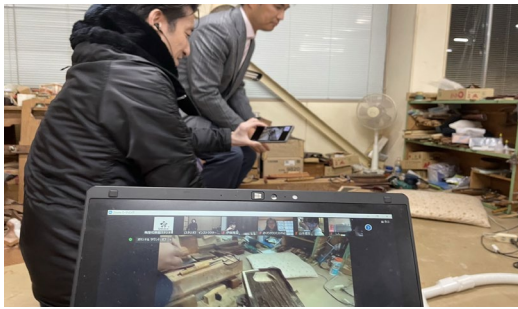
地元県教育委員会、市教育委員会、校長会、各小・中学校との連携により情報共有化を推進し、改めて本事業の主旨であるクラブ活動の校外化の意味(働き方改革)を周知します。

日本の伝統音楽「和楽器」を楽しむ地域活動環境づくりを推進します。クラブは学校・学年を超えた風土づくりと他の学生団体との交流を実施しあわせて小・中学校音楽教員を対象に、「最近の和楽器実情」をテーマにセミナーなどを実施できる機会をつくり、和楽器の魅力を伝えます。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生11名 中学生2名
	学校名	
	募集方法	チラシ・ポスター製作、各小・中学校へ配布、掲示。校長会にて説明。 Facebook、 HP掲載紹・紹介。地元企業・プレスリリース
指導者	人数等	1
	募集方法	芸術団体に所属の会員に対し募集
参加者の移動手段		対面レッスンは保護者による送迎、オンラインは自宅で受講
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 1回/2,300円(1時間30分) コーディネーター6ヶ月/100,000円 楽器借用料1面/2,000円 教材費1名/8,000円 アプリ使用料1年/22,110円
	その他	
活動財源	会費	本年度は無し
	その他	一部自己負担
スケジュール	基本活動	スケジュール……2回/週 ・8回/月 ・80回/年間 【小学生コース40回】【中学生コース40回】
	年間	【指導時間】:90分/回 16:30～18:00(予定)2022年5月～2023年3月
保険加入等		傷害保険 講師1名・クラブ生徒3名

## 【活動の様子（写真添付）】





# 成果報告書

**地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業**

団体名	西会津アーティスト・イン・スクール実行委員会		
所在地	福島県耶麻郡西会津町野沢下小屋 上乙3308番地商工観光課内	設立年	2020年
運営主体	西会津アーティスト・イン・スクール実行委員会		
事業目標	福島県西会津町内の学校(西会津町立西会津中学校)の空き教室や多目的広場、図書館などを利用して、アーティストやクリエイターが教育現場にを一時的な拠点として、滞在制作や生徒との交流の中でアート活動を行う。町内外で活動している様々な芸術分野のアーティストやクリエイターとの交流を通して、多様な価値観、生き方を学ぶ機会を創出し、ものの見方にゆらぎを感じてもらい、これからの未来を担う生徒たちの創造性や可能性を引き出すことを目的とする。また現状の教育現場に新しい風を送り込み、教員や特に地方社会が抱える閉鎖的な地域構造や課題にアプローチする。		
きっかけ	学生時のアート体験がその後の人生に与える影響力は、具体的な数値では示されていない。しかし、これを企画している実行委員会のメンバーは、演劇や現代アートといった芸術表現を軸とした表現活動や企画に取り組んでおり、教育的な観点から芸術表現が育む自主性や多様性の理解など芸術教育への可能性を考えている。西会津町は西会津国際芸術村をはじめとし、近年アートによるまちづくりを推進している。クリエイター人材の移住や関係人口の増加が進む中、町の未来を担う子供たちとクリエイター人材のマッチングにより、多様な価値観、生き方を学ぶ機会を創出するとともに、町の文化、歴史にお互いが触れ理解し、町に住うことのポテンシャルを上げる一助になることを願い、本団体を設立した。		
団体・組織等の連携			
活動場所	西会津中学校、町内空き家(ガレージ)		
活動概要	西会津町では近年、町の文化施設である西会津国際芸術村をはじめとし、芸術によるまちづくりが推進されている。クリエイターの移住や関係人口の増加により、クリエイティブ人材と町の未来を担う子供たちのマッチングを行い、多様な価値観を育む取り組みとして、教育と芸術を掛け合わせた、「西会津アーティスト・イン・スクール」の活動を2020年から始動した。西会津町に招聘したアーティストを講師として、西会津町内の文化や暮らしについて調査滞在しながら校内にて制作や展示を行う活動である。本年度は1名のアーティストを招致し西会津町の文化調査をもとに制作・展示企画を行った。「交流」と「成長」をテーマに、地域の伝統工芸品であった「会津だるま」をモチーフとした巨大な張り子のモニュメントを制作し、校内で展示を行う。生徒とともに完成を目指し、町のくらしや文化についても理解を深める機会を創出する。		



## ○本事業による成果

- ・コロナの影響により、生徒との交流の時間、制作時間の縮小のため、文化祭での発表は延期となった。さらに、展示するものの規模が想定よりはるかに制作期間がかかるものとなり、本年度内に目指していた最終的な大きなモニュメントの完成も延期することになり来年の1学期中を目指して設置を計画している。しかし、本年度中に中学校内でのモニュメン展示を目指した上で制作し続けていた、一連の作品群の展示や生徒との交流も定期的には行うことができた。
- ・設置計画は延期を重ねたが、中学校や教育委員会との打ち合わせを重ね、連携体制を整えることができた。西会津中学校の特色でもある「アントレプレナシップ教育」の授業にて招致したアーティスト、本団体コーディネーターが生徒の活動の活動に関わるなど、展開があった。
- ・本活動に積極的に興味を示す生徒、芸術活動に関心の高い生徒との交流が主になり、来年度はより多くの生徒との交流する工夫を検討する。
- ・アート作品を鑑賞するのは、実際に展覧会などを行っている会場に足を運ばなくてはならない。そのために先生方の引率が必要である。しかし、学校内に作品が展示されているというだけで、生徒たちが自由に芸術表現に触れ、鑑賞する機会を得られる。この点は、実践されてきてはいないが、小さな町における重要な要素ではないだろうか。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・活動の初期段階では、生徒との関わりの際、先生方に誘導いただくなど、外部団体・人材への抵抗感を和らげる必要があった。また、「こうした方がいい」と言いた押し付ける言い回しではなく、なるべく生徒等が何に興味があり、どのようなことがしたいか、耳を傾けるようコミュニケーション面を工夫した。

## ○運営上の工夫

- ・中学校や教育委員会との定期的なメールでのやりとりを続けて、情報共有を漏れなく行っている。
- ・アーティストが訪問する際、また作品をを設置した際に、先生方に学活時間等に広報してもらうようにしている。
- ・定期的な通信を作成し、アーティストの活動を伝えている。
- ・本年度からはICT教育が推進されている学校という特色もあり、各生徒が所持しているタブレット端末で気軽に活動の様子やテーマについての理解を深める機会を設けるため、動画制作と配信を行った。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・活動経費が助成金頼りになってしまっているため、町から安定した予算を受けることが難しい。
- ・本団体は少人数での運営になるため、招致している講師のサポートや関係各所へのやり取り、事務面などの負担が大きい。人員確保や体制の見直しが必要である。
- ・アーティストの参入に関しては、西会津町内で西会津国際芸術村が多く行なっているが、教育の分野での活動展開は町の将来を担う子供たちにとって影響は大きいものと思われる。今後の展開として、部活動のでの活動への参入にかかわらず、アントレプレナシップの授業や美術の授業への参加を検討している。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

町内に移住している、また西会津町に関わっている町内外のクリエイターやアーティストなどその人材が部活動や課外授業という形を通して、関わりを持つことを目指します。部活動の顧問や生徒とも意見交換を行い、この外部人材に当てられる予算などの確保を行なっていきたいと考える。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	全学年 20名
	学校名	西会津中学校
	募集方法	先生方による呼びかけ、動画配信や通信の配布。
指導者	人数等	当団体2名、外部講師1名、企画補助3名
	募集方法	一昨年から継続的に関わってきた町外のアーティストを講師として再び招いた。
参加者の移動手段		
活動費用	指導者謝金等	謝金 1,600円/時間、 交通費 町外からの招致のため、東京一会津間の交通費
	その他	消耗品費(制作材料費)
活動財源	会費	
	その他	助成金、委託金、自己資金
スケジュール	基本活動	隔週金曜日に学校へ訪問
	年間	～7月、見学 調査 8月～3月 活動(制作活動)の実施、交流、動画配信や通信の配布
保険加入等		

## 【活動の様子（写真添付）】



▲校内活動の様子



▲校内活動の様子



▲モニュメントの基礎制作は危険を考慮し貸しガレージで行った

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	学びファシリテーション																
所在地	喜多方市	設立年	2022年														
運営主体	学びファシリテーション																
事業目標	今年度事業の目標 「文化芸術関係の部活動で実施できるプログラムの開発と検証を行う」																
きっかけ	芸術分野に触れる機会が限られていくことを部活動の地域移行の話の中で知り、少しでも貢献できるのであればと思い、団体を立ち上げた。																
団体・組織等の連携	<div><div><div><div><div>喜多方市教育委員会</div><div>美術館運営監理</div></div><div><div>喜多方市美術館</div><div>施設利用</div><div>講師派遣依頼</div><div>講師</div></div><div><div>技術を持った個人 (市内在住)</div><div>講師</div><div>講師派遣依頼</div></div></div><div><div>教育プログラム</div><div>学びファシリテーション (実施団体)</div><div>教育プログラム開発主体</div></div><div><div>参加生徒</div><div>中学校</div><div>教育プログラム開発主体</div></div><div><div>大学</div><div>学術的インプット</div></div><div><div>後方支援</div><div>事業成果共有</div><div>講師派遣</div></div></div></div> <table><tr><th>団体名</th><th>本事業における関わり方</th></tr><tr><td>喜多方市教育委員会</td><td>事業への後方支援、美術館業務監理</td></tr><tr><td>喜多方市立第一中学校</td><td>部活動の活動の場提供、美術教員参加、教育プログラム開発</td></tr><tr><td>喜多方市美術館</td><td>美術展会場提供、学芸員（講師）派遣</td></tr><tr><td>学びファシリテーション</td><td>事業コーディネート、教育プログラム開発</td></tr><tr><td>技術を持った個人（市内在住）</td><td>美術家、グラフィックデザイナー、工芸家</td></tr><tr><td>東北芸術工科大学</td><td>学術的なインプット、評価</td></tr></table>			団体名	本事業における関わり方	喜多方市教育委員会	事業への後方支援、美術館業務監理	喜多方市立第一中学校	部活動の活動の場提供、美術教員参加、教育プログラム開発	喜多方市美術館	美術展会場提供、学芸員（講師）派遣	学びファシリテーション	事業コーディネート、教育プログラム開発	技術を持った個人（市内在住）	美術家、グラフィックデザイナー、工芸家	東北芸術工科大学	学術的なインプット、評価
団体名	本事業における関わり方																
喜多方市教育委員会	事業への後方支援、美術館業務監理																
喜多方市立第一中学校	部活動の活動の場提供、美術教員参加、教育プログラム開発																
喜多方市美術館	美術展会場提供、学芸員（講師）派遣																
学びファシリテーション	事業コーディネート、教育プログラム開発																
技術を持った個人（市内在住）	美術家、グラフィックデザイナー、工芸家																
東北芸術工科大学	学術的なインプット、評価																
活動場所	中学校内の教室																
活動概要	学びファシリテーションは本事業の開始に合わせて設立された。事業外にも、文化、芸術、国際分野での学びの提供をしていくことを目的としている。 本事業では、4つの講座（版画、漆工芸、メイク、鑑賞）を企画し、実施した。また夏休みには校外活動として、美術展訪問やフォトスタジオでセルフポートレートをするなどの活動を実施した。（全21回）また通信を3回発行し、保護者にも活動の様子が見えるようにした。																

## ○本事業による成果

- ・市民が講師として部活動の指導が週一回ほどできた。
- ・学校と市民が協働で、生徒たちに教育プログラムを提供できるコーディネートができた。
- ・学校が教育的観点を担うのではなく、主体団体のプログラム内容を受け入れてもらえ、学校との協働においても市民の意向が入った教育プログラムを提供できた。(今までは、市民は技能のみを提供するというものだと思っていました)
- ・本活動が市全体で考える 이슈となるきっかけを与えることができた。
- ・本団体、講師に1年の経験が蓄積され、この形をもとにした活動ができる意識が醸成された。
- ・県地方紙2紙から、部活動地域移行の文脈で取材され、記事にされた。それにより県内でも珍しい文化系部活動の本活動が広く知れ渡った。
- ・受講した生徒の母親から直接連絡を受け、今回のプログラムを受けられてよかった旨を伝えられた。

### 【生徒へのアンケート結果】

- ・受講の満足度について(n=12)

プログラム全体としての満足度は「満足」75%、「やや満足」17%、「不満」8%であった。

個別の講座についてもすべて90%（「満足」「やや満足」を含む）を超える満足度だった。

- ・生徒たちの意識変化について(n=6)

「高校や大人になってからも、芸術活動を続けていきたいか」というアンケートを、本年度活動当初と最終講座内で取った。アンケート母数が少ないのは、3年生は途中で部活を終了したことと、アクティブに参加する生徒の入れ替わりがあるため。もちろん、当初と最終講座内で取ったアンケートは同人物での比較である。

問「文芸部に関係した芸術活動を高校でも続けたいか」

回答(当初)「続けたい」1名 「続けたくない」5名

(事後)「続けたい」4名 「続けたくない」2名

問「文芸部に関係した芸術活動を社会人になっても続けていきたいか」

回答(当初)「続けたい」1名 「続けたくない」5名

(事後)「続けたい」3名 「続けたくない」3名

母数が少ないので精度を持った分析は難しいが、芸術活動に前向きな印象を持った生徒が多くなったことは、私たちが活動続ける原動力となる。今後の活動で同じアンケートを取り、受講後に子どもたちにどのような変化が起こるのかはデータとして蓄積していきたい。

部活動が学校から地域に出ることは、より成果が求められることだと考えている。そのためには何らかの客観的データで有用性を示していく必要がある。どのような評価方法が良いのか、どのような評価項目が良いのか、自分たちの目指すところと市場のニーズを見極めながら、自分たちなりの評価法を作っていきたい。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

上記アンケート結果でも示したとおり、受講生徒の満足度は高かった。コンテンツへの嗜好性や講師の対応なのか、その他支援スタッフとの相性なのかは分からないが、私たちとして以下のことに気を付けた。

### 【講座の振り返りは頻繁に行った】

顧問の先生を含め、講師以外にもサポートスタッフとで講座で感じたことを共有した。生徒の反応なども共有することで、一方的な講座や、作業の難易度などの調整も行った。

### 【初心者講師へコンサルテーションを行った】

初めに、団体で作成したチャートを埋めてもらい、教えることができる技術から、講座で教えることがら、生徒が学習することを視覚化した。それをもとに団体代表が講座組み立ての話し合いをした。最終的には「自分が何を教えるか」でなく「生徒が何を学ぶか」、その先の獲得能力について、講師にも意識してもらうようにした。

### 【「生徒の話を聞く」を優先した】

押さえつける指導でなく、生徒たちが内面にもっているものを共有してもよい「安心」の環境作りを意識した。サポートスタッフもいるため、大人の数が多いためか生徒たちが大人に話す回数が多かったと主観であるが感じる。あるサポートスタッフは、生徒から薦められたアニメを全24話+映画(2時間)を楽しみながら観たという。それをまた生徒にフィードバックした。「大人→子ども」という軸でなく、「子ども→大人」もあり得ることを示したことは、「安心」の環境には大きいと感じている。



## ○運営上の工夫

本年度はプログラム開発を目標としていたので、その観点から述べていく。

### 【市民と学校との協働ができた】

学校と地域とのつながりや協働に関しての議論は盛んになってきたが、印象としてはまだまだ学校の事情が優先されているように感じる。つまり学校が求めることを、市民はボランティア的に行うというのがイメージであった。今回の活動では、講座コンテンツはすべて市民によって作られた。そして、学校内で市民の考えで講座を生徒に向けて実施できた。「教育」という視点は教師が担当しなければならないという考えではない、少し違う可能性を示すことができた。このような信頼関係が他所でもできれば、市内の部活動顧問の負担軽減になるだろう。

### 【コンテンツに幅を持たすことができた】

職業美術家の個展に行き美術家と会ったり、フォトスタジオでセルフポートレートを撮ったりなど、新しいことがらを生徒に提供することができた。社会ではメタバースやNFTなど、新たな技術が作り出す芸術が多くあるが、学校での芸術の幅は何世代前のものとさほど変わっていない。今後もっと生活に即した講座を提供していきたいと考えているので、その一端を試すことができた。生徒の評価において、セルフポートレートが一番評価が高かった。

### 【企業との協働ができた】

セルフポートレートで撮った写真のプリントで、会津に支店をもつ「セイコーエプソン」に協力いただき、「プリンタ」3台「インク」「写真仕上りの用紙」を提供してもらった。資金的な支援も助かるが、一度だけ使用する機材や資材を協力してもらえたことは助かった。講座コンテンツが増えていくと、一時的に使用するものが多くなると考える。その際には物的支援を得意分野とする企業に求めることは必要だと考える。

### 【評価への意識をもった】

公的支援の枠組みがなにも決まっていない状態では、資金的がなくとも運営できる形を試行していく必要がある。実施主体のボランティアで進めて、先細りしていく団体を多くみていると、受益者負担つまりビジネスの形を取っていく方が継続的であると考えた。そのためには、プログラムを受講することでどのように子どもたちが変化するのか、その見える化が必要だと考えている。ルーブリックによる評価まだに行きつかなかったが、受講生とが落ち着いたときには実施していきたい。また、事前事後のアンケートによりその変化を見るものも実施していきたい。（今回はその一部を試行した）

## ○継続的な運営に関する課題・展望

この点について課題は山積であり、その課題を一度に解決することはほぼ不可能であろう。「小さな成功」のケースをまず作り、その上に一つずつ課題解決のための施策を付加していくアプローチを取っていこうと考えた。

制度につながるところではなく、一民間として扱える身の回りの課題について言及していく。また国等の方針が変更、明確化されるごとに修正を加えていく。

### 【人】

本年度は代表のつながりから講師をお願いした。それだけでも十分講師人材を確保できた。コーディネートやマッチングは難易度が高く、負荷のかかる業務であるため、まずは手の届く人材に講師をお願いしていく。地域の他組織との連携は「小さな成功」を見てもらい、主体的に賛同してもらえる方々といく形を取れるようにしたい。

### 【モノ】

本年度は補助金があったため、不自由なく資材を調達できた。プリンタのケースのように、資材調達を企業にお願いできるように、少しずつ地域の企業と関係を結んでいく。

### 【金】

本年度は補助金があったため、実施できたのが正直なところだ。今後は受益者負担に移行していきたい。そのためにはプログラムの充実と見える化、そして地域での評価をもらっていく必要がある。

### 【場】

本年度は一学校の部活動に入っている活動であったため、学校の教室を無償で使うことができた。地域移行ということになれば、現制度では教室を使うのも難しくなるだろう。公民館は低価格で使用できるので、一つのオプションとして考えている。また代表が所有する蔵が使用されていないので、リノベーションするのも可能性としてある。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

「継続的な運営に関する課題・展望」で述べたことの繰り返しになるが、記していく。

【人】

講師人材の確保は、まずは手の届く人材に講師をお願いしていく。地域の他組織との連携は「小さな成功」を見てもらい、主体的に賛同してもらえる方々といく形を取れるようにしたい。

令和5年度は場所を部活動でなく、学校外で行っていくため、参加者募集の方法を考える必要がある。教育委員会から学校に募集チラシを配布してもらう計画である。

【モノ】

細かな資材については購入し、一過性の機材等は企業との協働でなんとかしたい。そのために少しずつ地域の企業と関係を結んでいく。

【金】

「学校教育の部活動」の継続なのか、一般的な「社会教育の一環」なのかで、公的支援の枠組みも変わってくると考えている。それにはまだ時間がかかるので、さしあたり「受益者負担」を基本に据えた。そのためにはプログラムの充実と見える化、そして地域での評価をもらっていく必要がある。

【場】

現状でも体育館や運動場を市民が使用することはあるが、教室を使用するのは少しハードルが上がるだろう。その際、学校、教育委員会、PTA等の複数団体との交渉と関係構築が必要となる。全国の各民間団体がこれらの組織と交渉するのは合理的でないので、このあたりは国での制度支援が必要である。

現状、割ける時間・労力からすると、公民館は低価格で利用できるのも、一つのオプションとして考えている。また代表が所有する蔵が使用されていないので、リノベーションするのも可能性としてある。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	
	学校名	
	募集方法	一中学校の部活動に参加している生徒を対象とした
指導者	人数等	
	募集方法	
参加者の移動手段		学校の部活動内
活動費用	指導者謝金等	
	その他	
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	
	年間	
保険加入等		学校の活動内であるため、学校で入っている保険でカバーされた

## 【活動の様子（写真添付）】

### 【美術(版画)】



### 【工芸(漆)】



### 【鑑賞等】





## 【検討会】



## 【一番の人気講座・セルフポートレート】



# 成果報告書

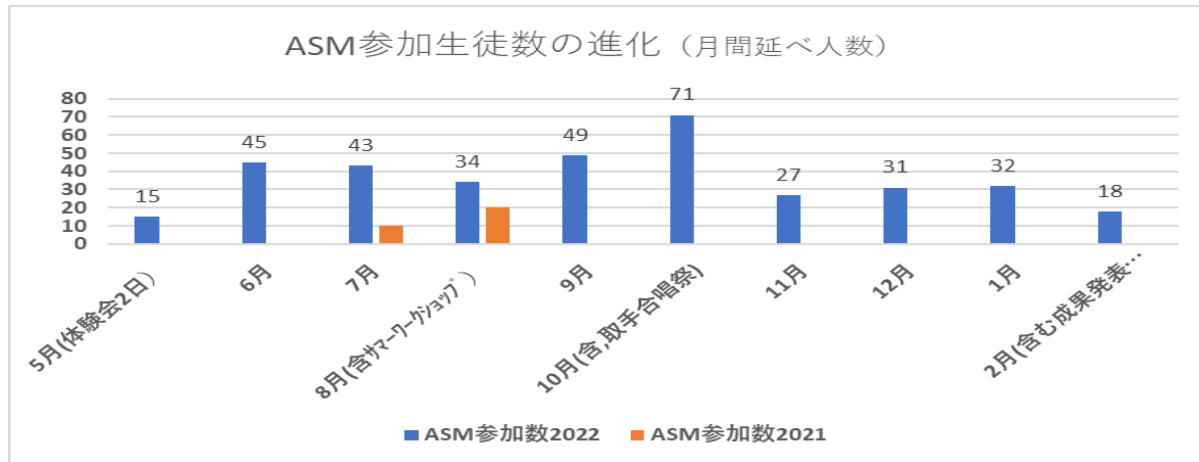
## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人 取手文化倶楽部		
所在地	茨城県取手市西2丁目2番G-412号	設立年	2022年
運営主体	特定非営利活動法人 取手文化倶楽部 アフタースクール・ミュージカル		
事業目標	教師の働き方改革、少子高齢化の影響で、各学校での文化部活動の機会が減少する中、子供達がやりたい事が出来ない、という状況を改善し、彼らに文化芸術の学びの場を提供することに貢献したい、というのが動機・目的である。取手市及び隣接した市町の小中高校の生徒たちに、学校の枠を超えて、ミュージカルを通して幅広い総合芸術に向き合って貰い、それによって生徒さん達が心身共に成長し、更にその過程を父兄はじめ地域の住民と共有することで、地元の地域住民との交流に繋げること、が目標である。		
きっかけ	現在市内の中学校の部活を見ると、教師の負担軽減という学校の働き方改革の影響で、文化部活動が制限され吹奏楽部はあるが合唱部はない。歌を歌うことが好きな子供、興味を持つ子を受け入れる場はない。更に長引くコロナ禍の中、音楽の授業そのものが制約され、十分な指導が出来ない状況にある。そうした中、音楽や演劇の指導を受ける機会、それらの文化芸術を通して他校の生徒との交流が可能となる”場”の必要性を、強く感じた事が本事業を実施したきっかけである。前年度に引き続いての実施となる。		
団体・組織等の連携			
活動場所	部活の活動については、取手市福祉会館、及び取手市井野公民館等。運営会議についても同様だが、先に加え安価な会議室を賃借(取手中央タウン会議室等)		
活動概要	1) 対象: 取手市及び近隣市町の小学5年～高校3年生の男女生徒 2) 期間: 2022年6月～2023年2月迄。原則として毎週木・日曜, 18:15から20:15の2時間 3) 部活: バレエダンス、合唱、ヴォーカル、演劇のミュージカル関連4部構成 4) 団対 内外の経験豊富な専門講師に委託して指導に当たる。5) 成果発表の機会として、取手市合唱祭参加、最終成果発表会を実施。尚、上記2)の期間に関しては、最終成果発表後も部活動を継続している。		



## ○本事業による成果

2022年度に実施したASM事業は、実質的に2年度目であるが、前年度に比較し、全般的に格段の進歩が見られた。第一に参加した生徒さんの数が数倍になった事である。一方退部する生徒さんの数がさほど増加せず、期間を通して、一定数を継続して確保出来た。これは、ひとえに指導する講師の努力の賜物であり、部活の内容の質的向上が貢献している。子供達も部活を重ねる毎に成長し、次第に大きな声が出る様になり、アクションと歌が連動し、ミュージカルとして様になってきた。2022年度の取手市民合唱祭に、合唱部とヴォーカル部が参加したが、練習してきた、歌とダンスのパフォーマンスが好評を博した。



上掲のグラフに於いて、通常月は毎週木曜、日曜日が活動日である。従い通常は月7-8回だが、11月は4回、12月/1月は6回、2月は発表会を含め3回。尚10月は合唱祭のための特別練習日を含め10回活動。

ASM成果発表会での、生徒に対するアンケート調査結果（対象は当日参加の9名）

- ASMの全体的な感想 8: 非常に楽しかった 1: 楽しかった 0: まあまあ
- 2023年度も参加するか？ 7: 参加する 2: 今は判らない
- どの部活に参加するか？ 8: 演劇 8: 合唱ヴォーカル 3: ダンス
- コメント

- ・次は単独で演技してみたい。
- ・試しに参加したのだが、始めたら非常に楽しくなった。続けたい。
- ・とても楽しかった。演技も上達したと思う。
- ・大変お世話になりました。様々な事を学びとても勉強になった。
- ・楽しかった。またいつか参加したい。・広い場所で大きな声で歌が歌えて、良かった。

### 内外講師による講評(抜粋)

・子供達が、自分自身で演劇の魅力に出会えるよう、それを伸ばしてあげようとレッスンを続けた。他の友達の魅力を発見する場となって欲しいと思う。月2回のレッスンだったが、生徒各自が自身の課題をもって参加してくれ、その結果成長の跡が見えた。

・レッスンの演目を、参加した子供達の異なる年代に合わせるため、苦心した。また欠席者の影響により、他の子供たちのテンションを下げぬよう様々なアプローチをした。その結果、生徒間の相互の信頼関係、良いコミュニケーションが生まれたのではないと思う。生徒たちは、歌いながら踊ることの楽しさ、難しさを感じて貰えたのではないかな。個々の声量は夏前に比べアップし、何かを表現しようとする姿が見られた。

・レッスンにおいては、緊張をほぐす為に、学校での様子等、雑談を交えて生徒と接してきた。コロナ禍にもめげず、一生懸命に向上しようとする姿に感動した。合唱したり踊ったり事が制約されたこの数年間は、子供の成長にとって大きな打撃だ。学校でできない事を、地域活動がカバーすることで地域が活性化することが実感できない期間となった。歌い踊る事は、人間形成には重要な基礎能力なので、基礎から積み上げてゆく事が重要だと思う。週2回の活動が望ましいのだが。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- 1)各部活毎に講師が日報を作成し、練習の内容、進捗状況をチェックする体制をとった。同日報は事務局側と共有し、生徒に何か問題等があれば即時対応するなどの措置をとった。
- 2)指導内容に関しては、実力・経験ともに豊富な専門の講師と契約しており、学校部活と同等若しくはそれ以上のレベルであると自負している。
- 3)周辺知識として、腹式呼吸法など基本的な発声方法等についてのアドバイスを適宜実施している。

## ○運営上の工夫

- 1) 前述の通り、優れた指導者を講師として採用する事に努めた事。
- 2) 通常の部活とは個別に、季節的なワークショップを開催するなどして、通常の部活動のリフレッシュを図ったこと。これは、新たな仲間の募集にも繋がる等一定の効果を上げた。
- 3) 広報上の工夫としては、月並みだが、近隣の6市町に後援を依頼し、広範囲な広報に努めた事。
- 4) 厳しい財政的な制約の中で、部活の期間をできる限り長く、多くの回数を設定する事に努めた事。そして安価な活動の会場を追求する等、コスト削減に努めた事。
- 5) 感染症対策、衛生面を考慮し、活動期間を通し、出来るだけ広い会場を使う事に努めた事。
- 6) コロナ禍もあり、緊急の打ち合わせ等の際には、スマホを活用してのオンライン会議を実施した。
- 7) 活動場所に関しては、常に安価で清潔な場所・施設を採用した。
- 8) 当団体は、全員がボランティア活動なので、事務局としての対応は輪番制にて労度の分散化に努めた。
- 9) 助成金以外に資金が無いため、常にコスト削減を念頭において事業を遂行した。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

2022年度の我々の「アフタースクール・ミュージカル」(ASM)と称した活動は、実質的に初めて部活の地域移行をより強く意識したものとなった。そこで得られた経験、そして失敗を活かす形で、2023年度の事業は、以下の基本方針に沿って臨みたいと考えている。

### I)アフタースクール・ミュージカル部活動の意義の再認識

学校教員の働き方改革によって、部活特に文化部活動が大幅に削減されている。我々はNPOの特性を最大限に活用し、部活活動の“受け皿”として機能することを目指す。即ち、地域移行への橋渡し役として機能するのが我々のミッションの一つと認識することが重要である。文化部活動を何とか地域移行させる事で、子供たちの例えば「音楽がしたい」という小さな夢を育むことのサポートがしたい。先日2022年度の最終成果発表会を終えたが、その時の、参加してくれた子供達の自信に満ちた笑顔、そして決して小さくない歓声、保護者たちの暖かい拍手、が耳に目に焼き付いている。彼らの笑顔が我々の活動の原点でもある。これを大切に育てて行かねばならない。取手市内の学校では、演劇部・合唱部が存在しない事から、当NPO取手文化倶楽部が担うという認識を新たにしたい。子供達もそれを期待していると信じる。

### II)アフタースクール・ミュージカル第3年度目の活動方針

#### 1) 学校側との対話を進める

学校側とは、何度か接触しているが、文化部活動を地域的に移行してどう継続するのか、その段階的な移行における受け皿をどうするのか、等に関して、彼らの具体的な意図はまだ見えてこない。当法人がやろうとしている事への理解はあると思われるが、学校・社会教育の役割分担という観点からの、意識共有は不十分である。2023年度の最重要課題として学校、教育委員会との対話を継続する。アンケート調査も実施したい。

#### 2) 人材の確保と育成

2022年度のASM事業は、実質5人という小人数での対応となった。よく5人で踏ん張れたと思う。但し、本事業の継続性を考えれば、生徒の指導、事業の管理面を考えれば、人材、スタッフの質的・量的な確保、その育成は極めて重要と認識している。2023年度の重要課題である。

#### 3) 安全・責任体制の継続

本ASM事業は演劇と歌が中心であり、体を動かしながらの表現活動である。従い練習場所の安全性及び感染症・ケガへの対策には十分配慮しており、2022年度は最低限度の機能は果たした。この体制は当然ながら、2023年度も継続する。

#### 4) ASM事業の安定性、継続性の確保のために

##### a) 事業規模の拡大

安定性を参加生徒数と捉えれば、まだまだ参加数が少ないというのが実感であり、広報の方法、市及び教育委員会の後援をより有効に活用して、より多くの生徒を募集する必要がある。当然ながらそれは直接的に事業の継続性にも繋がるものである。

b)活動場所の確保

現在、市の福祉会館、公民館等を使用。出来るだけ安価な場所を模索している状況であり、2023年度は、市施設の無料での開放を働きかける予定。主に学校の体育館等の解放の可能性を検討中だが、参加者にとっての利便性、治安確保等とのバランス等、検討すべき点は多々ある。

c)部活動経費の調達

2022年度のASMは、NPOの事業としての取り組みに変わったが、助成金に全面依存せざるを得なかった。キッチンと事業を遂行しようとすれば、やはり相当の人件費が掛かってしまう。2023年度は、2022年度の実績を参考に、より精緻な予算を組む必要がある。また、助成金に全面依存の現状から脱却すべく、クラウドファンディングなどのファンドレイジングの検討が急務である。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	一度でも在籍した生徒数は、サマーワークショップを含め、のべ19名(小学生3人、中学性11人、高校生2人)
	学校名	開智望小学校、取手二高、取手第二中学校、取手市宮和田小学校、戸頭小学校、取手市立藤代南中学校、取手小学校、取手第一中学校、龍ヶ崎第一高校、守谷市愛宕中学校、龍ヶ崎城西中学校
	募集方法	1)案内チラシの掲示(取手市の福祉会館、公民館、図書館等の公共施設に)スタッフが車等にて配布、2)同様に、取手市内、及び近隣市の小中学校、高校へのチラシ配布。3)当団体のホームページに掲載。
指導者	人数等	外部講師2名、団体内部の講師2名、アシスタントとして外部から4名、団体内部から2名(講師と兼任)
	募集方法	音楽の指導活動をしている、当団体の幹部のコネクション等を活用してリクルート。
参加者の移動手段		自家用車、公共交通機関、自転車、徒歩などによる。
活動費用	指導者謝金等	外部講師:10,000円/時、内部講師:7000円、外部アシスタント:1600円/1050円
	その他	1)福祉会館等の施設使用料(福祉会館、部屋によるが2,550円等)、2)井野公民館:780円~1,680円
活動財源	会費	部費として、一律1カ月3,000円(x9カ月)
	その他	特になし。
スケジュール	基本活動	毎週原則として木・日曜の2回(18:15~20:15)。この他、サマー・ワークショップ、取手市主催の市民合唱祭への参加。
	年間	2022年 5月 26/29 父兄説明会開催。通常活動:6月(2,5,12,16,19,23,26) 7月(3,7,14,17,21,28,31) 8月(4,7,11,14,18,21,25,28) 8月 8/9:サマーワークショップ 9月(1,4,8,11,15,18,22,25,29) 10月(2,6,9,13,16,20,23,27,29,30) 10月30日:取手市合唱祭、11月(13,17,20,27) 12月(1,4,11,15,18,25) 1月(8,12,15,22,26,29) 2月(2,5,12)
保険加入等		スポーツ安全保険(保護者負担ベース、小中学生:800円/年、高校生1,850円)

## 【活動の様子（写真添付）】

ASM広報の為にチラシ配布の準備作業。3万枚は半端ない！



## 【演劇の通常練習】



## 【成果発表会】



お疲れ様でした。充実の成果発表会でした。

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	渋川子ども若者未来創造プロジェクト		
所在地	群馬県渋川市	設立年	2018年
運営主体	渋川子ども若者未来創造プロジェクト		
事業目標	<p>令和3年度の事業成果として児童生徒の演劇活動に対する潜在ニーズの掘り起こしの可能性が明確になったことから、その活動の受け皿となるよう、地域活性化を目的に多世代交流で活動する市民ミュージカルを、地域における文化芸術活動としての認知度を高めながら持続可能な仕組みを構築していく。</p> <p>同時に演劇活動における教育的価値を生かした子どもたちが生涯を通して学び・体験ができる環境づくりに向けて、渋川地域における演劇活動の「地域文化倶楽部」の創設に向けて、世代間や他地域との交流による地域の活性化にもつながる特色ある活動モデルとなることを目指す。</p>		
きっかけ	<p>多様な人とのつながりで地域を活性化していくことをねらい、2018年に在京劇団と連携して市民ミュージカルを初めて立ち上げた。オリジナル作品づくりを通して世代を超えた参加者の交流が始まり、演劇活動における主体的な学びは豊かな表現力やコミュニケーションづくりに役立った。</p> <p>多くの観客を前に演じきる感動は、達成感の共有や活動意欲の向上にもつながった。こうした教育的価値の高い体験活動を多くの子どもたちに提供したいと考えた。</p>		
団体・組織等の連携	渋川市教育委員会、小中学校、公民館等		
活動場所	市内公民館でWSを実施、学校や教育施設では出前WSを実施		
活動概要	<p>渋川地域で舞台芸術分野で初めて立ち上げた市民ミュージカル活動を「地域文化倶楽部」の創設に向けた基盤づくりとなるように以下の活動を展開した。</p> <p>①地域部活動の受け皿づくりとして欠かせない指導的な人材を育成するために「指導育成WS」を5月から始めた。</p> <p>パートナー劇団「もんもちプロジェクト」メンバーの指導・助言を受けながら、これまでの活動を振り返り広報(WS参加者募集)やWS運営(会場準備から当日運営、参加者への連絡等)の実務、演技指導のサポートに携わった。</p> <p>②地域部活動WSとして、7月にミュージカル出演者を公募、8月から練習(WS)を始めた。1月の舞台公演に向けて市内各地の公民館で練習(公開)を行った。</p> <p>キャストには小学生から年配者まで幅広い年齢層が応募した。5か月余に及ぶ練習を重ねて初めてのダブルキャストで臨んだ舞台公演は、3日間で4回(3会場、入場無料)実施した、大勢の観客からは出演者の熱演に大きな拍手が送られカーテンコールを繰り返した。</p> <p>また、劇団演出スタッフの助言を受けながら小道具づくりにも挑戦した他、公演日の運営スタッフにも多くのボランティアが参加した。市民ミュージカルとしての認知度が徐々に広がってきていると実感した。</p> <p>③学校向けの出前WSは、昨年実施した小学校(2学年実施)では全学年が個別に開催した他、新たに中学校1校、高校1校(部活動)で実施できた。</p> <p>中学校では4日間WSを行い、最終日には保護者に向けた授業参観として成果を発表した。女子高校では、複数の部活動生徒を集めた身体表現のWSを実施、その後、合唱部員を対象にしたミュージカル講座も行うことができた。</p> <p>出前WSは、児童生徒の主体的、探究的学習に演劇的手法が効果があるとの学校現場からの高い評価もあり、受け入れに好意的であった。</p> <p>④地域フォーラムでは、部活動の地域移行に先進的に取り組んでいる静岡県掛川市教育委員会の担当者を招いて「かけがわ文化クラブ」の取組を報告していただいた。渋川市教委の協力を得て学校長やPTA会長らを交えた「部活動の地域移行に向けた意見交換会」をと初めて公開実施することができた。</p>		



## ○本事業による成果

基盤づくりの活動概要に沿って以下のとおり成果を整理した。

①指導育成WSを通しての成果は、市民ミュージカル活動の継続に向けた運営上の課題について具体的に取り組むことができたことである。

- ・WSや本公演を運営するスタッフに自主的な参加者があったこと
- ・劇団スタッフのサポートを受けながら実務体験の目的を達成できたこと
- ・公演後の話し合いを通して次年度に向けた成果と課題を共有できたこと

これらの成果を踏まえて次年度はより主体的な活動を続けていきたい。

②ミュージカル参加者に小学生や中学生の新たな参加があった。大人との熱心な練習にも真剣に取り組む多くの観客の前で発表できたことは大きな自信につながった様子で次回も是非参加したいと継続の意思をキャスト・スタッフ・関係者の前で表明してくれた。

初めて参加した大人からも活動継続の希望もあることから、演劇活動に興味関心を持つ子どもたちの受け皿として市民ミュージカル活動の定着をさせていくことで「地域部活動」創設の可能性を実感した。

③学校向け出前WSは児童生徒のニーズ発掘を目的に、小中学校では国語科の授業を通して演劇的手法を用いた体験活動として実施した。子どもたちは舞台表現に向けて話し合い協力し合いながら発表できたことで大きな達成感を味わうことができた。初めての演劇的表現活動の興味関心を持つ児童生徒もいた。

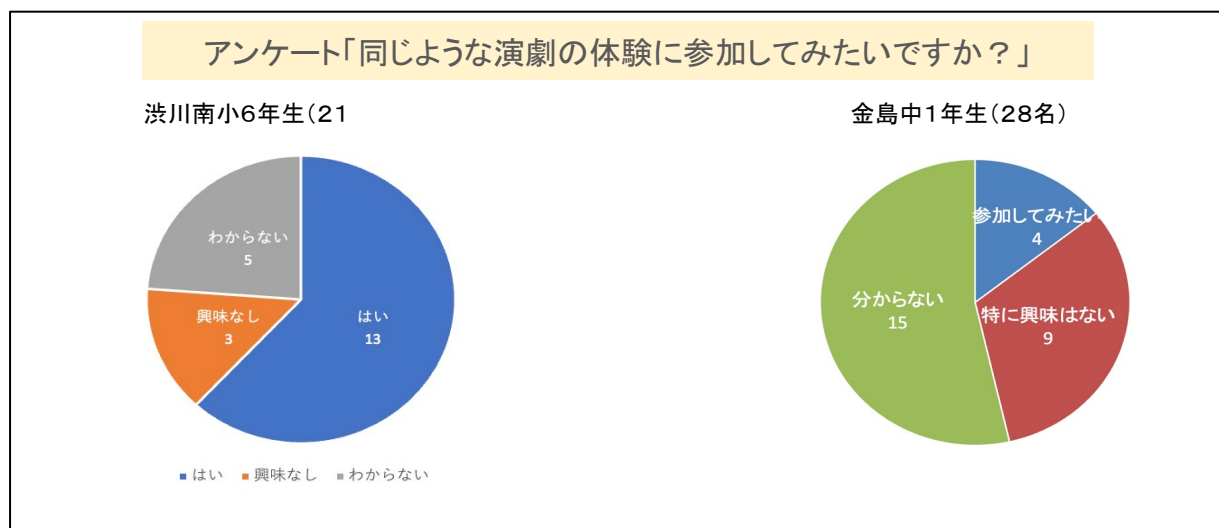
また、教職員にとっても事前準備の負担なく実施できたこと、子どもたちの主体的な学びを実践できたことは高評価であった。その結果、次年度の継続実施の希望が学校側から寄せられた。

学校現場に演劇的表現活動の魅力を伝える効果は大きく、市民ミュージカル活動の認知度が広がることと連動して子どもたちの活動参加の希望が広がることを期待できる。このことは地域部活動の一つとして「演劇部(ミュージカル含む)」の創設の可能性が大きくなったとも言える。

④地域フォーラムでは、地域文化倶楽部創設の先進地域として静岡県掛川市教育委員会を招いて「かけがわ文化クラブ」の実践報告をしていただいた。

渋川市教委との連携のもと、部活動の地域移行の議論を初めて公開で実施する機会にもなり、スポーツ・文化活動の現状と課題について活発な意見交換を行うことができた。

その結果、渋川市教委主催の令和4年度「教育都市渋川」を創るための調査研究会において、部活動の地域移行に向けた本プロジェクトの取組について現状を報告する機会を得ることができた。今後、市教委とともに文化部活動の地域移行に向けた検討会に加えていただくことになったことは最大の成果と言える。



## ○児童・生徒への指導に関する工夫

①小・中学校では国語科教材をとり入れたことで子どもたちの関心を高めることができた。昨年度の高評価もあって学校側も協力的であった。授業導入時のコミュニケーションづくりも学年に応じて変化を加えて実施した結果、成果発表に向けた共通理解を子どもたちと深めることができ、高い満足度を得ることができた。

②舞台活動は様々な役割を持った人たちで構成されていることから、指導にあたって多様な選択肢を提示して、自分に合った行動を取れるようにした。また、子どもたちの反応や提案に耳を傾けていて積極的に採用していった。

③参加者にとって心身ともに安全・安心な居場所であることを常に心掛けて指導にあたった。

## ○運営上の工夫

- ①指導者については、連携先の劇団「もんもちプロジェクト」主宰、演出家の中原さんの全面的な協力を得て、専門家を派遣していただいた。地元の経験者が指導者の補助をする形で協力してくれた。
- ②地域部活動WSは舞台公演を目標に参加者を公募、市内全小中学生・教職員にチラシを頒布、市民向けには自治会回覧板を通じて周知、市内公共施設にもチラシを配布して広報を依頼した。参加し易い土日・休日の昼間に開催した。また、市民の認知度を高めるため、WSを市内各地の公民館で開催し練習の様子を公開した。公演は3公民館で開催し無料公演とした。
- ③指導育成WSに参加した運営班メンバーが、参加者（保護者）に向けてWSに関する情報提供を行った。また、各公民館における練習会の運営にも携わった。
- ④WSの参加者は開催日に全員イベント共済保険（全国共済農業協同組合連合会）に加入した。出前WSは受け入れ教育機関の保険が摘要される管理下で実施した。
- ⑤本プロジェクトは生涯学習活動団体として認定登録されたため、WS会場の公民館使用料が免除された。教育長と生涯学習課を運営・企画委員会の構成員にしたことで学校現場への働きかけが容易になった。
- ⑥教育支援センターで実施したWSでは利用する生徒の他に保護者、指導員にも参加してもらい、和やかな雰囲気の中で実施できたので生徒の前向きな参加につながった。
- ⑦昨年に引き続き地元新聞、TV局にWS取材を積極的に働きかけ県民に向けて広報をお願いした。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ①ニーズを掘り起こす学校向けWS継続の検討  
学校側からWSの継続を望む声もあるので市教委とも検討を行っていききたい。  
ニーズ発掘・拡大を継続していく必要性はあるが経費負担の問題が大きい。
- ②地元指導人材の育成  
運営スタッフ育成WSの成果と課題を踏まえて人材育成に継続して取り組んでいきたい。  
しかし、劇団のサポートを受けながらの人材育成なので自立した運営となるとかなりハードルが高くなる。  
継続した連携支援が不可欠である。
- ③指導人材の確保  
劇団スタッフをサポートする形で振付や歌唱の補助的な役割を果たす場面が多くあった。引き続き連携しながら役割を広げていくようにしていきたい。  
指導者となると責任が伴うので素人の取組としては限界がある。参加費を徴収して行う事業なのでプロ指導者の補助的な役割に限定にされるが、継続して取り組むことで徐々に役割を広げていくしかないと考ええる。サポート劇団による支援は絶対不可欠である。
- ④活動における地域認知度の強化  
公民館を巡回しながらWSを実施したため施設職員や地域住民の認知度を高めていききっかけとなった。引き続き努力していきたい。
- ⑤安定した事業の継続に向けた事務局体制の強化  
WSの準備や運営に携わる運営スタッフ班体制を取り入れたため事務局の負担が軽減された。事務局と運営班とのより密接な連携が今後の課題とも言える。
- ⑥活動に係る安定した財源の確保  
全ての参加者から活動内容に応じた会費をいただくとともに、安定した財源確保に向けた取組の検討を継続していきたい。  
本プロジェクトでは、これまでも参加費だけで事業を実施することができないためチケット販売や協賛金集めを行ってきたが、委託事業で取り組んできたような部活動の地域移行の受け皿づくりには、継続した公的支援が絶対不可欠であると考ええる。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

当団体が目指す、地域文化倶楽部の形は以下の通りである。引き続き試行錯誤を重ねながら段階的に取り組んでいきたい。

＜地域文化倶楽部のあり方＞

- ①市教委と連携を取りながら子どもたちのニーズの掘り起こしとして演劇的手法を用いた学校向けWSを継続していきたい。
- ②多世代型の部活動としてオリジナルミュージカル作品づくりや舞台発表を目標にした継続的なWSを継続していきたい。同時に地域住民の認知度を高めるための創意工夫を重ねつつ、多様な価値観を学ぶことのできる地域文化倶楽部の創設目指していきたい。
- ③市教委が進める部活動地域移行に向けた検討会議に積極的に協力しつつ、市民ミュージカル活動の認知度を高めるための情報発信に努めていきたい。
- ④市教委が取り組むコミュニティスクールの設置、公民館を中心にした地域文化活動の強化といった動きにも関心を持ちながら、ひき続き情報交換を密に行っていききたい。

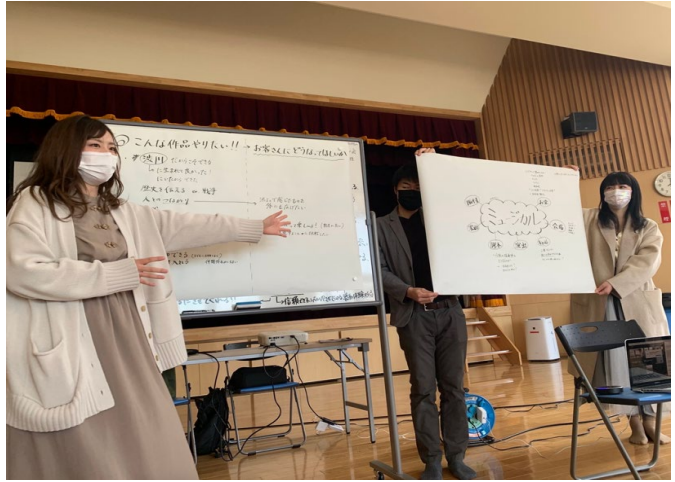
○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	参加者総数 52名(うち小学生6名、中学生2名) キャスト、スタッフ、運営ボランティア
	学校名	出前WS: 渋川南小学校(全学年147名) 金島中学校(1年生28名) 県立渋川女子高校(コーラス部、演劇部、吹奏楽部員1~3年生49名)
		津久田小、北橋小、駒寄小、清里小、渋川北中
	募集方法	体験WSの参加者募集チラシを市内全小中学生・教職員に配布した他、自治会の回覧板を通して全世帯に周知した。市役所・市教委の協力を得て、公的施設に配布した。
指導者	人数等	パートナー劇団「もんもちプロジェクト」主宰中原和樹氏ほか、外部専門家で構成(5名)
	募集方法	プロジェクトとして全面的支援をお願いした
参加者の移動手段		子どもたちは保護者等による送迎
活動費用	指導者謝金等	謝金5,100円/時間 交通費9,640円(東京~渋川 新幹線利用)
	その他	WS参加費(保険料を含む) キャスト 10,000円(公演含む) 舞台スタッフ 5,000円 運営ボランティア 1,000円
活動財源	会費	同上
	その他	今年度は入場料収入なし(無料公演)、協賛金も徴収しなかった。
スケジュール	基本活動	舞台公演を目標に参加者を募集したい。 学校向け出前WSは市教委と協議したい。
	年間	参加者募集は7月以降の予定
保険加入等		イベント共済保険(全国共済農業協同組合連合会)に加入



## 【活動の様子（写真添付）】

### ① 指導育成WSの様子



作品づくりやWSの運営について丁寧に話し合い、発表し合って考え方を共有した。

### ② 地域部活動【WSの様子】



WS(演技指導等)は市内各地の公民館を利用して行われた。

### 【本番の様子】



本番はダブルキャスト、3日間で4公演を実施した(会場は市内3公民館)。

### ③ 出前WSの様子

【小学校低学年】



【小学校高学年】



【中学校】



【高校】



児童生徒の発達段階に応じた内容で、授業や部活動の時間を利用して実施した。

### ④ 地域フォーラムの様子



部活動の地域移行に向けた現状と課題について意見交換を行った。



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	ときがわ子ども音楽倶楽部		
所在地	埼玉県ときがわ町	設立年	2021年
運営主体	一般社団法人さいたまスーパーシニアバンド		
事業目標	<p>ときがわ子ども音楽倶楽部の活動を通じ、子どもたちが本格的な音楽活動を楽しむ環境づくり、運営と楽器演奏をサポートするシニアと子どもたちの世代間交流、文化活動の発展による過疎化が進む地域の活性化を目指します。</p> <p>【令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ときがわ子ども音楽倶楽部事業計画の着実な実施(2年目)</li> <li>・地域に根付く活動としての環境づくり、活動継続を目指すための課題を検討する。</li> </ul>		
きっかけ	<p>首都圏における過疎化が進む地域の子どもたちは、首都圏にあるが故に都市部の子どもたちと同様に見られがちです。しかし実際は、地方の過疎地域の子どもたちと同じく豊かな文化活動を体験する機会は少ないのが現状です。</p> <p>一方、都市化現象もあり、地域社会とのつながりは都市部と同様に希薄になりつつあります。そこで、過疎化が進む地域「埼玉県ときがわ町」を拠点に、多彩なキャリアを備えるシニアで構成されている吹奏楽団、一般社団法人さいたまスーパーシニアバンドやときがわ町役場、ときがわ町教育委員会などの協力のもと「ときがわ子ども音楽倶楽部」を設立しました。</p>		
団体・組織等の連携	<p style="text-align: center;"><b>ときがわ子ども音楽倶楽部運営連携図</b></p>		
活動場所	<p>埼玉県ときがわ町の公共施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活き生き活動センター</li> <li>・玉川公民館</li> <li>・都幾川公民館</li> <li>・アスパタまがわ</li> </ul>		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度からの活動継続のため、4月1回、5月2回、6月1回それぞれ練習を行った。</li> <li>・ときがわ町ならびに教育委員会、周辺自治体の協力のもと中学校・小学校を対象に、令和4年度の部員募集チラシを配布するなど告知を行った。</li> <li>・6月25日(土)オリエンテーション、楽器選択などを行ない、7月～1月まで毎月2回全体練習を行った。またプロ演奏家によるパート練習を各3回開催し演奏技術の向上に努めた。</li> <li>・部員のモチベーション維持のため、昨年度作成したe-ラーニング教材を活用した。</li> <li>・成果発表会はリハーサルを2月4日(土)に行い本番を2月12日(日)に実施した。成果発表会では、さいたまスーパーシニアバンド・ときがわ町民バンドの演奏と、プロ講師陣の演奏を同時に実施した。演奏会動画は後日関係者に配信する。</li> </ul>		

## ○本事業による成果

- ・過疎化が進む地域のため、民間や公共のクラブ活動が少なく、中学の部活の選択肢も少ないときがわ町にて、子どもたちのための音楽倶楽部を設立することにより、子どもたちが地元にて音楽活動ができる道筋ができた。今年度はときがわ町その他、近隣自治体(小川町、滑川町、東松山市、嵐山町)の子ども達も多く参加した。
- ・ウイズコロナ下で感染に留意して事業推進を推進し、計画した日程どおり練習でき、海兵隊、USA、ときがわマーチの3曲を合奏できた。
- ・成果発表会は一年越しに計画通り実施でき、大勢のご家族ならびに友達に練習成果を披露できた。
- ・アンケートのまとめは「別添」するが、2年目となり楽器の練習を通じたシニアと子どもの交流はさらに進み、子どもたちの家庭では音楽倶楽部の会話が多くあったというアンケート結果であった。
- ・多くの子供たちが活動の継続を望んでおり、ウイズコロナ下であるが地域に活動が根付いてきている。
- ・本事業の成果を、ときがわ町・同教育委員会に報告し意見交換することにより、今後、学校の部活動との関係性につき話し合う契機としたい。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・楽器未経験の児童・生徒も多く、楽器の取り扱いから丁寧にサポートすることを心掛けた。
- ・練習時は、毎回さいたまスーパーシニアバンド、ときがわ町民バンドのメンバーがサポートした。
- ・生徒が自宅で練習できる様、昨年度作成した楽器パート別の演奏動画(YOUTUBE)を共有した。
- ・プロ演奏家の楽器パート別指導は年間3回実施し生徒のモチベーションアップを図った。

## ○運営上の工夫

- ・学校行事を配慮した練習日程の調整と練習施設の確保
- ・新型コロナウイルス感染状況に応じ、公共施設の使用等につき、ときがわ町と情報共有し対応した。
- ・保護者との諸連絡は基本Eメールを使用し、タイムリーな情報共有に努めた。
- ・練習にあたっては感染防止策を徹底し、クラスターを起こさないよう対策した。
- ・本年度の振り返りと今後の運営に反映させるため、生徒および保護者、サポートしたシニアバンドメンバーおよびプロ指導者にそれぞれアンケートをとった。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・児童・生徒が増加した場合への対応として、レンタル楽器の種類と数量を確保することが必要となる。
- ・ときがわ町、教育委員会との連携は、令和4年度の実績を共有し協議を継続する。
- ・学校のクラブ活動と両立出来るよう、部員の募集、子ども倶楽部の運営を工夫する。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

学校部活動の地域移行に関しては引き続き以下の方針で取り組む。

- ・ときがわ町教育委員会との連携により中学校部活動が抱える課題を共有する。
- ・「ときがわ子ども音楽倶楽部」を学校部活動の地域移行の受け皿として継続する。
- ・活動成果の発表、周辺地域団体との交流の場を設定し、活動のモチベーション維持を図る。
- ・プロの高質な演奏を聞く機会を設定する。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	参加者の学年・人数:32名(高校生1名、中学生11名、小学生19名、年長1名)
	学校名	明覚小学校・宮前小学校・まつやま保育園・福田小学校・光山小学校・萩ヶ丘小学校・西中学校・滑川中学校・都幾川中学校・月の輪小学校・玉の岡中学校・玉川中学校・玉川小学校・小川小学校
	募集方法	チラシ配布(ときがわ町ならびに近隣自治体の中学校、小学校)、町広報誌掲載
指導者	人数等	ときがわ町在住プロ演奏家: 2名 その他楽器パートのプロ演奏家: 5名 さいたまスーパーシニアバンド、ときがわ町民バンド: 延べ300名余がサポート参加した。
	募集方法	運営主体が直接募集
参加者の移動手段		保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	プロ1日当たり 全体練習30000円、パート練習20000円プロ以外は謝金なし
	その他	会場費
活動財源	会費	参加料:2,000円/月
	その他	不足額は自己負担
スケジュール	基本活動	【全体練習】 令和4年4月30日、5月7日、21日、6月11日、25日、7月2日、16日、8月6日、20日、9月3日、17日、10月1日、15日、11月5日、19日、12月3日、17日 令和5年 1月7日、28日、2月4日
	年間	【プロ演奏家パート練習】10月15日、11月5日、19日、12月3日、17日、1月7日、28日 【成果発表会】2月12日(協演:さいたまスーパーシニア、町民バンド、プロ演奏家) ゲスト:ミュージックガーデン植松
保険加入等		行事参加者の傷害危険担保契約 延べ被保険者数 400名

## 【活動の様子（写真添付）】

### 木管楽器パート練習



### 金管楽器パート練習



### パーカッション&ベースパート練習





【成果発表会】令和5年2月12日アスパピアたまがわ大ホール



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社 東京演劇アンサンブル		
所在地	埼玉県新座市野火止3-16-24	設立年	1954年
運営主体	東京演劇アンサンブル「野火止演劇クラブ」		
事業目標	地元のこどもたちが演劇に触れる場をつくり、地域に根付いた演劇活動を展開する		
きっかけ	2019年新座市に移転したことを機に、それまで「ブレヒトの芝居小屋」で行ってきた文化の交差点となるような「場」づくりの一貫として、こどもたちから青少年を対象にした「市民ミュージカル」活動を開始。ちょうど文化庁の地域文化倶楽部の事業目的に叶ったため、応募し、2年間活動してきた。		
団体・組織等の連携	東京演劇アンサンブル(運営・指導者派遣)→野火止演劇クラブ 保護者(運営協力)→野火止演劇クラブ 小・中学生(参加)→野火止演劇クラブ 新座市/新座市教員委員会/新座市民会館→後援/広報協力/会場提供/イベント協力(新座市民会館「出張!野火止演劇クラブ」) 日本児童・青少年演劇協同組合(児演協)→事業評議員派遣協力		
活動場所	主に「野火止RAUM」(東京演劇アンサンブルが家賃を払って使用している稽古場)。ほかに新座市の公民館「ふるさと新座館」も使用。		
活動概要	年間30回のワークショップを重ね、一本の作品の発表公演まで行う。		

## ○本事業による成果

参加者／コミュニケーションワークショップによって、仲良くなり、人と接することが怖くなくなることから始まり、芝居の稽古を進めるなかで、一歩踏み出す勇気を持ち、ともに舞台をつくりあげる喜びを得た。

保護者／今までの習い事とは違い、こどもたちが変化していくことを驚きをもって語る保護者が多い。

周知／市長に表敬訪問し、活動内容を伝える。市議が参観。新座市と教育委員会の後援を得る。報告集を市内小中学校校長に送付。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

参加者10名、講師8名、劇団研究生5名という人数配分のため、参加者への目配りとフォローは十分に行えた。

講師陣は、このような事業をやっている茅ヶ崎の団体の代表者を招き話を聞き、その発表公演も見学して学習した。

歌や踊りのレッスンを交えて、飽きないような構成で活動することができた。

市内中学校には演劇部はないということなので、演劇希望者はこちらで受け入れることは可能であるし、要望があればアドバイスに出かけることも可能である。(ただし大人数の受け入れは現在のところは無理)

## ○運営上の工夫

劇団活動と並行した「演劇クラブ」であるため、長期休みにまとめた稽古ができなかったことが悔やまれる。場所だけでなく人材の問題であるため、これを克服するには、外部人材(例えば音楽、ダンスなどの専門家)の登用も考慮すべきか。

保護者との連絡に関しては、アルバイトを一人置いたため、スムーズに細かく行うことができた。

保護者による大道具・小道具・衣裳製作の協力が、昨年より多数の参加で行われた。この間にこどもたちの様子を聞くこともでき、今後はもっと増やしていきたいと考えている。

現人数ならば活動場所は野火止RAUMで十分だが、今後人数が増えた場合、「ふるさと新座館」を定期利用することも視野に入れている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

劇団のレパトリーを演劇クラブ用に改稿して上演するパターンを2回続けてきたが、これであれば、講師料以外は入場料収入と参加費でなんとか賄うことができることがわかった。

発表公演の質の高さと、こどもたちが楽しみに通う姿から、保護者からは会費が「安すぎる」んじゃないかとの声もあった。2023年度は会費アップとなるが、事前の通知はしてある。

講師料や場所代については、今後どのようにペイしていけるかが課題として残る。→そのために報告集配布し、地元企業のスポンサー探しや、今後のクラウドファンディングなども考慮する。

新座市や教育委員会はまだ名義後援のみで、補助金などの制度はない。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

年30回で、しっかりとこどもたちに対応し、一つの作品を作りあげるといふこの贅沢な「野火止演劇クラブ」が、どこでもすぐに可能だとは思わない。

学校の部活動という考え方ではなく、多様な課外活動が地域で可能であることによって、学校に部活動が必要なくなるという可能性はあるのではないか。

その一つである演劇活動を、わたしたちはこの地域でつづけていきたいと考えている。その良さは、学校という狭い社会で、こどもたちが貼られているかもしれないレッテルなど関係ない場であることが肝要である。

地域の大人たちが放課後のこどもたちを見守りつつ、専門的な知識を学べる場をつくり、そこに行政が補助金を出していけば、教師の負担も減るのではないか。

特にスポーツは、他校との競争であったり勝ち負けが大切だったりするが、文化は競争ではないので、文化部系の活動の受け皿を作る方が現実的かもしれないと考える。(演劇・合唱・絵画・新聞等)

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	10名
	学校名	任意参加 新座市内の4つの小学校より6名、3つの中学校より3名 さいたま市内の小学校より1名
	募集方法	4月初めに新座市内のポスティング／4月8日「出張！ 野火止演劇クラブ」での案内／1期生からのロコミ／1期生の発表公演を見たアンケートよりDM
指導者	人数等	8名 劇団員8名
	募集方法	劇団員→2021年1月の劇団総会での呼びかけ
参加者の移動手段		自転車／徒歩／保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 @1600円/時間
	その他	発表公演経費
活動財源	会費	参加費15,000円／公演費15,000円 × 10名
	その他	発表公演チケット収入 文化庁補助金
スケジュール	基本活動	月3～4回 土曜日14時～17時 全30回
	年間	30回＋発表公演2ステージ 詳細は別紙
保険加入等		参加者のスポーツ安全保険加入（会費に含まれる）



【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	Kashiwa Special Sounds		
所在地	千葉県柏市	設立年	2015年
運営主体	Kashiwa Special Sounds これまで吹奏楽のイベントを多数開催。単に演奏を聴いてもらうだけでなく、楽器販売会社の協力を得て楽器体験を行ったり、楽器を持参した方や手作りのシェーカーを配布し吹奏楽コンクールの常連校である市立柏高等学校と一緒に演奏するなどの参加型のイベントを行ってきた。		
事業目標	吹奏楽団を立ち上げるにあたっての課題としては①楽器の確保②練習場所の確保 予算面で持続可能な運営を行うには③団員18名以上が必要 これらをクリアすることが現時点での事業目標となる。 また、立ち上げからの課題解決方法など様々な取り組みをモデルケースとして全国に発信する。		
きっかけ	教員の働き方改革及び部活動の新しい指針に基づき、今後は「学校部活動」から「地域部活動」への移行がすすんでいく。 部活動では顧問となる教員の負担が大きく、吹奏楽が盛んな東葛地区だからこそ地域人材を活用するなど地域課題として取り組む必要があると考え、吹奏楽を楽しみたい学生の受け皿、教員への負担軽減、地域でこれまで培った人材を活用、の3つを柱に東葛地域の学生(小学4年から大学生までを想定)を対象とし、吹奏楽の演奏を通じ協調性や人間形成の場とする「東葛吹奏楽団」を立ち上げた。		
団体・組織等の連携	<pre> graph TD     A((東葛吹奏楽団)) -- "演奏披露" --&gt; B((Kashiwa Special Sounds))     B -- "出演要請 楽器提供 指導者紹介" --&gt; A     B -- "アドバイス 指導者紹介" --&gt; C((Passo a Passo))     C -- "イベント開催 倉庫の街を周知" --&gt; B     B -- "イベント費用負担 休眠楽器提供" --&gt; D((柏市教育委員会))     D -- "イベント開催 倉庫の街を周知" --&gt; B </pre>		
活動場所	柏市中央公民館 柏市の近隣センター		
活動概要	毎週日曜 13:00-17:00に練習を行っている。 順位づけされるコンクールには出場せず、地域のイベントや夏祭りなどでの演奏披露と年に1回行う定期演奏会が活動の主体となる。		

## ○本事業による成果

### ○メンバー数

・学校も違う小学5年生～高校3年生まで14名

→学校の吹奏楽部にも所属している:内6名

教員の負担軽減に直接寄与できている訳ではないが、学校部活動以外の受け皿としての体制は整ってきたものとする。

### ○楽器提供の実績

・寄付5台:トランペット2台、コントラバス(使用中)、電子ドラム(使用中)、ダブルホルン

・一定期間貸出6台:チューバ(使用中)、ピッコロ(使用中)、フルート、シングルホルン、ユーフォニアム、クラリネット

### ○演奏実績:4回

・2022/3/19 第一回定期演奏会

・4/24 柏の葉ローカル&クラフトマーケット出演

・10/9 柏 de 吹奏楽PARTY♪! 2022出演

・12/18 柏モディde Merry X'mas Show出演

### ○メディア取材実績:6紙、2放送

・新聞3紙: 柏市民新聞3/25号、読売新聞8/29号、東葛まいにち1/25号、ちいき新聞3/17号

・2月に取材済み(掲載待ち2紙): 読売新聞、朝日新聞

・ケーブルテレビJ.COM:「ジモト応援! 千葉つながるNews」出演:10/17放送、3/6放送

### ○SNSの活用: Twitterフォロワー1300人超

→全国の吹奏楽団と相互フォローを行い、楽団運営の工夫などの情報発信を行う。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

### ○現役で活動しているプロによる指導

・プロによる指導やその他にも第一線で活躍しているパート毎のゲスト講師がレッスンを行う。

→プロ講師による専門的な話や奏法が学べる点は学校部活動にない取り組みとなっている。

### ○パート別に個別レッスンを実施(不定期)

・奏法の悩みなどを直接、各楽器専門のプロに指導してもらうことができる。

### ○指導方法

・講師からの一方的な指導はせず問いかけや双方向のやり取りに重きをおいた結果「自分の考えを発言できるようになった」「人と話すことが平気になった」「集中力がついた」といった保護者の声をいただいた。

## ○運営上の工夫

### ○コンクールを目指さない

・受賞がゴールになってしまうコンクールは目指さず、定期演奏会や地域イベントでの演奏披露を主な活動としている。

### ○音大生のアシスタント

・4名の音大生が週替わりでアシスタントとして指導。

### ○楽器の確保

・楽器を持っている人しか入団することができなかったが楽器の寄付・無償レンタルを募ったところ11台の楽器が集まり4台の楽器は実際に団員が使用中。

### ○LINEの活用

・レッスン時に演奏した動画を撮影しその日のうちにメンバー・保護者にLINEで配信。

自宅で演奏動画を何度も聞き返すことで、次回レッスン時に修正すべき点を各自が認識し効率的にレッスンに臨むことができる。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

### ○練習場所の確保

・現在は公民館を借りて活動しているが毎回確保できるわけではない。①音出し可能②駐車場③電源利用④トイレ利用。これらをクリアした場所の確保が望まれる。

### ○楽器の保管や運搬

・現時点で団としての大型楽器は保持していないが今後大型楽器の保管場所や運搬についても検討することが必要になる

→定期演奏会で大型楽器を利用する際は、近隣の社会人吹奏楽団が「運搬、搬入、組み立て、搬出」を無償で行ってくれた。楽器保管ができる練習場所の確保が望まれる。学校の体育館など。

### ○団費について

・プロの指導がこの金額は安い。と思って入団した。という声を保護者よりいただいた。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

コロナが明け、公民館などの利用が増えてきた為、練習場所を確保することが困難。

学校や体育館などの施設を、積極的に地域部活動に開放してもらえるよう文化庁から地方自治体へ促してもらえると助かる。

教育委員会指導課にも相談したが、各学校の校長先生と話してもらうのが一番早い。という回答だった。

校長先生との接点がないため、現在では公民館での練習にとどまっている。

## ○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	14名(小学生3名、中学生5名、高校生6名)
	学校名	柏市立柏第一小学校、柏市立中原小学校、柏市立土中学校、柏市立光ケ
	募集方法	・体験会、見学会の開催 ・運営メンバーによるSNSの告知
指導者	人数等	講師陣2名、音大生によるアシスタント4名、ゲスト講師(不定期、数名)、パート別講師(不定期、9名)
	募集方法	・音楽大学出身者からの声かけ ・SNSによる告知
参加者の移動手段		車、公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 15,000円/日 アシスタント 5,000円/日
	その他	地元企業による寄付
活動財源	会費	入団金(初回のみ) 10,000円 月会費 12,000円
	その他	
スケジュール	基本活動	毎週日曜 13:00-17:00
	年間	年48回
保険加入等		なし



## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人日本伝統文化の会		
所在地	東京都港区	設立年	2020年
運営主体	一般社団法人日本伝統文化の会、東京都港区邦楽邦舞連盟、地唄箏曲美緒野会		
事業目標	子供達の豊かな感性や情操を養うことを目的に、日本固有の文化である邦楽のワークショップを授業や部活動の中で行っていく		
きっかけ	子供達が身近な地域で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保で切るよう、地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関が中心となって、学べる環境を整えて行きたいという思いから始めた。		
団体・組織等の連携			
活動場所	都内小・中学校及び公共施設等		
活動概要	各学校の教室(ランチルーム等広い教室)や体育館、公共施設において講師2人から6人と授業の場合には音楽の教師と共に活動を行った。講師の人数や楽器の数、指導内容や方法は前年の経験を元に考慮して実施した。		

## ○本事業による成果

小学校の授業の一環としての活動面では、事前に音楽の授業で和楽器について、楽譜の読み方などを指導していただいていたので、参加者の興味は高く、初めて触れる楽器ではあるものの、2時間の授業内で飽きることなくリズムやテンポを合わせた合奏ができるようになった。

校長先生や音楽の先生へのインタビューでは「日本の伝統文化である和楽器を教えられる教師がいないこと」「楽器が常備されていないので見たり触れたりする機会がないこと」「楽器があってもメンテナンスの費用捻出などが困難であること」を課題として挙げられており、このような機会は大変価値があるので是非とも継続して欲しいとのご意見を頂いた。

放課後クラブでは学年の枠を超えて一緒に体験を行うことで、上級生が下級生をサポートする姿も見られ、コミュニケーションの活性化にも繋がった。

初めての和楽器ワークショップでは、舞台での発表会に参加し、他の参加者、講師と交流を深め、プロの演奏者との合奏に参加することでより達成感がえられた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

子供達がより興味を持ってくれるよう、模範演奏では邦楽の古典曲(六段の調)に加え、「紅蓮華」「パプリカ」を演奏し、同時に琴と洋楽の調弦の違い、13絃、17絃という楽器の違いについても知ってもらうことができた。

## ○運営上の工夫

前年の経験より、和楽器商と連携し、1人に一面ずつの楽器や備品を準備することが出来たので、限られた時間の中で飽きることなく楽しんで体験が実施でき、達成感ももたせることができたと感じる。また、各自に楽器と部品を用意することでコロナの感染拡大対策にも対応できた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

授業の一環とした場合、1年に1回の開催となったが、校長先生、音楽教師や生徒からのフィードバックからも、継続的な実施が期待されている。今回の取り組みを基本とし、他の学区や地域にも幅広く提案していき講師の手配の関係上、早めのスケジュール調整が重要となってくる。今回の実施内容や課題を調整し新規の学校、放課後クラブへの企画提案を行っていく。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

音楽授業の支援活動を拡大していくと共に、各地域で行っている放課後クラブやワークショップへの参加で、児童が和楽器に触れる機会を増やしていきたい。

また、継続参加している児童には「さくらさくら」以外にも馴染みのある洋楽やアニメソングにも挑戦する事を促し、和楽器の楽しさを知る事で、参加意欲を高めていく。

学校以外では地域の公共施設を利用しているので、地域で開催されるお祭りやイベントでも児童が演奏する機会を作ることができれば、地域と密接に連携した取り組みになると考える。

現在首都圏のみでの開催となっているが、楽器商や演奏家、講師のデータベース化を行い、他の地域も含め継続、拡大していける体制を整える。

○令和4年度 取組状況等「放課後クラブ」

参加者	人数等	小学校4年生から6年生の児童 1クラス当たり平均35人が参加
	学校名	港区立白金小学校・大田区立羽田小学校・江東区立第3砂町小学校
	募集方法	音楽授業の一環
指導者	人数等	教員1名 指導者2～5名
	募集方法	箏曲指導団体への打診
参加者の移動手段		各自
活動費用	指導者謝金等	謝金:5,100円/時間(交通費込み)
	その他	楽器レンタル、運搬、設営一式 55,000円/1回
活動財源	会費	授業の一環ということもあり、学校及び参加者の負担金無し
	その他	
スケジュール	基本活動	2時限を活用し以下のプログラムを実施 1.講師によるお琴の、歴史、名称、道具など説明 2.「さくら・さくら」の楽譜の読み方、座り方、弾き方などの説明 3.各自練習(講師が児童のところを周り個別指導) 4.音楽教師指導のもと合奏練習 5.講師による模範演奏「桜爛漫」「パプリカ」など
	年間	現行年1回の授業を請け負っているが、今後は各学校からの要望もあり、単発ではなく各学校において年2、3回の継続活動にしていきたい。
保険加入等		特に無し



## 【活動の様子（写真添付）】



一人ずつ楽器を用意し、十分な距離を持って配置した。  
正座するため足が痛くないよう、ウレタン製の簡易座布団を用意した。



進行を音楽の先生にお願いしたので、スムーズかつ集中力を持って進めることができた。



お琴を聴いたり、見たことがあるかなどの質問や、楽器の各部位の名称が龍に関連している事など興味が持てるような内容を混じえて紹介を行った。

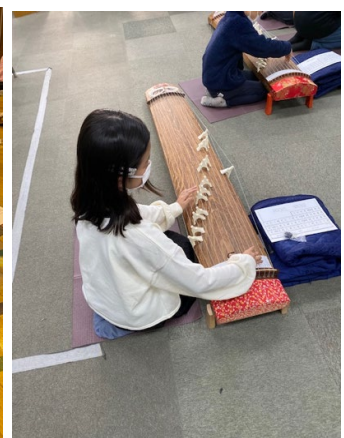


模範演奏では、音楽の授業でも聴く機会のある古典曲「六段の調」に加え、「紅蓮華」や「パプリカ」といった馴染みのある曲を演奏した。知っている曲は生徒達にも一緒に歌ってもらい、楽しんで参加してもらうことができた。



調弦(チューニング)や演奏時に、調子の仕組みや講師のテクニックがより理解できるよう近い距離で見学する事を促した。

講師がお手本を弾き、練習時の注意事項を説明した後、個々に練習を行ったが、講師が各自の席をまわり、わからないところ、難しいところを個人的にレクチャーし、コミュニケーションを図りながら全員が「さくらさくら」が弾けるようになるよう指導した。



参加者	人数等	小学1年生～6年生 各回平均30人が参加
	学校名	渋谷区各校の放課後クラブ(中幡小学校、富谷小学校、幡代小学校、鳩森小学校、加計塚小学校、神宮前小学校) 及び神明子ども中高生プラザでの定期活動
	募集方法	各放課後クラブ施設での児童への案内
指導者	人数等	指導者:2～3名 放課後クラブ運営団体:1名
	募集方法	箏曲指導団体への打診
参加者の移動手段		各自(開催小学校区在住)
活動費用	指導者謝金等	謝金:5,100円/時間(交通費込み)
	その他	楽器レンタル、運搬、設営一式 55,000円/1回
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	1時間のクラスで以下のプログラムを実施 1.講師によるお琴の、歴史、名称、道具など説明 2.講師による模範演奏「六段の調」「紅蓮華」「パプリカ」と楽器や調弦の説明 3.「さくらさくら」の楽譜の読み方、座り方、弾き方などの説明 4.各自練習(講師が児童のところを周り個別指導) 5.全員で一緒に合奏
	年間	神明中高生プラザでは月1回の定期活動を行い、最終月度には同施設にて披露演奏を行なった。他の会場は単発開催であったが、今後継続活動できるプログラムに発展させていく
保険加入等		特に無し



## 【活動の様子（写真添付）】

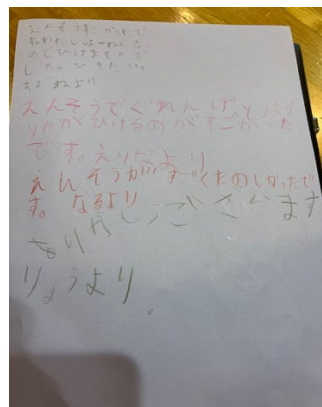


学校での授業同様、広い体育館を利用し、適切な距離を持って活動を行った。

楽器が1人ずつ用意できたので、飽きる事なく、約1時間のワークショップが開催できた。

児童3、4人に対して1名の講師が、それぞれの児童に対して直接難しいところを指導し、ほとんど全員が短い時間の中「さくらさくら」を演奏することができるようになった。

放課後クラブ運営者にも空いている楽器を使って楽器に触れる体験をしていただいたので、より理解を深めていただけたと思う。



終了後にワークショップには参加できなかったが模範演奏を聴いた低学年の児童よりお手紙をいただいた。今後は低学年にも参加してもらえよう、時間割などを検討していくことで、幅広い年齢層に対応していきたい。

年間のプログラムとして実施している放課後クラブでは、集大成として披露する場があり、児童たちに継続的に興味を持って参加してもらえ、また達成感も得られた。他の活動も定期開催できるよう検討を行っていく。



参加者	人数等	5歳以上の未就学児から高校生までを対象:約120名
	学校名	
	募集方法	チラシの配布、ホームページ、ソーシャルメディアを利用した案内、施設からの依頼(英語児童ワークショップ)
指導者	人数等	各会場1～3名
	募集方法	箏曲指導団体への打診
参加者の移動手段		各自
活動費用	指導者謝金等	謝金:5,100円/時間(交通費込み)
	その他	発表会での誘導や楽器準備の補助への賃金
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	月2回各地区にてワークショップを開催。お琴、お三味線を体験から「さくらさくら」が弾けるように指導。希望者は他地区およびプロの演奏者との合奏練習会、舞台での発表会に参加できる。
	年間	前期(7月から8月)5回開催 後期(11月から4月)13回開催
保険加入等		特に無し



## 【活動の様子（写真添付）】



都内の公共施設においてお琴とお三味線(希望に応じて選択)の定期開催の「初めての和楽器ワークショップ」を各地で実施した。半数以上の児童が複数回数参加し、「さくらさくら」の演奏にチャレンジした。



希望者には他の地区での参加者及び講師と合奏練習に参加してもらい、交流をはかると共に、講師を含む他の人との合奏を楽しむことができた。  
同時に、お辞儀や姿勢など所作についても基本的な事を学び、体験した。



希望者は一般社団法人日本伝統文化の会主催の「ゆかた会」の舞台での演奏に参加した。服装については指定はなかったが、多くの児童がゆかたを着用して参加したので、同時に着物の場合の所作、気をつけることなどをレクチャーした。あまりない機会ということで、同行の保護者の方にも楽しんで頂けたので、今後の継続が期待される。(後期参加者は4月30日開催の発表会の舞台でも演奏に参加することが可能としている)



## 【活動の様子（写真添付）】



英語学童ACCESSからの依頼により都内にある3校にて小学校1年生から4年生を対象にした「はじめての和楽器ワークショップ」を開催した。



指導者より楽器や歴史の説明、模範演奏などのあと、実際に楽器に触る体験を行った。

お琴一面に対して複数名が交代で体験を行ったが慣れてくると1人で弾けるようになり、楽しんで参加ができたようである。

バイリンガルを育成する施設ではあるが、日本の文化についても触れ、理解を深めるプログラムを継続していきたいとの事でした。

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	株式会社オフィス ワン・ツー		
所在地	東京都杉並区	設立年	1989年
運営主体	株式会社オフィス ワン・ツー		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野の講師を学校等に派遣することで、学校や教員の負担を軽減する。</li> <li>・中学生・高校生に講師の指導を受ける機会を提供し、地域の新たな受け皿となる。</li> <li>・現役プロ講師・俳優による、質の高い指導を実践的、継続的に行う。</li> </ul>		
きっかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動顧問の時間的・精神的な負担を軽減したい、又、演劇部がない、又は人数が少ないために活動が制限される中高生に機会を与えたいという思いから。</li> <li>・現役のプロの演出家を派遣し、現在実際に行われている練習法や理論を体験してもらう機会を提供したいと考えたため。</li> </ul>		
団体・組織等の連携	<pre> graph TD     Grant([助成金]) --&gt; Company[株式会社 オフィス ワン・ツー]     Company -- 指導者 --&gt; Schools[学校]     Company -- 講師 --&gt; LocalFacilities[地域の施設]     Company -- 参加・見学 --&gt; LocalStudents[地域の中高校生]     Schools -- 謝金 --&gt; Company     LocalFacilities -- 利用料 --&gt; Company </pre>		
活動場所	シュタイナー学園、井草高校、小山台高校Studio Dance Visions		
活動概要	<p>A. 学校に講師を派遣する活動: 学校に講師を派遣し、部活動、学校における中高生に対する演技・演劇指導(1回2～4時間、3校で全19回)</p> <p>B. 地域の中高生に演劇レッスンの場を設ける活動: 中高生が無料で通える演劇教室の開催し、演技・演劇指導(月3回程度、土曜日4時間、全27回)</p>		

### ○本事業による成果

- ・演劇部が盛んでない、又は、演劇部のない学校の生徒の受け皿になることができた。(昨年度7名、今年度13名)
- ・基礎練習による参加者の演技力の向上と自信の獲得、脚本・演出面の実践的な指導による作品の質の向上。
- ・参加者の所属する演劇部が都大会に出場、地区大会で奨励賞、部員の増加(6名→10名)。
- ・参加者アンケートより「モチベーションや技術の維持・向上ができた」「部活で使えるエチュードを学べてよかった」「色々な台本を経験できたのも良かった」「ちゃんと発声できるようになった」「演技経験がゼロの私でも楽しかった」

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・中高生への指導経験もあるプロの演出家を講師として複数名配置し、様々な練習法や視点を紹介した。
- ・演劇鑑賞・DVD鑑賞で現代劇に触れる機会を提供し、多様な考え方・生き方・人物像を提示した。
- ・講師アシスタントは専門学校や大学で学んだ若手俳優を起用し、参加者に次のステップを考える環境を提供した。
- ・講師間で毎回実施報告書を共有し、参加者の状況を把握しながら進化した。

## ○運営上の工夫

- ・講師を複数名確保することによって、各学校の希望に合わせて派遣することができた。
- ・Bについては、当団体の事務所のすぐ近くに活動場所を確保し、台本の印刷、椅子等の道具の運搬を容易にした。
- ・教員の見学を可とし、指導法を学ぶ機会を提供した。保護者の見学を可とし、安心感を与える環境を作った。
- ・検討運営会議で有識者の視点から意見を聞くことで、講師が企画の重要性をより深く認識することができた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・今年度は、東京都高校演劇連盟と杉並区教育委員会、また、前年度の見学者・参加者の協力で事業への参加人数が大幅に増加した。継続することが周知と参加者の増加を促し、より良い企画への改善点の発見に繋がると考える。

今年度の参加者と指導者は継続を希望しているが、次年度は演劇分野での募集はないとのことで、資金面、また、文化庁の主催であるという学校・保護者からの安心感・信頼がなくなるという点で、継続は困難と考えている。

- ・「部活動の代わりとなるもの」という点で、「中高生なら誰でも無料で参加できる」という形態で行うことに意義を感じ、参加費は徴収せず運営してきた。今後の継続には、自治体等の補助金制度や民間の基金等の活用が必須となる。

また、費用を抑えるためには、活動場所を公共の施設にすることも考えられるが、土曜日・日曜日の利用率が高く、確保が困難と言う現状である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・参加者・指導者・学校関係者の満足度は高く、「プロの演出家を講師として派遣する」「中高生が無料で参加できる演劇教室」のニーズはある程度あると実感した。今後、小規模の活動でも数を増やすことで地域差をなくすような企画にも焦点を当て、音楽の分野に限定しない芸術活動全般に対する幅広い補助金・助成金の設置を検討していただけたらと思う。

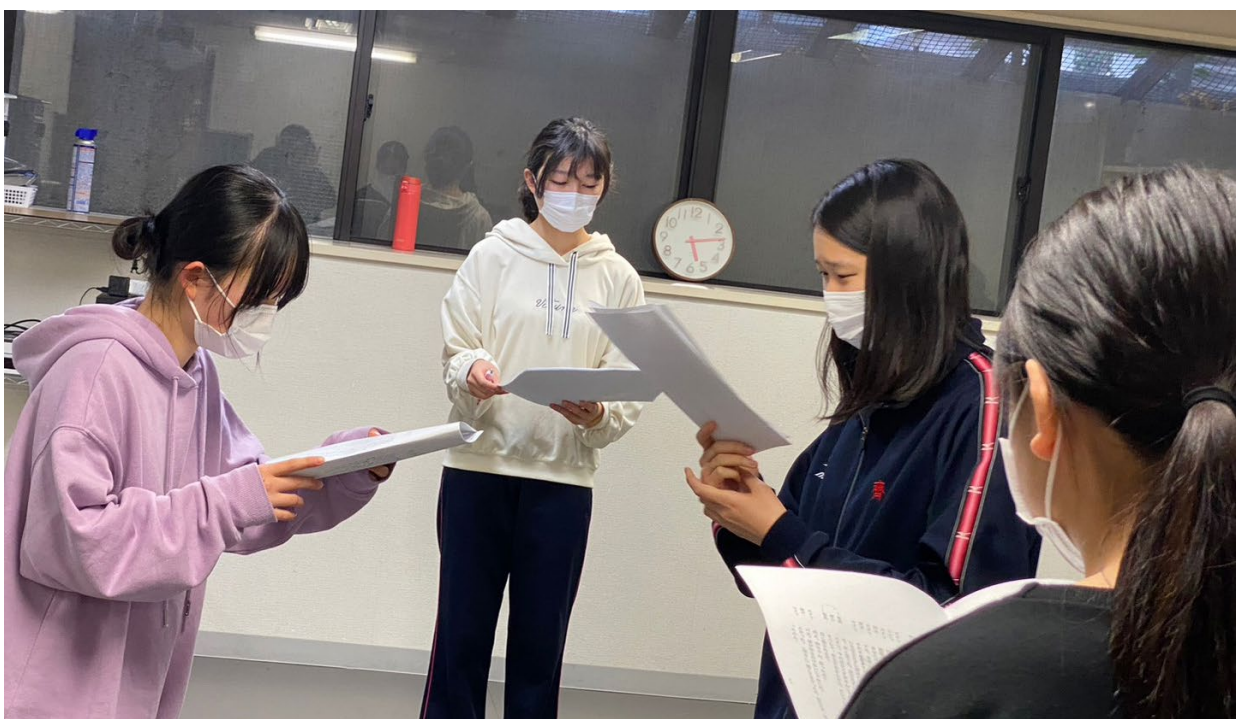
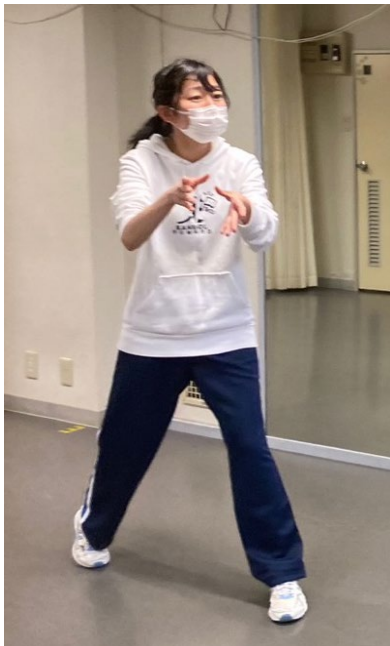
- ・杉並区教育委員会の協力により昨年度に比べて今年度は中学生の参加者が増加し、周知には信頼できる発信元が重要であると感じた。特に、中高生の部活動の受け皿になる活動には、自治体や学校の協力が重要と考える。

- ・検討・運営会議では、有識者から「芸術活動は人格形成にかかわるものであり、特に演劇的手法は、中高生に自己の多様性に気づく機会を提供できる」というコメントがありました。しかし、演劇の手法の有用性や演劇自体が浸透していないという現状がある。今後、高校生の演劇鑑賞、その他芸術作品に触れる機会を増やすような事業も検討していただけたらと思う。



○令和4年度 取組状況等

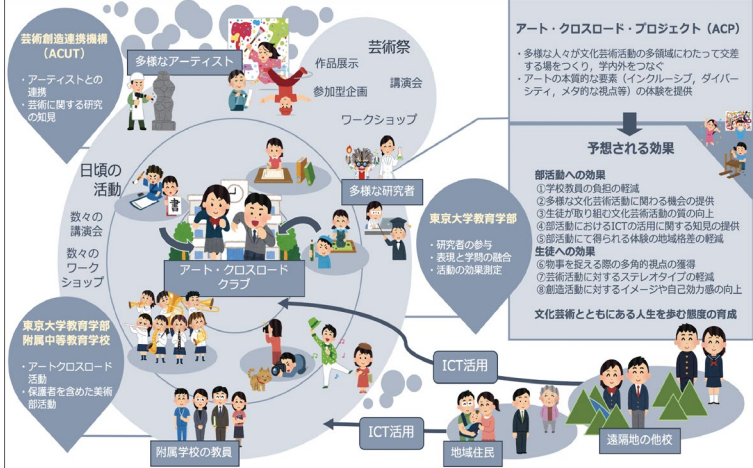
参加者	人数等	A. 学校に講師を派遣する活動:中学生8名、高校生5名 B. 地域の中高中生に演劇レッスンの場を設ける活動:中学生34名、高校生70名
	学校名	A. シュタイナー学園、井草高校、小山台高校 B. 立川国際高校中等教育学校、高井戸中学校、東京都立総合芸術高校ほか
	募集方法	東京都高校演劇連盟から加盟校の先生にメールで案内を送付、無料のホームページを作成、当団体・関連団体の公演にチラシ折り込み、当団体のホームページ・メールマガジンに記載、杉並区の教育委員会から杉並区内のすべての中学校に案内を送付
指導者	人数等	実演家4名
	募集方法	前年度事業の講師を継続して採用
参加者の移動手段		公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	講師謝金 4,600円/時間、講師アシスタント謝金 3,000円/時間 交通費(東京都外のみ) 約2,000円/回(実費)
	その他	会場借上料 6,300円/回、課外レッスン費(観劇費) 3,000円/回 コーディネーター・アシスタントコーディネーター 1,050円/時間
活動財源	会費	無し
	その他	無し(すべて助成金にて賄う)
スケジュール	基本活動	A. 各学校の予定に合わせて調整 B. 令和4年5月～令和5年2月、月2～4回、13:30～17:30 基本的に土曜日(日曜日と祝日に1回ずつ有)
	年間	A. 5月2回、6月2回、7月1回、8月5回、9月2回、10月1回、12月1回、1月2回、2月3回 B. 5月2回、6月2回、7月1回、9月3回、10月4回、11月3回、12月2回、1月6回(冬休み特別レッスン3回含む)、2月4回
保険加入等		無し





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	東京大学 アート・クロスロード実行委員会		
所在地	東京都中野区	設立年	2021年
運営主体	東京大学教育学部 東京大学芸術創造連携研究機構(以下、ACUT) 東京大学教育学部附属中等教育学校(以下、附属学校)の連携組織「東京大学アート・クロスロード実行委員会(以下、実行委員会)」		
事業目標	a) 文化倶楽部の指導に従事する学校教員の負担の軽減、b) 多様な文化芸術活動に関わる機会の提供、c) 生徒が取り組む文化芸術活動のさらなる質の向上、d) 地域格差の軽減のためのICT技術の試用、e) 他校の生徒たちや地域の人々との文化芸術活動を通じた交流を試みる。		
きっかけ	芸術的な感性が求められている現代において、表現活動や表現領域に関する第一線の研究者が多く在籍している東京大学の強みを活かし、専門家との交流の場や、文化的な教養を身につける機会を全国に広げ、これからの社会に役立つ芸術的な感性を育てていくこと、ひいては指導にかかる教員の負担等の部活動が抱える課題解決の一助となることをめざして、上記の運営組織が連携し、本活動が始まった。□		
団体・組織等の連携	<p>本事業では、附属学校、教育学部、ACUTの3つの組織が連携して運営する実行委員会が、アート・クロスロード・プロジェクト(以下、ACP)を開始した。そして、ACPへの継続的な参加を希望する附属学校の生徒(コアメンバー)を集め、「アート・クロスロードクラブ(以下、クロスロードクラブ)」を設立した。これらの生徒達を中心に、附属学校の全ての生徒、及び、遠隔地の他校の生徒にも新たな活動の機会を提供することを目指した。以下に組織図を掲載する。</p>  <p><b>アート・クロスロード・プロジェクト (ACP)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人々が文化芸術活動の多領域にわたって交差する場をつくり、学内外をつなぐ</li> <li>・アートの本質的な要素(インクルーシブ、ダイバーシティ、メタ的な視点等)の体験を提供</li> </ul> <p><b>予想される効果</b></p> <p>部活動への効果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校教員の負担の軽減</li> <li>② 多様な文化芸術活動に関わる機会の提供</li> <li>③ 生徒が取り組む文化芸術活動の質の向上</li> <li>④ 部活動におけるICTの活用に関する知見の提供</li> <li>⑤ 部活動にて得られる体験の地域格差の軽減</li> </ol> <p>生徒への効果</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>⑥ 物事を捉える際の多角的視点の獲得</li> <li>⑦ 芸術活動に対するステレオタイプの軽減</li> <li>⑧ 創造活動に対するイメージや自己効力感の向上</li> </ol> <p>文化芸術とともにある人生を歩む態度の育成</p>		
活動場所	東京大学教育学部附属中等教育学校		
活動概要	クロスロードクラブのコアメンバーが主体となり、文化芸術に携わる研究者やアーティストによる講演会・ワークショップ等を定期的に行いながら、多様な人々(学年が異なる生徒、遠隔地の他校の生徒、アーティスト、研究者、大学生ボランティア、地域の人々など)が文化芸術活動の多領域にわたって交差する場(校内外をつなぎ、芸術の本質的な要素の体験を共有できる場)をつくり、オンラインを活用しながら全国に広げようと模索している。		

## ○本事業による成果

a) コーディネーターや大学生ボランティアがコアメンバーの活動の指導・監督を担ったことにより、教員の負担軽減を図った。初心者でも参加しやすい企画構成と、オンライン配信により、他校の生徒が企画に参加する際、教員は生徒にチラシ等で案内するだけでよく、引率や事前学習を不要にした。

b, c) 様々な領域を専門とするアーティストや研究者・専門家の方々から話を伺ったり、共に表現活動に参加したりするなかで、生徒たちの探究心が掻き立てられ、興味の幅が広がり、自己の成長につながるさらなる学習の機会を得る契機となった。

また、昨年度から継続して取り組むことにより、より活動のコンセプトに沿った企画をすることができた。2022年度には2回の講演会(医学、水中考古学)と2回のイベント(プレゼン大会、東京大学オープンキャンパスでのトークセッション)、4回のワークショップ(デザイン、創造性の育成、ダンス)を行った。加えて、コアメンバーが主体となり、アーティストや研究者・専門家とともに芸術祭準備を進めることで、企画展の運営などのアート・コミュニティでの活動と類似した体験が可能となった。

d, e) 附属学校内での取り組みであるため、生徒がいつでも気軽に参加でき、学年を越えての交流の場となった。また、学校ホームページやSNS等での情報発信に加え、新聞による告知を行うことで、ICT技術の活用によるオンラインでの参加枠を用いた遠隔地の他校や近隣地域からの参加者も募った。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・クロスロードクラブの活動では、講演会やワークショップなどを開催するにあたり、準備の過程を大切にしている。コアメンバーが主体となって講師とやりとりを行うことで、講師の専門分野と生徒が学びたいこと・実現したいことを踏まえた上でテーマを十分に明確化し、当日の内容を充実させている。
- ・活動を通して得た学びや成長を生徒が振り返る機会を積極的に設けた。
- ・学年を問わず、生徒の希望や提案に合わせて、役割分担をしたり、企画の立ち上げを行った。
- ・文化芸術に対する生徒たちの視野が広がるように、日頃のやりとりの中で世の中のヒト・モノ・コトに関心を持つように促した。例えば、講師となるアーティストや研究者・専門家の専門分野について調べたり、企画を練ることをコアメンバーが担うことで上記のような資質の育成を目指した。

## ○運営上の工夫

- ・クロスロードクラブでは、定例ミーティング(週一から隔週の頻度で実施)を通して、それぞれの生徒の意見を積極的に取り入れる、生徒の裁量で新たな企画を提案するなど、一人ひとりの挑戦を支援し、相互に助け合える環境を実現した。
- ・ACPの活動をより多くの方々に知っていただくために、SNSでの活動内容の発信、企画ポスターの他校への送付などを積極的に行った。
- ・各運営主体の代表者が定例ミーティング(月一で実施)で情報共有をした上で、活動のサポート(講師の紹介、広報を含む活動の監督、コーディネーターへの指示出し等)をした。
- ・附属学校の生徒以外の関係者も企画に参加できるよう、各講師との相談の上で、対面とオンラインの両方に対応できるように企画内容を工夫した。
- ・企画の準備における大まかな流れはマニュアル化し、委員内で共通認識を持って運営している。



## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・活動の運営にあたり、①企画(企画立案、テーマ決定、講師との打ち合わせなど)、②広報(チラシデザイン、SNS発信など)、③企画内容の記録(動画・写真撮影、編集など)、④ICTの活用(機材セッティング、Zoom配信など)、⑤外部対応(参加者への案内の送信、問い合わせ対応など)の各部門に、現在、それぞれを得意とする生徒や大学生ボランティアを配置することで、講演会やワークショップを高頻度で開催してきた。今後、活動を継続していくにあたって、卒業によるコアメンバーやボランティアの入れ替わりに対応するために、各部門を継続的に監督する専門的なコーディネーターを設置することを検討している。
- ・音楽やダンスなどのワークショップに遠隔地の他校の生徒が参加するために、音質や臨場感をできる限り損なわないよう、より高性能な機材(マイクやビデオカメラなど)を十分に揃える必要がある。
- ・本活動が、文化倶楽部の指導に従事する全国の教育関係者にほとんど知られておらず、実践のノウハウや文化芸術に触れられる学びの機会がまだ十分に活用されていないため、引き続き、外部への情報発信を行う。
- ・上記の課題はあるものの、多彩な講師陣から生徒が直接学べる利点は大きく、既存の部活動では触れることができない表現領域や領域横断的な表現活動を体験する機会を、ICTを活用することで附属学校の生徒や遠隔地の他校の生徒に提供するACPの活動をこれからも継続していきたい。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・寄付金等による予算の獲得に努めると共に、学内のリソースを積極的に活用し、企画の講師やボランティアを募る。
- 今年度の活動を軸に、引き続き、コアメンバーの主体的な活動をコーディネーターや大学生ボランティアが監督する形で活動を継続していく。
- ①企画②広報③企画内容の記録④ICTの活用⑤外部対応などの各部門でのメンバーの入れ替わりに対応するために、それぞれの部門において必要な知識を有する地域住民や保護者に積極的に協力を求めることを検討している。
- より高性能な機材を使用することで、附属学校の関係者や遠隔地の他校の生徒にも、音楽やダンスなどを含む多種多様な表現領域の活動をリアルタイムで体験できる機会を提供していく。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	附属学校の中学1年生から高校2年生が約30名参加している。
	学校名	東京大学教育学部附属中等教育学校
	募集方法	ポスター掲示やチラシの配布、SNS等を使って年間を通じて募集している。
指導者	人数等	・コーディネーター(教育的知見を有する人材) ・外部講師(アーティストや研究者) ・大学生ボランティア
	募集方法	直接メールなどで依頼をした、また教授などからの紹介。
参加者の移動手段		徒歩、自転車、公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	講師謝礼   5,700円(1時間)×講演・ワークショップ・レクチャー時間 ワークショップにかかる材料費   8,000ー20,000/回
	その他	それぞれの講師に対しての交通費、運送費など。パンフレット制作や装飾の材料費など。
活動財源	会費	保護者負担はなし。
	その他	学校の生徒会費からの補助金として¥340000。主に講師謝金、材料費として。
スケジュール	基本活動	定例ミーティング(週一から隔週の頻度で実施)
	年間	2022.4.24. WS(ワークショップ)「チラシをデザインしよう! ①」講師:野村仁美(デザイナー) 2022.5.8. WS「チラシをデザインしよう! ②」講師:野村仁美(デザイナー) 2022.7.3. イベント「プレゼン大会～あなたの思う一流を紹介しよう～」 2022.8.3. トークセッション「一流の条件とは?」 2022.7.24. 講演会「論文ってすごくおもしろい?! ～東大医学部が熱く語る、私の推し論文～」講師:AMSS(学生団体) 2022.10.16. WS「Steven Fischer's Wonderful Happy Cartoony Workshop」講師:Steven Fischer(作家・プロデューサー・ディレクター) 2023.1.29. 講演会「水中のロマン～水中考古学で紐解く歴史の謎～」講師:山船晃太郎(水中考古学者) 2023.2.5. WS「スクダン-What is your favorite?-」講師:中野優子(ダンサー)、キュタツヤ(ダンサー) 2022.3.25-26. イベント「東大附属芸術祭」
保険加入等		講演会やワークショップの活動のため保険加入せず。

## 【活動の様子（写真添付）】



定例ミーティングの様子。



AMSS講演会では、卓上スクリーンを用い、参加者の感想や意見を共有した。



海外講師によるオンラインWSの様子。本学の院生が通訳を務めた。



芸術祭の音楽WSに向けて講師と打合せをしている様子。



生徒がデザインした講演会のチラシ。



本校とオンライン配信によって、講演会を開催した。

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	東京邦楽器商工業協同組合		
所在地	〒132-0035 東京都江戸川区平井4-1-17	設立年	1996年
運営主体	東京邦楽器商工業協同組合		
事業目標	<p>本事業を通じて日本古来の伝統文化・芸能をより多くの学生に伝承するため、学校教育の現場、楽器演奏者、楽器製造者が三位一体となり後世にこの伝統文化・芸能を小学校、中学校の教育現場を活用して興味をもたせることが目的である。この事業を通じて演奏は元より、楽器の構造や制作方法を楽器職人からも学べる総合的な事業にする。</p>		
きっかけ	<p>昨今の邦楽器普及の低迷により、日本伝統文化の継承が脅かされ、更にコロナの影響で邦楽業界が存続危機に陥る中、文化庁の地域文化倶楽部(仮称)創生支援事業を発端としより邦楽器の普及に務めるため。</p>		
団体・組織等の連携	<pre> graph TD     A["東京邦楽器商工業協同組合 (三味線22社、琴22社)"] -- "楽器のレンタル" --&gt; B["三味線の演奏学習体験を希望する小・中学校"]     B -- "楽器指導" --&gt; C["日本長唄協会 端唄協会"]     C -- "指導依頼 指導料" --&gt; D["東京邦楽器商工業協同組合"]     D -- "楽器手配の依頼 レンタル料" --&gt; A     C -- "指導の依頼" --&gt; D           </pre>		
活動場所	各学校の施設		
活動概要	1クラス、1授業を1講座とし、楽器の歴史や取り扱い方を学習し、演奏練習をしていく		



## ○本事業による成果

・楽器に関して、レンタルという方法を取り入れることにより、保管場所、管理状況、メンテナンスなどのわずらわしさを解消できる。また、専門業者が行っているため、品質が安定している。また、不足に事態は対応が迅速である。

・講義内容については、長唄協会や、各流派と連携をとり邦楽指導に熱心な指導者の手配ができるため、質の良い講習内容を提供できる。また、楽器のことは楽器商としての強みを活かし講義が行える。

教員からは、これらの内容が準備、後片付けの手間が大幅に削減できる上に、非常に充実した講習内容を行ってもらえ、指導にも技術の確かな人員が十分に手配して頂いたと満足感が得られたというご意見が多く伺えた。

当組合の目論見と教師との意見が合致できたと考える。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

・多くの方楽器体験では和風で馴染みのある曲として「さくらさくら」が多く取り入れられているが、あえて古典の曲の一節を練習曲用にアレンジして講習を実施した。邦楽器の雰囲気により伝わり、邦楽を学んでいる実感があるという声が得られた。

・西洋音楽との邦楽との比較演奏をしてそれぞれの魅力の有り様の違いを実感してもらった。

・ただ楽譜をみて、楽器を弾くという指導方法ではなく、手移しという指導方法を取り入れせ、生徒自ら観察力、注意力を引き出し、観察力のアンテナを広げる様な指導を試みた。

## ○運営上の工夫

当組合では、講習を行うにあたり、専門店と学校との協議を重ね、更に専門店と演奏家との打ち合わせを重ね円滑に講習が行えるように構築してきた。

楽器においては、専門店が準備及び管理、メンテナンスを万全にキシ、指導においては、邦楽知識に豊富な演奏家に指導を依頼した。

それにより、各講習は生徒からも、邦楽に対して、興味を引き出せたことを確信した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

継続的な運営について、講習を開催するにあたり、楽器の準備と講師の派遣については組合でパッケージ化ができている。また、開催場所に関しても学校の施設で十分行えるため、利用させていただければと思っている。

運営費用に関しては、自治体や教育委員会と協議を行っている。

邦楽器は、日本の伝統的文化であるにも関わらず浸透していないのが現状である。身近に気楽に接する場面をより多く設け、学校や地域、長唄協会などのと連携し拡充して行きたいと考えている。

当組合は楽器商からなる協同組合であり、各自治体からも信頼して事業を移管することができると自負している。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

継続的な事業展開を学校側からの要望があるが、費用の問題が残る。それに伴う算出方法が確立できれば、学校教育の現場における伝統文化の普及継承が望める。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	764名(中学生:327名 小学生:437名)
	学校名	練馬区立石神井東中学校、武蔵野市立第四中学校、板橋区立板橋第一小学校、豊島区立明豊中学校、大田区立入新井第一小学校、大田区立池雪小学校、葛飾区立四ツ木中学校、世田谷区立三宿小学校
	募集方法	各楽器店から地域の小中学校に打診。
指導者	人数等	講師:4名 指導補助:10名
	募集方法	各楽器店から協力いただける講師を募集。
参加者の移動手段		なし
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金、謝金 12,000円/時間 指導者補助 謝金 6,400円/時間
	その他	楽器運搬費 35,000円/回 楽器レンタル費 2,000円/台 会場費、学校の為無料
活動財源	会費	なし
	その他	なし
スケジュール	基本活動	各学校との打ち合わせにて
	年間	各学校との打ち合わせにて
保険加入等		なし

## 【活動の様子（写真添付）】

武蔵野第四小学校



入新井第一小学校



四つ木中学校



板橋第一小学校





石神井東中学校



三宿小学校



明豊中学校





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	芸能花伝舎クラブ																		
所在地	東京都新宿区	設立年	2021年																
運営主体	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)																		
事業目標	長期的には、子どもから大人まで、伝統から現代まで多様な文化芸術を楽しむことができる総合的な文化芸術クラブを目指す。 設立3年間で、子どもが伝統芸能を総合的に体験し学べる内容およびクラブ運営体制の確立を目指す。																		
きっかけ	芸団協は、「芸能が豊かな社会をつくる」という組織理念のもと、次代を担う子どもたちの健全な育成に寄与すべく、行政や地域と連携し子どもたちと芸能が接する多様な機会をつくってきた。 芸能の体験や鑑賞機会は、1日もしくはごく短期間となることが多く、かねてより継続的かつ多ジャンルの体験ができる機会創出を模索していたことから、本事業に取り組むに至った。																		
団体・組織等の連携	<div>【イメージ図】</div> <div><pre>graph TD     A[アーツカウンシル東京] -- 助成 --&gt; C[芸能花伝舎クラブ]     B[新宿区] -- 後援: 広報など --&gt; C     D[芸団協] -- 主催 --&gt; C     C -- 主会場 --&gt; E[芸能花伝舎]     F[日本舞踊協会 長唄協会 落語芸術協会 芸術家のくすり箱ほか] -- 講師派遣など協力 --&gt; C</pre></div> <div>【関係者団体一覧】</div> <table><thead><tr><th>団体名</th><th>本事業における関わり方</th></tr></thead><tbody><tr><td>公益社団法人日本芸能実演家団体協議会</td><td>事業の運営・主催責任</td></tr><tr><td>新宿区</td><td>後援／広報協力など</td></tr><tr><td>公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京</td><td>伝統芸能体験活動助成</td></tr><tr><td>公益社団法人日本舞踊協会</td><td>講師・委員の派遣</td></tr><tr><td>一般社団法人長唄協会</td><td>講師・委員の派遣／楽器の提供</td></tr><tr><td>公益社団法人落語芸術協会</td><td>講師・委員の派遣</td></tr><tr><td>特定非営利活動法人芸術家のくすり箱</td><td>講師・委員の派遣</td></tr></tbody></table>			団体名	本事業における関わり方	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	事業の運営・主催責任	新宿区	後援／広報協力など	公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京	伝統芸能体験活動助成	公益社団法人日本舞踊協会	講師・委員の派遣	一般社団法人長唄協会	講師・委員の派遣／楽器の提供	公益社団法人落語芸術協会	講師・委員の派遣	特定非営利活動法人芸術家のくすり箱	講師・委員の派遣
団体名	本事業における関わり方																		
公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	事業の運営・主催責任																		
新宿区	後援／広報協力など																		
公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京	伝統芸能体験活動助成																		
公益社団法人日本舞踊協会	講師・委員の派遣																		
一般社団法人長唄協会	講師・委員の派遣／楽器の提供																		
公益社団法人落語芸術協会	講師・委員の派遣																		
特定非営利活動法人芸術家のくすり箱	講師・委員の派遣																		
活動場所	芸能花伝舎(東京都新宿区)																		

活動概要	<p>芸能花伝舎クラブは、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)が、2021年より運営する文化クラブで、本事業の開始に合わせ設立された。前述の通り、複数回、複数ジャンルの体験によって、子どもたちの多様な興味関心を喚起しつつ、自らの「好き」に出会える可能性を広げる事も考慮し、「日本舞踊」「三味線」「落語」「身体理解」の4ジャンルで活動した。また、前年度から継続して参加の生徒用「経験者クラス」と、今年度から新たに参加した生徒用「初心者クラス」との2クラスを設置し、22回・15回のプログラムを組んだ。さらに、実演家による公演の家族同伴での鑑賞機会を設け、芸団協が実施する他の事業に参加できるよう各種案内を出すなど、「稽古」という基本的な枠組みに留まらず、家族で伝統芸能との関わりを更に広げていけるよう工夫を施した。</p>
------	---

## ○本事業による成果

■21年入会の1期生うち約半数が今年度も活動継続。

■【22年度継続意向調査】・クラブを続けたいか：26人回答中「はい」が16人、「検討中」が7人、「いいえ」が3人

「はい」と回答したデータの中には、

「日常で三味線や踊り、落語に今まで以上に興味を持つようになった」

「日本の伝統芸能にも興味がもてるようになったので、有り難がたかった。家でもお稽古の内容を見せてくれたりしていた」

「能や日舞、落語の公演で一流の場所で一流のものが見られたこと、実際に体験しているためにその価値が子供にも良くわかり、芸を極める難しさや厳しさなども感じとっていた」

といった、活動を通して伝統芸能をより身近に感じられるようになった児童・生徒が散見された。

検討中といいえが10人になったが、高校受験や、「中学校に進学し学校のクラブ活動と並行しての活動が困難である」等、継続はしたいが物理的な制約があるためという理由が多かった。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

・伝統芸能への親和性や参加感をより高めることを狙い、自分自身で浴衣の着付けを行うことを必須とし、毎回所作の指導から丁寧に行った。

・複数ジャンルの芸能を体験できる特徴を生かし、三味線と日本舞踊については、単科のみならず、仲間の演奏で踊る「融合回」を設け、一つの目標に向けて稽古をし、皆で協力できるよう指導した。

・演芸(落語)においては、自分自身の高座名をそれぞれ考え、小噺を披露する場を設けた。それにより、人前での発表に順応し、伝統芸能の担い手の一人であるという意識が芽生えた。

## ○運営上の工夫

・コロナウイルス対策として検温、消毒、マスク着用、着替え前後に会場床の消毒

・安全に参加できる仕組みとして、帰宅ルート調査、毎回終了直後に生徒退出時間を保護者に連絡

・活動の様子は毎回終了直後にSNSで報告、保護者にはメールと写真を送付、家庭内での会話の機会を促した。

・「融合回」に保護者を招待し、児童・生徒の様子を実際に見学してもらい、保護者の伝統芸能への関心を高めることにも配慮した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

・近隣企業や区内芸術団体等と連携し、子どもたちの活動ジャンルの拡大を図るとともに、地域に点在する子供のための様々な取り組みの発信を新宿区へ働きかける。

・本取り組みの実績をもとに、複数年をかけ新宿区内での複数箇所、面的展開をはかるべく、教育セクションや関係部局、団体との調整を進める。

・都内で地域文化倶楽部を実施する芸団協関係団体や民間・大学など、倶楽部団体が合同で取り組める活動を模索し、子供たちが様々な活動に興味関心を持てるような素地をつくる。

・持続的運営、プログラム構成の多様化など目標達成のためのクラウドファンディングの活用検討

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

・弊団体は2005年に新宿区と文化協定を締結して以来、区が実施する様々な文化事業に協力するのみならず、教育委員会との関係では、全小学校での伝統芸能体験事業を複数年にわたり実施し、また教員向けの伝統芸能研修機会に協力するなど、長期にわたる関係構築を行ってきた。また、複数の伝統芸能関係協会組織を会員とする弊団体の強みを生かし、初年度の実績をもとに、学校現場のみならず、区教育委員会(プロジェクトチームや検討部会を含む)、地域文化施設や文化芸術諸団体と協働しながら、複数箇所、平日・週末開催等を含む多面的展開(具体的な学校の部活動等の状況の把握および教員の負担軽減の観点をふまえた上での地域移管)を進めていく。

・新宿区及び区教育委員会とは子供のための文化体験事業を開催している。その実績を踏まえ、新宿区から芸能花伝舎クラブの区民、学校への周知などに協力を得る。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	対象：小学生(4-6年)及び中学生 参加人数：32名
	学校名	
	募集方法	チラシ配布、ポスター掲示、新宿区の協力を得て区内公立小で配布、文化施設で配架、一部私立小学校で配布
指導者	人数等	各回につき、連携団体からの実演家1～5名
	募集方法	
参加者の移動手段		徒歩、自転車、電車、保護者送迎
活動費用	指導者謝金等	
	その他	
活動財源	会費	経験者クラス：1,500円(単価)×22回(数量)=33,000円 初心者クラス：1,500円(単価)×15回(数量)=22,500円
	その他	アーツカウンシル東京[伝統芸能体験活動助成]
スケジュール	基本活動	(経験者クラス)5月～2月開講   毎週火曜17:00～18:00 (初心者クラス)10月～2月開講   毎週火曜18:20～19:20
	年間	22回
保険加入等		



## 【活動の様子（写真添付）】

(左)初回オリエンテーション講師たちと集合写真  
(右)舞踊と三味線の「融合会」稽古風景



日本舞踊稽古風景



(左)落語稽古風景  
(右)講座「からだで感じる伝統芸能」受講風景



三味線稽古風景



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	あだちっこくらぶ デジタルミュージック部		
所在地	東京都足立区	設立年	2021年
運営主体	みらい創造堂 代表企業 ヤオキン商事株式会社		
事業目標	ギャラクシティを拠点に子どもたちが文化芸術活動に触れる機会を提供することで、自己肯定感を育む新たな受け皿を創設する。		
きっかけ	足立区文化芸術推進計画の施策に「子どもの成長に応じた文化芸術事業を提供する」があり、小学校のクラブ活動とは異なる文化芸術活動に触れる機会の提供を必要としたため。		
団体・組織等の連携			
活動場所	ギャラクシティ		
活動概要	足立区の子どもたちの文化芸術活動の機会提供を目的として、学校のクラブ活動とは異なる小学生対象のクラブ活動をギャラクシティが企画・運営している。		

## ○本事業による成果

講座内で使用している音楽制作ソフトウェア「ガレージバンド」への理解が深まり、論理的且つプログラミング的思考で作品制作にあたる生徒が増えた。  
音楽に対する意識も初期は消極的な意見が多かったが、講座が進むにつれ大きく変化し、一層積極的に独自にアレンジし作品を制作するようになった。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

「ガレージバンド」での作曲にあたり、アプリケーション内で使用している楽器(ドラムやギター、ピアノなど)を画面上だけでなく、実物の楽器も活用し、実際に演奏することでより理解を深めることができる環境を用意した。その時々の子の理解度や作品制作状況に合わせ講座の内容を変更・調整し、より円滑に講座の進行を行った。  
講座進行・作品制作をする上でのマニュアルや持ち帰り用の資料を用意し講座時間外でも学習ができるよう着手した。

## ○運営上の工夫

前回、平日の参加が厳しいといった意見が上がった為、デジタルミュージック部を水曜日コースの他に土曜日コースを新たに新設した。  
対象年齢も新たに中学生枠を設け、幅広い層での開催を実現した。  
講師だけでなくギャラクシティのスタッフも常駐し、生徒たちのサポートにあたった。  
また、定期的に各自の作品の発表の場を設け、講師だけでなく他の参加者や運営スタッフ・保護者などの第三者に評価してもらうことにより、他者に聞いてもらう点を意識して作品作りに専念できる環境を重視した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

年間を通しての長期的講座の為活動への参加意欲を維持することが難しい。  
事業内容は充実しているが参加者によっては合う合わないがあり途中で辞めてしまうケースもある。  
また連続講座であるため途中からの参加も厳しく結果的に全体の参加率への影響も出ている。  
来年度も開催する場合は短期集中型の講座にするなどの開催形態の再検討が必要。

現状、講座内容の検討や、機材・楽器の調達、素材の準備など、講座時間外に行う業務が多々あり、職員は本講座に多くの時間を費やすため、人件費がかかっている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

定期的を開催し、都度参加者を募集することにより、多くの子どもたちに文化芸術活動に触れる機会を提供することができるような講座のパッケージ化等の対応を検討。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	水曜日コース 9名 土曜日コース 10名
	学校名	舎人小学校、鹿浜小学校等
	募集方法	事前申込制 チラシ配布、ギャラクシティホームページでの告知
指導者	人数等	1名 両コース兼任
	募集方法	－
参加者の移動手段		徒歩、保護者による送迎、自転車、電車等
活動費用	指導者謝金等	講師謝礼：12,000-15,000円／回
	その他	感染対策消耗品費
活動財源	会費	－
	その他	－
スケジュール	基本活動	実施：隔週水曜日・土曜日 2コース 各：月2回
	年間	各コース年間開催 18回 計36回
保険加入等		あり(運営主体で加入している傷害保険で対応)

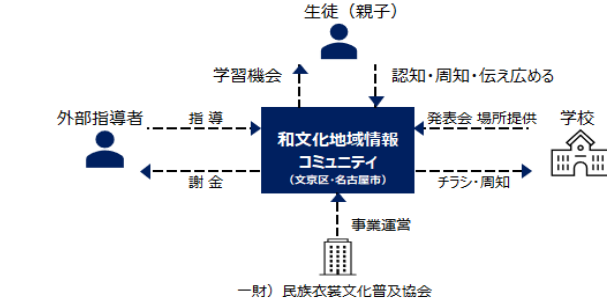


【活動の様子（写真添付）】



成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般財団法人 民族衣裳文化普及協会												
所在地	東京都中央区日本橋	設立年	昭和52年9月20日										
運営主体	一般財団法人 民族衣裳文化普及協会 文京区・名古屋市												
事業目標	・目標人数である親子10組20名×2箇所の集客 ・着付け技術の向上(きものが着られる、歴史等の理解度がある) ・発表会(地域との交流会)の開催 ・神社との連携で神社の存在や役割が理解される(名古屋市) ・地域が好きになる												
きっかけ	昭和52年(1977年)現文部科学大臣の認可をいただき、財団法人として設立。平成26年長年に渡るきもの文化活動が認められ一般財団法人として内閣府に移行し、引き続ききもの文化の普及、啓蒙を主目的に設立された公益法人												
団体・組織等の連携	<div>【イメージ図】</div> <div><pre>graph TD     外部指導者[外部指導者] -- 指導 --&gt; 和文[和文地域情報コミュニティ&lt;br/&gt;(文京区・名古屋市)]     和文 -- 謝金 --&gt; 外部指導者     生徒[生徒&lt;br/&gt;(親子)] &lt;--&gt; 和文     和文 -- 学習機会 --&gt; 生徒     和文 -- 認知・周知・伝え広める --&gt; 学校[学校]     学校 -- 発表会 場所提供 --&gt; 和文     和文 -- チラシ・周知 --&gt; 学校     一財[一財 民族衣裳文化普及協会] -- 事業運営 --&gt; 和文</pre></div> <div>【関係団体一覧】</div> <table><tr><th>団体名</th><th>本事業における関わり方</th></tr><tr><td>文京区</td><td>ホテル椿山荘東京</td></tr><tr><td></td><td>文京区教育委員会</td></tr><tr><td>名古屋市</td><td>熱田神宮、熱田神宮会館</td></tr><tr><td></td><td>名古屋市教育委員会</td></tr></table>			団体名	本事業における関わり方	文京区	ホテル椿山荘東京		文京区教育委員会	名古屋市	熱田神宮、熱田神宮会館		名古屋市教育委員会
団体名	本事業における関わり方												
文京区	ホテル椿山荘東京												
	文京区教育委員会												
名古屋市	熱田神宮、熱田神宮会館												
	名古屋市教育委員会												
活動場所	文京区／ホテル椿山荘東京 名古屋市／熱田神宮・熱田神宮会館												
活動概要	<p>当協会は、昭和52年に文部大臣の認可をいただき財団法人として設立。平成26年には、長年に渡るきもの文化活動が認められ一般財団法人として内閣府より認可をいただきました。以来、公益法人としての責任のもと日本の民族衣裳であります「きもの」を一人でも多くの方に親しんでいただく活動を行っております。活動の一部を紹介しますと、ニューヨーク・パリュネスコ・ロシア・ラトビア・上海万博での国際文化交流、「文化功労者」への表彰式の開催、NHK教育放送「趣味悠々」への協力、4球団実施のゆかたで野球観戦、きもので芸術鑑賞など活動は国内外問わず多岐に渡っています。</p> <p>当協会は公益法人として運営している安心の団体としてきもの等の販売はなく、きもの文化を後世に正しく伝え広める事が目的の法人です。</p> <p>令和4年度地域文化倶楽部創設支援事業を通じて地域における文化系活動の拠点を作り日本の将来を担う未来ある若者を育成する取り組みをスタートさせた。</p>												

## ○本事業による成果

- ・学習指導要領の改訂により和服に関する内容がより充実する一方、指導する学校の教員が不足で十分指導することができない現状のなか本講座を開講しリアル感の創出により、和服とりわけ和文文化への造詣が深いことが分かった。
- ・学校側にとって運動系だけでなく文化系の多様な学びの創出として見直す契機となったように考える。「着付け」というジャンルがあれば、和文文化を学ぶ機会作りに繋がるものと考え。
- ・また教員の働き方改革から言えば、教員の負担軽減となったことは周知のとおりである。

### 【文京区】

- ・40名(小14名、中6名、保護者20名)の親子の参加のうち、きものが一人で着られる方 子ども20名中、17名 親20名中、18名と、当初目標としていた70%以上の結果を得られた。また地域(文京区)の魅力を知った方40名のうち80%に当たる32名が該当。

### 【名古屋市】

- ・28名(小8名、中6名、保護者14名)の親子の参加のうち、きものが一人で着られる方 子ども14名中、13名 親14名中、14名と、当初目標としていた70%以上の結果を得られた。また地域(名古屋市)の魅力を知った方28名のうち80%に当たる22名が該当。
- ・違う学校の子どもおよび親同士が横の繋がりを持てたことも付記しておく。
- ・上述したが「着付け」というジャンルの部活動は存在しないが、これからの日本を担う若者にとり間違いなく必要不可欠な教えと学びになると思われる。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・きものを着る、着られた、お出かけする、という目標設定が目に見えるため子ども、親共に分かりやすいこと
- ・上述の通りきものが一人で着られる方が多数出て指導に間違いはなかった
- ・着付けの技術以外にきものに関する知識、マナー、所作歩き方なども含んだ指導を行った
- ・地域との連携を図り上述の通り、区の新たな魅力を発見する機会作りとなった

## ○運営上の工夫

- ・地域協力者を探し、お手伝いをいただくことで、地域との連携がより密になった。
- ・活動時間等の在り方等について 密を避け、午前・午後で分けることでのコロナ対策、使用する備品等の圧縮を行った
- ・生徒たちの募集について 区教育委員会の後援を取り、後援事業として取り組んだ  
とくに文京区は最後の交流会に文京区長にも視察にこれらなど行政との繋がりにもなった
- ・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について 地域協力者の力で地域交流会には多くの参加者招くことができた

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・文京区、区教育委員会、等との連携協力体制の構築ができた
- ・名古屋市、市教育委員会、等との連携協力体制の構築ができた
- ・文京区議、名古屋市議の力で人材確保につながり、特に地域にいる高齢者との交流が図られた
- ・地域での継続的な活動を目指して  
会場の確保 地域協力者により安価で借りられる  
参加費および必要経費も理解は可能である
- ・学校側との課題  
部活動に変わるものとして外部団体との連携ができるか  
文化系は地域の有力者があり、地域コミュニティへの広がりを見せることで、地域への移譲がしやすく、将来にわたり教員の負担軽減につながる  
和文文化を通じ将来の日本を担う人材育成が可能となる
- ・将来的な展望  
学校と地域、家庭が連携し地域コミュニティ形成がこれからの高齢化社会、少子化社会の中で必要となる。  
大規模災害等の連携にもつながる施策と考える。  
会費は運営上必要不可欠なもので、その資金繰りが課題です。保護者様のご理解をいただき会場費、衣裳代等かかる。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- とくに文化系は地域に移譲して地域のその道の有力者からの学びを享受させることが大事である。
- 学校内ではやはり限界がある。あとは国として補助金を出しスタートから1年程度のランニングコストをねん出し、その後は会費でまかなっていく仕組みが求められる。
- 当協会では以下にて取り組むことが可能である。
- 2024 子どもおよび親子で学べる文化系(着付け、マナー)学びの場を創設
- 2024～ 5年計画にて 開設拠点を順次増やす

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	東京都(文京区)40名(小学生14名、中学生6名、保護者20名) 愛知県(名古屋市)28名(小学生8名、中学生6名、保護者14名)
	学校名	東京都(文京区): 青柳小、窪町小、昭和小、根津小、指ヶ谷小、駕籠町小、小日向台町小、千駄木小、金富小、湯島小、誠之小、本郷小、礪川小、実践女子学園中、第十中、第九中、女子学院中、大妻中、第一中  愛知県(名古屋市): 旭丘小、山吹小、大宝小、旗屋小、穂波小、東白壁小、汐路小、南山小、萩山中、日比野中、あずま中
	募集方法	東京都(文京区): 区内小学校・中学校別に必要枚数のチラシを梱包し文京区教育委員会あてに発送。教育委員会から各学校長へ配送いただき生徒へ。希望者はメール又はFAXで当協会へ応募。希望者多数にのため抽選で20組決定  愛知県(名古屋市): 市内小学校・中学校別に必要枚数のチラシをレターパックライトにて学校へ直送。希望者はメール又はFAXで当協会へ応募。希望者多数にのため抽選で14組決定
指導者	人数等	東京(文京区) 講師:5名+実演者5名 愛知(名古屋市) 講師:2名+実演者6名
	募集方法	本事業開催場所近隣の地域にいる講師に依頼
参加者の移動手段		参加者負担にて会場へ集合
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金2,500円/時間、 交通費 (実費)
	その他	会場費 ホテル椿山荘東京 132,000円(全4日間/6回分) 熱田神宮会館・熱田神宮108,000円(全6日間/6回分) 衣装代 子どもきものセットレンタル242,000円(22セット4か月) チラシ印刷・発送代 118,836円(2箇所合計) 人件費 打ち合わせ・発送 54,600円(2箇所合計)
活動財源	会費	参加費無料
	その他	なし(当協会負担)
スケジュール	基本活動	月1回や月2回などある程度のルーティンで実施
	年間	5-10月 準備および募集期間 11-2月 開講、運営、実施
保険加入等		なし



## 文京区の活動

### 【6回目のケーブルテレビ取材動画】

[https://youtu.be/sTMvyA\\_HJ8M](https://youtu.be/sTMvyA_HJ8M)





## 【名古屋市の活動】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	おそきウインドアンサンブル青樹		
所在地	東京都青梅市	設立年	2016年
運営主体	おそきウインドアンサンブル青樹		
事業目標	<p>指導・連携の中心人物が市外で勤務する中でも、従来のような活動を継続できる体制を整えること。</p> <p>※2021年度までは、原則週一回・通年の活動(年間40回程度)を行い、夏の吹奏楽コンクール(一般の部(いわゆる大人部門))に中学生たちも大人と一緒に参加)出場や地域の各種イベント・コンサート出演を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団そのものの新規指導者確保と、団内から市内各吹奏楽部の指導に関わる人材の増強</li> <li>・大編成吹奏楽による魅力発進と、それに伴う市内吹奏楽部員数・本活動に参加する中学生吹奏楽部員数の増加</li> <li>・従来保護者・団が負担してきた費用の軽減</li> </ul> <p>一学校や地域との連携によって得られる成果一</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学生の活動レベルの向上(個人技術の向上・個々の部活単位で小編成化が進む中、大人数で合奏できる経験)</li> <li>・地域文化水準の向上(地域のイベントでは、都内・全国屈指の演奏を小曾木で聞かせてくれる団体として好評)</li> <li>・子どもの豊かな生育環境づくり(活動を通じ教員や団員・保護者・地域関係者らが子どもの様子について常に共有)</li> <li>・教員の指導負担軽減(活動を通じ得た練習習慣・技術等について平日の部活動にも還元)</li> </ul>		
きっかけ	<p>当団体は2016年に青梅市立第六中学校吹奏楽部の卒業生を中心に「ウインドアンサンブル青樹」として創団したアマチュア吹奏楽団である。2018年より、当時第六中学校吹奏楽部がコンクール上位大会に三年連続出場を果たし、規定として翌年の中学校吹奏楽コンクールに参加できず、また部員数の減少で演奏できる曲が少なくなってしまうなどの理由から、中学生希望者と地域の大人と一緒に演奏をするという活動を始めた。その際、地域の名前である小曾木(おそき)の名前を冠し、「おそきウインドアンサンブル青樹」と団体名を改称している。</p>		
団体・組織等の連携	<p>赤字の箇所が本事業において拡充する取組である。</p>		
活動場所	青梅市立第六中学校・青梅市立吹上中学校 その他施設		



活動概要	一般吹奏楽団への中学生の参加 基本週一回 土曜日 17:00-22:00  練習内容 個人練習・パート練習・セクション練習・合奏など
------	--

## ○本事業による成果

学校によっては、顧問は全く立ち会いをすることなく青樹の活動(合同部活動も含む)を行うことができた。(ただし、そこには他校顧問が連絡をとるなど新たな負担が増えていることも事実である。)

今年度の活動を通して、青樹として中学生を受け入れながらの活動は7年目になるが外部に向けてこの活動が世に知らされる良いきっかけになった。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

音楽大学で専門教育を学んでいる地元の学生に指導を受けることで、技術だけでなく進路の相談に乗ることもできている。

部活動ではなく、学校の枠を超えた枠組みの中で一生懸命に音楽と向き合うことで中学校だけで音楽を終えるのではなく生涯に渡って音楽を楽しむことができている。

## ○運営上の工夫

・楽器の保管場所として空き教室を利用させてもらっている。個人情報が多く存在する一般教室は使用せず、視聴覚室、図書室、コンピューター室、音楽室という校舎内の一番端に位置している縦の動線の教室のみ使用している。また、職員玄関を使用すると職員室の前を通ることになるので、体育館横の入り口のみ使用している。普段、学校を使用させてもらっているお礼に年末に大掃除を行い中学生ではできないような箇所を掃除している。

・学校の施設に関しては、団員の中に部活動指導員を配置することで顧問の立ち会いを無しに活動を行うことができている。

・顧問、部活動指導員、指導者、保護者の共通の連絡ツールを使用し連携をとっている。また、指導者が各校の校長と連絡を取り合いながら活動を行なっている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

【課題①】人材面：今年度と同じように活動しようとする、私費でかなりの金額を集めなくてはならなくなってしまうことが確実となる。

【課題②】連携面：現段階では、学校長、顧問、部活動指導員、団員とうまく連携ができているが、校長も顧問も永続的なものではないからこそ、教育委員会など行政が間に入って関わっていかないと、それは偶然の産物にしかならないのではないかと危惧している。

【課題③】施設面：課題②と同様である。現在は空き教室に楽器庫を作り使用させていただいているが、学校そのものが統廃合するのではないかとすると、未来への課題は多い。また、光熱費が年々上がっていく中で、団として「このまま教室(冷暖房)を使用していっていいのかな?」と疑問に思う瞬間があり、なにか決めも必要に感じる。

【課題④】備品面：継続した活動を行うためには、備品面での支援が必要不可欠と考える。とくに、学校備品の楽器は古く、中学生が使用していて故障してしまったときに、それは経年劣化によるものなのか、それとも使用者の不注意なのか、またその修理費用は、学校楽器だから公費なのか、地域のバンドでの使用だから私費なのか、判断に困るケースが多々みられた。

上記全ての課題において、教育委員会(指導室)との連携が十分で無く、今後自立して運営を行うためには更なる連携、協力が必要不可欠と考える。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

7年間活動行ってきたのは、学校長が変わってもこの音楽活動に理解をいただけたからである。また、地域には「おそきの学校と地域を考える会」という組織があり、演奏会の後援や宣伝広報をしていただけている。このように団ではなく、周り(地域や自治体)のバックアップや支援がないと、この地域移行はなかなか難しいのではないかとと思う。

持続可能な活動を行うためには、地理的に集まりやすい場所で活動が行えることが必要不可欠である。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	中学生8名 大人40名ほど
	学校名	青梅市立第二中学校 青梅市立第六中学校 青梅市立吹上中学校
	募集方法	吹奏楽部の生徒へのアプローチ
指導者	人数等	4名
	募集方法	今年度新たな募集はなし
参加者の移動手段		保護者の送迎
活動費用	指導者謝金等	合奏指導者謝礼 交通費 実費
	その他	楽器運搬代金 楽器調整費用 消耗品費用 楽譜購入費用 楽譜コピー費用 練習会場費用 その他
活動財源	会費	団費 中学生500円／月 大人3000(4000)円／月
	その他	
スケジュール	基本活動	・毎週土曜日(最終週を除く):17:00-22:00 本番約1月前から日曜日練習あり ・中学生のみの活動は本番週は平日もあり
	年間	5月 第4回演奏会 7月 西多摩吹奏楽フェスティバル出演 8月 東京都職場・一般吹奏楽コンクール出場 9月 東京都吹奏楽コンクール出場・管楽合奏コンテスト予選(中学生のみ) 10月 11月 管楽合奏コンテスト全国大会(中学生のみ) 小曾木地区文化祭(大人のみ) 青梅宿アートフェスティバル 東京都職場・一般吹奏楽連盟アンサンブルコンテスト あそびばARTフェスティバル 12月 青梅市文化芸術奨励賞記念演奏会(出演:中学生・大人:運営手伝い) 2月 東京都アンサンブルコンテスト 職場・一般の部 3月 おそきの音楽会-Spring-
保険加入等		なし

## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	(社)江東すみだ大道芸協会		
所在地	東京都江東区	設立年	2021年
運営主体	(社)江東すみだ大道芸協会		
事業目標	亀戸を中心とした江東区・墨田区を中心とした地域の人々に、心のコミュニケーションとなるような芸を届けることを目的とした大道芸協会。□		
きっかけ	一流の芸能を青少年や地域の方に無料で観覧・体験し、文化的な地域活性化に繋げていきたいという思いから設立。		
団体・組織等の連携	大道芸協会→地域の協力者(江東区は五の橋豊国通り商店会や江東区公園指定管理者・墨田区はボランティアチームすみだカット倶楽部)による近隣の中学校や青少年への呼びかけ□		
活動場所	東京都江東区堅川河川敷公園内/東京都墨田区白鬚橋上流水辺テラス		
活動概要	延べ20名の青少年が参加。野外の公共の場所で開催し、親(大人)や兄弟なども共に無料で学べる場であった為、全体では100名程度が参加。青少年を中心に、芸能の鑑賞や無料体験と普段の学校生活ではなかなか鑑賞をすることがない、本格的な芸能の世界をワークショップや無料観覧として体験して頂くことができました。		

## ○本事業による成果

事業を通じてより気づいたことは、青少年の反応である。青少年が今まで知らない芸能を観て体験したことにより、新しい文化に触れるという感動にすることができた。エンターテインメントというくくりで見れば、インターネットやテレビなど現代では手軽に楽しめるものがあるが、「生でみて触れて感じる」ということを大切にすることによって、「芸能を通してその人の生き様を感じる」ということに気づいてもらえたと思う。大事なのは、芸能うんぬんではなく、一つの追求して生きてきた大人の姿を青少年に見せたいと。プロにこだわるのは、技術が上手いという事だけではなく、人生を一つのことに費している姿を見せことにより、その人の本当の人柄を感じることができるということだ。もちろん、現代では一つのことを追求して仕事にするだけで無い、多様な働き方もある。しかし今回は、学校部活動では体験できない、青少年にひとつの世界を体験型ワークショップ及び無料鑑賞の機会を与え、これからの新しい課外活動の道を実験的にだが実現することができた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

青少年からは満足の声をたくさん聴くことができた。ワークショップとして体験した技能を、その後、プロ講師の無料鑑賞実演として見せるところまで行なったので、通常の学校部活動以上の本格的な体験をすることができたと思う。今回は、様々な日本や海外の伝統芸や芸能を感じて学ぶのが目的であるが、どれかひとつに對して専門的な学びをしたい青少年には、プロ講師と直接対話をして今後の道などを提案することができた。

## ○運営上の工夫

今回は学校内ではなく、近隣の公共広場で行うことにより、親や兄弟など、様々な年代の方も同時に青少年と同じ体験をして頂いた。これは、ただ、芸能を観たり体験するだけでなく、違う年代の方とも共感をすることによって、広いコミュニケーションを図ることができる。普段の部活動では経験することのない、人と人との繋がりを感ずるところまでが今回の工夫点である。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

当協会が主催となった場合に、区の公共会場が減免対象と認められないことがあった。これは国が行う地域事業なので、文化庁が都や区と連携して頂けると、我々民間の団体がより動ける幅が広がっていけると思う。

定期的に活動を今後していくにあたり、場所及び人手の確保が必要である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

懸念事項としては、新型コロナウイルスの影響が続く事もあり、一度にたくさんの体験をさせられないなどの現実があり、予想よりも現場での運営スタッフや講師数が必要となることである。もちろん、スタッフや講師が増えれば予算が膨らんでいくので、今後基盤となる収入面を確保していかないと、このような部活動に代わり、無料で芸能体験や芸能鑑賞のコンテンツを与えることを継続していくのは難しいと思う。もちろん、運営のスタッフは金銭以上に良い働きをしていくており、青少年にもとても喜ばれているので、今後無料で長く続けていく為には何かしらこのような地域の方への無料企画に国の支援があれば良いと思う。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	約20名
	学校名	近隣の中学校
	募集方法	地域の協力者による呼びかけ、インターネットなど
指導者	人数等	外部専門指導者 2名 当団体団員 2名 ボランティア 3～5名
	募集方法	指導員は専門チームより選抜。ボランティアスタッフはインターネットや 貼り紙にて募集。
参加者の移動手段		徒歩
活動費用	指導者謝金等	5100円/回 通算10回 51000円
	その他	道具運搬の為にタクシー代7740円、スケジュールやチラシなどの コピー代10260円など。
活動財源	会費	今回は無料での体験型の為、金銭徴収は無し。
	その他	
スケジュール	基本活動	活動日：不定期日曜開催 6時間
	年間	2022年4月10日(日) 三代豊国五渡亭園(堅川河川敷公園内) 2022年5月3日(火)、4日(水)、5日(木) 11:00～18:00 白鬚橋上流水辺テラス 2022年6月5日(日) 11:00～18:00 白鬚橋上流水辺テラス 2022年11月20日(日) 10:00～17:00 白鬚橋上流水辺テラス 他、年明けの 開催予定は準備をしていたものの、雨天並びに関係者新型コロナウイルス 感染により中止
保険加入等		イベント保険 5000円/回(主催者負担)

【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人シアタープランニングネットワーク		
所在地	東京都多摩市	設立年	2000年法人化。
運営主体	特定非営利活動法人シアタープランニングネットワーク		
事業目標	<p>教員のオーバーワークを減らすとともに、学校の中にある「スクール・カースト」や、学年等による上下関係といったネガティブな要素を排除するために、青少年にとって「安心できる環境」と「優れた指導者」のもと、英国やオーストラリア等で広がるユースシアターの活動をモデルにとりながら、とりわけミュージカルや青少年を中心に考えた演劇を活用して、コミュニケーション能力・協調性・表現力・発言力・五感力・創造力そして「人間力」を育てることを目的としています。吉祥寺(武蔵野市)と多摩センター(多摩市)の2か所で実施するとともに、スコットランドのユースシアターの実践と理念を教師や保護者、演劇人らに向けてオンラインで提供いたします。</p> <p>・英語圏で広がる「ユース・シアター」の活動を日本において導入するために、商業主義的なタレント養成所とは異なる日本に即した理念・実践を確立し、周知すること。</p> <p>・教育機関や教育委員会等と連携を行うために、ユース・シアターの理念と実践を理解していただくこと。</p> <p>・学校教育を補完する役割とともに(ex 学習媒体としての演劇)、差異を明確にし、機能させること。</p> <p>・外国にルーツをもつ子ども、学校のクラブになじめない子ども、軽い障がいをもつ子どもを排除することなく守る等、チャイルドプロテクションの理念の共有と徹底すること。</p>		
きっかけ	長年にわたり、英語圏で展開されてきたドラマ＆シアター教育の指導者の育成に携わるとともに、ユースシアターの理念と実践について研究を行ってきた経緯があります。		
団体・組織等の連携	特定非営利活動法人多摩子ども劇場(多摩地区における広報協力) ユニークユニオンミュージカル(講師、広報) 劇団印象(講師) ふあり(音楽) Strange Town Youth Theatre Company他(オンライン・セミナー)		
活動場所	オンライン／パルテノン多摩(多摩市落合)／スタジオアムリタ(武蔵野市吉祥寺本町)		

活動概要	<p> <input type="checkbox"/>オンライン・セミナー  「スコットランドの事例に学ぶユースシアターの活動と可能性」  日時 令和4年8月3日(水)18:00-20:30  参加費 1,000円(2日間)／参加者数 30名  スコットランドのユースシアターをけん引する二人のエキスパートからタイプの異なるユースシアターの活動の理念と実践をお話いただきました。幅広い参加者(公立文化施設担当者、ワークショップリーダー、アーティスト、アートマネジャー、研究者、社会教育従事者等)を得て、積極的な議論が展開されました。(要約は機関誌シアター&amp;ポリシー第134号に掲載しています。)  講師 スティーブン・スモール／レイチェル・スミス 通訳 宮内奈緒／聞き手 中山夏織 </p> <p> 多摩市開催  <input type="checkbox"/>ドラマ  「演劇で物語の世界を旅してみよう！」  日時 2022年8月8日(月)&amp;10日(水)10:00-15:00(休憩を含む)  会場 パルテノン多摩 会議室3, 4  参加費 1,000円(2日間)／参加者数 8名  8歳から14歳の子どもたちが参加。「だるまさんが転んだ」のゲームから宮沢賢治の「注文の多い料理店」の世界を探索していく演劇ワークショップとなりました。多くは多摩地区の小中学生ですが、遠方からの参加者もありました。  講師 鈴木アツト(劇作・演出／劇団印象)  アシスタント 中村真季子(俳優) 演奏 FUARI 緒方理麻(バイオリン)、松坂史子(ピアノ) </p> <p> <input type="checkbox"/>ミュージカル  「ミュージカルで新しい自分と出会おう！」  日時 2022年8月18日(木)&amp;19日(金)10:00-15:00(休憩を含む)  会場 パルテノン多摩 会議室3, 4  参加費 1,000円(2日間)／参加者数 9名  8歳から16歳までの参加者たちは、ミュージカル「マチルダ」を使って、歌唱とダンス、アンサンブルとメインの両方の表現を学びました。わずか2日間でダイナミックな作品へと発展しました。小学生は多摩地区の子どもたちでしたが、中高生は遠方からの参加者が多く、静岡県や愛知県等、宿泊を伴う参加者がいたことに驚かされました。  講師 大塚幸太(俳優、演出、振付／桐朋学園芸術短期大学特任准教授)  演奏 FUARI 木村綾香(ピアノ)、緒方理麻(歌唱サポート) </p>
活動概要	<p> 武蔵野市開催  <input type="checkbox"/>ドラマ  「演劇で物語の世界を旅してみよう！」  日時 2022年8月22日(月)&amp;23日(火)10:00-15:00(休憩を含む)  会場 スタジオアムリタ ウェスト  参加費 1,000円(2日間)／参加者数 子ども 5名 大人 6名  7歳から14歳の子どもたちが参加。「だるまさんが転んだ」のゲームから宮沢賢治の「注文の多い料理店」の世界を探索していく演劇ワークショップとなりました。子どもたちの活動を成立させるために、プロ俳優らの手を借りたことで、より充実した内容となりました。  講師 鈴木アツト(劇作・演出／劇団印象)  アシスタント 中村真季子(俳優)  演奏 FUARI 緒方理麻(バイオリン)、松坂史子(ピアノ) </p> <p> <input type="checkbox"/>ミュージカル  「ミュージカルで新しい自分と出会おう！」  日時 2022年8月25日(木)&amp;26日(金)10:00-15:00(休憩を含む)  会場 スタジオアムリタ ウェスト  参加費 1,000円(2日間)／参加者数 4名  14歳から17歳までの参加者たちは、ミュージカル「マチルダ」を使って、歌唱とダンス、アンサンブルとメインの両方の表現を学びました。参加者の真剣さと進捗状況に驚かされるおのがありました。  講師 大塚幸太(俳優、演出、振付／桐朋学園芸術短期大学特任准教授)  演奏 FUARI 木村綾香(ピアノ)、緒方理麻(歌唱サポート) </p>



## ○本事業による成果

日々感染拡大を示すコロナ禍においての実施であり、多くの困難を抱えました。そもそも中学校レベルで演劇部のあぐ学校は少なく、それを補うべく多摩市の校長会でプレゼンテーションをさせていただく手はずになっていたものの、台風の接近により校長会自体がオンライン化し、学校の協力がほとんど得られないままとなった。

学校とは離れたところで、つまり家庭の方からの強いニーズを知るところとなる。コロナ禍にあっても、夏休みの声をきくころになると徐々に申し込みと問い合わせが増え始めた。制限のない夏となって、家族としての行事の合間を見るように参加させたいという思いであろうか。実際、青少年を対象としたイベントサイトでの閲覧数は多摩地区のイベントではトップクラスに位置していた。

申込の際には、保護者から切実な声が聞こえてきた。学校行事のほとんどがなくなってしまい、表現したりする場が一切奪われてしまった(小3・女子)；オンライン化により学校に行く必要が感じられなくなり、不登校になった(中3・女子)…等々である。特に、ドラマのワークショップについてだが、多摩センターでも吉祥寺でも共通して小学校低学年の参加申込者が多かったのは、すべての学びや遊びに制限を加えられてきた子どもたちに対する保護者の危機感の表れだったと思われる。

驚いたのは、地域文化倶楽部とはかなり意図するものが異なるが、遠方からの参加者の存在である。ミュージカルのワークショップには、東京都・神奈川県のみならず、千葉県、愛知県、静岡県からの中学生、高校生の参加者を得た。ミュージカルにあこがれ、すでにステップを踏み出している女子生徒たちに交じって、愛知県からやってきた中3生・男子の父親の思いは少しばかり異なり、藁にもすがる思いが伝わってきた。

当日、会場に着くまで、今回の14歳の冒険は、身構えるばかりで、初日に9時半にパルテノンに着いた後も45分の集合までに3回もトイレに行くなど、親子ともども、場違いなご迷惑感を恐れながら会場を訪れたこと、昨日のこのようです。

初日終了後、一人で宿まで戻ってきた息子の顔を見て、なにか充実したあまり見たことのない表情をしていたのがホッとすると同時にとても嬉しく、朝5時に出発してきたことが間違いでなかったことに感謝いたしました。翌日も、普段見せないような表情で、自ラ行きたいところに行く意思を感じさせるような朝の素振りも親としても発見でした。

(中略)

終了後、パルテノンの前の坂道で迎えると、人はとても高揚して、大塚先生に褒めてもらったことを、自ラ話し出しました。それだけでも、本当に内心、涙が出そうに嬉しいことで、大塚先生には親としても、感謝の言葉が尽きません。こんな息子に、少しばかりの自信を持てるようなご指導をいただいたこと、彼の一生の財産になるような経験をさせていただいたこと、親としての不足を大きく上回る言葉をかけていただいたこと、本当に大塚先生はじめ中山様やスタッフの皆様の御蔭で親子ともども貴重な経験をさせていただきました。

自信が持てない日々を送り、親の目を盗む行動を繰り返し、何度も怒られ、謹慎処分を受けて迎えた中学3年の夏、自分の枠を飛び出す体験をさせようと選び取った機会に、本人(も親も)が知らなかった自分に出会えた今回の企画に参加できたこと、本当にありがとうございました。

コロナ禍でなくても多感で難しい思春期である。声にならない悲鳴を上げているのかもしれない。

それでも、頼もしく興味深く思われたのは、上記の中3生も、不登校の中3生も、誰もが伸びやかに、参加する仲間たち、指導者、私どものスタッフに話しかけ、コミュニケーションを成立させていたことだ。誰も自分のことを知らない、内面の悩みや傷も知らない、そして、それをさらけ出す必要もない場、同時に、一つの明確な目的に向かっていき、それを達成する場の重要性を思った。

また、幅広い年齢層の参加が生み出した効果があった。中高生が小学生をサポートする姿があり、小学生が中高生を引っ張る場もしばしば見られたことである。

別紙、父兄からのアンケートをご参照下さい。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

鈴木アツト氏、大塚幸太氏によるワークショップのプログラムは、指導者自身の子どもたちを子どもたちと扱わない真摯な姿勢と、設定された適度な難度が達成感をもたらすことになった。また、この規模のワークショップでは贅沢過ぎる内容であったが、FUARIの音楽チームによる音楽面でのサポートが、参加者にとっても、保護者にとっても、劇的な構造を体感する大きな刺激となった。

## ○運営上の工夫

- ・少人数でも実施することを決め、きめ細かい対応に努めた。少人数の場合には、子どもの緊張をほぐすためにも、プロの俳優らの協力も得た。
- ・英国の芸術団体で徹底されているチャイルドプロテクションの考え方を講師、スタッフに徹底した。
- ・即興をも含む、生演奏を取り入れることで、活動の幅、柔軟性、深みを増やした。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

・今後、文化庁ならびに自治体の支援が得られるメドがないなかで、民間財団等の支援を得ながら、細々と実践を積み、基盤整備を続けていきたいと考えています。パルテノン多摩は、民間に比して安価ではありますが、このような活動に対しての減免措置も、協力ありません。

・参加費を低く抑えるとともに、経済的困難な生徒たちのための「奨学金制度」を用意したが、校長会がオンライン化し、きちんと説明する時間が得られなかったため、該当者は得られないままとなった。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

学校部活動のあり方をそのまま地域へ移管することには疑問があります。学校そのものが、少なからぬ子どもたちにとって息苦しく、辛い場所であることも鑑み、子どもたちが自ら「場」を選択できる制度の構築を望んでいます。自尊心と独立心、そしてヒエラルキーのない協働を実現させてあげてください。

子どもたちの心のケアを担い過ぎないようにすることも、教員の働き方改革の主眼として位置づけていただければ幸いです。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	26名
	学校名	多摩市貝取小学校、諏訪小学校、第二小学校、瓜生小学校、星槎中学校、早稲田実業高校、カリタス女子中学校、日本音楽高等学校、都立国際高等学校、共立女子高等学校、南山中学校、静岡学院、府中浅間中学校、浦安入船中学校、聖園女学院、東大和第二中学校、小金井市第二中学校、専修大学付属高校、豊島岡女子中学校
	募集方法	チラシ、インターネット
指導者	人数等	メイン講師 2名、アシスタント(ドラマ) 1名、音楽家 各2名
	募集方法	実績と人柄から選定。
参加者の移動手段		父兄の送迎、電車、自転車、徒歩等。
活動費用	指導者謝金等	謝金 5,100円／時間、交通費なし。
	その他	ワークショップ講師アシスタント 1,050円／時間 運営アシスタント 1,050円／時間 制作 1,050円／時間
活動財源	会費	参加費 1,000円／2日間
	その他	教師、アーティスト、保護者対象のオンラインセミナー 1,000円
スケジュール	基本活動	夏休み期に実施。
	年間	
保険加入等		今年度は加入せず。

## 【活動の様子（写真添付）】





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	公益財団法人せたがや文化財団		
所在地	東京都世田谷区	設立年	2011年
運営主体	公益財団法人せたがや文化財団		
事業目標	演劇部が存在しない世田谷区内の中学校に通学する生徒を中心として「世田谷パブリックシアター演劇部」を設置し、質の高い文化芸術活動への参加機会を設定し、区立中学校演劇発表会における発表・共有の場を提供するとともに同発表会に参加する中学校演劇部の指導者に対する技術プランニング支援を実施する。		
きっかけ	区立中学校29校のうち8校にしか演劇部が存在しておらず、さらに減少する恐れも大きいという現状に危機感を抱き、せたがや文化財団(世田谷パブリックシアター)が主体となって地域の受け皿となる事業の必要性を認識したことがきっかけとなった。		
団体・組織等の連携	世田谷区教育委員会、世田谷区立中学校長会、世田谷区立中学校教育研究会(世中研)と緊密な連携をとって事業を実施した。		
活動場所	世田谷パブリックシアター稽古場 世田谷区立砧中学校ランチルーム		
活動概要	「世田谷パブリックシアター演劇部」は16回のワークショップ(区大会当日、振り返りを含む)を実施し、その中で創作した作品を令和4年10月29日、30日に実施された「第51回世田谷区立中学校演劇発表会」において発表した。また、同発表会に参加した区立中学校6校の演劇部に対し、演出・技術プランニング支援を実施した。		

## ○本事業による成果

演劇部が存在しない学校の生徒に演劇部活動の機会を提供することができた。演劇部は、不登校の生徒の居場所として機能している部分があるが、そうしたシェルターが存在しない学校の生徒に対して、同様の機能を提供することが可能となった。また、演出・技術プランニング支援により、専門的な知識・技術がない顧問の教員の負担を大幅に軽減することができた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

世田谷パブリックシアターにおいて経験を積んだ若手の進行役に指導を依頼し、生徒たちとの距離を縮める工夫をおこなっている。メインとなる秋のコースには1名の主任進行役に加え、サブの進行役を配し、きめ細かな指導をおこなう体制を整えた。実際の進行にあたっては、コーディネーターも積極的にワークショップに参加し、一人一人の生徒に目が届くように配慮した。

## ○運営上の工夫

会場として、演劇・舞踊の専門施設である世田谷パブリックシアター稽古場と、生徒たちが身近に感じ、リラックスして取り組むことができる学校施設（世田谷区立砧中学校ランチルーム）とを組み合わせて使用した。また、演出・技術プランニング支援には、舞台技術のプロである世田谷パブリックシアター技術部のスタッフが全面的に参画し、ノウハウを具体的に伝える工夫を凝らした。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

事業実施にあたっては、世田谷区立中学校教育研究会演劇教育研究部および世田谷区教育委員会と綿密に協力・連携をおこなった。両者が主催する区立中学校演劇大会に、区立中学校6校とともに「世田谷パブリックシアター演劇部」が出場し、審査委員からの講評を受けた。また、会場として世田谷区立砧中学校の施設を利用する際にも、両者からの支援があった。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

世田谷区内に学識経験者、区立中学校校長・教員、保護者代表、区職員等で構成される「世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会」が設置され、せたがや文化財団もこれに参画している。同委員会は令和4年10月、12月、令和5年1月、2月とすでに4度の会合をもち、学校部活動の地域移行の具体的方策を議論している。その中で、本年度実施したスキームをもとに、令和5年度には公益財団法人せたがや文化財団が世田谷区教育委員会から受託する形で引き続き地域移行のパイロット事業として展開する方向で検討がおこなわれている。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	59名
	学校名	世田谷区立 三宿中学校、八幡中学校、玉川中学校、駒沢中学校、富士中学校、深沢中学校、千歳中学校、上祖師谷中学校、瀬田中学校 他
	募集方法	初夏、夏、秋のそれぞれのフェーズにおいて公募を実施。以下の方法で広報をおこなった。 ・世田谷区内の全区立中学校へのチラシ配布 ・世田谷パブリックシアターホームページでの情報提供
指導者	人数等	フリーランス ワークショップ進行役3名、舞台技術者2名、NPO法人職員(演出家)1名 計7名
	募集方法	世田谷パブリックシアターがワークショップ進行や演出プランニングを委託し、優秀な実績をあげている指導者の中から、本事業の実施に最も適すると思われる者を選抜して契約した。
参加者の移動手段		公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	ワークショップ指導者謝金 5,100円/時間(交通費込み) 演出プランニング支援指導者謝金 10,000円/時間(交通費込み)
	その他	コーディネーター業務料 1,170円/時間 舞台監督助手業務料 71,277円(区大会準備・当日の業務一式) 大道具・小道具等材料費 61,259円 音響・照明・映像記録業務等 455,015円(区大会準備・当日の業務一式)
活動財源	会費	参加費 初夏:500円 夏:1500円 秋:8000円
	その他	公益財団法人せたがや文化財団自己資金 世田谷区教育委員会からの技術支援業務料
スケジュール	基本活動	初夏:2022年6月19日(日)14~17時 夏:Aコース8月2日(火)~4日(木)14時30分~17時30分 Bコース8月23日(火)~25日(木)14時30分~17時30分 秋:8月27日(土)、8月28日(日)、9月4日(日)、9月18日(日)、9月19日(月祝)、9月25日(日)、10月1日(土)、10月2日(日)、10月9日(日)、10月10日(月祝)、10月16日(日)、10月22日(土)、10月23日(日)、10月29日(土)=リハーサル、10月30日(日)=区大会、11月13日(日)
保険加入等		包括リクリエーション保険 44円/回/人 公益財団法人せたがや文化財団にて契約、保護者負担なし

## 【活動の様子（写真添付）】



初夏のワークショップ(6月19日)  
会場:世田谷パブリックシアター稽古場



初夏のワークショップ(6月19日)  
会場:世田谷パブリックシアター稽古場



夏休みワークショップ(Aコース、8月2～4日)  
会場:世田谷パブリックシアター稽古場



夏休みワークショップ(Bコース、8月23～25日)  
会場:世田谷パブリックシアター稽古場



秋のワークショップ(10月2日～11月13日)  
会場:世田谷パブリックシアター稽古場



秋のワークショップ(10月2日～11月13日)  
会場:世田谷区立砧中学校ランチルーム



第51回世田谷区立中学校演劇発表会(10月30日)  
終了後、主催者から賞状の授与



第51回世田谷区立中学校演劇発表会(10月30日)  
発表会後、指導者、コーディネーターとともに



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人玉の緒会		
所在地	東京都港区	設立年	2021年
運営主体	一般社団法人玉の緒会		
事業目標	こども達が身近な場所で継続的に伝統芸能に触れられるよう、その受け皿となる連続講座を私たちが提供したいと考え、三味線だけでなく、日本舞踊、琴の体験機会を提供し、興味関心に合わせて参加できるようにしていく。		
きっかけ	当会は、長唄三味線の普及・啓蒙活動を通じて、日本の伝統文化を知るきっかけや人々の交流機会を増やすことを目的として活動している団体である。港区新橋と神奈川県の大宮で三味線教室の運営を行っており、また長唄三味線の普及公演も実施してきた。任意団体として2008年から活動してきたが、2021年9月に法人化し、現在は一般社団法人として活動している。当会の代表理事は、三味線の師範として自治体の要請を受けて、たびたび学校での演奏を行い、子供たちが伝統文化に触れる機会を提供してきた(横浜市芸術文化教育プラットフォーム)。そこでの経験から、一度限りの古典芸能の鑑賞教室で終わるのではなく、そこで関心をもった子供たちに継続して伝統芸能に触れる機会を提供できないかと考えてきた。		
団体・組織等の連携	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団(神奈川県横浜市):運営・広報協力 横浜邦楽邦舞家協会:企画運営協力		
活動場所	神奈川県横浜市、 横浜にぎわい座(にぎわい座がNGの場合の代替会場として横浜能楽堂)		
活動概要	横浜にぎわい座での披露会を目標に、三味線・箏・日本舞踊の3カ月講座を開催		

## ○本事業による成果

- ・①3カ月という期間限定②楽器レンタルで自宅での練習が可能となり③披露会の明確な目標設定があることで短期間ながら参加しやすい充実した講座ができた。
- ・講座終了後のアンケートでは80%がとても満足と回答。同様の講座を実施する場合は100%がまた参加したいと回答。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・三味線・箏の楽器は初回に調弦や楽器の扱いを説明、自宅学習への移行を可能にした。
- ・情報共有や自宅練習の補助教材としてLINEやyoutubeを活用。調弦や指遣いなど質問も随時受付双方向のやり取りができた。
- ・三味線・箏は複数の指導者を配置することできめ細かい指導ができた。
- ・稽古開催日を土日午後に実施・参加しやすい日時を設定した。

## ○運営上の工夫

- ・広報は開講2か月前より公益財団法人横浜市芸術文化財団に依頼。横浜能楽堂友の会、横浜市文化施設へのチラシ配布を協力いただいた。また稽古会場周辺へポスティングを行った。またSNSでも拡散。
- ・受講者募集時期がコロナ第7派に当り応募状況が芳しくなかったため、募集時期を延長。後からの参加者には補講を設定した。
- ・披露会を横浜邦楽邦舞家協会の公演に組み込むことにより、より多くの観客に活動を周知できた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・公益財団法人横浜市芸術文化財団の協力で稽古会場の優先確保。
- ・参加者数の伸び悩んだ原因として横浜の文化施設・商業施設が集中する地区での開催に原因があるのではないかと考えている。次回以降は比較的小中学生の在住率の高い地域での展開を考えたい。
- ・横浜邦楽邦舞家協会の協力により、長唄三味線を専門とする一般社団法人玉の緒会の他に箏・日本舞踊の専門家に指導を依頼することができた。
- ・楽器レンタルの助成は大変喜ばれた。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・公NPO法人STスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局が連携・協働している【横浜市芸術文化教育プラットフォーム】の学校プログラムの放課後の受け皿となるべく展開していきたい。
- ・横浜市の比較的小中学生の在住率の高い地域での展開。
- ・継続して横浜邦楽邦舞家協会の協力を得る。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	横浜市内の小学5年～中学生 4名
	学校名	
	募集方法	・公益財団法人横浜市芸術文化財団を通じて横浜市文化施設等へのチラシ配布 ・Web(HP,SNS) ・講座会場近隣住宅へのポスティング
指導者	人数等	6名
	募集方法	横浜邦楽邦舞家協会会員による
参加者の移動手段		保護者による送迎/徒歩
活動費用	指導者謝金等	謝金 5,100円/時間、 交通費実費(横浜市外在住者のみ)
	その他	会場費 172,800円(9回分) 楽器運搬費 70,000円(7回分)
活動財源	会費	1200円/回(披露会含む)
	その他	特になし
スケジュール	基本活動	8月～10月の月2回(土曜日、日曜日のいずれか)各2時間 披露会10月30日
	年間	4月:楽器店と打ち合わせ、横浜市文化振興財団に共催依頼 5月:チラシの作成、印刷 6月～7月:受講者募集 8月～10月:講座開講、披露会 11月～2月:報告書作成
保険加入等		特になし

【活動の様子（写真添付）】

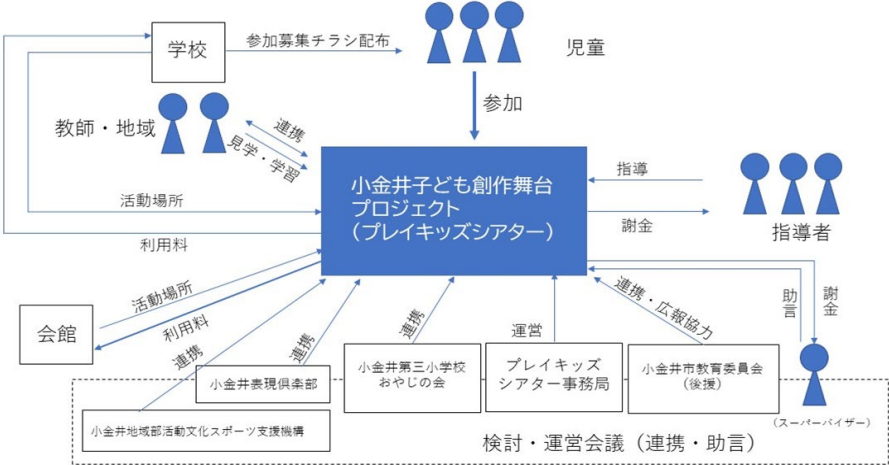




# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人プレイキッズシアター		
所在地	東京都練馬区	設立年	平成29年4月1日任意団体設立 令和4年3月24日 法人化
運営主体	こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会(一般社団法人プレイキッズシアター)		
事業目標	<p>仲間とゼロから創りあげる舞台発表を迎えるまでのプロセスを大切に したプログラムを行います。台本がある演劇ではなく、子どもたち自ら がお話を考え、それぞれの個性を活かしながら、多様性を認め合い、一 つの作品を創り上げます。このプロセスは、学校で行われている探究型 プログラムにも応用できることから、「こがねい子ども創作舞台プロ ジェクト」の活動に、教師が見学・参加することも可能とし、専門家た ちが進める演劇プログラムを体験できるような仕組みをつくり、学校で の文化活動のさらなる充実を助けます。</p> <p>子どもたち自らが創り上げ舞台発表を行うことにより、地域の方々に、 子どもたちのありのままの姿を見てもらう機会を設け、子ども達が考え ていることや大人たちに伝えたいことなど、内なる声と出会うような取 り組みを行ってきたプロセスを共有できます。また、長期間に渡る活動 を行うためには学校と地域の連携が不可欠であり、子ども達の文化的 な活動を中心に、風通しのよい学校と地域の連携へとつながることに 貢献します。</p> <p>また芸術文化活動に子どもたちが取り組むことで、子ども達の社会 性・協調性・自立・創造性・決断力・思考力が育まれることを目指しま す。さらに一人ではなく大勢の人が関わることで成しえるという舞台体 験は、子どもの自信と結びつくことに加え、アーティストとの出会いを 大切にし、創造性の高いアート体験を行うことで、このプロジェクトに 関わる人すべてが、子ども達の未来は様々な可能性に満ちていることに 気付くことをも目指します。</p>		

<p>きっかけ</p>	<p>小金井市PTA連合会会長斎藤瞳氏、軽井沢風越学園教諭（元小金井第三小学校教諭）、プレイキッズシアター代表むらまつひろこが、かねてより子どもたちが芸術文化活動を体験し、その環境を整える取組みを模索していたが、経済的な問題を解決できずにいたところ、地域文化倶楽部（仮称）の助成に申請をし、採択をいただいた。申請時に、小金井市教育長大熊雅士氏にも相談に行き、小金井市教育委員会のGIGAスクール構想の中に、「子どもたちの創造的な体験型の文化活動」が織り込まれていたこともあり、行政・地域・学校・専門家とタッグを組み、「こがねい子ども創造舞台プロジェクト」を立ち上げることに。</p>
<p>団体・組織等の連携</p>	 <p>協力：小金井地域部活動文化スポーツ支援機構  特定非営利活動法人遊び・文化NPO 小金井こらぼ/小金井三小おやじの会  後援：小金井市教育委員会/小金井市/小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会  小金井市立小中学校PTA連合会</p>
<p>活動場所</p>	<p>小金井第二中学校・マロンホール・宮地楽器小ホールなど</p>
<p>活動概要</p>	<p>舞台芸術活動として演劇を子どもたちが希望しても、地域指導者の不足や教師の働き方改革などにより学校のクラブ活動としての実施が難しいのが現状です。小金井市で中学校で、演劇部がある学校は数校のみで、小学校においては演劇クラブがありません。そのため、演劇に挑戦したい子どもたちに機会を与えたいという、教師や地域のニーズが小金井市内に存在します。そこで、小金井市内の小・中学校と地域、小金井市教育委員会、そしてアーティストたちがチームとしてタッグを組み、子どもたちが質の高い舞台公演に至るまでの創作活動を行い、地域の人たちに鑑賞してもらう機会を創り上げています。小金井市に文化芸術活動を通し「子どもたちがありのままを自由に表現する場」がうまれることを目指します。</p>

## ○本事業による成果

こがねい子ども創作舞台プロジェクトは、文化庁地域文化倶楽部の助成を受け、2年目の活動を行った。小金井市内の中学校で演劇部がある学校は数校であり、また小学校には演劇クラブが存在しない。そのため、子ども達は演劇をやってみたい、脚本を書いたり、演出をしてみたいと思っても経験できる場所がない。そのような環境でもあり、劇や舞台の専門家たちを招聘して行う、このプロジェクトは、小金井市のニーズに非常にマッチしている。小金井市内の小学校・中学校全てに当プログラムの応募チラシを配布したところ、定員をはるかに超える30名近い応募があり、子ども達が学校では実施できない演劇活動をやりたいという要望が今年も多いことが伺えた。こがねい子ども創作舞台プロジェクトは、台本があるものを、覚えて演じるスタイルではなく、子ども達とゼロから創りあげる舞台創作のスタイルをとっている。そのため日頃、脚本や小説を書いている子ども達なども参加しており、舞台の脚本や構成なども、専門家たちと共に体験できる場にもなり、芸術文化活動を多角的に技術指導することにも繋がった。

また組織体制としても2年目として発展した。1年目の活動後半に、地域サイドが、「小金井地域部活動文化スポーツ支援機構」「小金井表現倶楽部」の二つの団体を結成していたが、この二つの団体をサポートする地域団体がさらに増えたことが成果として大きい。NP0法人小金井コラボが子ども達の部活動における芸術体験の場をつくる活動に賛同をしてくれ、2年目から活動に参加。事務局としての機能を担ってくれた。サポートする団体が増えたことにより細やかな参加者への連絡や、場所の確保などを業務分担できたことで、専門家たちがより子ども達と演劇活動に集中し、活動できる環境が整った。

さらに、活動場所である小金井市内に、東京学芸大学がある。この東京学芸大学で演劇や表現教育を専攻している学生たちが実施研修として、当プロジェクトに3名参加。将来教員になる学生もいたため、指導のための研修制度も試験的に実施。また東京学芸大学教職大学院の助教授である渡辺貴裕氏にも見学にきてもらい、アドバイスをいただくなど、子ども達の芸術体験を部活動として地域が支えていく点や、また教員たちへの指導などについて話し合いがもたれ、3年目へ向けて繋がる活動が今回行えたことの成果も大きい。

小金井市内の学校への影響についてであるが、1年目から学校現場での教員たちの技術的向上のために繋がりを大切に組みこんでいたことが高じ、2022年6月に、小金井市第三小学校の教員研修において、当プロジェクトの専門家が講師として招聘され、教員への研修を行うことに発展した。

また、今回もプロジェクトにおいて、文化芸術活動が、子ども達の学びにとってどのような効果があるのかを、豊橋創造大学の加藤教授の協力をいただき、行った。その報告書は別紙で添付する。

参加者からのアンケートからは「またやりたい」「積極的になった」「違う学校の友だちと舞台が創れて自信がついた」「表現力がついた」などの声が集まっている。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

児童・生徒たちは、演劇部に入りたいが、学校にクラブ活動としても部活動としても演劇部がない状況である。また学校でも文化祭・学芸会などの実施が感染症予防のために実施されない（されたとしても簡易化）ため、子ども達は、そもそも、学校内で体験することができない状況である。学校の教員が子ども達のやりたい演劇に向き合うことは、その他の業務が多忙なため、実施できずにいる。その点、専門家たちは、その道のプロフェッショナルであるため、子ども達と向き合い、子ども達のポテンシャルを最大限に引きだし、さらに活動最終日には、小金井宮地楽器ホールの小ホールにて、公演発表を行った。また指導者たちは、技術をただ教えるのではなく、子ども達の自発的な取り組みを最大限に活かし、子ども達に寄り添いながら活動ができる専門家たちを招聘。子ども達は音響・照明・美術の専門家スタッフとの交流も図り、舞台を支える専門家たちの仕事についても学び、触れる機会にもなった。子ども達は自分達の演劇の舞台を創る経験を通して、舞台の技術的な学びを実体験できる成果は大きく、保護者たちからも子ども達の可能性が広がっていると高評価を得ている。また、活動場所である小金井市には、東京学芸大学がある。この東京学芸大学の大学院生たちが今年から参加。演劇専攻、演劇教育専攻の学生たちがこのプロジェクトを実地研修として活動に参加。芸術系・芸術教育系の学生たちにとっても、実習を積む現場がないことが課題であったことが、このプロジェクトと繋がり、実習を行ったことで、大学院生たちにとっても大きな学びとなった。さらに、3年目は、大学院生だけでなく、学部生の受け入れについても検討を始めたところである。また大学院生が活動に参加したことにより、参加の子ども達にとっても大きな影響があった。芸術系の大学が存在し、大学院で、どのような学びがあるのか、実際大学院生たちと共に活動をする中で、知っていくことにも繋がり、子ども達の将来の選択肢の幅が広がることに繋がっている。

## ○運営上の工夫

「こがねい子ども創作舞台プロジェクト」は2年目の活動となり、指導者たちの幅と厚みが増した2年目となった。1年目に地域ボランティアとして参加（演劇経験者）し研修を受けた者が、2年目は、演出助手として大きな役割を果たす人材に成長した。また、当プロジェクトの知名度が増したことにより、小金井在住の演劇関係者たちからのコンタクトが増え、継続をしていくことで地域の指導者の養成や量の確保が充実することに繋がることを実感。またこの取組みに賛同をし、積極的に現場でサポートをしてくれる保護者が2年目は増え、記録などをお願いすることとなった。参加者の募集に関しては、小金井市全ての公立小学校・中学校に対して募集チラシを配布。20名募集のところ、募集定員をはるかに超える応募があり、2年目の今回も抽選で参加者を決定。募集定員よりは、2名多く、22名の参加者での活動となった。募集人数を増やすことも考えられるが、今回の予算・会場確保の問題から、22名を最大とし受け入れることとなった。参加者の中には、不登校の子ども、学校でいじめられている子ども、発達障害の子どもたちも含まれていたが、この芸術体験を通して、子ども達が見事に舞台上で表現をし、芸術文化体験が子ども達に与える学びの大きさを、関係者たちは目の当たりにすることにもなった。

また、東京経済新聞オンライン版 教育特集に、当プロジェクトが特集として報道されることにもなった。地域・行政・学校・専門家たちがタッグを組み、子ども達の芸術体験の場を生み出していることが詳しく書かれてた記事は、FBでは、シェア記事として1位にもなり、YAHOOニュースにも流れることとなった。

この助成事業の良さは、学校単位での活動ではなく、演劇活動を行いたい機会がなく諦めている子ども達に機会を与えてあげられることでもある。また先生一人では実施できないが、子ども達の演劇活動に取り組みたいと考えている先生たちが、学校の枠にとらわれずに参加できることにあ

る。  
小金井市、小金井市教育委員会。特に大熊教育長が、この活動をバックアップしてくれていることは大きく、小金井市内の小中学校で、活動場所を確保できていることや、保護者やPTA連合会との連携も可能としている。



## ○継続的な運営に関する課題・展望

「こがねい子ども創作舞台プロジェクト」は、小金井市・小金井市教育委員会・小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会・小金井市立小中学校PTA連合会の後援。また小金井地域部活動文化スポーツ支援機構・特定非営利活動法人遊び・文化NP0 小金井こらぼ・小金井三小おやじの会の協力で実施。これらの団体に加えて、現役の教員たちが加わり、こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会を結成している。2年目の活動となり、この実行委員会の機能がさらに充実してきた。参加者への連絡・場所の確保・地域ボランティア・保護者への対応などの多くを実行委員会が担うことを可能とし、活動現場での子ども達の対応など、人員確保ができたことにより、より手厚くサポートすることができた。また今年度は、新たに小金井市立第二中学校を活動場所として使用させてもらうこともでき、学校との協力連携が充実してきている。

課題の一つ目としては、参加者の会費である。会費がある活動にすると、小金井市内公立小中学校に募集チラシが配布できない。配布できないと、参加したい子ども達に直接情報が届かないという問題が生じる。そのため、2年目も会費は無料で活動を行った。また参加をしたい子どもであれば、誰でも参加できる窓口を広げておきたいという実行委員の願いも会費無料の一つに挙げられる。しかし、今後の資金繰りを考えると会費の徴収を考えていかねばならない。この活動が会費を払える特定の子ども達へ向けて活動をしていくのか、もしくは、公教育のサポートとして誰でも希望する子ども達は参加できるというスタンスを貫いていくのかは課題である。

課題の二つ目は、関わる人が増えてきたことでの実行委員会の規模の拡大+組織化である。また研修制度を整えていく必要があるが、その経費の確保がないため、現場研修で対応可能な人数には制限がある。小金井市内の人材バンクを構築していくためにも、予算の確保を行い、研修制度を整え、人材バンクの構築を行っていくことが課題である。

保険については、一般社団法人プレイキッズシアターが年間で契約加入をしている保険で活動を行っている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

学校の部活動を段階的に地域移行していくために、ストーリーを描き、段階的に取り組んでいる。1年目は、地域サイドで団体を立ち上げ、こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会を発足。2年目は、実行委員会に業務の一部を託し、一般社団法人プレイキッズシアターとの業務の分担を行う。資金面の調達については、プレイキッズシアターが文化庁への助成金申請などを行い、資金確保を行う。そして令和5年度の3年目は、業務の分担の割合を、実行委員会を増やし、また様々な決定事項を、実行委員会中心に進めていく。小金井市に資金調達について提案をしたこともあるが、市長が変わったばかりでもあり、小金井市からの資金的な協力は得られていない。令和5年度も、引き続き、プレイキッズシアターが文化庁地域文化倶楽部への助成金申請を行い、資金調達を試みる。助成金申請と同時に、実行委員会の中に、地元民間企業を組み入れることを3年目の取組みとして試み、民間企業からの資金調達について模索する。地域へ移行していくにあたり、やはりこの資金調達が何よりもネックとなる。実行委員会の良さは、互いに補いながら、それぞれの特性を活かし、プロジェクトを支えることができる。しかし、活動資金の確保、資金の立て替えなどの責任については、多くの地域ボランティアで結成されている実行委員会方式では、担いきれない部分がある。ここは引き続きプレイキッズシアターがサポートしながら、地域移行についても、考えていく。実際、自治体可以利用できる補助金制度や、民間の基金が継続的に採択される制度を利用したいが、現状としてそのような制度が見つからない状況であり、急務である。

芸術文化活動を子ども達が取り組むことによってどのような内発的な効果をもたらすのか、豊橋創造大学の加藤知佳子教授の研究が2年目を終えた。社会に訴えていくためにもこのエビデンスの活用を3年目は試みる計画である。

また、この活動が持続可能な活動にしていくために、決まった場所・決まった時間で、通年として行われていく必要があるという意見もある。小金井市の子ども達のサードプレイスとして、「表現・アート」が可能な場所をつくることができないか。先生の働き方改革、さらには社会問題の解決にも直結できる場所づくりについて、現在打ち合わせ進行中である。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小金井市内小・中学生/人数 22名
	学校名	東小学校・第一小学校・第二小学校・第三小学校・前原小学校・緑小学校・南小学校・東中学校・緑中学校
	募集方法	募集チラシ配布(小金井市全小中学校)
指導者	人数等	表現ワークショップ指導者5名(外部人材の活用)・地域スタッフ2名
	募集方法	地域スタッフは公募。指導者は外部人材として、子ども達との活動の経験値がある人材を実行委員会が選定。
参加者の移動手段		保護者による送迎・公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	講師謝金 10,000円～15,000円/回 年8-10回程度
	その他	施設使用料 WS時 3000円/回・舞台発表時ホール 200,000円 舞台発表時 音響・照明・舞台・撮影スタッフ料50万
活動財源	会費	舞台発表応援チケット代
	その他	なし
スケジュール	基本活動	10月～12月(約3ヶ月)表現ワークショップ・稽古 12月28日 舞台発表
	年間	4～打合せ 9月チラシ作成/配布・募集開始 10月～12月(約3ヶ月)表現ワークショップ・稽古 12月28日 舞台発表
保険加入等		損害保険 参加者全員

## 【活動の様子（写真添付）】









**お話をつくって、舞台で発表!**  
人前に出るのが苦手。新しいことにチャレンジしたい。  
みんなみんな、集まれー。

**こがねい**  
**子ども創作舞台プロジェクト**

**参加費 無料**  
**定員 20名**  
(対象) 小学4年生～中学3年生

**参加者募集**

**プロジェクト開始 2022.10.16 (日)**  
**(全15回) スタート!**

**舞台発表**  
小金井  
宮地楽器ホール  
小ホール

**主な活動場所**  
市内小中学校施設ほか。  
裏面のスケジュール欄を  
ご参照下さい。

**参加申込み締め切り**  
**2022.09.30 (金) 23:59 まで**  
お申込みについての詳細は裏面にて。  
※申し込みが定員を超えた場合は抽選となります。

主催：一般社団法人 **プレイキッズシアター**  
こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会  
協力：小金井地域活動文化スポーツ支援機構/  
特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ/小金井三小おやじの会  
【助成事業】文化庁 令和3年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援採択事業

**さあ、こしもはじまるよー。**  
**いっぱいあそぼうー!**  
**みんなおいでー!**

**スケジュール**

**子ども創作舞台プロジェクト**

10月16日 (日)	13:00~14:30	小金井第一中学校
10月23日 (日)	14:00~16:00	マロンホール
10月30日 (日)	14:00~16:00	マロンホール
11月13日 (日)	14:00~16:00	マロンホール
11月26日 (土)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
11月27日 (日)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月04日 (日)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月11日 (日)	10:00~17:00	二子中央マロンホール
12月17日 (土)	10:00~17:00	二子中央マロンホール
12月18日 (日)	10:00~17:00	二子中央マロンホール
12月19日 (月)	18:00~20:00	宮地楽器小ホール
12月25日 (日)	14:00~17:00	二子中央マロンホール
12月26日 (月)	(予定日)	調整中

**11月9日 (火)** 09:00~20:00 宮地楽器小ホール

**12月28日 (水)** ①11:00開演 12:00開演 宮地楽器小ホール  
②15:00開演 16:00開演

※会場・時間に関して変更になる場合があります。

**子どもたちの応援団大募集!**  
(地域・保護者・学生ボランティア)

子どもたちと一緒に「観望」をしたり、活動場所での見守りや活動記録のための撮影など、いろいろなところで手が足りません！  
子どもたちの活動を見守りながら活動です。  
どうぞよろしくお願いいたします。お気軽にお問合せください。

**お申し込み**  
※2万円(カードをご利用下さい)。  
申込みフォームからお申し込みください。

**お問い合わせ**  
koganei.kodomoosakubutai@gmail.com

**子どもたちの「やってみたい」の想いをカタチに!**

【小金井子ども創作舞台プロジェクト】は、2022年2月に1回目のシーズンを終えました。  
子どもたちが自分自身で表現できる場を、舞台を創り上げるまでのプロセスを大切に、誰でもチャレンジできる取り組みです。  
子どもの「観望をやってみよう」「とにかく何かをやってみよう」の想いを専門家がサポートし、「子どもたちがあつたまま自由に表現する場」が生まれました。誰かと比べたり、批判したりせず、個性を活かしながらゼロからお話をつくり、仲間たちと共に世界に一つだけの舞台作品を創り上げ、公開発表を行います。各地で演劇教育に取り組んでいる専門家が再び結果を導きます。  
中心にいるのは「子どもたち」です。専門家だけではなく、学校の先生、保護者のみなさん、そして地域の方々々と手を繋いで生まれるこの貴重な世界はまた新しいシーズンが始まります。

大黒 健士 (小金井市教育委員会) 加藤知佳子 (慶応義塾大学 理学療法学科) 村上 聡 (風越学園教育) 水津由紀 (特定非営利活動法人遊び・文化NPO 小金井こらぼ) 前田 真平 (小金井地域活動文化スポーツ支援機構) くらまひろこ (プレイキッズシアター代表)

この活動は、団体誌や文化芸術への報告のため、写真撮影を行います。撮影した写真や映像等は、広報にHPやSNS、刊行物等に掲載することがあります。  
なお、文化芸術への報告に提出した写真は、官公庁が定める規格に基づき、助成事業以外に目的には使用されません。

**こがねい**  
**子ども創作舞台プロジェクト**

**どんなお話が出来たかな?**  
**お話をつくって、舞台で発表!**  
**みんなであそびに来てねー!**  
**まってるよー★**

**舞台発表**  
小金井  
宮地楽器ホール  
小ホール

**応援券**  
おとな 1,500円  
こども 1,000円

**事前申込制**

**こがねのこ**  
**「〜シン×しん〜」**

**日時**  
**2022.12.28. (水)**  
①11:00 開演 12:00 終演  
②15:00 開演 16:00 終演  
開場は30分前です。  
内容は同じものでキャストの変更もありません。

主催：一般社団法人 **プレイキッズシアター**  
こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会  
協力：小金井地域活動文化スポーツ支援機構/特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ/小金井三小おやじの会  
後援：小金井市教育委員会/小金井市/小金井子育て・子育て支援ネットワーク協議会/小金井市立小中学校PTA連合会  
【助成事業】文化庁 令和4年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援採択事業

**しゅつえん**

**Kくん**  
**ゆめほ**  
**ちゃとら!**  
**かやこ**  
**O! MaMe**  
**まつりく**  
**たまごかけごはん**  
**かほ**  
**さな**  
**HARU**  
**Momoharu**  
**めぐみ**  
**TAKAO**  
**BlackTK**  
**なな**  
**Hagachi**  
**みなくちー**  
**Mizuki**  
**Shurei**  
**みつちゃん**  
**きほ**  
**さきな**

**映像班**  
こう  
こう  
こう

(出演者名、制作名は順不同です)

**子どもたちによりよい文化芸術に触れる機会を。**

子どもたちが舞台芸術活動として演劇を希望しても、学校のクラブ活動で行うことはまだまだ少ない状況があり、実施することが難しいものになっています。そのような環境下からこのプロジェクトは立ち上げられました。  
創作舞台の専門家であるプレイキッズシアターさんと共に子どもたちが一つの舞台を創り上げていきます。  
中心にいるのは「子どもたち」です。そして専門家のみなさん、学校の先生たち、保護者のみなさん。  
今回から「特定非営利活動法人 遊び・文化NPO 小金井こらぼ」のみなさんも協賛することになりました。  
さまざまな人々にお力を貸していただきありがとうございます。楽しんでいただければ幸いです。

こがねい子ども創作舞台プロジェクト実行委員会 メンバー  
大黒 健士 (小金井市教育委員会) 加藤知佳子 (慶応義塾大学 理学療法学科) 村上 聡 (風越学園教育) 水津由紀 (特定非営利活動法人遊び・文化NPO 小金井こらぼ) 前田 真平 (小金井地域活動文化スポーツ支援機構) くらまひろこ (プレイキッズシアター代表)

企画・制作 **プレイキッズシアター PLAY KIDS Theater**

この活動は、団体誌や文化芸術への報告のため、写真撮影を行います。撮影した写真や映像等は、広報にHPやSNS、刊行物等に掲載することがあります。  
なお、文化芸術への報告に提出した写真は、官公庁が定める規格に基づき、助成事業以外に目的には使用されません。

## 「こがねい子ども創作舞台プロジェクト 2022」の成果に関する心理学的分析

文責：加藤知佳子

(要旨) 2 回目の実施となる今回は、特に共感性とレジリエンスに焦点を当てて、調査・分析を行った。

共感性については、プロジェクトの事前・事後で、統計的に有意に向上した。

一方、レジリエンスについては、有意な変化は検出されなかった。

舞台を創作するまでには、それぞれの意見を安心して伝えられる信頼関係が構築される。そのような関係の中で他者の意見を理解しようと努めることによって、伝えようと努力することの意義を実感するとともに、自分も他者も無条件に尊重されるべき存在であることが体感されると推測される。舞台創作活動には、言語による明示的な指導なしに、このような共感性を醸成する力があることが示されたとと言える。

0) 対象：本プロジェクトに参加した児童 22 名（4 年生から中学 1 年生まで、それぞれ、7 名、5 名、8 名、2 名。女児 12 名、男児 10 名）。

1) 方法 共感性については、桜井(1986)の児童用共感測定尺度(Empathy Scale for Children: ESC)の短縮版 ESC II (9 項目、5 段階評定)を使用した。また、レジリエンスについては、中島(2020)の小学生用レジリエンス尺度(20 項目、5 段階評定)を用いた。

その他、援助場面における原因帰属について検討するための質問項目、プロジェクトの前後での自分の変化などについての自由記述による回答を依頼した。

### 2) 結果

#### ① 共感性について

欠損値の多い 2 名を除き、因子分析を行った結果、因子負荷量の低い 2 項目を除いて 1 因子構造が妥当であると判断された。

尺度得点を計算し、事前・事後の変化について、1 要因参加者内分散分析を行ったところ、有意差が検出された( $F(1, 19)=5.19, p<.05$ ) (表 1)。すなわち、プロジェクトの事前・事後で共感性が向上したことが示された。性差、学年差は検出されなかった。

表 1 共感性の変化 (尺度得点)

	平均	標準偏差
事前	3.6571	0.7659
事後	3.9643	0.7757

#### ② レジリエンスについて

欠損値の多い 2 名を除き、因子分析を行ったところ、因子負荷量の低い 3 項目を除き、4 因子構造が妥当であると判断された。



尺度得点を計算し、事前・事後の変化について、分散分析を行ったが、有意差は検出されなかった( $F(1, 19)=1.4316, p=0.33$ ) (図1)。

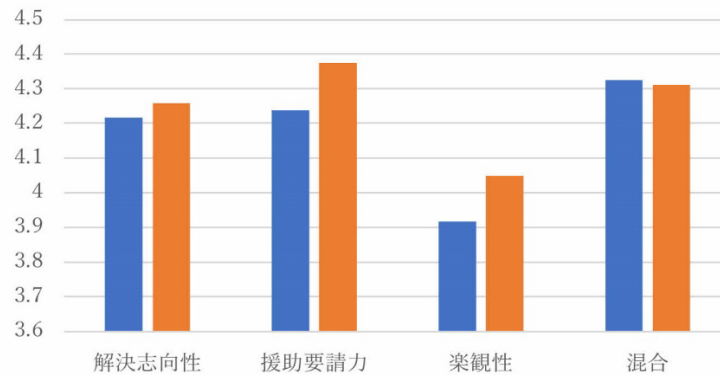


図1 レジリエンスの変化 (尺度得点の平均)

### 3) 考察

本プロジェクトでは、専門家が創作した台本を演じるのではなく、子どもたち自身が舞台化する物語、台本を創作していく。そのため、舞台創作に入る前には、大変慎重に、どのような意見を言ってもよい信頼関係が構築される。その中ではもちろん、自分とは異なる意見が交わされることもあるし、自分の意見が採用されないこともでてくる。しかし、舞台を創作するという共通の目標を掲げて、相手の意見を理解しようと努めざるをえない経験を通して、子どもたちは、必ずしも自分と同じ意見ではない他者の考え、感情、心情に共感する経験を積んでいく。

舞台創作プロジェクトにおいては、もちろん、言語によって明示的に、他者に共感するように指示されるわけではない。安心できる環境で、楽しみながら、自分とは異なる他者の意見を理解する経験を通して、他者に共感することの意義や重要性を会得していくのだと考えられる。

自分の意見が採用されなかったり、拒否されたりする経験は、レジリエンスも高めると推測されたが、今回の調査では統計的に有意な差は検出されなかった。しかし、レジリエンスを構成する下位尺度による違いや子どもたちの特性による影響を加味した分析などが、今後の課題として残されている。

### 引用文献

桜井茂男(1986) 児童における共感と向社会的行動の関係 教育心理学研究, 34, 342-346. ESC-II 10項目、5段階評定

中島寛(2020) 小学生を対象としたレジリエンス尺度の開発 宮崎大学教育学部紀要, 94, 129-138  
レジリエンス尺度 20項目 5段階評定

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	ミラレソ株式会社		
所在地	東京都渋谷区初台1-31-9 初台三十一番館104	設立年	2021年
運営主体	ミラレソ株式会社		
事業目標	「渋谷区 中学ジャズ部」(名称: 渋谷ジュニアジャズクラブ) 渋谷区在住、通学の中学生を対象とした「ジャズ部」。現役で活躍しているプロの演奏家の指導を受けながら、アンサンブルの基礎を身に付け、ジャズの本質である即興演奏を経験する。		
きっかけ	中学校での「ジャズ部」の存在は現状多くはないが、吹奏楽、ブラスバンド、軽音楽などの活動に含まれる形でジャズ演奏は多くおこなわれており、ジャズビッグバンド部を持つ中学も昨今増えてきています。しかしながら、ジャズの最も本質的な要素である「即興演奏」を指導できる教師はあまりいない現状があります。吹奏楽部、軽音楽部などは規模的に学外への移行には段階が必要だが、「ジャズ部」として吹奏楽、ブラスバンド、軽音楽部などから、ジャズを志向する生徒を抽出することでより質の高い活動ができると考えました。		
団体・組織等の連携	<p>ミラレソ株式会社(飯田雅春) 事務局および監修</p> <p>hirokimusic 廣木光一氏</p> <p>指導方針、カリキュラムなど助言</p> <p>HABUBAN運営委員会</p> <p>指導者 ドラム      指導者 ギター</p> <p>指導者 管楽器など</p> <p>毎回、楽器パートの バランスを考えながら 2名の指導者を手配</p> <p>渋谷区教育委員会……後援 渋谷ユナイテッド……協力</p>		
活動場所	渋谷区内音楽スタジオ(スタジオセオリ、初回のみゲイトウェイスタジオ)		



活動概要	<p>6月18日～2月25日まで25回の活動をおこないました。</p> <p>開催時間は土曜14:15～15:45の90分で学校の部活動との両立をしやすい日程として土曜としました。集まった生徒の楽器構成は、ギター2名、ベース2名、トランペット1名、サックス2名の計7名で、想定していたよりも初心者が多く、大半が担当楽器の演奏自体未経験でした。そのため本来予定していたジャズの即興演奏の前に、楽器演奏の基礎から指導する必要がありました。全ての楽器に対応できる講師陣を手配していたので対応できましたが、手配講師人数を当初毎回2名の計画だったところを2.5名程度に増やす必要がありました。コロナの影響や各学校の土曜授業の関係から欠席者も多く、実質の活動は平均3～4名で実施しました。年間での活動目標を当初は「ジャズのブルース進行を理解し、アドリブソロを2～3コーラス演奏できる状態」としましたが、リズム面において中学生により身近に感じられるファンク・8ビートでの楽曲を軸に指導することに切り替え、ブルース進行ではなくワンコードでのリズムセクション演奏および、アドリブソロが目標に切り替えました。</p> <p>また、11月～2月にかけて、ポップス系の題材を採り上げたところ生徒たちのモチベーションが向上し、それを受けて、最後の数ヶ月はポップス曲2曲を課題曲として採り上げました。</p> <p>最終日には保護者、友人、関係者を招いてスタジオでのミニライブ形式の発表会を開催しました。</p> <p>当初予定していた「ジャズの即興演奏」以前の「音楽・バンドのアンサンブル」経験に重点を置いた活動となりました。標準的な中学生にとってはその方がなじみやすく、モチベーションも高く維持できるようでした。</p>
------	--

## ○本事業による成果

特に後半、ポップス系のなじみのある楽曲を課題曲としてからは生徒のモチベーション、上達度合いが高まり、最終日には楽器経験8ヶ月ながらミニライブ形式で2曲を披露できるレベルまで成長しました。週1日だけの活動ですので、吹奏楽部の教員の負担を減らすことには簡単にはつながらなかったとは思われますが、指導者を各楽器のプロ演奏家が担当することで、教員ではカバーしきれないきめ細やかな指導を行うことができたと思います。

### アンケート結果

#### 【生徒の声】

とても楽しかったです。

ギターを弾けるようになった事はもちろん、皆とセッションする楽しさも学べました。また、ジャズについての知識も深まり、音楽はもっと自由で良いんだな、と思いました。アドリブは難しかったけど、何をしても「それは違う」と言われないのは新鮮で、日常生活でももっと自由に表現してみてもいいのかもしれないと感じました。素敵な体験をさせていただけて、嬉しかったです。ありがとうございました。

#### 【保護者の声】

テレビやネット動画でなくプロミュージシャンの生演奏を聴き、学び楽しむことができ普通では考えられない経験が娘は出来たはずです。本人も先生達のお手本演奏を聴いて感動していました。それに活動に参加する事により音楽活動の楽しさを実感しています。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・楽器経験のない生徒に対してはチューニングの仕方、基本の奏法、必要な場合は購入楽器のアドバイスのなど、個別指導を行いました。
- ・ジャズの代表的な演奏家の音源と一緒に聞く、講義も一部取り入れ、ジャズを身近に感じてもらう工夫をし
- ・楽器を問わず将来の糧になる、音楽理論の基礎講義やリズム感向上のための練習も行いました。
- ・即興演奏においては「間違い」は許容されること、周りの音を敬意を持って聴くことなど、アンサンブルにおいて重要なマインド面についても積極的に伝えました。
- ・最後の3ヶ月は生徒の意見も取り入れてポップス楽曲から技術的に可能な曲を2曲選定して指導しました。

## ○運営上の工夫

- ・毎回終了後に、楽譜や音源などの参考資料をメールでも共有し、欠席した生徒のフォローに務めました。
- ・当初会場を渋谷駅近くの音楽スタジオにしたところ治安上の不安をもつ保護者からの意見があり、2回目以降代々木上原のスタジオに変更しました。安心して通わせられる場所で開催できました。
- ・参加する生徒の担当楽器に応じて、担当講師の割り当てバランスを調整しました。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

次年度から地域での予算・企画に移行するとの事で、早期から渋谷区の地域部活動をおこなっている「一般社団法人渋谷ユナイテッド」と連携について協議していました。しかしながら渋谷区ではどちらかというとスポーツに力を入れている面もあり、来期渋谷区での予算確保は難しいことがわかりました。生徒と保護者から継続を希望する声は強いのですが、運営予算が確保できないことから今期のみで活動は終了とせざるを得なくなりました。

渋谷区、渋谷ユナイテッドなどで予算あるいは活動場所の提供などの協力が得られれば、再開することは可能です。

その場合「ジャズ」という枠組みは中学生にはやや敷居が高いため「軽音楽部」「バンド部」という枠組みで、小編成の音楽アンサンブルを行うことを目標にすることも考えてよいかと思います。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

渋谷区では渋谷区が設立した「一般社団法人渋谷ユナイテッド」が主催で学校横断型の部活動を行っています。

その中に組み入れる形で「軽音楽部」「バンド部」のような形で開催することが長期的には有効と考えます。また、その際には会場として安価で楽器機材を常備した区の施設を使わせてもらえると運営コストも抑えることができ、保護者の安心にもつながると思います。

### 【参考】

#### アンケートより保護者の声

「子供達の全てがスポーツ活動をしたい訳でないはず。支援するのであれば音楽・美術等幅広い部活動を支援する事により将来を担う子供達の個性の発掘や独自性を伸ばす事ができると思います。」

#### アンケートより生徒の声

「ジャズに限らず、ポップスにも活動の幅を広げていけばいいのではないかと思います。一般的に、中学校には吹奏楽部はありますが、軽音部というものはありません。今は学校外でバンドを組むということもないですが、軽音部のような活動をしたいと思っている中学生は少なからず居るはず。そんな人たちのために、活動の場を設けてあげたらどうでしょうか。私はジャズを演奏していてとても楽しかったですが、やはり中学生にとってジャズというのは敷居が高すぎると感じます。なので、「シブヤジュニアジャズクラブ」でなく、「シブヤジュニアバンド」といったように、様々な音楽に活動を広げられるようにしたらどうでしょうか。いち学生の意見です。1年弱、先生達と音楽という時間を共にできてとても楽しく、とても貴重な経験をできたと思っています。もしまたこのような活動の機会があれば、声をかけてくれたら嬉しいです。ありがとうございました。」

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	7名
	学校名	代々木中学、鉢山中学、本町学園
	募集方法	チラシを区内の中学に送付、配布
指導者	人数等	6
	募集方法	知人プロ演奏家のネットワークから選定
参加者の移動手段		徒歩、電車など
活動費用	指導者謝金等	1回1名あたり1万円(2時間)
	その他	スタジオ代 1回当たり1万円弱(2時間)
活動財源	会費	参加費 13000円(年間、1名あたり)
	その他	
スケジュール	基本活動	土曜日14:15~15:45(90分)
	年間	25回
保険加入等		あり(1名800円)

## 【活動の様子（写真添付）】





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社 劇団風の子		
所在地	〒192-0152東京都八王子市美山町1320-1	設立年	1950年
運営主体	劇団風の子 高尾山演劇倶楽部		
事業目標	・演劇の集団創作を通して、子どもたちの表現力、コミュニケーション能力の工場を目指し、自己肯定感につなげる。登校、不登校に関わらず、子どもたちが自分の居場所であると思える場を、演劇を中心に据えて提供する。 ・演劇の集団創作を通して、子どもたちの表現力、コミュニケーション能力の向上を目指し、自己肯定感につなげる。登校、不登校に関わらず、子どもたちが自分の居場所であると思える場を、演劇を中心に据えて提供する。		
きっかけ	劇団風の子は1990年に、八王子市美山町に稽古場を新設しました。ここを拠点として多くの芝居を創り、全国の中学校、小学校、幼稚園、保育園、子ども劇場等で公演活動を行なっています。この稽古場と劇団の力を生かし、子どもたちとの文化芸術体験の場をつくっていきたいと思ったことが、この事業を立ち上げたきっかけです。		
団体・組織等の連携	劇団風の子、八王子子ども劇場、八王子市中学校教諭、八王子市立中学校演劇部指導員、八王子市小学校教諭と連携を取り、5回の運営会議を持ち話し合った。参加者の募集については、八王子市教育委員会後援をとり、市内の全中学生、小学校4年生以上の全生徒にチラシを配布した。		
活動場所	八王子市小安市民センター 八王子市北野市民センター 劇団風の子稽古場		
活動概要	(頻度・回数) 9月から2月、第2、第4土曜日(もしくは日曜日)、1回 3時間程度の表現ワークショップや劇の稽古(16回)		

## ○本事業による成果

- ・中学校の演劇部の先生、演劇部の指導者がこの事業に参加。短時間での劇作を学ぶことで部活にそのノウハウを持ち帰ることにより、部活の時間の短縮などにつながる。
- ・発表会が近づくとつれ、子どもたちの活動に対する真剣さ、緊張度が増した。協同して一つの芝居を創ること、コミュニケーションの大切さを自覚することで、方法を自らあみだすに至った過程は大きな経験になった。一人一人、全員が達成感と自己肯定感を得ることができた。
- ・本事業は最終的に演劇の発表を行い、参加児童・生徒たちの友人、保護者など90人を越える観客に観てもらうことができた。そのことにより地域の人々に本事業が周知された。また、アンケートに来年度もこのような企画を実施する場合は参加したいと申し入れがある。
- ・来年度は子どもの参加だけではなく、地域の大人の参加も考えたい。コロナ禍、失われた信頼を気づくためにも幅広い年齢層で地域の題材をモチーフに進めたい。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・演劇を一から手づくりすることを今回の企画の中心において進めた。したがって、脚本、大道具、小道具、衣装、音楽は参加児童・生徒たちから原案を出してもらう。そのことでより大きな達成感が生まれた。
- ・劇団風の子の専門スタッフが音響、照明に関わった。専門的知識のあるスタッフと関わりを持つことで、子どもたちは、演劇における役者だけではなく裏方の仕事に直接触れ、知ることができた。
- ・劇団風の子の役者2人が発表会に出演、複数人が舞台転換などに当たった。プロの劇団員の動きに触れることで演劇に対する理解が深まり、子どもたちのモチベーションが大いに上がった。

## ○運営上の工夫

- ・指導者の中に劇団の音楽担当者や美術担当者を加え質の確保に努めた。
- ・八王子子ども劇場のメンバーにはスタッフとして毎回の練習に付き添ってもらい、子どもへの声掛け、見守りをお願いした。
- ・八王子市内の小学校、中学校教諭が運営委員に参加している。5回行った運営委員会の中で現在の小中学生の総体的な傾向を聞き、参加している子どもたちに反映させた。
- ・保護者とは、1回、稽古参観日を持ち、各練習日の前日に連絡を取り合い家庭での様子などを確認して進めた。
- ・子どもたちが原案の大道具、小道具、衣装などは劇団の稽古場に保管した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・通常、バレエや音楽教室などにかかる費用は週2回で10,000円～15,000円、発表会などに参加となれば10万円を超えることが多い。高尾山演劇倶楽部は16回のレッスンと発表会でトータル20,000円である。これはこの支援事業の助成の上に成り立つ。今後、この活動の継続を考えた場合、財政課題が大きい。
- ・高尾山演劇倶楽部は参加費の設定を低くしている。そのため、多くの子どもの参加があった。今後は行政や地域の民間企業と連携し今回同様に多くの子どもたちが参加できる状況を作り出したい。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・コロナ禍、子どもたちが表現をする演劇は多くの制限をされた現在、大きな力を放つ。演劇の根底にあるものは心の解放である。子どもたちが生き生きと表現する姿はそれを見守る多くの大人の心も動かした。今後は地域の高校生、大学生、大人、高齢者を含めた活動に発展させたい。
- ・本事業は私たち劇団にとって、コロナ下で制限が多い生活を強いられた子どもたちとそれを歯がゆい思いで見守る教員の、そのどちらにも深く関わることで、演劇ができることは何であるかを深く学ぶ機会となった。この事業がなければこのような機会は得られなかったと思う。
- ・本事業は教員の負担軽減に留まることなく、各地域に生きている人たちが生き生きとした文化生活を送るような場を作り出すことではないかと感じている。本事業が文化のプラットフォーム、地域の文化磁場、文化の居場所作り(呼び名はいろいろ生まれると思うが)に発展していくことを強く望む。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	16人
	学校名	(八王子市立)綾南中学校、加住中学校、みなみ野君田小学校。浅川小学校、上柚木小学校、美山小学校、大和田小学校、いずみの森義務教育学校、第7小学校、陶鎔小学校、横川小学校
	募集方法	参加者の募集については、八王子市教育委員会後援をとり、市内の全中学生、小学校4年生以上の全生徒にチラシを配布した。 前年度参加者より5名が参加。
指導者	人数等	指導者3人、指導者助手1人、その他スタッフ12人、運営会議出席者8人。
	募集方法	運営団体の演出家、俳優等。 元劇団員にも指導を頼んだ。
参加者の移動手段		公共交通機関。駅で集合してスタッフが送迎。家族の車による送り迎え。
活動費用	指導者謝金等	指導謝金、専門スタッフ、サポートスタッフは1時間1050円で計算。
	その他	運営主体の劇団の持ち物を最大限に利用し、経費の削減に努めた。
活動財源	会費	1人20000円×16名
	その他	発表公演のチケット代、1000円×90枚
スケジュール	基本活動	9月に説明会を兼ねた体験ワークショップを実施。申込者は、10月から2月まで、土日を中心に月2回、ワークショップ・稽古を実施。全16回。 2月の発表公演の後に、別日でふりかえり1回。
	年間	
保険加入等		行事参加者保険に加入

## 【活動の様子（写真添付）】





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社青年劇場		
所在地	新宿区新宿2-9-20問川ビル4階	設立年	1964年
運営主体	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場		
事業目標	この事業を通して、演劇部のない中学校の子どもたちに演劇活動の場を提供する。学校とは違った環境と人間関係の中で、子どもたちの中に眠っているコミュニケーション能力を引き出し、共同して一つの事に取り組み、創り上げる喜びと達成感を体験させる。		
きっかけ	昨年から引き続きの実施である。前回調べたところ、劇団の所在地である新宿区には演劇部のある公立中学校がなく、生徒たちが気軽に演劇に触れられる場所がないことがわかる。また、コロナが子どもたちに与えている影響を鑑みて、「コミュニケーションの芸術」とも呼ばれる「演劇」の楽しさ、面白さを体験してもらうことで、参加してくれる生徒が自主性、協調性を育んでいく場、何かをやり遂げ達成感を得ることで自己肯定感を高められる場を築きたいと考える。 青年劇場の持っているスタジオを活かし、中学生たちが継続的に演劇文化に触れられる場所を作りたいと考え実施に至る。		
団体・組織等の連携	(特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の理事長、副理事長に外部有識者として参加してもらい、準備段階、実施段階でアドバイス等を得る。実施する中で参加者の保護者間のネットワークをつくり、子どもたちの芸術に触れ学び体験する環境について共に考えた。		
活動場所	青年劇場 スタジオ結(ゆい) 新宿区新宿2-9-20問川ビルBF1		
活動概要	応募してくれた8名の中学生に対し、全8回の演劇ワークショップを実施。前半4回は2時間実施で、シアターゲームなどのコミュニケーションゲームを主に行う。後半4回は3時間実施で、短い演劇作品の稽古を主に行った。最終日には成果発表として、保護者や関係者を迎えて小作品の公演を行った。		

## ○本事業による成果

募集チラシを見て、8名の中学生が申し込んでくれた。(日程が合わなくなり途中5回目から1名参加辞退)

- ・日常で演劇に触れる機会の少ない中学生たちに、段階を踏んで演劇文化への理解を深めてもらい、興味関心を引き出すことが出来た。
- ・それぞれ別の学校に通っている参加者たちが、ワークショップを通して深いつながりを作ることができた。
- ・成果発表を行ったことで、参加者生徒たちに、本格的な舞台に立ち人前で演劇を行うという非日常の体験をしてもらうことができた。今回、夏休み明けから学校に行けなくなってしまった不登校の中学生が1名参加してくれていたが、WSを重ねるごとにどんどん自己解放していき、最終日には保護者も驚くほど堂々とした姿で役を演じていた。
- ・以下、全行程終了後に行ったアンケート調査で得た回答。(一部抜粋)

「私はかなり自己肯定感が低い方で、人の前に立つことがかなり苦手ですすぐ緊張してしまうのですが、今回のワークショップで人前に立って演劇をして、自分らしく頑張ればそれでいいんだと思えました。演劇の楽しさだけでなく、心も学ぶことができ、友達もできました。このワークショップに参加できて本当に良かったです。」

「本番までの短い練習の間、皆が劇を成功させるという一つのことに向かって努力したこと、最後に感じたあの達成感を、忘れたくないと思います。本当に、最初から最後までずっと楽しかったです。新しい出会いと気づきを与えてくださり、ありがとうございました。」

「今まで父や母、先生などに毎回「声を大きく出しな」「手を挙げて発表しな」と言われてきました。でもワークショップに行ったことにより、まだ手は挙げられないけど、大きな声がでるようになりました。来年くらいには手も挙げられるようにしたいです。」

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

### 【準備段階】

- ・生徒たちの募集について、新宿区と新宿区教育委員会から後援名義を得て、公立中学校全校生徒へのチラシの配布を実施。また教育委員会を通じて校長会やスクールコーディネーター、PTAなどにも連絡を取り、昨年の活動報告書を用いて取り組みの有効性を紹介しつつ、直接生徒にアピールしてもらえるように依頼した。私立中学校へは独自のルートで教師と連絡を取り、理解を得たうえで生徒への周知を依頼。また、新宿区観光文化課に依頼して、新宿区内約100か所にある掲示板にチラシを掲示してもらった。
- ・劇団のホームページ上でもPRを行った。

### 【実施に当たって】

- ・コロナ対策として定期的なPCR検査の実施。当日もスタジオ内の消毒や、ファシリテーター、参加者の検温、手指の消毒を徹底した。
- ・劇団の稽古場で行うことで、参加者に本格的な設備の中で演劇に触れてもらうことができた。
- ・保護者にも活動を理解してもらうために、ワークショップの見学を呼びかけたり、成果発表を通して参加者生徒の様子を見てもらう場を設けた。

## ○運営上の工夫

### 【準備段階】

- ・生徒たちの募集について、新宿区と新宿区教育委員会から後援名義を得て、公立中学校全校生徒へのチラシの配布を実施。また教育委員会を通じて校長会やスクールコーディネーター、PTAなどにも連絡を取り、昨年の活動報告書を用いて取り組みの有効性を紹介しつつ、直接生徒にアピールしてもらえるように依頼した。私立中学校へは独自のルートで教師と連絡を取り、理解を得たうえで生徒への周知を依頼。また、新宿区観光文化課に依頼して、新宿区内約100か所にある掲示板にチラシを掲示してもらった。
- ・劇団のホームページ上でもPRを行った。

### 【実施に当たって】

- ・コロナ対策として定期的なPCR検査の実施。当日もスタジオ内の消毒や、ファシリテーター、参加者の検温、手指の消毒を徹底した。
- ・劇団の稽古場で行うことで、参加者に本格的な設備の中で演劇に触れてもらうことができた。
- ・保護者にも活動を理解してもらうために、ワークショップの見学を呼びかけたり、成果発表を通して参加者生徒の様子を見てもらう場を設けた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

・まず、今回参加してくれた中学生や保護者から、「次回もまたぜひ参加したい」「引き続き実施して欲しい」という感想が寄せられた。様々な課題はありつつも、これらの要望に応えるためにも次年度も実施できる方法を検討したい。

・新宿区と新宿区教育委員会の後援を得たことで、区内全ての公立中学校に通う生徒への呼び掛けを行うことはできたが、ちょうどコロナの感染者数が急拡大した時期と重なり応募が入り段階で途絶えてしまう。その後新宿区外の中学校(私立や国立、都立など)にも働きかけを行い、コロナも少しづつ落ち着いたことで申し込みが一定あったが、定員人数の募集には至らなかった。

・今回ネットでの検索から劇団ホームページを見つけて応募してくれた参加者もいた。学校に行けていない中学生など、インターネットを通じて繋がれる生徒も一定いるため、ホームページやSNSを用いたPRも積極的に行っていきたい。

・(特定非営利法人)あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の副理事長に外部有識者として関わってもらい、実際にワークショップに参加・見学していただいたうえで助言などをいただいた。

・幅広く参加者を募るために、参加者から会費の徴収は行わず、無料で実施した。

・自治体の補助金制度や民間の基金などは活用できていないので、働きかけを行うことが必要。2年間実施した実績を生かし、より発展的な取り組みにできるように努めたい。

・劇団の稽古場で実施したことで、参加者により本格的な体験を提供することができた。ただ、劇団のスケジュールによっては日程を確保出来ないことも有りうるため、地域の公立文化施設で実施するなど、検討が必要。

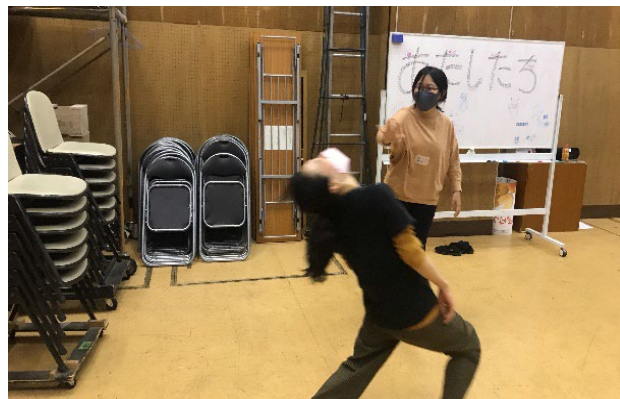
## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	8名
	学校名	新宿中学校・四谷中学校・国分寺市立第一中学校・ 投下応大学付属中学校
	募集方法	チラシを作成して近隣の中学校に配布。区内の掲示板にも掲示を依頼する。ホームページに特設ページを作成してPR。TwitterやFacebook、InstagramなどSNSを活用して活動の紹介を行う。
指導者	人数等	専任講師2名 劇団員の俳優・スタッフが協力
	募集方法	劇団の企画として、劇団員に協力をお願いする。
参加者の移動手段		バス・電車など
活動費用	指導者謝金等	メイン講師 謝金@35,650円(1回) サブ講師謝金@5,100円(1時間)
	その他	会場費 一日38,500円
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	10月～1月の土日 全8回
	年間	
保険加入等		行事参加障害保険



## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	C.C.C.THEATER		
所在地	神奈川県茅ヶ崎市	設立年	2017年
運営主体	C.C.C.THEATER		
事業目標	<p>【メンバー】 稽古(月3回※公演前は毎週末)と公演(年一回)を通じ、以下の点を醸成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の意見や気持ちを伝えられるようになる。</li> <li>・他者の話に耳を傾け、思いやりをもって受け入れられるようになる。</li> </ul> <p>【保護者】 ・子どもの成長において、演劇教育の有用性を理解してもらう。</p> <p>【団体】 ・約5年間活動を継続してきて、現在は茅ヶ崎市内さらにはそれ以外の小学校・中学校からの参加者が在籍している。様々な地域での子どもたちや保護者のつながりは増えつつあるが、さらに学校や地域のコミュニティとの連携に力を入れ、子どもたちのより豊かな芸術活動の普及を目指す。</p>		
きっかけ	<p>C.C.C.THEATERは、茅ヶ崎市小学校演劇クラブにおいての、指導または演劇教育の普及活動を発端としている。2017年に持続可能な事業に発展させるために、茅ヶ崎市子ども達を中心に展開する劇団C.C.C.THEATERを設立した。役者を育てるのではなく、演劇を通じて、子どもたちが自ら考える想像力、他者と一緒に作る創造力を育み、演じる経験で、自分にしかできない自己表現の楽しさを体験してもらい、自己肯定感を獲得すること。また、仲間との新しい出会いとともに多様性を受け入れ、思いやりの心を持つ事の学びを大切にしている。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	C.C.C.THEATER稽古場、市内公共施設		
活動概要	<p>稽古:①本公演4か月前まで 毎月3回(日曜日) ②本公演4か月前から 毎月8回(土日)※配役や月によって、流動的。 発表:①本公演 年一回 ②ミニ発表会 年1回～2回 ※保護者向けに実施。</p>		

## ○本事業による成果

### 【メンバー】

①自分の意見や気持ちを伝えられるようになる。

→アンケート結果からほとんどのメンバーから、伝えられるようになったと回答を得られました。対話をしながら、作品を作っていく過程で、自分の意見や考えが採用または認められる経験を積み重ねることで、徐々に自己肯定感を育むことができたと考えています。分かりやすい成果としては、毎回稽古後に振り返りの時間を設けているが、積極的な発言が出るようになった。

②自己表現が楽しいかどうか。また、自己表現をしたときの気持ちを記述式で回答してもらう。

→自分の考えが、他者に聞いてもらえる、受け入れられることで楽しさや自信に繋がるといった回答が多く得られました。

→アンケートより抜粋

- ・皆んなに頷いてもらったり、私の意見を聞いて考え込んでいる姿を見れると素直に嬉しくなります。
- ・自分の成長、自慢の仲間を自分の知人友人に見せることができる喜びを感じた。
- ・アドバイスを言ったらみんな次からしっかり改善してくれて安心しました。
- ・発表した時はやっぱり楽しいよね！ワクワクする！
- ・お客さんの前に行く楽しい気持ちでいっぱいでした。とにかく楽しかったです。

③仲間の意見に思いやりをもって耳を傾けることが必要か。なぜ思ったかを記述式で回答してもらう。

→他者を思いやることの大切さを作品作りをする原体験から、感じ取った回答が多く得られました。

→アンケートから抜粋

- ・「知る」というのが本当の会話、コミュニケーションだと私は思っています。
- ・思いやりは小さな幸せを生み出します。それは学校社会でも大切に、相手に気をつかうのではなく、想うところがある人が、小さなことにも喜びその笑顔が他の人をも笑顔にします。
- ・耳を傾けることは相手を知ることができる、そして相手は自分の意見を聞いてくれると思いお互いに良好な関係が築ける。
- ・色んな視点の意見を聞けてそれを劇に入れるとよりいいものになるから。
- ・意見に耳を傾けることによってより良いシーンが作れたと思ったからです。

### 【保護者】

①気持ちを伝えたり、意見をするについて、子どもの変化はあったかどうか。

また、具体的にどのような変化があったか記述式で回答してもらう。

→多くの保護者からは、子どもの前向きな変化について、評価をしてもらいました。

→アンケート結果より抜粋

- ・自分も人も大事にするようになりました。気持ちにゆとりが出来たと思います。
- ・他者と協力して何かを成し遂げる責任感において変化を感じました。
- ・とても明るくなり、学校でも発言する機会が増えたり等とても良い方向に変わっています。
- ・自分から、自分の事を伝える事の大切さを学びました。
- ・人見知りが激しかったが、驚くほど変わった。
- ・成長や理解度がゆっくりでも信頼できる大人、認め合う仲間がいてくれるお陰で心は大きく深く成長したと思います。
- ・学校の先生に、意見が言えるようになったと褒めてもらい、自信に繋がりました。

### 【団体】

無料のワークショップや公演情報を、地域の公共施設へ案内。掲示などを依頼し、反応を考察する。

→SNSや市内各所（公共施設や飲食店等の事業所）にチラシを展開することで、集客に繋げることができた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

・指導については、部活動に比べ、専門性の高い指導が実施できている。プロによる演技、ダンス、歌唱指導をはじめ、舞台スタッフ全てにおいて、質の高い人材を配置しました。

・C.C.C.THEATERを卒業したメンバーが、運営サポートとして、携わってもらい、演者視点だけでなく、舞台運営の経験もできるように工夫している。

・ヘアメイクの専門学生と連携し、教育機関の実習として貢献できるように工夫している。

・自己肯定感を育むことを大切にし、対話をしメンバーの意見を尊重するよう徹底している。

## ○運営上の工夫

### ・指導者の養成・質の確保について

→質については、目的、方向性の一致が重要であると考え、理念に共感を得られている指導者で構成している。

### ・活動時間等の在り方等について

→対話を大切にしているため、年齢によって時間を分けている。本番前の稽古からは、全体稽古に切り替えている。

### ・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について

保護者に理解をしてもらうために、情報共有を徹底している。手法としては、LINEアカウントの活用や保護者会の開催をしている。

### ・活動場所について

場所については、稽古人数によって、変更している。人数が多い場合は公共施設を活用している。

### ・活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか。

→スタッフ等ミーティングは、ZOOMを活用している。また、保護者とのやり取りは、LINEアカウントを活用し、情報共有や意見交換を行っている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

### ・活動場所

→公共施設の利用については、都度抽選であるため、スケジュールが立てづらいため、年間を通して確保できるような仕組みを作る必要性を感じます。

### ・指導者

→質を担保するのであれば、少なくとも平均水準の給与を用意する必要がある。ボランティアでやるのであれば、教員が部活指導をしていた状況を外部に移しただけになってしまうため、根本的な解決には繋がらないと考え、収益をどう生み出すが課題であると認識しています。

### ・教育機関や地域との連携

→地域移行した部活動と一般的な習い事との差別化をし、認知してもらうことが必要であると考えています。また、学校や教員がどのようにコミットするべきなのか、教育プログラムの一環として、存在意義を明確化することも必要かと考えています。

### ・会費

→保護者へは、入会前に説明会を開き、納得をもらったうえで入会してもらっています。会費のみで持続可能にするためには、増額を検討する必要があるが、すそ野を狭める可能性があるため、現時点では実施をしません。部活動として、持続可能な形にするためには、県や市からの安定的な予算立てが必要であると考えています。スポンサーなどの資金調達については、どこがやるのかが重要になってくると考えています。民間組織に委ねる場合は、地域によって、部活動の格差が生じることも懸念しています。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

活動資金をどう捻出するかが、最も重要な点であると考えています。今回の事業の成果から、子ども達の成長に寄与できることは、当事者や保護者から評価を受けており、演劇教育の可能性を改めて実感することができました。持続可能な形にするためには、市や県や国から予算が出ること、または、活動組織に対し、活動場所や資金調達の優遇措置も検討していても良いかと考えています。また、別の視点から、それぞれの団体が個別に動くのではなく、部活動地域移行を取りまとめる団体等を設立し、集約することも必要かと思われる。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	37名
	学校名	小学生以上の学生
	募集方法	各種SNS、イベントでのチラシ配布
指導者	人数等	4人
	募集方法	関係による紹介
参加者の移動手段		徒歩、自転車、各種交通機関
活動費用	指導者謝金等	指導者、制作者 基本、時給1,600円 仕事内容に合わせて変動あり
	その他	
活動財源	会費	①入会金:10,000円 ②会費:6,000円(月謝)※5月～10月 ③会費:8,000円(月謝)※11月～2月 ④公演参加費(衣装費・指導費):30,000円
	その他	⑤公演チケット収入 大人2,800円(高校生以上)/子ども1,500円(小中学生) 未就学児:無料※但し席を使わない場合に限る。 ⑥地域文化倶楽部(仮称)創設支援金
スケジュール	基本活動	1、演劇遊び 2、創作活動 3、稽古 4、公演
	年間	1、演劇遊び 期間:5月～6月(日曜日/月3回)午前:小学生 午後:中高生 2、創作活動 期間:7月～10月(日曜日/月3回) 午前:小学生 午後:中高生 3、稽古 期間:11月(土日祝/月8回)午前:小学生 午後:中高生 12月(土日祝/月8回)午前:小学生 午後:中高生 1月～2月(土日祝/月6回以上) 終日合同 4、公演 開催日:2月25日(土曜日)午後1回 2月26日(日曜日)午前1回、午後1回 / 両日合計3公演
保険加入等		スポーツ保険(中学生以下800円/一人、高校生以上1850円/一人)

## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	大岡川はとば倶楽部		
所在地	神奈川県横浜市中区若葉町3-47-1	設立年	2017
運営主体	一般社団法人横浜若葉町計画		
事業目標	●地域の子どもの対象としたに舞台芸術プログラム「大岡川はとば倶楽部」を実施する ●地域の他の文化施設と共に子どもたちを面で支える連携を行う ●子どもたちや保護者が地域の文化資源に目を向けるきっかけづくりを行う ●公演のない日に劇場を無料開放し、子どもたちの居場所作りを行う		
きっかけ	●近隣には文化施設が多くあるが、芸術諸分野の中で舞台芸術を体験できるものが少なかったため ●コロナ感染症などの状況を鑑み、子どもたちが安心していられる場所を創出する必要があったため		
団体・組織等の連携	●近隣文化施設・団体との連携活動、行っている地域ミーティングによる活動の報告と検討会及び今後の活動における連携の可能性の検討 ●近隣中学校との連携プログラム		
活動場所	法人が管理している劇場施設(若葉町WHARF)		
活動概要	●子どもたちが舞台芸術を体験する「大岡川はとば倶楽部」のプログラムを実施 プログラム「布袋劇を体験しよう!」「お芝居を作ろう!」「おめんで変身!」「映画に挑戦!」「人形劇を作ろう!」「パントマイムでコミュニケーション!」「なりきりアクターポートレート」「落語を体験!」 ●劇場の空いている日に施設を子どもたちの空き地として活用してもらう		

## ○本事業による成果

参加人数280名（無料プログラム・劇場の空き日の居場所利用含む）

舞台芸術プログラム参加人数 80名[8プログラム15回]

夏休み期間や平日の学校以外の居場所の創出（劇場公演のない日、5日程度）

小学生の舞台芸術プログラムへの中学生の協力【1校30名】

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- 子どもたちが「何をしたいのか」に寄り添う形でのプログラム運営
- 講師を近隣で活動する方に依頼し、子どもたちや保護者が地域の人材・文化資源に目を向けるきっかけづくり
- 一活動中学校の部活動の活動と共同するなど、小学生から中学生までをプログラムの参加者とした運営

## ○運営上の工夫

- 地域の劇場として活動してきた実績をもとにした人材の確保と広報活動を行った
- 活動の紹介として地域の文化施設とプログラムに関する検討を行った
- 子供たちとの活動に興味がある人材に補助スタッフを依頼し、一部プログラムの運営を任せるなど施設・人材両面での育成展開を行った

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- 初旬のコロナ感染症の拡大により予定していた舞台芸術プログラムを年度末に延期、代わりに劇場の空き日に無料の居場所としてオープン形式で幾つかのプログラムを実施した。運営と子どもたちの安全面の両立については課題である
- 地域連携については少しずつ展望が見え始めているので、プログラム自体の資金面の課題をクリアする方法を模索している。特に協賛金に関しては、今年度は貰える予定だった地域からの協賛金がコロナ感染症拡大によって貰えなくなってしまうなど、活動内容への地域の理解と安全面への信頼を今後も築く必要がある
- 近隣映画館や他の劇場プログラムにより近隣文化施設、近隣の子どもたちとの活動を行っている人材との連携が取れ始めているので、今後は開場を施設内ではなく地域という広い枠に設定して活動を行う
- 現状で地域の個々の子どもたちを中心に劇場に来て貰う形で展開しているが、今後は学校との連絡を取り合いながら一部プログラムで学校への訪問プログラムを検討している

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- 文化系部活動については行政や民間の施設・団体への一部委託を行う。子どもたちにとっては地域のことを知り、居場所を発見することにつながり、施設団体にとっても地域貢献をしながら資金を得てブランディングを行うことが出来るのではないかと思います。
- 演劇では地域の俳優や演出家に演劇部の顧問を依頼するなどの活動が少しずつ広まり、成果を上げている。学校外部者となるので、審査や評価、また学校と地域を繋ぐ目的で地域コーディネーターを育成する必要があるかと思う。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	子ども280名（重複参加者含む） 大人・保護者 50名（重複参加者含む） 小学生240（うち演劇プログラム参加者70名） 中学生 40名
	学校名	横浜市立東小学校、横浜市立戸部小学校、横浜市立本町小学校、 横浜市立吉田中学校、横浜市立老松中学校
	募集方法	宣伝チラシ配布 演劇プログラム広報紙配布（小学校） SNSによる広報
指導者	人数等	20名
	募集方法	近隣で活動する文化施設スタッフ、アーティストから選定
参加者の移動手段		徒歩、自転車
活動費用	指導者謝金等	プログラム講師¥5100／時間 補助スタッフ¥1050/時間
	その他	材料費
活動財源	会費	劇場居場所プロジェクト 無料 演劇プログラム 1000円／回
	その他	
スケジュール	基本活動	劇場公演のない平日・休日
	年間	【劇場居場所プロジェクト】2022年4月～2023年3月 月 5日程度 【演劇プログラム】2022年7月・2023年1月～3月／ 8プログラム 15回 【検討会】2022年4月26日 【報告会】2023年3月7日
保険加入等		法人加入の施設保険にて調整

【活動の様子（写真添付）】

[illegible]

横浜市の公開用の場とりにある民間アートセンターと提携ツラフツラフでは、子どもたちが表現の機会を創出するプログラム「はとび倶楽部」を2021年より行っています。

※ 毎月、今季の13年度分 - 10月現在  
各プログラム参加費 - 10名程度



**はとび倶楽部**  
Hattobi Club

**お芝居を作ろう!**

お芝居でどうするの? いろんな芝居に楽しくやってみよう!

講師 大橋博子(作家)  
有志者(学生)

料金 1000円



**おめんで大変身!**

オリジナルのおめんを作った大変さ!

料金 100円





**映画に挑戦! 撮影を体験しよう!**

台本を作った後、映像の撮影を体験しよう!

講師 山崎みづはな(映画監督)

料金 1000円





**人形劇を作ろう!**

人形作りから、お芝居まで、まるごと人形劇を体験しよう!

講師 高橋明子(人形劇作家)

料金 1000円





**パントマイムでコミュニケーション!**

言葉を使わず、表情を使って、パントマイムで楽しく伝えよう!

講師 シムダギル(パントマイム家)

料金 1000円





**落語を体験!**

落語家の先生に導かれて、落語を体験しよう!

講師 柳家いづみ(落語家)  
落語家弟子(学生)

料金 1000円





**なりきりアクター☆ポートレート**

衣装やメイクで大変さ! 自分たちの個性のキャラクターになってみよう!

講師 げんた君

料金 1000円













# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	小田原こども舞台芸術クラブ		
所在地	神奈川県小田原市	設立年	2021年
運営主体	小田原こども舞台芸術クラブ		
事業目標	地方においては、伝統文化の継承、普及を担ってきた人材が高齢化に伴い、積極的な活動が十分に出来ないようになって来た。これに伴い、子供達も直接文化に触れ、身近に感じる機会が減少している。本事業を通し、子供達に継続的に伝統文化に触れる機会を提供し、伝統文化の魅力や価値をアピールする事で、地方において文化の継承がなされ、文化に対する意識の変化がなされる事を期待している。また、子供の育成に地域の人に関わる事の大切さを訴えたい。		
きっかけ	予てより小田原市にて子供へ能楽の指導を行ってきた長谷川晴彦が、地域において子供達が伝統文化に触れる機会が減少してきたことに伴い、地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業を受け、子供達が伝統文化に触れる機会を安定的に提供できる場を設けたいと「小田原こども舞台芸術クラブ」を創設した。		
団体・組織等の連携	NPO法人子どもと生活文化協会(子供支援活動へのアドバイスなど) はじめ塾(子供への対応などへのサポート) 公益財団法人 梅若研能会(指導者について提携)		
活動場所	小田原生涯学習センターけやき、BLEND・POST等		
活動概要	平日を中心に月2, 3回3時間程度の稽古を行う。 年1回の能楽堂での発表会や、小田原での公開稽古などを行うことで、子供達の活動の成果を披露する。 発表会ではプロとの共演を通し、伝統芸能の深さや本質を体験出来る機会とする。		

## ○本事業による成果

昨年度の公開稽古、おさらい会ではコロナの影響で学校教員の来場者が無かったが、本年の公開稽古に於いては3名の中学校教諭、2名の小学校教諭が出席し本事業のアピールをすることが出来た。これにより、今後の学校への参加者募集などの地域部活動へ展開への足がかりが作れたと考えている。

昨年度での市の教育委員会との面会では、文化部活動の地域委譲についての認識は全く無かったが、本年度の市議会において部活動の地域委譲への質疑が出た事に於いても、本活動への関心が高まってきていると感じている。

伝統芸能の後継者不足に伴う、存続の危機感は多くの人を感じている。しかし、このような形で文化部の部活動を行政が支えるという姿勢を示して頂けることで、伝統文化に関わる多くの人希望ち、文化に触れ支えることを前向きに考える事が出来るということが分った。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

本年度は謡、舞以外に能楽太鼓の稽古を実施することが出来た。太鼓に触れることで、謡や舞について更に深みを知ろうとする姿勢を導くことが出来た。

本年から未就学児が稽古に参加するようになった。能楽では子方といって子供が出演する役があるため、子供に対しての指導法や子供ならではの演技方が確立されているため、参加者の年齢に合わせた指導を行った。

中・高生は年少者への指導を通して自分が指導を受けた内容に対して振り返る事が出来、更に決まり事など自分がきちんとやらねばならないという責任感が生じるようになった。

後期は発表会の前に公開稽古を行った。それにより、人に見られるという事に対して、子供達がそれぞれに考えるようになり、公開稽古から発表会までの十数日の間に大きな進歩を見ることが出来た。何かをやらさせられる所から、自分が何かをやるという意思の変化を招いたのが大きな要因と考えている。身近に無い芸能であるからこそ、取り組む姿勢を含め、そのような発見が大切なのだと考えている。

## ○運営上の工夫

本年から参加者との連絡に「公式LINE」を用いるようになった。それにより、稽古日の変更や欠席の連絡などが容易に出来るようになり、便宜性を感じている。また、保護者にもLINEに参加して頂くことで、活動の状況など共有できるようになった事は大きい。

昨年度から引き続き、サポーター制度を設け、メールによる着付けの手伝いなど、父兄を含め活動を支えてくれる人たちとのコミュニケーションを保つ努力をした。

稽古、発表会で使用する扇は、演目により使用するものが変わり、高価なものも使用されるという事で、長谷川晴彦が所有するものを賃借した。前期で使用した太鼓は、はじめ塾所有の物を借用し、稽古場までの運搬は指導者が自家用車で行った。

公開稽古、発表会で使用した着物、袴も、はじめ塾所有のものを借用した。洗いや修繕は塾が行ってくれたが、使用前の準備(襟の取り付けなど)には、時間や人出が必要であったので、サポーターの協力が重要となった。

ただ、本年度は正式に保護者やサポーターとの打合せの場を設けなかった為に、具体的なお願いをするタイミングが遅れ、サポート参加出来ない人が出たのは残念であった。

より保護者、サポーターとの連携を強める必要を感じる。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

本年は参加費は徴収しなかったが、今後はその必要性を感じているし、保護者からもある程度の上乗せを得ることが出来た。やはり、活動を通してやる事への認知度が高まった事が大きいと思う。ただし、徴収額は月1000円程度に収め、参加の間口を広く保つ為に、他に活動費を獲得する方法を求めて行きたい。

活動場所は生涯学習センターを使用しているが、他の活動団体から子供の声がうるさいといったクレームも出ている様ではある。学校施設が使用出来れば良いのだが、逆に地域の大人の団体が優先的に使用する権利を持っており、そこに参入する事が難しい場合がある。新規参入団体として、既存の団体などと共存できる形を考える事が求められている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

現状能楽の部活動のある学校はほとんどない為、まずは子供が部活動のように参加できる環境を作り、それに各校から生徒が参加して貰えるようにする事が必要となります。

設立2年目の団体なので、地域の人に活動を知って貰う段階なのですが、本年の公開稽古に教員が観覧に来てくれた事、市のアウトリーチ事業に能を取り上げて貰った事など、段々と地域の文化団体や教育関係者との繋がりが出来ているように感じています。今後、校外での部活動が学校の部活動のように活動評価がされるようになれば、参加者も増えていくのではないかと考えている。

また、参加生徒と向き合うと同様に、保護者や学校とのコミュニケーションを密にする体制を作る必要があり、当会としては教育関係に詳しいはじめ塾やCLCAとの連携をしっかりと行きたいと考えている。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	24人
	学校名	城山中学校、白山中学校、相洋高校、片浦小学校、芦子小学校等
	募集方法	昨年度参加者への告知、市の文化施設でのチラシの掲示、配布。 協力団体へのチラシ送付、配布依頼。
指導者	人数等	3人
	募集方法	当団体の代表である長谷川晴彦が所属する梅若研能会など、能楽師としての繋がりから依頼。
参加者の移動手段		電車、徒歩、自転車
活動費用	指導者謝金等	指導謝金1,050円/時間、外部指導者謝金5,100円/時間、発表会での演奏謝礼(東京囃子科協議会規定に拠る)、市外への交通費・実費
	その他	装束借損料 1人分2,500円/使用回数、太鼓借損料6,000円/使用回数、舞扇借損料1本300円/使用回数、稽古会場費
活動財源	会費	なし
	その他	
スケジュール	基本活動	月3回(主に水曜日)18:00~21:00
	年間	前期稽古 4月~7月(令和四年度は太鼓と謡の稽古) 7月におさらい会を開催 後期稽古 9月~2月(令和四年度は袴能、仕舞、謡の稽古) 2月に能舞台での発表会を開催
保険加入等		なし

## 【活動の様子（写真添付）】

### ○前期おさらい会風景



### ○公開稽古風景



### ○発表会風景





## ○募集チラシ

文化庁「地域文化振興部（仮称）創発推進事業」

# 令和4年度 「小田原こども 能楽クラブ」 後期参加者募集

「小田原こども能楽クラブ」は、日本を代表する伝統芸能である「能楽」を子ども達が、能楽師の指導を受け体験するための「クラブ」活動です。

参加出来るのは、小・中・高校生。

世界無形文化遺産にも認定され、世界に誇る伝統芸能「能楽」を身近に体験できる機会です。興味のある方は、是非お問合せ下さい。

今回は、『宮城物語』を題材とした、能『和田流流』の立ち役と地謡、その他「仕舞」の稽古を行います。年齢や稽古や進度に応じて、配役など考えて参りますので、それぞれの事情に応じてご参加頂けます。気軽にご相談下さい。

- ・稽古日  
下奉願 9月～2月  
水曜日と土曜日に、3回の稽古日
- ・稽古場所  
生涯学習センターけやき・和室  
(小田原市萩原 300)
- ・参加費  
無料 (教材、台本は実費負担)
- ・申込み  
2023年2月11日 (祝)  
久米岐館舞台  
(横浜市磯子区磯崎 8-21-7)
- ・稽古時間  
18:00～21:00
- ※ 参加する上での条件などありましたらお知らせ下さい。
- ・稽古内容  
謡、舞
- ・定員 20名を予定

主催：小田原こども能楽芸術クラブ 後援：小田原市、小田原市教育委員会

## ○発表会番組



文化庁・令和四年度  
地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業

「小田原こども能楽クラブ」  
後期発表会

「発表会」令和5年2月11日（土・祝）14:00～  
会場・久良岐能舞台（横浜市磯子区岡村8-21-7）

「公開稽古」令和5年1月29日（日）14:00～  
会場・小田原市生涯学習センターけやきホール

【活動の目標】

学校などでの体験では得ることの出来ない、本格的な文化体験を目指した活動です。

普段は舞台を演じるだけではない能楽師から、発声や舞の動き・所作といった技術のほか、伝統文化の伝えられている様々な事を教えてもらえます。

後期は能「和田酒盛」の上演に向けての役の稽古、仕舞の稽古、謡の稽古となります。

学校の状況に合わせて部分的に参加（前期のみ・後期のみ）といった参加も可能ですので、ご興味のある方は是非ご相談頂けたらと思います。

【能と酒盛】について

能「和田酒盛」は「曾我物語」を題材に、室町期に作られながらも、長く上演されなかったという歴史を持つ作品です。

現在演じられている能に比べて、登場人物が多く演劇的であることが特徴となっている「和田酒盛」は、令和3年に「催曲能」という形で再上演され、それ以来各で上演され好評を得ています。

【能と酒盛も能楽三年に】

能は700年近い歴史を持っています。何代にも渡り磨き上げられてきた伝統文化は、日本にとつての貴重な財産であると共に、子ども達にとつても大切な財産です。何百年と継承され、その時代時代に対応してきた能には、先人達の知恵や感性が内包されています。現代に生きる私たちが、様々な問題に直面したとき、能の持つ文化の力が生かせるヒントを与えてくれることを信じています。子ども達が能に触れることにより、多くの発見を得てくれる事を期待しています。

【伝統文化を体験すること】

能は700年近い歴史を持っています。何代にも渡り磨き上げられてきた伝統文化は、日本にとつての貴重な財産であると共に、子ども達にとつても大切な財産です。何百年と継承され、その時代時代に対応してきた能には、先人達の知恵や感性が内包されています。現代に生きる私たちが、様々な問題に直面したとき、能の持つ文化の力が生かせるヒントを与えてくれることを信じています。子ども達が能に触れることにより、多くの発見を得てくれる事を期待しています。

【サポーター募集】

子供達の発表会や、着付けのお手伝いなどして下さるサポーターを募集しています。

子供達の活動を応援して下さい。是非サポーター登録お願い申し上げます。

小田原こども能楽クラブ講師

謡、舞 長谷川晴彦（シテ方親世流能楽師・重要無形文化財総合認定保持者）  
謡、舞 梅若 泰志（太鼓方親世流能楽師・重要無形文化財総合認定保持者）  
謡、舞 梅若 紀佳（シテ方親世流能楽師）ほか

申込先・問合せ  
「小田原こども舞台芸術クラブ」E-mail: nohgakunotsudci@yahoo.jp  
090-3339-6559（長谷川）  
ホームページ・https://kodomo-club.jlimdosite.com

[illegible]

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人シアター＆アーツうえだ		
所在地	長野県上田市中央2-11-20	設立年	2016
運営主体	一般社団法人シアター＆アーツうえだ		
事業目標	長野県東信地域の小学生から大学生が、自身の自発性に基づいて文化芸術活動に参加し、年代や障がいの有無によらず相互に創造性、社会性を育んでいくことができる場を創設すること。地域住民が主体的に関わりながら、こどもたちが安心して活動できる居場所を街中に広げてゆくことや、質の高い文化芸術との継続的な関わりを通して、個々人に分断した地域社会のつなぎ直し、次世代の文化の担い手を育成することを目指す。		
きっかけ	実施地域である上田市では教員の働き方改革で学校部活動の時間は減少、地域に代替の受け皿がないことから、放課後の居場所が不足していた。加えて養護学級、外国籍児童等、支援が必要となる子どもの放課後の文化活動の場は凡そ未整備のままである。また、部活動で大会に参加したり結果が優先されることにより芸術文化を通じて多様な価値観を経験し、自ら感性を育む機会が損なわれ学校を囲む地域で多世代・他者に子どもの創造性や潜在能力が共有される機会が減っている。子どもが質の高い文化に触れ、創造・発表を地域における相互コミュニケーションの機会と捉えて、世代や障がいの有無によらない開かれた「関わり合い」の「場」＝公共空間を整えていく必要があるという課題から発足した。		
団体・組織等の連携			
活動場所	犀の角、グランピア、上田映劇場、Editor's Museum、近隣商店街		
活動概要	月に2回、ファシリテーターやコーディネーター、ボランティアとともにその日用意された部活や自分が発足させたい部活など、自身の興味関心によってその日ごとに選択し、活動する。活動の種類は演劇、美術、音楽、ダンス、実験、地域探索、ボードゲーム、映画など。参加者の意思・希望で新しい部活を創設することも可能なことが特徴。毎回、活動の最後の時間で発表の時間を設け、それぞれの部活がどんなことをしたか、作ったものなどを他の参加者と共有した。子どもが自分自身の意思で活動を選択することにより、能動的、自発的な参加となり、発表の時間を設けた事により毎回の活動の目標が出来、モチベーションアップに繋がった。第一線で活躍するアーティストを招聘する「スペシャルデイ」を3回開催(うち2回分は別の助成金を利用)。質の高い技術や、アーティストの人柄を身近で体感する機会となった。		



## ○本事業による成果

令和3年度より継続して行ったことで活動自体が地域へ広がっていき、初年度から継続して参加したメンバーを中心に興味関心を更に深めることができた。商店街の七夕祭りなど、地域のイベントに当日参加するだけでなく、街頭に飾る七夕飾りの製作といった事前準備に子どもたちと一緒に参加させてもらい、地元住民との交流が生まれた。昨年度の活動に興味を持っていた近隣の商店主が子どもたちと一緒に地域の祭りを盛り上げたいという思いから、協働できないかと提案があった。実際に飾りの製作と一緒にいった商店街の住民はその後の活動もボランティアとして積極的に参加してくれた。

同じく地域への広がりという面で、去年から続く「まちなか探検部」では周囲3kmほどに集中する中心商店街を徒歩で歩き、商店にインタビューに行く活動をしており、今年になって閉店してしまった老舗のカメラ屋や精肉店などにも行った。そこでは、大正時代から使われているという大判カメラを見せていただいたり、肉屋が周囲の学校給食の卸をしており、その日訪問した参加者が当日の給食で食べた肉が実はその店が卸しているものだということが発覚したりと、地域の財産や地域に根ざして商いをする人材に出会う機会となった。この出会いは自分たちの生活が実は意外と近いところで地域の人々と繋がっていて、その中にはだんだんと消えていく商店や文化もあるのだということを意識するきっかけとなった。

子どもたちの自由な発想を元に活動を創作することで、うえだイロイロ倶楽部ならではのユニークな部が誕生した。例えば、「桑の実農業組合」や「劇であそ部」「まちなか探検部」「段ボール部」など、今年度活動した部は36種類となった。

添付の表を見る通り、参加しているメンバーは小学校の低学年中学年が多いため、まだ学校の部活・クラブ活動は行われていない。しかし、この活動をこの先も続けることを希望している参加者が多いため、成長した際、学校の部活動の代わりにこの活動に参加する事例も増えてゆくと思われる。

学校で行われている部活の直接の代替となる活動としてはほとんど行えていないため、周辺の学校から部活動の代わりとして参加している中高生はいない。代わりに、学校ではできないことが体験出来る活動として徐々に認知され、地域の注目を集めている。昨年度も同じ状況だったが、募集時期が遅いため、中高生は学校で部活動を決めた後に募集する形となってしまう、この活動には参加できていないと思われる。

高校教諭が数名ボランティアとして参加していた。参加者の子どもたちとの関わりから、通常の学校生活でも生徒たちとの関係性が変わるなど影響があったと意見があった。業務として、同じ年代の生徒たちとだけ接しているとお互いに関わり方が固定化されてしまうが、違う年代の子どもたちや大学生、ファシリテーターであるアーティストに触れることで教諭自身が広い視野を得ることができ、学校生活も別の視点から物事を考えられるようになったとのことだった。

保護者からは昨年同様、「一方的な指導ではなく、子どもが自分でやりたいことを大人が楽しんでサポートする体制がよかった」「クラブに通う前より子どもが積極的になったし、いろいろな大人と関わることにに対してハードルが下がった」「学校で得られる価値観以外にも大切なことがあると気づかせてくれる場所」など、活動の趣旨に賛同する声をたくさんいただいた。

子どもたちへのアンケートでは「いろいろな活動ができて楽しかった」「安心して過ごせる・自分を解放できる・自分を広げることができる場所」「自分の好きなこと・やりたいことを思う存分できて、その楽しさを他の人と共有できる」といった自主性を重んじ、他者との関わりを重視した活動を子どもたち自身も楽しんでいる様子が伝わってきた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

民間の「劇場」が運営する活動として、学校や他の地域の文化活動とは一線を画したクラブとなるよう工夫を重ねた。成果を追求するために課題をこなすことや用意されたプログラムを行うだけの活動を行う事など、所謂イメージの部活動の実施形式や概念に囚われることなく、子どもたち自身から生まれる「やりたい」という気持ちを尊重している。そこに学校や家庭では出会えない劇場に集う大人たちがファシリテーターやボランティアとなって伴走しながら、指導者ではなく「同志」として活動に取り組むよう意識した。

毎回、解散する前にはその日何をして過ごしたか、次に何をやってみたいかアンケートを取った。その活動日にやりきれなかったことや、新しい興味関心をそこで確認し、次の活動で実現できるよう準備をした。

障がいや特性をもった参加者に対してはボランティアが1対1で対応する形をとって目を配り、活動のフォローをした。バイリンガル環境で育つ子どもも参加しており、年齢・性別・国籍・障がいに関係なく、それぞれの興味関心に従って、それぞれのペースで、しかし「助け合い」ながら活動を深められるよう導いた。

昨年に続き、活動の始めに「お知り合いの時間」として全員でコミュニケーションワークを通じて、他人を知る時間を、終わりの時間に「おふるまいの時間」として、その日の活動で何を楽しんだか全体に発表する時間を設けた。個々の活動で深めるだけでなく、全員揃って活動する二つの時間を通じて、様々な価値観や文化芸術があること、他人を尊重する大切さ、他者との関わりを学べるようにした。

活動終了後はファシリテーターやボランティア、コーディネーターで振り返り会を行い、その日の子どもたちの様子や問題点・課題点の共有をした。

ファシリテーターやボランティアは劇場に関わるアーティストや演劇関係者など日本各地から訪れることもあり、ボランティアとして来ている地元の大学生や近隣商店街の住民など地域に根ざした人材の交流の場ともなった。参加者の子どもたちだけが活動を楽しむだけでなく、サポートするための大人同士も文化的な時間を享受する機会となっている。また、振り返りの時間を通して、関係している人たちに負荷がかかっていないか、何を課題として抱えているかなどヒアリングする時間として活用している。

## ○運営上の工夫

申請段階では小学生と中高生の活動を分ける計画だったが、中高生の応募が少なかったことや集まったメンバーの希望から一緒に活動することになった。代わりに体験入部という形で会費を取らずに毎回、新しいメンバーを受け入れた。1年間続けることに不安を感じている子どもや、時間が合わずなかなか送り迎えが叶わない保護者を持つ子どもたちが参加した。この活動を昨年度より多くの子どもたちが体験出来、運営側としても会員制のみで活動した昨年度に比べ、さらにたくさんの参加者と出会うことが出来た。

中高生だけの活動が前期で出来なかったため、後期までの休止期間に実験的に行なった。演劇とダンスを組み合わせた舞台作品を作りたいという参加者の希望から、小学生も含め5名程度で集まって何度か練習を重ねた。予定外の活動であったため、ボランティアやファシリテーターの募集・確保ができなかったり、活動場所の確保が急遽必要になったりした。ボランティア・ファシリテーターの代わりにコーディネーターのみが活動に参加することになり、負担が増えてしまった。衣裳や小道具の作成も行ったが、子どもたちがその日自由に興味のある部活に参加することができる、というこのクラブの性質上、参加者が継続的に同じメンバーが必ず参加することが難しく発表までには至らなかった。しかし、台本や演出を自らで考え、集まった「役者」や「スタッフ」と作品を作り、相談を重ねて衣裳や小道具を作成するという時間は参加者にとって、他者との濃密な関わりを学ぶ貴重な機会となった。

保護者との連絡はメールのみに限り、SNSを活用していない親との差が生まれないようにした。活動時の様子をウェブ上のクラウドサービ스로共有するなど、インターネット環境があれば誰でも共有できるよう工夫した。最終回の3月1日はオープンデイとして、保護者も参加できる回にし、普段伝えきれていない子どもたちの活動での様子や、実際行われている倶楽部を体験できるようにした。関わる大人たちがどんな姿勢で子どもと向き合っているか、参加者がどんなことにどんな形で取り組んでいるか直接見てもらう機会となった。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

今年度、地域との繋がりをより強く持たため、来年度の活動ではボランティア参加としての人的リソースだけではなく、予算確保の面においても尽力いただけるよう、協力を要請していく。既に、寄付を申し出てくれている企業があるため、近隣商店街との連携を強め、現在の運営団体のみの活動としてではなく、街としてこの活動を続け、支えていけるようにしていきたい。

現在活動場所は劇場の建物内で行っているが、子どもたちの要望から屋外での活動が増えてきている。特に走り回ったり、声を上げたり活発な活動となることが多い。長野県では「子どもの声がうるさい」という地域の苦情から公園が閉鎖されたことが話題となっているが、実際、街中で子どもが遊べる場所が極端に少ないのが現状である。我々の活動でも放課後の居場所として学校の校庭や近隣の空きスペースを使用する提案をするなど、安心して出掛けられる拠点を作っていく必要がある。

今年度、小学生の部と中高生の部を分けるつもりで計画を立てていたが、結果的に中高生の人数があまり多くなかったことや応募者の希望から活動を分けず、全体で活動をした。小学校の高学年、中高生からは直接意見が出たわけではないが、低学年に合わせた活動に物足りなさを感じていたように思う。「体験入部」として実際の活動を体験できるようにしたが、高学年や中高生はなかなか定着しなかった。ただ、高校生で3名ほど、後期の活動からはほぼ参加していたメンバーもいたので、一概に年代で活動を分けたほうが良いということではないようだ。来年度以降も希望に合わせて、活動の形を変えていきたい。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

周辺の学校の教員や関係者に活動の見学をしてもらう計画をしていたが、連携が取れず今年度は叶わなかった。教育委員会の学校教育課の課長や市議会議員と面談を行い、部活動の地域移行やこの活動の継続のための議論を行なった。来年度以降は教育委員会との連携で周辺の学校と会議や意見交換を行える関係性を作っていく計画である。

不登校の児童・生徒が一般の教室の代わりに通う、中間教室に「出張イロイロ倶楽部」をする提案が出ている。まだ具体的には決まっていないが、現実的になっていけば部活動の代わりとして放課後の時間に活動するなど地域が担う活動として、学校内で活動できる可能性がある。

学校部活動の地域移行を考える時に、既存の部活動をベースに考えるだけでなく、学校には存在しない部活動を地域の特性や人材に合わせて新規に立ち上げていくことも我々のような民間文化施設とスタッフ、ボランティアなどリソースが揃えば可能ということが証明された。多種多様な趣味や嗜好が存在する現代社会において、前例にとらわれず、部活動自体も多様性を担保していくことが求められているのではないだろうか。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	32名 小学生27名 中学生4名 高校生1名 (体験参加など含むと合計52名)
	学校名	上田南小学校、上田東小学校、塩尻小学校、神川小学校、清明小学校、上田北小学校、傍陽小学校、丸子北小学校、豊殿小学校、神科小学校、塩谷西小学校、川辺小学校、川西小学校、中塩田小学校、青木中学校、第五中学校、第一中学校、丸子北中学校、長野第一学院中学校
	募集方法	運営団体と関係NPOなどが協働し募集チラシを作成 4月末から市内全小学校・中学校・近隣高校に配布、 加えてSNSや新聞、街頭の掲示板などで告知
指導者	人数等	運営団体職員(コーディネーター):2名 ファシリテーター:2名 ボランティア:10名程度
	募集方法	運営団体が事業などで関わってきた人材に依頼、公募はしていない
参加者の移動手段		電車、徒歩、保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	1,050円/1時間
	その他	事務局賃金 1,050円/1時間 保険料 約1,000円/1回 材料費 約10,000円/1回 会場借り上げ費 約9,000円 /1回 ボランティア交通費 1km/20円、上限20km、1回10人程度参加 募集チラシ印刷費200,000円(デザイン費込み) スマートフォン使用料約2,000円/月など
活動財源	会費	入会金2,000円、月謝1,500円 年間約450,000円
	その他	助成金約240万円
スケジュール	基本活動	月2回、17時～19時
	年間	4月募集チラシ配布 5月募集開始、締め切り、初回オリエンテーション 6月～8月前期通常活動 12月～3月後期通常活動 3月オープンデイ開催
保険加入等		レクリエーション保険、 参加者・コーディネーター合計50名 1回約1,000円 ボランティア保険、250円/年間

## 【活動の様子（写真添付）】

▲お知り合いの時間



▲段ボール部



▲イロイロJA農業組合（桑の実収穫）



▲プラ板部 & らくがき部



▲料理部（収穫した桑の実をジャムにした）



▲高学年の参加者がファシリテートするボードゲーム部



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	公益財団法人可児市文化芸術振興財団		
所在地	岐阜県可児市	設立年	平成12年
運営主体	公益財団法人可児市文化芸術振興財団		
事業目標	<p>本事業は、当財団が可児市文化創造センターalaにおいて2008年度より14年間に渡って実践してきた『まち元気プロジェクト』のノウハウを活かし、2020年度から構想を進める文化芸術を活用した社会的処方箋活動『まち元気そうだん室』という地域の社会機関・民間ステークホルダー・アーティストとの「プログラム共創化」に向けた取り組みの一環として実施する。市内在住の中学生(及び高校生)を対象とし、演劇等ワークショップや地域の文化資源等を活用した「地域文化倶楽部」の活動を、地域社会への愛着とそこに住む人々全てのWell-beingを追求する「社会活動」へと発展させる入口とし、つながりの持続可能性とライフステージの循環性を高める多世代型の取り組みにすることを目指す。</p>		
きっかけ	<p>当財団が運営する可児市文化創造センターalaは、人々の思い出が詰まった『人間の家』として「つながりを醸成するく社会包摂型劇場経営」を推進しており、文化芸術を愛好する人たちだけでなく、あらゆる層の市民が生きがいを持ち、安心して集うことのできるもう一つの我が家のような存在として、文化芸術で生きる活力とコミュニティを創出し、誰ひとり孤立させない社会を&gt;を目指して活動してきた。</p> <p>しかしながら、昨今の新型コロナウイルスの感染拡大により、全ての市立小・中学校と不登校教室「スマイリングルーム」の児童・生徒に向けたアウトリーチの演劇等ワークショップが事実上2年間に渡って中止またはオンライン開催を余儀なくされており、不登校児童・生徒数の割合は上昇している。また、保護者の収入減少による経済的な困窮なども相まって「こどもの社会的孤立」や「つながりの貧困」が深刻度を増していることから、alaでは、これら課題の緩和に向けて市の学校教育課や教育研究所との連携を強化し、不登校問題を軸に芸術文化のスキルを活かす「エッセンシャルワーカー」としての文化芸術団体およびその従事者という新しい役割を担うことを検討している。</p> <p>これらの役割は、財団職員や学校の教職員が従来の所掌業務を維持しながら同時に担うことは不可能であり、地域の社会機関・民間ステークホルダー・アーティストとの関係を編み直すことで、その緩和策を地域や市民活動と協働で考えるために『まち元気そうだん室ラウンドテーブル』という話し合いの場を2020年に組成している。アフター・コロナの日常における人々のメンタルヘルス維持とレジリエンス(回復力)獲得を地域社会全体の「多世代のつながり」に結び付けながら展開することを構想しており、公共劇場がその「プラットフォーム」として機能するための環境整備やネットワーク構築、財源確保の道筋を探っている。</p>		
団体・組織等の連携	可児市教育委員会(教育研究所スマイリングルーム)、社会福祉法人可児市社会福祉協議会、NPO法人可児市国際交流協会(多文化共生センター フレビア)、NPO法人alaクルーズ、令和さくら高等学校 可児 ほか		
活動場所	可児市文化創造センターala内(創造スタッフ室ほか)		
活動概要	<p>alaが実施する文化芸術コミュニティ・プログラムを体験し、その経験を活かしてala事業の運営をお手伝いしたり、自ら企画内容を立案・実施することを通じて、さまざまな世代の市民と触れ合いながら「まちを元気にする活動」を展開するもの。</p> <p>市内外から28名の中・高生が登録し、年間(6～2月)で計66回の活動を可児市文化創造センターalaにて実施した。</p>		

## ○本事業による成果

・中学生は市内5校のうち3校(中部中、蘇南中、西可児中)から9名の生徒が集まったほか、近隣市(美濃加茂市、犬山市)から3名の計12名、高校生は計16名(可児高11名、美濃加茂高1名、加茂高1名、通信制高校3名)がエントリーした。それぞれ繁忙期が異なることから参加時期に偏りがあったが、全体としては「中高一貫」の部活動となった。

・劇場運営と連動した部活動のメリットは、基本的に劇場で実施されている既存の事業をベースに中高生に参画してもらう形式のため、劇場と学校の活動を一元化するメリットは相互にとって十分あり、結果として教員側の負担軽減に繋げることが可能であると感じた。また学校行事や体調により参加が不可能となった場合でも、劇場側が通常業務の範囲内でカバーすることが可能であることから、参加する子どもたちにとっても必ず出席しなければならないというストレスが軽く、できる時に目いっぱい参加するというスタンスで、不登校傾向を抱えた児童生徒でも途中で投げ出すことなく最後まで活動に参加できていたことから、不登校時の引きこもり回避対策としても一定の効果を発揮できるといえる。

・従来のような作品制作・発表ありきの活動とは異なるものの、来て頂いた一般の参加者とのコミュニケーションやおもてなしを通じて、「人を楽しませる、喜ばせる」という達成感を得られる部活動として手ごたえを感じている。

・一年間の「活動報告会」を一般公開し、部活動への参加したメンバー自らが活動を通じて地域のために、自分のために、どんなことができ、何を感じたかを発表したほか、その様子をもとに1時間のラジオ番組を制作し、地元のFMららにて放映した。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

・各プログラムには専門的な知見を持ったアーティストなどが参画しており、実施した企画毎に指導やアドバイスをもらえる専門家が異なっていることも劇場を拠点とする「まち元気部」ならではの特徴であり、部活動の参加者は、毎回多様な大人たちとの新鮮な出会いを感じながら取り組んでいる。

・高校生年代の中には、大学でアートマネジメント系や舞台技術系の学科を志望する者もあり、照明・音響等専門的な機材の操作やコツを学ぶ基礎的なオペレーター体験参画も行い、この4月から志望の大学にて舞台技術を学ぶこととなった。

・今後は令和6年度からの「劇場インターンシップ制度」の本格導入に向けて、大学生・専門学校生の職業研修的な受け入れ体制についても制度設計し、そのキャリア・ニーズに応えると同時に、新しい地元出身劇場人材の育成を目指しており、方向性としては、「企画制作」と「舞台技術」のスキルを併せ持つオールラウンドタイプの人材を育成して行きたい。



## ○運営上の工夫

・「劇場運営参加」をベースとしている部活動のため、必要な資材等は劇場内で調達が可能である。今後、本活動を財源的に自走させていく上では、地元の企業・団体・個人の皆さんの寄付金によって未来を担う子どもたちのしなやかな心に、豊かな舞台芸術体験を提供している「あしながおじさんプロジェクト」の資金調達をさらに強化し、将来の可児市マーケット(10万人)を維持する上で重要な存在となるだろう今の子どもたち世代の地域への定着化を主な目的としているアールの活動及び本事業への支援(一口:3万円)を積極的に働きかけていく予定。

・国のパイロット事業として実施した本年度は、とにかく何事にもフレキシブルに対応することで事業を成立させた部分もあるが、実施主体の負担を減らし、多世代の交流を促進する上でも、実施日程・体験手法の体系化と市民サポーター等の育成による運営バックアップ体制の構築を、もう一つの主体となる教育委員会と協議しながら、この先3年程度で確立して行きたい。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

・本事業は可児市教育委員会の掲げる「令和4年度可児市教育委員会の方針と重点」の基本目標Ⅱ「未来社会を切り拓くための資質・能力の育成」― 施策1「コミュニケーション能力の向上」に該当する主に中学生を対象としたプロジェクトであり、これまで継続的に実施してきた『児童生徒のためのココロとカラダワークショップ』や不登校児童生徒のための「スマイリングワークショップ」の活動と連動するものであり、可児市教育委員会との共催関係の下、今後も持続的に実施が継続されるものである。また、その運営資金の捻出に当たっては、地元の企業・団体・個人の皆さんの寄付金で子どもたちの未来を担う子どもたちのしなやかな心に、豊かな舞台芸術体験を提供している「あしながおじさんプロジェクト」の支援対象を拡充し、これをさらに強化することで、将来の可児市マーケット(10万人)を維持する上で重要な存在となる子どもたち世代の地域への定着化を主な目的としているアールの活動及び本事業への支援(一口:3万円)を積極的に働きかけ、官民一体となって本事業の持続可能性を高めていく。

・地域との連携に当たっては、2020年度から構想を進める文化芸術を活用した社会的処方箋活動『まち元気そうだんラウンドテーブル』という地域の社会機関・民間ステークホルダー・アーティストとの「プログラム共創化」に向けた話し合いの場を組成している。今後は相互の活動の理解と連携を深めると同時に、「つながり醸成」に関する共通課題の緩和策を協働で考えるために、令和5年度より、各機関の代表者級を集めた意見交換会を実施する予定。  
また、地域にて具体的な取り組みを行っている市民活動に活動の場を提供する取り組みをこれまで関わったメンバーとともに定期的に開催し、個々の課題と文化芸術によるコミュニティ・プログラムをつないでいくしくみを構築する。  
こうした取り組みを通じて、さまざまな境遇の子どもたちと文化芸術との有機的な接点を見いだしていく。

・2008年度より15年間に渡って実践してきた『まち元気プロジェクト』のノウハウや人的リソースを活かし、市民それぞれの得意分野を活かして、子どもたちに文化芸術および地域文化を活かした体験の扉を提供することのできる人材バンク「まち元気サポーター」の募集および人選・登録を2023年度より開始し、順次研修プロジェクトを発足させる予定である。

・会費の徴収に関しては、レクリエーション保険加入および共通デザインのTシャツ等を作成する観点から1,000～3,000円程度の入会費徴収を検討していく。(但し、寄付金との兼ね合いもあり、全ての参加者を対象とするかについては未定)

・本事業が、今後可児市が推進する「学校部活動の地域移行」を進める上での対象事業となるか否かは現時点では不明であるが、現状よりも活動の幅を広げる場合には、民間からの資金調達等を積極的に導入する方針である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

・今年度のパイロット事業を通じて見えてきた学校部活動の現状は、

- ①文科系・美術系部活動の縮小・廃部傾向が著しいこと。
- ②部活動の目標が大会・発表会への出場に重点を置かれており、参加資格要件が厳しすぎる点。
- ③一方で、学校外文化活動に対するニーズは高く、参加した多くの児童生徒は、同じ価値観や感性を共有する”新しい仲間”との出会いと繋がりを求めており、特に中学校1年生のエントリーが目立ったこと。
- ④活動報告会での子どもたちの発表から見えてきたものは、自分たちの活動を通して「誰かを喜ばせたり、楽しませたりする体験」から得られる自己肯定感・自己有用感は、将来の働き方や社会・親子の接し方に至るまでに大きな影響を与えうるのだという確かなメッセージであった。

劇場や地域の人的リソースの持つ「芸術文化プログラム」を活かし、ビジョンを共有する地域機関や民間企業と「財源」をシェアするとともに、その活動を下支えする「市民サポーター」組織を組成することで、＜地域に持続可能な多世代による支え合いのネットワーク＞を構築することを、今後5か年の目標に掲げ、その一環として『まち元気部』の活動を発展させていくことを目指します。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	28名(中学生12名／高校生16名)
	学校名	可児市立中部中学校、西可児中学校、蘇南中学校、美濃加茂市立東中学校、犬山市立城東中学校、岐阜県立可児高等学校、加茂高等学校、私立美濃加茂高等学校、明誠義塾高等学院(通信制)、令和さくら高等学院(通信制)ほか
	募集方法	一般公募 ・市内中学校に全校配布を実施 ・ア－ラおよび市内関係施設に募集チラシを掲出 ・当館HP、SNSでの告知
指導者	人数等	15名～25名
	募集方法	事業実施主体において信頼できる人物を人選、指導依頼を行った。 ・財団職員6名(企画制作3名、舞台技術3名) ・その他外部指導者(有償14名、無償5名)
参加者の移動手段		参加者各自で対応(徒歩、自転車、保護者送迎ほか)
活動費用	指導者謝金等	407,750円
	その他	994,805円
活動財源	会費	特になし
	その他	特になし
スケジュール	基本活動	不定期開催／主に水曜日の夜間と土日祝日の昼間に実施 (＊火曜日は休館日のため原則として実施せず) <u>総実施回数66回(2022年6月～2023年2月、月平均7.3回)</u>
	年間	別紙「年間事業計画」参照
保険加入等		劇場施設内での実施に伴い、施設損害賠償保険を適用する考え方

【活動の様子 (PV)】 <https://youtu.be/wcAl2gMqKGw>

# 成果報告書

**地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業**

<b>団体名</b>	特定非営利活動法人 掛川文化クラブ		
<b>所在地</b>	静岡県掛川市上西郷1703-1	<b>設立年</b>	2021年
<b>運営主体</b>	特定非営利活動法人 掛川文化クラブ		
<b>事業目標</b>	①合唱・吹奏楽・弦楽等の基礎技術の習得をするとともに、仲間と共に音楽活動をする喜びを共有する。 ②各分野(合唱・弦楽・吹奏楽)の地域団体との音楽交流。 ③常時活動の成果発表会の開催。 ④掛川市教育委員会又は市文化課並びに市内小中学校との連携強化。 ⑤中学校文化部の地域移行へ向けた試み。		
<b>きっかけ</b>	・学校における芸術教育は、授業数が学習指導要領改訂のたびに減少し芸術教育そのものが脆弱なものになりつつあることから危機感を持ち、学校外における芸術教育の必要性を感じた事が最初のきっかけである。さらに、中学校部活動の地域移行が提言される中で、益々その必要性を実感したからでもある。		
<b>団体・組織等の連携</b>	・現在掛川市では、掛川市教育委員会・掛川市文化財団・掛川市文化・スポーツ振興課が少しづつではあるが、連携をしながら地域部活動について推進しようとしている。掛川市は、令和8年度からの完全移行に向けて準備を進めており、特に、来年度からは吹奏楽の地域クラブ移行についての問題点を確認し、具体的な計画を進める予定である。掛川文化クラブとしては、保護者会の力を活用するような仕組みを考えている。		
<b>活動場所</b>	合唱～大日本報徳社記念館及び講堂 弦楽～掛川市生涯学習センターギャラリー・リハーサル室 吹奏楽～掛川市生涯学習センター第4会議室・掛川市立城東中学校音楽室等		
<b>活動概要</b>	①常時活動～各分野に分かれ、公立施設や学校を使って行う練習活動。 合  唱～毎週土曜日9:00～10:30  発声練習・ソロ練習・合唱曲練習等 弦    楽～毎週水曜日19:00～20:30  楽器のチューニング・テキストにより個人課題練習・合奏練習 吹奏楽～毎週土曜日13:30～15:30,隔週水曜日18:00～20:00 楽器別練習・合奏基礎練習・合奏曲練習 ②成果発表会～日頃の練習成果を発表し、お互いの演奏を聴き合う会及び交流会（年2回実施） ・地域の演奏団体(中学校又は高等学校の部活動)を招待して鑑賞会の開催及び交流会の実施 ・分野別講習会及びワークショップ ③クラブ運営～アウトリーチ活動 ・市内中学校吹奏楽部へNPO指導者が訪問し技術指導をする。 ・地域の企業や団体、市の担当課、市教育委員会との調整、保護者会等への活動の情報発信や支援の依頼、大学や高等学校との連携など。		

## ○本事業による成果

### ①常時活動

- ・各分野の地域指導者の熱心な指導や招聘した講師による指導により、児童生徒の技術の向上が顕著であった。
- ・練習活動や講習会をする中で、児童生徒が様々な人との交流できたことで、自らの取組み方等を振り返ると共に、練習に対する姿勢にも変化があった。

### ②成果発表会

- ・舞台での発表を通して、様々な方々に聴いていただくという音楽の表現活動を目標に置くことで、次第に練習への集中力や技術向上につながった。
- ・吹奏楽・弦楽・合唱3分野と一緒に音楽を共有できたことや、指導者の交流が深まった。
- ・中学生や高校生との交流を持つことで小学生が中心であった活動に、次第に中学生が参加するようになり、部活動の地域移行についての保護者の関心が高まった。

### ③クラブ運営

- ・事業推進検討委員会を開催することで、掛川市担当課・市教育委員会・市文化財団との間で、情報共有と課題が明確になった。
- ・現在は、吹奏楽・合唱・弦楽の分野での活動であるが、運営をする中で、この学校部活動の地域移行は、例えば、掛川市文化協会や地元の文化振興団体等と連携をとることで、文芸・演劇・写真等の分野においても児童生徒の可能性を芸術文化を広げられるチャンスでもあることを感じられる機会ともなった。

### ④市内中学校への訪問指導

- ・NPOに所属する役員(市の指導員を兼ねる)が、該当中学校へ週火木金土と放課後及び土曜日午前指導にあたる。放課後は1時間程度、土曜日は3時間を指導する。教員については、放課後指導は指導員に任せている。この役員が中心となり、掛川市内の中学校吹奏楽部への訪問指導を行った。丁度コンクールの時期という事もあり、パートごとの指導や合奏指導などを実施することができた。今年度は1校のみであったが、次年度より好評なこともあり、引き続き実施する予定である。

## ○運営上の工夫

### ①児童生徒の生活指導について

技術指導はもちろんのことであるが、活動をする上では生活指導も欠かせない。  
学習指導要領に示された部活動の意義について共有すると共生徒の自主的な活動を重視する指導を心掛けている。

### ②技術指導について

音楽を楽しむ上では、楽譜を読んだり、楽器を上手に吹けたりすることは、楽しさにもつながり、自主的な活動につながっていくため、外部より指導者を招聘して、クラブ指導者の工夫につながるようにしている。最近では、技術のレベルに合わせてグループ分けする等の工夫もしている。

### ③運営経費について理解をしていただくため、保護者会を立ち上げ、保護者の協力により、クラブサポーターを市民から募集する活動を始める。

### ④指導者不足は大きな課題であり、地元大学生の理解と協力を得られている。特に、他地域の調査も行う等本クラブ活動の参考となっている。指導者については高校生のボランティア活動に位置づけできないかを模索している。

### ⑤楽器の調達・運搬・保管について

楽器についてはすべて貸出である。市内の小学校・中学校の楽器調査を実施し、使用できそうな楽器を修理、地域の団体より譲り受けるなどして、管楽器・弦楽器を用意した。保管庫はない。現在検討中である。したがって、生徒が自ら運搬をするが、大型楽器については担当役員が毎練習日に自家用車にて運搬をしている。

### ⑥学校の校舎利用

指導員(NPO役員)が学校の別棟の練習会場のカギを管理し、開閉を行う。

### ⑦資金の調達方法

今年度は、ヤマハミュージックジャパンと共催にて、講習会を2回実施した。おおよそ経費の50パーセントをヤマハが負担した。

また、企業の賛助会員を募集しているがまだ数社に留まっている。今後は、市民にサポーター制度を導入して市民が子供たちの文化活動を支えるような工夫を考えている。



### ① 指導者の確保

特に多くの人数を抱える吹奏楽分野は、指導者の確保が急務である。これは、水曜日の夜(掛川市では部活動がない日)、土曜日の午後の活動においても同様で、さらに活動を日常の放課後となると人材をはとても足りない。しかもボランティアとなればほぼ人材確保は不可能である。また、楽器の専門性も必要とされ、地域の指導者だけでは担えない所もあり、月1回でも各パートを指導できる講師が必要である。合唱分野でもピアニストは必要であり、現在のようなすべて指導者が行うには無理があるしたがって、それが可能となる人材確保の仕組みを考えなければならない。

### ② 運営費の確保

現在は、会員1000円 月を徴収して活動をしている。しかし、会場費や楽器のメンテナンス、講師料など運営をする上で必要経費が不足しこの金額では運営が困難になっている。おおよその見積もりでは、3000円 月には必要になる予測である。他、賛助会員は2社 のみで、現在は市民でサポートする体制が出来ないか模索中。

### ③ 活動場所の確保

掛川市では、令和8年度より部活動の地域完全移行を計画しており、そのためには学校活用が必須である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

### ① 意識改革

私たち掛川文化クラブは設立して2年目となる。当初は小学生だけの活動となり、目指していた中学生の獲得には至らなかった。その要因として、当然ながら中学校で教員や生徒の地域移行に対する意識の薄さや戸惑いが大きく、敬遠される(学校によっては反発も)ような動きも正直あり、当初の目標とはかけ離れたスタートであった。しかし、2年目に入り小学生の学年も上がり、教育委員会等の働きかけもあり、保護者の意識の変化もあり、少しずつではあるが中学生が増えつつある。そういう意味では、しっかりと保護者、生徒に見通しを持たせる努力が必要で、地元の小学校への働きかけも大いに大切である。市教育委員会も部活動加入は必須でない事は以前から周知していることや、学校部活と地域部活動は同等である「公認地域クラブ」として活動できるため、今年度は、3月に集中的に小学生に対して体験会を実施する等する中で、徐々に中学生の意識も変わっていくものと思われる。

### ② ハードの整備

地域移行において課題になるのが、地域が広範囲になることである。これは、我々のような地域のクラブにとっては大きな問題で、結局は保護者が送迎するしか手立てはないため、大きな課題となる。したがって、金銭的にも、時間的にも、安全面でも活動するには学校を活用することがまずは大切であろうと思う。しかし、現在学校を外部の団体が使用することには、セキュリティ等の課題があり、中々前に進んで行っていないのが現状である。学校を地域のクラブが利用できる様に学校を整備することもやらなければならないことだと思う。

### ③ 運営経費の確保

我々のNPOの指導者は全員ボランティアである。しかし、継続をもとめるのであれば今までの部活動が教員の善意にすがっていたように、それを今度は地域のクラブに求めるのも変な話である。人の善意にいつまでもすがってはい問題の解決にはならないので、教育的な意義が部活動にあるとするならば、自治体がそこは教育の保障として金銭的な手立てや仕組みを考えるべきである。

### ④ 指導者の確保及び教育

どこが主導でこの地域移行を展開するにしても、指導者や見守りの人材も必要である。しかし、潜在的な指導者は存在するのであるが、実際指導者を確保するには大変苦労しているのが現状である。また、実際に活動してみると、やはり生徒を見る目線が必要で、そこにはやはり教員の目線は絶対に必要であることは我々の活動の中でもはっきりといえることである。したがって、教員の指導者の指導しやすい環境をつくり、教員の指導力をどう活用するのも大きなポイントとなる。また、一般の指導者の教育も必要で、指導には技術ばかりでなく、生活指導も伴うからである。したがって、指導者の研修指導も大事な要素であるように思う。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生33人 中学生6人 計39人
	学校名	掛川市内小学校掛川市立城東中学校、大須賀中学校、桜が丘中学校 栄川中学校、北中学校、常葉菊川中学校
	募集方法	①年度はじめに市内小学校・中学校へ募集チラシ配布 ②年間を通してホームページにて随時参加可能を告知
指導者	人数等	掛川市指導員2名、教員兼職兼業 1名、外部講師2名 教員経験者 2名、大学ボランティア3名、地元吹奏楽団員等
	募集方法	掛川市教育委員会を通して募集 本NPO役員からの紹介
参加者の移動手段		基本的に保護者に送迎をお願いする
活動費用	指導者謝金等	謝金 1,050円／回 吹奏楽講習会講師料 200,000円/2回開催
	その他	・楽器レンタル代 13,500円/月 ・常時活動練習会場費/15,700円/月 ・成果発表会会場費 80,000円/2回開催 ・吹奏楽講習会会場費 60,000円/回
活動財源	会費	年間10,000円(1,000円×10か月)
	その他	令和4年度は文化庁から業務委託を受け、活動財源とすることができた
スケジュール	基本活動	吹奏楽 毎週土曜日午後2時間/隔週水曜日2時間 弦 楽 毎週水曜日夜 2時間 合 唱 毎週土曜日午前 2時間
	年間	令和4年度 ・4月から3月常時練習活動 ・成果発表会 (第1回 10/2,第2回2/12) ・吹奏楽講習会(第1回10/30,第2回1/21) ・弦楽講習会 (12/21) ・合唱講習会 (2/5)
保険加入等		スポーツ安全保険 800円 (生徒39人+指導員28人)=53,960円

# 【活動の様子（写真添付）】

## 令和4年度 NPO法人掛川文化クラブ 活動の歩み

### 常時活動

合 唱～大日本報徳社記念館及び講堂  
弦 楽～掛川市生涯学習センターギャラリー  
吹奏楽～掛川市生涯学習センター及び城東中学校

説明会 令和4年5月1日（日）



### 体験会 合唱



### 弦楽





## 吹奏楽



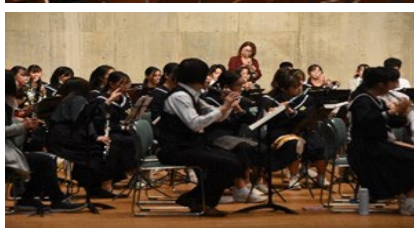
## 常時活動





## 第1回吹奏楽講習会&交流会

### 吹奏楽講習会



### 弦楽講習会



## 第1回成果発表会





## 第2回吹奏楽講習会 & 交流会



## 第2回成果発表会





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部		
所在地	静岡県掛川市	設立年	2021年
運営主体	特定非営利活動法人 日本地域部活動文化部推進本部		
事業目標	<p>●目標1 …企画提案書「課題1」に対し、地域部活・掛川未来創造部Paletteでの4年間の活動の成果をベースに、新たに創部する中学生の地域部活動も含め、発展的な活動プログラムの展開を目指す。 [具体的な成果目標] → 在り方を示す企画および体制を明確に可視化し、全国に向けたプレゼンや検証のための発信事業の中で研究成果として編纂し、発表を行う。</p> <p>●目標2 …企画提案書「課題2」に対し、人材の確保とオンライン・オンデマンドでの配信コンテンツの企画開発制作を継続的に行い、NPO本部(当法人)が配信支援を実践する。 [具体的な成果目標] → 各拠点に直接人材の確保 … 現場の見守りスタッフ(シルバー人材派遣の活用など) ・オンライン人材 … プロデューサー、アドバイザーなど各種担当スタッフの人選および体制確立 ・教材 … オンラインおよびオンデマンド配信用の教材の企画・開発・制作(部活動の在り方、行動指針、未来の社会像、自分も活かし他者も活かす視点など実践で活用し検証を行う)</p> <p>●目標3 …企画提案書「課題3」に対し、全国展開している一定規模以上の企業複数社による協賛を交渉・獲得する。 [具体的な成果目標] ・全国 → NPO本部を支える大きな基盤構築を目指す(大企業・複数社、令和5年度からの契約)</p> <p>●目標4 …企画提案書「課題4」に対し、現・部員が所属する中学校に地域学習の調査・把握を進める。 [具体的な成果目標] → 部活動内で行う地域と連携した企画において、学校での学びとのつながりを意識できるようにサポートを行う。</p>		
きっかけ	2018年創部、民間NPO主催の文化系・地域部活動の実践をベースに、全国における地域移行を、地域側から新設していく展開の支援を目指すNPO法人を発足したことから本事業に応募		

<p><b>団体・組織等の連携</b></p>	<p>◇ネット情報番組(2022年7月～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の市町の教育委員会(焼津市教育委員会、奈良県・生駒市教育委員会)</li> <li>・市町の地域移行の受託先(掛川市文化財団)</li> <li>・民間の地域部活動主催団体(NPO法人 文化部活動の地域移行支援ネットワーク:埼玉県、一般社団法人しずおかBukatsuDoクラス しず部、藤枝地域部活動Yattara )など</li> <li>・民間の協賛団体(島田掛川信用金庫)</li> <li>・民間のプロボノ支援団体(維新エンターテインメント)</li> </ul> <p>◇地域芸術祭×地域部活動の協働プロジェクトの展開 (地域と共に発展する持続可能な在り方の追求の実践検証)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛川市文化スポーツ振興課(かけがわ茶エンターレ実行委員会)</li> </ul> <p>◇Pocca直轄部活動(掛川未来創造部Palette)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掛川市教育委員会</li> <li>・部員が通う中学校(市内7つの中学校) (年1回、中学1・2年は年度終わりに個人毎に指導要録記載の参考資料を送付) (中学3年は、学校指定のフォーマットに準じて個人毎に調査書参考資料を送付)</li> </ul> <p>◇中山間地の部活動の現状調査、オンライン意見交換会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮崎県東臼杵郡椎葉村在住 元・まちおこし協力隊員 (意見交換会:村民主導、合同会社ミスマス主催)</li> </ul>
<p><b>活動場所</b></p>	<p>◇ネット情報番組の企画・制作・配信 ⇒ NPO法人 事務所 Pocca本部 1Fスタジオ(静岡県掛川市家代)</p> <p>◇Pocca直轄部活動(Palette) ⇒ 掛川市美感ホール(～2022年12月)、掛川市生涯学習センター(2023年～)</p>
<p><b>活動概要</b></p>	<p>◇部活動の地域移行に関する情報発信 ⇒ ネット情報番組「ChCoCo」開局 (国民的なコンセンサスを得るための情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域部活動および地域クラブのオンライン意見交換会の実施</li> <li>・教育課程内の探究学習との親和性に基づく講演や事例発表の配信 など</li> </ul> <p>◇少人数、低額な会場(省スペース)で持続可能な部活動の実践と検証 ⇒直轄部活動(Palette)の会場変更、活動ジャンルを声の表現・アート・ITなどに限定 (生徒、保護者に各々説明、活動のダウンサイジングとモチベーションの相関を検証)</p> <p>◇地域と共に発展する持続可能な部活動の在り方の探究 ⇒地域芸術祭×地域部活動の協働プロジェクトの始動(直轄部活動Paletteメンバー有志の参加)</p> <p>◇中山間地の部活動に関する保護者等の声の調査・オンライン意見交換会 保護者や地域住民の視点より、3月中旬に村民主体・合同会社ミスマス主催の意見交換会「子どもたちの『やりたい』を育む部活動とは？」にPocca理事長がオンライン参加</p>

## ○本事業による成果

### ◇部活動の地域移行に関する情報発信

⇒ ネット情報番組「ChCoCo」開局

目的: 国民的なコンセンサスを得るための情報提供

- ・地域部活動および地域クラブのオンライン意見交換会の実施
- ・教育課程内の探究学習との親和性に基づく講演や事例発表の配信 など

#### [定量的観点]

##### ▽配信回数(コンテンツ数)

- ・Ch.CoCo試験放送 5回 配信20本
- ・Ch.CoCo本放送 4回(うち2回は3月下旬に編集版をアップ) 配信5本

##### ▽参加者数

- ・本部スタッフ数: 総合プロデューサー1名、放送スタッフ 5名
- ・放送の出演人数: 2022年-20名、2023年-20名

##### ▽再生回数(YouTubeチャンネル)

- ・総計 2878回 (3/10時点)

※3月下旬に特番を2本、編集版をアップロード配信予定。

⇒ChCoCo YouTubeチャンネルURL: [https://www.youtube.com/channel/UCL1Q9f36k-mHvyMcenDV\\_7A](https://www.youtube.com/channel/UCL1Q9f36k-mHvyMcenDV_7A)

#### [定性的観点]

部活動の地域移行には様々なケースがある中、ChCoCoではレギュラーコーナーとして、

- ・地域部活(クラブ)レポ
  - ・NEW TRY(これまでに無い新たな取組の紹介)
  - ・ブカツのこと、聞いてちゃいます!(各方面の専門家へのインタビュー)
- を中心に配信。レギュラー放送は1回約30分、特番は1時間~2時間で放送。  
長時間にわたる視聴は難しい時のために、単体コンテンツも小分けにして配信。

※教育課程内の学び(地域と連携した探究学習)を地域部活動の親和性をもとに企画した、1/26「地域部活プレゼン&パフォーマンス2022+1」を配信。先進事例の高校教諭の講演と事例発表を配信。

<https://youtu.be/mq38zAtmx5Q>

### ◇NPO本部⇄部活動拠点の接続

#### [定量的観点]

##### ▽オンライン接続

- ・5~6月、8~12月
  - ・Pocca本部と直轄部活動拠点をZOOM接続を実施。
  - ・本部スタッフ 2名、拠点セッティングスタッフ 1名
- ##### ▽オンラインワークショップ(Poccaが外部講師を招聘)
- ・2022年度 5回実施(声優1回、謎解き2回、シティズンシップ2回)
- ※そのほか、テレブカツ中にChCoCo放送の視聴を数回実施。

#### [定性的観点]

Pocca本部と活動拠点を結んだ活動は、2022年度でほぼ定着。

オンラインワークショップの回数は少ないものの、ChCoCoの放送やコンテンツ視聴を度々活動の中で実施。

拠点は講師招聘費用がかからず、本部との接続で参加可能な形を実施できている。

◇少人数、低額な会場(省スペース)で持続可能な部活動の実践と検証  
⇒直轄部活動(Palette)の会場変更、活動ジャンルを声の表現・アート・ITなどに限定  
(生徒、保護者に各々説明、活動のダウンサイジングとモチベーションの相関を検証)

[定量的観点]

▽直轄部活動(Palette)の実施回数  
・5月～3月 79回実施 うちテレブカツ(オンライン部活)は23回  
▽固定費用を2段階で削減  
・8月～ テレブカツと併用式  
・1月～ 一回7000円の会場(美感ホール)を、一回4000円弱の会場(生涯学習センター)に変更

[定性的観点]

部活動を自分たちで創る!の観点より、8月以降、練習回数およびテレブカツの日の調整等を部員の合議で決定。

・収入:部費1500円×部員数 に対し、  
・費用:会場費と見守りスタッフ人件費、WIFI月額契約料 の合計で  
バランスが取れる実施回数を合議で決定

持続可能な部活動の展開をベースに、更なるダウンサイジングをはかると同時に、活動ジャンルによって上下はあるものの、全体としてはモチベーションについては概ね維持されている。

◇地域と共に発展する持続可能な部活動の在り方の探究

⇒地域芸術祭×地域部活動の協働プロジェクトの始動(直轄部活動Paletteメンバー有志の参加)

Pocca所在の地域・掛川市が3年に1度開催する地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ2024」に向けた学生主体の企画制作チーム「未来創造プロジェクト」が2023年度からメンバー募集を開始して始動。  
Poccaは、子どもたちが自主的・主体的に地域におけるアートプロジェクトに参加する機会の創出を目指すことから、当プロジェクトと連携した動きを行う。

[定量的観点]

・対象:市内小学校高学年、中学生、高校生、大学生  
(地域部活の部員に限定しないNPO活動)  
・参加人数:直轄部活動(Palette)メンバーから有志6名が参加希望。

[定性的観点]

Paletteの部活動内で各種プロジェクトに参加しているメンバーが中心に参加を希望。  
部活動は地域の中で育まれる環境の中の一つであることから、望ましい方向にあると考える。  
※掛川での2024年までの協働事業の進捗を、ネット情報番組「ChCoCo」で追跡取材を行う。  
※今後、他地域においてもアートプロジェクトと共に新たに地域部活動の新設を提案、支援を行う。

◇中山間地の部活動の地域移行に関する調査・オンライン意見交換会

(保護者および地域住民の視点より)

[定量的観点]

・調査対象地域 1か所  
(宮崎県内の中山間地の村)  
調査:当地在住の元・町おこし協力隊員  
※保護者を対象に3月下旬にオンライン意見交換会を実施

[定性的観点]

・状況をヒヤリングの時点より、中山間地ならではの部活動維持が困難な状況を把握。  
・合同部への移行そのものも困難なこともあり、県の方針も含め、推移を継続して見守る。  
・既存の部活動の移行は困難であっても、地域に新たな受け皿創出が将来的に考えられる。



## ◇Pocca事業の検証

- ・地域部活カンファレンス&インスペクション実施  
(2/23 Pocca事業の検証会議&通常部活動の見学会)
- ・大学生の卒論研究でPocca事業の調査およびインタビュー

### [定量的観点]

- ・2/23に検証会議を実施。識者4名出席、事業報告に対して講評を受ける。
- (3/26に編集版をChCoCoからアップロード配信)
- ・大学生の卒論研究でのPocca事業の調査:2名が掛川に来訪

### [定性的観点]

自主性、主体性を重視した地域部活動の展開について評価を受ける。  
大学生からは生涯学習の観点からも地域人材が関わる部活動の展開について研究報告を受ける。

## 【教員の負担軽減】

◇本事業が直接的に既存の学校部活動の顧問教員の負担軽減につながることはないが、子どもたちのニーズに沿って、現在学校にないジャンルの活動を実現し、地域クラブが増え、地域に所属する部員が増加することで、学校部活動が中長期的視点で合同部や拠点校方式への移行促進につながる。

### ◇学校部活動との関連性について

学校部活動が長時間活動でなく、活動日が少なければ兼部も可能（Paletteでは兼部メンバーは2名）

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

### ◇技術の向上を目指す生徒への対応(プログラミング)

2022年度、掛川市で創設した掛川デジタルクラブを、Palette所属のITメンバーを紹介したところ、4名が参加を希望して移籍した。子どもたち自身のニーズにより合致する地域クラブが創設される場合は、随時、広報や紹介を来ない、1つの部活動が肥大化することが無いように対応する。

### ◇生徒自身の満足度

昨年が続いて、「自分がやりたいことができる」「自由」「楽しい」という感想を大多数の部員が語るほど、満足度が高い。

### ◇技術指導

技術指導は基本行っていない。すべて独学で調べて学んだり、お互いに教え合ったりが基本。

### ◇企画プロデュースのポイント

企画したり、制作したり、という観点の考え方や手法について、アドバイザー(オンライン講師)やプロデューサーがアドバイスを行っている。

### ◇関係するスタッフへの研修等

2022年度、掛川市教育委員会が実施する公認地域クラブの指導者研修を、Palette専属の見守りスタッフが受講。公認地域クラブ指導員として認証を受ける。

## ○運営上の工夫

### ◇生徒の自主性を最大限に尊重

現場で関わる大人スタッフは、離れたところで安全面を見守るのみとする。(専門的な技術指導は一切行わない) → 大人がアドバイスをしたり、会話をしたりすることが多くなると、高い確率で生徒は大人の指示待ちの姿勢になることが実証済。自分から考え、周りと協調して行動するためには、大人は基本活動に介入しないことが重要。

◇活動時間：平日に週2回、一日2時間に限定。土日は年2回程度のみ実施。

### ◇保護者との連絡

保護者宛てのメールアドレス宛てに適宜「保護者の皆様」宛ての連絡メールを送信  
重要な伝達事項は、通知文書をプリントアウトして配布もしくは郵送

### ◇プロデューサーの養成

Poccaの地域部活動運営には、プロデューサーの存在が必須。(企画制作を導き、学びの質と地域資源との関わりをもち、活動そのものの地域での価値を高める。そして、運営に必要な人材と資金を調達する。  
→次年度以降、現プロデューサーの後継となる、プロデューサー養成が必要。

### ◇民間企業とのタイアップ等

- ・謎解き考案や監修等のプロボノ支援(維新エンターテインメント)のタイアップが決定。次年度から本格化。
- ・協賛候補の大企業1社、次年度以降、本格交渉を進める。

### ◇用具、運搬、保管

- ・必要な機材は活動拠点の中のスペース(ロッカー)を借用して保管

### ◇活動支援・事業運営のためにICT活用

- ・ICTは、チャットツール(Slack)やGoogle Workspace等を活用
- ・関係者全員にとって無理のない仕組みの構築

またまだ十分で安定的な資金獲得が難しい状況であることから、一部本部スタッフの業務に負荷がかかっている状況、次年度以降、Pocca本部を支える大型資金基盤を造成し、事務局専属スタッフ体制の整備が必要。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

### ◇組織との連携

地域芸術祭との協働において、地元自治体(文化スポーツ振興課)とは十分に連携がとれている。  
次年度は、NPO活動支援センターの仲介支援を受けながら、大手企業に今後協賛交渉を進める。

### ◇人材確保

派遣の人材センターに発注し、適任の人材が常に見守りスタッフが常駐が実現。

### ◇会費(部費)徴収に関して保護者の理解

創部から4年間は無料。5年目が月1000円。2022年度から1500円に増額。2023年度に2000円まで段階的に増額することを保護者に通知。その都度、説明会をひらき、了承を得る形で進行。

### ◇補助金

2017～2020年＝静岡県文化プログラム、2021年＝アーツカウンシルしずおかより助成(支援)  
今後、地域単位(静岡県や掛川市)の公共の助成金は申請しない方針。

### ◇保険(公益財団法人スポーツ安全協会等)への加入

保険への加入は必須。必ず年度始めに加入・徴収。送迎移動中の事故や個人活動も補償にはいるAW区分に加入

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ◇ネット情報番組「ChCoCo」、ChCoCoのSNSの情報発信を強化。  
⇒全国的な地域移行へのコンセンサスをはかることを更に強力に発信。  
⇒段階的な地域移行の動向を配信、情報共有
- ◇地域と共に発展する持続可能な地域部活の在り方の事例発信  
⇒地域芸術祭×地域部活動の協働、本格始動。  
⇒他地域の地域おこし、街づくりや街おこしとの協働を提案・支援
- ◇直轄部活動のダウンサイジングと小規模スペースでも可能な活動形態の試験・実践・検証
- ◇中山間地の部活動の地域移行の調査(継続)
- ◇運動部に所属している生徒も参加可能な企画(考案)系の文化活動の試験・実践・検証  
⇒複数のジャンルを体験できる新たな価値の創造

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	◇ChCoCo関係：年間50～100名 ◇直轄部活動(Palette)関係：50名
	学校名	◇Ch.CoCo関係： ・地域部活 掛川未来創造部Palette所属の中学生 約20名 ・藤枝地域部活動Yattaraの中学生5名 ・浜松学芸高等学校 高校3年生 5名 ・地域部活 掛川未来創造部Palette卒部の高校生2名  ◇直轄部活動(Palette)： ・参加部員 掛川市内の中学校(東中、西中、北中、桜が丘中、栄川中、大浜中、大須賀中)から43名が参加 ※2023年3月現在
	募集方法	◇ChCoCo関係： メール、SNS等で出演・参加を打診  ◇直轄部活動(Palette)： 市教委の全保護者への案内、独自にチラシ・ポスター等で広報
指導者	人数等	◇直轄部活動(Palette)： オンラインワークショップでのワークショップ 3名
	募集方法	当NPO法人より直接講師に依頼(オンラインにて招聘)
参加者の移動手段		保護者による送迎支援
活動費用	指導者謝金等	謝金：オンラインワークショップ謝金 5100円/1時間
	その他	見守りスタッフ(人材派遣) 1000円/1時間 会場費用 3300～3800円 1回/2時間 ※2023年1月～ WIFI月額使用料 5500円/1ヶ月
活動財源	会費	◇直轄部活動(Palette) 部費 1500円×部員数 ※2023年度より月2000円 不足分は、当NPO自己負担
	その他	地域と共に発展する持続可能な部活動の在り方を追求する観点より、特に日頃の活動の成果を発揮できる機会として、地域芸術祭のプロジェクトに積極的に参加。機会の創出や広報など、多方面にわたり自治体、文化振興担当部局と協働、支援を受ける。 →これらの機会を自費での実施は非常に困難

スケジュール	基本活動	◇直轄部活動(Palette) 平日 火曜・木曜 18時～20時 ・直接集合式 or テレブカツ(リモート部活動)のいずれか (月平均: 直接集合5回、リモート2～3回)  週末: 2～3回のみ(年間)
	年間	◇直轄部活動(Palette): 4月 1年生 体験入部 5月 1年生 本入部 6月 部内イベント「アイオライト」出演・制作・鑑賞 7月 ポテンシャル オブ 地域部活@あすなろ(Pocca主催)参加 11月 地域芸術祭「かけがわ茶エンナーレ2024」関連行事に有志参加 12月 部内イベント「STEP UP」出演・制作・鑑賞 1月 地域部活プレゼン&パフォーマンス2022+1 代表メンバーが出演 2月 地域部活カンファレンス&インスペクション2023に参加(現地視察会) 3月 ポテンシャルオブ地域部活@あすなろ 出演・制作・企画等で有志参加 3月 年度最後に部内イベント「謝恩会」出演・制作・鑑賞
保険加入等		スポーツ安全保険加入 ※個人活動(自宅でのリモート部活動も含む)も対応の保険に加入



## 【活動の様子（写真添付）】

◇ChCoCo配信 スタジオ風景(Pocca本部 1Fスタジオ)



写真：出演 北山敦康先生（文化庁「文化部活動の地域移行に関する検討会議」座長）

出演 藤枝地域部活動Yattaraのメンバー

◇直轄部活動（Palette有志メンバー） 3/4ポテンシャルオブ地域部活 共演ゲストと記念撮影



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	公益社団法人 教育演劇研究協会 劇団たんぽぽ（はままつ演劇クラブ）		
所在地	静岡県浜松市	設立年	2021年
運営主体	公益社団法人 教育演劇研究協会（劇団たんぽぽ）		
事業目標	本事業の実施を通して、児童生徒に文化芸術活動（演劇）体験の機会を提供するとともに、継続した演劇クラブとして様々な学校や学年の児童生徒が集える、地域に根付いた活動拠点を作る。また、参加する児童生徒の自主性、主体性を育み、その保護者や地域住民が、芸術文化に触れ、楽しむ機会を増やすことも目標。		
きっかけ	浜松市の小中学校には、演劇クラブや演劇部がない。しかし、演劇的手法を使った表現指導や学芸会指導を求める学校は多い。そのため、浜松市を拠点に活動している劇団たんぽぽが、子どもたちの学校や学年の垣根を超えて、地域活動として参加できる演劇クラブを創設した。		
団体・組織等の連携			
活動場所	主に浜松市浜北文化センター内施設（静岡県浜松市）		
活動概要	浜松市浜北文化センター内施設において、6月から土曜日を基本として活動。午前クラスと午後クラスに分かれて約2時間、小学4年～中学2年までの約20名を対象に行う。部費として月2000円を徴収。基本的に劇団たんぽぽ劇団員が指導にあたるが、その他の実演家もコーディネートする。台本を使い、演技だけでなく、照明、音響、美術、脚本等、幅広く演劇に触れながら、作品作りを目指す。年度末には、成果発表会を行い、一年間の活動の成果を地域住民や学校教育関係者に発表する。また、劇団たんぽぽの実際の公演現場を体験する機会も作る。		

## ○本事業による成果

- ・立ち上げの昨年度から継続参加者を含む計20名で始まった。途中1名の退部があったが、退部後も見学に訪れるなど、良好な関係が続いている。
- ・参加者の出席率は、9割であり、来年度以降もぜひ続けたいという声や、成果発表会時のアンケートでも来場者の中で参加してみたいという声が聞かれた。
- ・3月4日に実施した成果発表会では、参加者の家族や、友人、学校の教員など、あわせて約200名の来場があり、子どもたちの普段とは違った一面を見られたことをとても、喜んでいた。
- ・学校、学年の垣根を超え、協力し合おう姿を、成果発表会を通して地域の方々に観ていただくことができた。来場者のアンケートには、「感動した」「この活動をもっと広げてほしい」「学校以外の子どもたちの居場所としてもとても大切だ」「本格的演劇でびっくりした」「子どもたちが表現を楽しむ場は必要だ」など、多くの好意的な声をいただいた。
- ・市内の中学校に演劇部がなく、指導できる教員がいない等の問題もあり、学校内での創部は、教員の負担がかなり大きくなってしまう。そのような難しい現状の中、当団体が立ち上げた「演劇クラブ」が、保護者や教育関係者から、好意的に受け入れられ、継続が望まれたことは、本事業の成果である。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・成果発表会という、実際に舞台に立つ機会を作ることで、参加する児童、生徒が日々の活動の中で目標へ向かえるよう工夫している。
- ・指導には、現役舞台俳優や脚本家、振付師などプロが指導にあたり、指導者所属の劇団による実際の公演現場に立ち合わせることで、舞台に立つことだけではなく、演劇に広く触れられる機会を作るようにしている。



## ○運営上の工夫

- ・当団体が主体となって運営し、団体の実演家たちを指導者とするすることで、実施計画や活動内容のスケジュールが立てやすく、円滑な運営ができるように工夫している。
- ・行政や教育委員会、文化振興財団などから、実施にあたり助言をいただきながら、活動を進めている。
- ・自立した継続的活動として運営するため、保護者や地域の方々に活動を広く知ってもらうよう、広報に努めている。また、活動場所を統一し、参加者にも指導者にも負担を少なくする工夫をしている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

行政、学校教育機関、市の文化財団から、活動に対する助言や、協力は得られているが、資金面での協力を受けられるところを今後見つけられるかが課題。

また、活動場所として定着しそうであった浜松市浜北文化センターが、再来年度大規模改修工事に入るため、新たな活動場所も見つけなければならない。

ただ、保護者含め、学校関係者からも理解は大きく、今後は部費の値上げも視野に入れつつ、引き続き、資金調達のための協力者依頼や、補助金活用などを見つけていく。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

学校部活動の地域移行には、既存の部活動が中心に進められていくため、これまで学校の部活動として存在していない演劇部を学校の部活動として認知されるには、まだまだ、先は長いと考える。

しかし、小中学生でも演劇に興味があり、活動をしたいというニーズは大きい。そのため、まずは、地域活動として「はまつ演劇クラブ」を継続し、広く認知してもらうことで、部活動として認められるような働きかけをしていく。スポーツや音楽だけではなく、子どもたちが興味を持った活動が、幅広く享受できるようにすることが、重要と考える。

資金面や活動場所について、今後は、地域の団体や企業、行政の力も大いに借りながら、このクラブを定着させていく。

## ○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生15名、中学生5名 うち小学生1名途中退部。
	学校名	北浜南小、都田南小、相生小、富塚小、和田東小、新原小、北浜東小、上島小、赤佐小、三方原小、葵ヶ丘小 北浜中、開成中、丸塚中、笠井中、浜松西高中等部（以上すべて浜松市内）
	募集方法	教育委員会の許可を得て、学校を通して参加者を募集。 募集チラシによる募集。 市内公民館等でもチラシ配架による募集。
指導者	人数等	当団体団員11名（主な指導者5名、補助指導者6名）
	募集方法	団内で経験年数や経歴によって、選出。スケジュールとカリキュラムを調整し、指導にあたる。
参加者の移動手段		保護者による送迎。自転車。交通公共機関の利用。
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金（賃金）5100円/1時間
	その他	活動場所使用料：約8,000円/1日 教材、案内等の印刷代：約10,000円/月 保険料：38,400円/年間
活動財源	会費	月額/2,000円
	その他	地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業委託費
スケジュール	基本活動	6月～2月までの土曜日を基本に、活動。午前クラスと午後クラスに分かれ、それぞれ2時間の活動。（10時～12時もしくは、13時30分～15時30分） 3月初旬に成果発表会を実施。成果発表会が近づくと、活動時間を30分延長する場合もあり。
	年間	4月～5月募集 6月～活動開始 基本毎週土曜日（2～3時間/1回） 3月成果発表会
保険加入等		参加者、指導者は、スポーツ保険に加入。



## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	有限会社総合劇集団俳優館		
所在地	名古屋市中区栄1-22-17	設立年	昭和61年2月4日
運営主体	有限会社総合劇集団俳優館		
事業目標	子どもたちが主体的に活動でき、さらにのびのびと自由に表現が出来る環境づくりを目標とする。子どもたちが主体となってひとつの作品を作り上げる。子どもたちが表現者となり、学校現場では専門的で扱いにくいであろうミュージカル作品(歌やダンスの入った作品)を作り上げる。作品を作る過程で、例えば「観客を感動させたい」と子どもたちが思ったのであれば、それを目指して作品を作るなど、あくまでも子どもたち主体での作品作りを目指す。		
きっかけ	小学校で2020年度から実施されている新学習指導要領では、「知識及び技能」「学びに向かう力、人間性」「思考力、判断力、表現力」の三つの柱が重視されています。これは、子どもたちがのびのびと自由な発想をもって生きていくために、学校の先生だけでなく、子どもたちが関わる活動に関与する大人全員が注目すべき観点です。また、子どもたちが様々な活動に対して能動的に取り組む機会を継続的に設けることは、学校現場のみではなく地域で総力をあげて取り組むべき課題であると言えます。ただ、部活動における学校や教員の負担は大きく、結果、子どもたちが能動的にのびのびと活動に取り組む環境が作られていないのが現状です。そのため、地域の活動として子どもたちが主体的に活動でき、さらにのびのびと自由に表現が出来る環境づくりを実施していくべきであると考えます。		
団体・組織等の連携	愛知県豊川市を拠点に活動する「小坂井おやこ劇場」に運営協力を仰ぎ、地域の子どもたちとその保護者に向けて本事業参加の呼びかけ、作品発表の際の集客にご協力いただいた。作品発表の際は、参加した子どもたちの学校の校長先生、教頭先生、クラスの担任の先生などにお越しいただくことができた。また、参加した子どもたちの保護者のみならず、地域の皆さんにもお越しいただき、有料公演であったにも関わらず1日で180名の方にご来場いただくことができた。		
活動場所	主に、こざかい葵風館(小坂井生涯学習センター)、美園集会所。 ともに、公営施設。		
活動概要	令和4年9月までに「ワカタケ子どもミュージカル倶楽部事業」参加者を募集・決定する。令和4年10月～令和5年2月に作品制作を行う。3月に、こざかい葵風館集会所にて作品発表を行う。地域で活動する俳優・演出家・音楽家が、作品作りのサポートを行う。		

## ○本事業による成果

今までお芝居や歌・ダンスを経験したことのない子どもたちが、芸術分野に触れる機会を得ることが出来た。

はじめは親の勧めで参加した子どもたちもいたが、回数を重ねるたびに本人の活動に対する意欲も高まっていった。作品発表間近には、子どもたちのみで自主練習を計画したり、表現方法を子どもたちから提案するなど、意欲的な姿勢をみられることができた。

事業の最後に、参加した子どもたちから「楽しかった」「またこんな機会があったらやりたい」「来年度は集まれるメンバーは自主的に集まって、役を変えてやってみようと思っている」という声をもらうことができた。これまで経験のなかった子どもたちが、お芝居をすることや、セリフ・歌・ダンスを観客に届けることに興味を持ち、表現活動を楽しんでいたことが見受けられた。

また、参加した子どもの保護者からは「子どもがこんなにも熱量をもって取り組んでいる姿を目の当たりにすることが出来た」「家でこっそり練習している姿を見てほほえましかった。」「末っ子のわが子が、この事業では年長で、お兄さんの役割をはたしていると聞いて嬉しかった。」など何うことが出来た。

また成果発表を観に来たお客様からのアンケートを138回収することができた。そのアンケートによると、回答者の全員から「とてもよかった」「よかった」という回答を頂いた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

お芝居の経験が無い子どもに多く見られるのが「ダイナミックな表現を恥ずかしがる」ということ。本事業に参加する子どもに、当初経験してほしいと我々が考えていた「自分の中で変化する感情を俯瞰して観察し、表現に昇華する」ことがたとえてきていたとしても、観客にそれが伝わらなければもったいないことである。「観客に伝わる大きさで表現すること」と「自分の感情を大切に、感情を置いてけぼりにしないこと」の両立に重きを置いた。

演出の指示通りに、ただ形だけ大きい表現をすることは避け、「なぜその声の大きさなのか」「なぜそんな大きな動きになるのか」ということをひとつひとつ問いかけながら、お芝居を構成していった。

子どもが「新しい表現や、より大きな表現にチャレンジしている」という場面を見つけたら即座に褒めた。また、子どもが「〇〇のシーンは△△のような表現(ex.怒った言い方、笑みを浮かべながら、そっと相手に近づいて、など)が良いと思う」という発言がみられたら、まずは肯定し、できる限り子どもたちのアイデアを作品に組み込んでいった。

## ○運営上の工夫

お芝居やミュージカルに参加したことのない子どもや保護者ばかりだったため、参加するにあたって、基礎的なところから説明する必要があった。主にメールで共有事項を頻繁に連絡した。

稽古場でどんなことをやっているのか不安に思われる保護者もいた。希望があれば、見学も許可した。練習の様子は、メールの文章だけでなく写真や動画を共有することもあった。

愛知県豊川市を拠点に活動する「小坂井おやこ劇場」に運営協力をしていただいた。作品発表の際は、広報活動のお手伝いをいただいた。豊川市の公共施設に置きチラシをお願いしたり、ポスターの掲示を依頼していただいた。また、普段から地域との連携がとれている「小坂井おやこ劇場」に間に入っていたことと、子どもたちの通う学校の先生が、本事業に興味を持ち作品発表をご観劇くださった。先生からは「子どもたちが輝ける場を提供する素晴らしい企画」「学校では見せない顔を見ることができた」とお褒めの言葉をいただいた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

今回、作品発表を地域の皆さんにご観劇いただく際、公演協力費としてひとり200円頂戴した。もう少し高い金額でも良いと感じたため、今後はもう少し徴収して事業にその分反映してもよいと感じた。

参加者は全員ひとつの中学校校区に住んでいたため、練習の際に集まりやすかった。

地域で活動する「小坂井おやこ劇場」と連携がとれたため、練習会場が事務处理的にも金銭的にも抑えやすかった。継続的な運営を考えると、このような既存の地域サークルと連携をとり、両者の目的を照らし合わせながら事業を進めるのは良いやり方ではないと感じる。

今回、我々が得意とする「演劇」を事業の種目としたが、参加者の通う中学校には「演劇部」やそれに準ずる部活動が無かった。そのためもあってか、子どもたちが「演劇」のプレイヤーになる機会がこれまで無かったままスタートした事業であった。ただ、同じメンバーで本事業を継続するのであれば、より深い表現方法の模索や工夫ができると考える。すると、作品のクオリティもあがり、子どもたちはより深い学びや気づきを得られるのではないかと考える。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

参加する子どもも、作品発表をみる子どもや大人も、子どもたちが初めてお芝居をしている姿に感銘を受けることが今回わかった。今後成果発表をする場合は、より多くの人に観客になってもらうことを目指すべきである。

特に、学校の教員が、普段接している児童・生徒の舞台に立つ姿を見ることで、学校現場に生かせるヒントを得ることができるのではないかと考える。成果発表の際は、事前に学校関係者に広く企画を周知すると良い。

また、部活動の地域移行が進めば、教員の教育現場での負担が減り、子どもと接する際のパフォーマンスがあがる可能性がある。空いた時間で、このような事業に参加する子どもたちを観に行き、新たな刺激を得ることが出来るかもしれない。地域の活動に教員が関わり、相乗効果を生めるような計画を立てられると尚良いと考える。

部活動を地域に移行することで、複数の学校の児童生徒が一緒にひとつの目標に向かって挑戦することが出来る場をつくりやすくなる。普段学校で人間関係に悩む子どもや不登校気味の子が本企画に参加し、結果、日々の楽しみを増やすことができたという声を実際に頂いた。放課後、学校ではないところで気楽に活動する場があるということは、非常に意義があるのではないかと感じた。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小中学生40名
	学校名	豊川市立小坂井西小学校、小坂井東小学校、小坂井中学校
	募集方法	施設の置きチラシ、イベントパンフレット等への折り込み、同一中学校校区内の子どもたちから参加を集うために、地域の小中学校に参加者募集の広報協力を仰ぐ。
指導者	人数等	4名
	募集方法	有限会社総合劇集団俳優館が選んでお声がけし、企画に賛同頂いた、地域で活躍する演出家・俳優。
参加者の移動手段		公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	本事業の経費から。
	その他	作品発表の際に観劇されたお客様から公演協力費として、ひとり200円徴収し、活動経費に充てた。
活動財源	会費	なし
	その他	本事業の経費と、作品発表の際に観劇されたお客様から徴収した公演協力費。
スケジュール	基本活動	指導者による演劇に関するワークショップ(発声、身体の動き、等)、作品発表に向けての台本を使った練習。
	年間	令和4年10月～令和5年2月の土日祝日から、1日3～4時間、27日間の練習。令和5年3月4日作品発表本番に向けた仕込み・準備・ゲネプロ。3月5日作品発表計2ステージ。
保険加入等		特になし

【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	ジュニア和楽器楽団		
所在地	三重県津市	設立年	2022年
運営主体	三味恒		
事業目標	一般的に箏は「お金がかかる」「敷居が高い」というイメージが強いが、家庭環境や経済状況に左右されることなく、子供たちが身近に伝統文化に触れ、学ぶ機会を作ること。地方では特に少子高齢化により急激に箏を指導者できる人材が減少している。本事業の活動を通じて子供たちにお箏に対する興味や理解を深めてもらい、文化の普及と次世代への継承のため、演奏家や文化団体、教育機関と協力し、地域に根付いた団体を目指している。		
きっかけ	子供たちの多くは日本の伝統音楽である箏を見たことも触れたことも無い。また地方の演奏者の高齢化が進み、次の世代へ文化を伝える指導者が途絶えつつある。子供たちが身近に箏に触れられる機会をつくるため、将来へ文化を伝える担い手を育てるためジュニア和楽器楽団を立ち上げた。		
団体・組織等の連携	<pre> graph TD     S[小中学生] -- 案内 --&gt; G[ジュニア和楽器楽団]     G -- 月謝 --&gt; S     I[箏指導者] -- 実技指導 --&gt; G     G -- 謝金 --&gt; I     M[自治体教育委員会] -- 募集 --&gt; G     G -- 活動報告 --&gt; M     D[楽器店] -- 楽器、活動場所提供 --&gt; G </pre>		
活動場所	三味恒、楽団の稽古場、講師の稽古場、津市内公民館		
活動概要	生徒一人につき月に一回の個人レッスンと全員で集まる合奏練習を月に一回行う。当楽団では年度単位のプログラムや学校訪問のような和楽器体験で終わるのではなく、持続的かつ質の高い指導を行い、次世代の担い手を育成する。地域に根付いた文化団体として子供たちへ伝統文化の継承するため活動する。		

## ○本事業による成果

参加の応募をした子供たちのほとんどは「お箏を習いたい(子供に習わせたい)がきっかけがなかった」や「この事業を知ってお箏を習ってみたいと思った」という理由であった。日本の伝統文化である「箏」を日本人が身近に学ぶことができないのが今の日本の社会である。習い事といえばピアノ、水泳、体操、ダンス、野球やサッカー等の球技、英会話などが一般的であるが、本事業で小中学生に告知したことで、多くの子供たちや保護者がお箏に興味を持つきっかけができた。参加した生徒の保護者には敷居が高い思われがちである伝統文化を、家庭の経済状況等に左右されず体験し学べる事を理解して頂けた。

お箏の演奏方法だけでなく挨拶や所作、心構えなども指導し、保護者の協力も得て日常生活でも心がけるようになった。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

従来の教則本や小曲集では小中学生が知っている曲が少なくお箏をあまり身近に感じられない。幼稚園でよく歌われる曲やテレビで耳にする曲から日本伝統の五音階で演奏でき、初歩から順にステップアップしていけるようオリジナルの教本を制作。なじみの曲をお箏で弾くことにより、敷居が高いやとっつきにくさというお箏のイメージから、より身近に感じてもらえるよう工夫した。

ステップ1ではお箏の基礎を学ぶ。レッスン形式を対面とオンライン併用のハイブリッド型レッスンを実施した。対面の生徒は一对一で講師から指導を受け、その生徒に合わせた指導を受ける。他の生徒はオンラインでレッスンの様子を観て一緒に学ぶ。ステップ2ではハイブリッド型を廃止し、代わりに団員専用のオンラインドリルを公開した。オンラインドリルは基礎から様々な奏法の解説と反復練習用のドリルをプロ演奏家の監修および出演協力を得て動画教材を制作した。プロによる指導をつねづね受けることは地方では困難であるが、このドリルにより自宅での練習時にもプロの指導を取り入れられる。また地域の指導者の指導力底上げにもつながった。

コロナ禍で合奏練習を欠席する団員も多かったが、合奏練習の様子を撮影した動画を基にしてその日の練習メニューを学ぶ動画教材を制作。団員専用ページにて公開し欠席者も合奏に遅れないように対応した。

レッスンの度に指導者が日誌を付け、団員一人一人の指導のポイントや得意または苦手個所などを事務局と指導者間で情報共有し、限られたレッスン回数の中でより高い精度で指導を行った。

## ○運営上の工夫

ハイブリッド型レッスンやオンラインドリルを活用することでレッスンの回数を減らし、指導謝金に掛かる活動費用を節約しつつも習熟度の高い指導を可能にした。

新型コロナウイルスの感染者数が多い時期には大人数が集まることによる感染リスクを避けるため、団員を3グループに分け少人数ずつでの合奏練習を実施した。

団員および保護者への連絡手段としてLINEアプリのオープンチャット機能を使用し必要な情報を迅速に漏れなく伝達できた。団員間のプライバシーを保護するとともに、保護者同士のトラブル等もなく終了できた。一方で団員同士や保護者同士のコミュニケーションを取る手段がなく交流を望む声もあった。次年度は「らくらく連絡網」等、他の連絡アプリの導入も検討している。また楽団の保護者会を結成し、より親睦を深められるよう意見交換の場を設ける。

保護者の送迎や楽器運搬の負担を減らすため、自宅練習用の箏を全員に無償貸与している。稽古場で行う合奏練習時には別の楽器を用意し、できるだけ楽器運搬による負担を保護者に掛けないように配慮した。



## ○継続的な運営に関する課題・展望

【募集定員と楽器の確保について】今年度は楽器店の全面協力により無償で箏および備品一式を借りられたため活動できた。しかしながら借りられる楽器の数には限りがあり、今年度の参加希望者は約60人いたが、楽器が用意できるのは20人分であったため定員を設けて抽選にて参加者を決定した。今後団体で使用する楽器は一般市民から使わない箏の寄付を集める。実際に家に眠っている箏は世に数多く存在し情報が周知できれば十分な数の箏を確保できると考えられる。寄付を募るチラシやポスターを制作したが、津市や津市教育委員会からは協力が得られず、学校への配布や公共施設への掲示は叶わなかった。情報の周知には費用がかかるため楽器数と募集定員を段階的に増やしていく。来年度はまだ十分な数が確保できないため、足りない分は県内の高校箏曲部から箏を借用し活動する。

【費用負担について】来年度より団費3,000円／月を徴収する。すでに保護者には告知済みであり各自が団費を踏まえて継続するかどうか判断する。楽団が行ったアンケートでは金額について高い0%、妥当60%、安い40%。また次年度も継続したいかについて続けたいが70%、迷っているが23%、続けないが7%であった。費用の負担に対しては全員が安いまたは妥当と回答した。継続するか迷っている・続けない理由としてはレッスンの日時が合わないや自宅での練習時間の確保が難しいという意見がほとんどで、他の習い事との両立が課題である。

【活動場所について】公民館等の公共の施設の利用は予約を確約できないので、活動日時と場所の決定が一カ月前になり、団員や指導者のとのスケジュール調整が困難である。当楽団では箏演奏者の所有する建物で津市内の現在使っていない場所を楽団の稽古場として借りることができた。現在楽器の設置など準備を進めている。2023年3月から楽団の稽古場として利用する。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

公立中学校を管轄としている市の教育委員会が地域によって中学部活動地域移行に対する意識が違う。地域移行の担当者や窓口すらない地域もあり、何度も足を運んだが十分な理解や協力を得ることができなかった。部活動の地域移行という前例のない事業であるため消極的であり、意見交換の場や校長会への参加が認められることはなく、教育委員会との連携という面では満足いく結果は得られなかった。学校単位では管理職(校長・教頭等)の先生方から非常に興味を持ってもらい訪問し意見交換をしたり、生徒募集の協力を得たりできた。現場との温度差、地域による行政取り組み方などを見極め、その地域に合わせた連携の体制を整える必要がある。

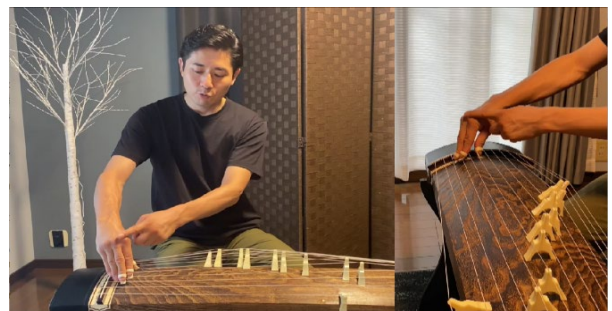
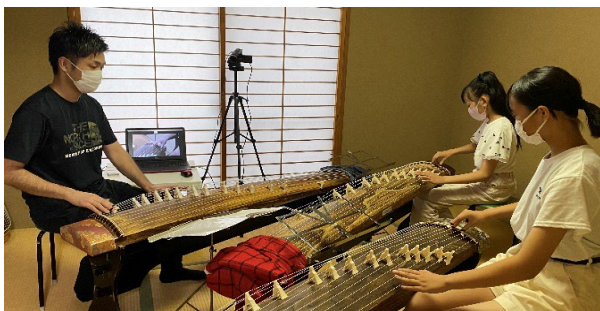
学校で行う活動であれば毎日放課後に活動する。学校にいて特段の事情がなければ毎日練習に足を運ぶ。それに対して地域移行した場合は毎日活動があるわけではなく、月に数回の活動日以外は生徒自身が自宅で自主的に練習する必要がある。仲間や先輩後輩と一緒に活動することで練習に集中するが、一人では練習の質を高く維持できるか個々に委ねられる。練習の量や質に個人差が出ることが予想されるが、生徒自身が魅力を感じ自主的に練習に励むような内容にしていくことが必要である。

和楽器という分野は小中学校では楽器や備品を揃え練習環境を整えること、またそれらを保管・管理する場所の確保が学校では難しい。指導には専門的な技能を要するため学校教員では難しく、地域移行し専門的なノウハウがある団体が受け皿となることが理想的である。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生13人、中学生7人
	学校名	三重大学教育学部附属小学校、私立鈴鹿中等教育学校、私立セントヨゼフ女子学園、津市立修正小学校、南が丘小学校、川口小学校、一身田小学校、育成小学校、成美小学校、北立誠小学校、大三小学校、天栄中学校、南が丘中学校、久居中学校、東観中学校
	募集方法	津市内の小中学校に募集チラシの配布。県内の小中学校や公共施設にポスター掲示。ホームページ、SNSページを作成し告知。
指導者	人数等	当団体団員 1名 外部講師 4名
	募集方法	対面で指導する講師は三重県在住の箏指導者の中から中学高校での箏曲部の指導の経験豊富で、平素より積極的に小中学校へ体験授業で訪問している指導者を3名当団体が選出した。さらに東京で活動するプロの演奏家に指導内容の監修やICTを活用した指導を依頼。
参加者の移動手段		保護者による送迎。公共交通機関の利用。
活動費用	指導者謝金等	2,720円／時間
	その他	津市内会館使用料 2,000～4,000円／1日
活動財源	会費	会費の徴収なし
	その他	
スケジュール	基本活動	個人レッスン 1回／月 × 団員数 合奏練習 1回／月
	年間	6月5日 開講式 6月6日～15日 プレレッスン…爪の当て方、楽譜の読み方、オンライン利用方法の説明や実践など 6月16日～9月 ステップ1…日本音階で基礎を学ぶ 10月～2月 ステップ2…基本奏法の練習と、ドレミ音階で曲の実践練習 2月26日 発表会(本事業助成外)
保険加入等		損害および傷害保険(20人分) 6,760円／年

## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	もりやまルシオールアカデミー文化部門 ルシオールユースウインドオーケストラ		
所在地	滋賀県守山市三宅町125番地	設立年	1986年
運営主体	公益財団法人 守山市文化体育振興事業団		
事業目標	吹奏楽を通して守山市の中高生の健全育成と、文化活動への貢献を期待し、更には個人の演奏技術の向上と、部活動地域移行への貢献を目指している。また近い将来小学生を対象としたジュニアバンドを立ち上げ、全世代が吹奏楽で繋がり、「吹奏楽の街、守山」として守山市の文化水準の向上を目指している。		
きっかけ	守山市の文化施策の一環として、子どもたちが文化活動に積極的に関わる仕組みづくりを求められたから。 また、全国的に話題となっている部活動の地域移行と合わせて考える事でより効率的な取り組みに繋がると考えたから。		
団体・組織等の連携	<div> <div> <b>対 象</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>市立中学校4校</li> <li>県立中学校1校</li> <li>私立中学校1校</li> <li>県立高等学校2校</li> <li>私立高等学校1校</li> <li>合計9校吹奏楽部</li> <li>その他市内在住の中高生</li> </ul> </div> <div> <b>実 行</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人 守山市文化体育振興事業団 (守山市民ホール)</li> <li>ルシオールアカデミー (文化部門)</li> </ul> </div> <div> <b>成 果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○演奏技術向上</li> <li>○学校間・世代間交流</li> <li>○各吹奏楽部のレベルアップ</li> <li>○学校働き方改革への寄与</li> <li>○守山市の音楽文化の向上</li> <li>○守山市民吹奏楽団と連携</li> </ul> </div> </div> <div> <div> <b>支援</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>守山市</li> <li>守山市教育委員会</li> <li>市内経済団体等</li> </ul> </div> <div> <b>地域が育てる吹奏楽部 (吹奏楽のまち守山の実現)</b> </div> </div>		
活動場所	守山市市民文化会館(守山市民ホール)		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回～2回の吹奏楽合奏指導(1回3時間)</li> <li>・月に1回～2回の楽器パート指導</li> <li>・演奏会の開催</li> </ul>		



## ○本事業による成果

学校部活動との関連性について

●学校部活動の中では現状なかなか練習時間が足りず、一人一人に満足いく指導ができない、または各パートの専門的な指導までは出来ないため、このような受け皿があると有難い。

●LYWOに入団している生徒の技術が格段に向上している。

●出来れば多くの生徒がLYWOに入団して欲しいが、有料になるため学校側として強制できない。

→上記のような声をいちぶの先生方からいただいているが、まだまだ本市の多くの学校では学校部活動が

盛んかつ活発に取り組まれており、部活動地域移行の意識が薄いためLYWOの存在価値が発揮されていない。

今後本市の学校でも土日は完全地域移行という環境が整えばLYWOの存在価値が高まると確信している。また、誰もが入団できるような費用面の支援制度の整備が必要。

入団者や保護者の声

●学校部活動の内容に満足していないため、専門的かつレベルの高い指導が受けられる事が有難い。

●学年の違う人や、学校の違う人と交流ができて楽しい。

●費用が安いので有難い。

●楽器を吹く楽しさや、意識の高いメンバーで演奏できることが楽しい。

→現在LYWOに入団している生徒は比較的意識が高いため、部活動以外にこのような活動ができることを大変喜んでいただいていると実感している。ただ、活動そのものは有意義でもっと活動に専念したいが学校部活動との時間の兼ね合いでどちらを優先すべきか悩んでいるといった声も聞かれた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

●指導者に元教員を配置し、技術面の指導だけでなく、青少年育成の観点をもって指導している。

●各パートごとに専門のトレーナーを配置している。(音大卒の若手のトレーナー)

●ソルフェージュを指導要領に盛り込み、音程感や表現力、読譜力の向上に努めている。

●なるべく生徒の自主性に任せ、生徒が自ら考え行動できるように指導している。

●普段は違う学校に通い、週に1回程度しか顔を合わさない、言わば寄せ集め集団ではあるが、一つのチームとして結束力が高められるような指導方法を取り入れている。

(パートリーダーやパートトップを決めて、生徒同士が教えあったり協力し合ったりできる状況を作り出し積極的にコミュニケーションがとれる体制を構築している。)

●保護者や生徒の友達を招いての見学会や合宿の計画、または大ホールでの定期演奏会など生徒のモチベーションアップに繋がる活動を企画している。

●月に2回程度「LYWO通信」を発行し、生徒に様々な情報の提供や、指導者の思いなどを伝えることにより情報の共有や、意識の共有を図っている。

●楽器については予め教育員会と協議の上、各学校の楽器を持ち出し可能としてもらった。また大型楽器や持ち出し出来ない楽器については、守山市民吹奏楽団所有の楽器や、守山市所有の楽器を無償でレンタル

している。(社会教育活動には無償で利用できる規定があるため。)

## ○運営上の工夫

- 事務局として、教員OBを指導者兼事務局員を事業団職員として採用し、専門員としてLYWOだけの仕事に従事している。
- なるべく各学校、吹奏楽部顧問と連携を図り、学校行事や部活動行事とLYWO活動がバッティングしないようにスケジュール管理を行っている。
- LYWOのホームページを作成し、HP内で予定の確認や連絡事項を共有できるページを設けている。
- 事業団のいち事業として位置付けている事から、自主事業費を財源として当て込むことができる。
- 入団時に保険に加入し、万一のけが等に備えている。
- 文化会館職員全員がLYWOの活動を把握し、サポートしているため安心して団員が通える環境がある。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- 本市では教育員会も含めまだまだ部活動地域移行に向けての取り組みが遅れており、逆に当事業団がモデルケースとなるよう守山市や教育委員会に働きかけている。  
このような状況から、まだまだ学校部活動の邪魔にならないように気を使いながら運営している現状である。  
本市においてもっと地域移行の機運が高まれば、我々として学校側の要望や吹奏楽部顧問の要望を受け入れる体制を整え、コミュニケーションがとれる準備はしている。また、学校顧問によってはまだまだ部活動を熱心に取り組まれている方も多く、こちらの活動を好意的に受け止められていないと感じる。
- 公文協の連絡会でのLYWOについての活動報告を実施したり、新聞社等に取り上げていただいたり、徐々に認知度が高まりつつある事から、多方面から出演依頼や仕組みづくりを教えて欲しいなどの声をいただいている。今後滋賀県や滋賀県吹奏楽連盟とも連携を図り、吹奏楽の地域移行の一角を担えればと考えている。
- 4月に第1回目の定期演奏会を企画している事から、そこから更に市民等に広く認知度を高め、市内経済団体からの支援や市民からの寄付金を募る仕組みを整備していく。
- 現在は守山市所有の楽器を守山市民吹奏楽団と共用で使用しているが、楽器の老朽化が顕著であるため、修理や買い替え等の費用をどうするかが課題。
- 質の高い指導や環境を生徒たちに提供するにはやはり経費がかかる。その費用を受益者負担として徴収していくのか、誰もが希望すれば入団できる環境を提供すべきかに悩んでいる。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- 特に吹奏楽部の地域移行については、楽器の問題、活動場所の問題が大きいと思う。この問題を解決するために、地域の文化会館(劇場・音楽堂)の協力が必要不可欠と考える。  
また、人口が減少傾向にあり単独校での部活動が成り立たないために地域移行を目指すというものと、教員の働き方改革のために地域移行を目指すというのは切り離して考えるべきである。  
人口が減少傾向にない地域においては部員の数も多く、本市においても市内中高の吹奏楽部員の総数は約500名にもなる事から、特にこのような地域では文化会館の協力が必要である。  
吹奏楽部の活動には、合奏練習場所、パート練習場所、楽器の保管場所が必要となり、それぞれをきちんと管理できる環境が必要である。例えばこれを市内学校の持ち回り、あるいはどこかの学校を拠点にとすると結局その学校の先生は管理に追われ働き方改革には繋がらない。市、市教委、文化会館が三位一体となって協力する事でこれらの課題は解決すると考える。  
①文化会館を活動場所として使用可能か？可能な場合は条件面のすり合わせを  
②利用料金をどうするか？市が負担、文化会館側が負担、減免制度、受益者負担等  
③指導者をどうするか？吹奏楽部顧問が交代で、兼業制度で、外部から指導者を招聘  
④運営母体をどうするか？市、文化会館側、学校、他団体
- LYWOの場合  
①文化会館を管理運営する当事業団が自主事業として実施しているため、文化会館を自由に利用できる  
②利用料金は不要  
③市内中学校を退職された教員で吹奏楽部顧問経験者を事業団で採用  
④文化会館を管理運営する事業団  
※市民団体や、保護者の任意団体ではなく、経営基盤をしっかり持った団体が運営する事が、運営面でも予算面でも望ましい。
- 今回実際に運営をしてみて最も大事だと思ったのはやはり指導内容や指導方法である。  
ただ単に吹奏楽の演奏技術の向上だけでなく、学校部活動が長年培われてきた生徒の心の育成部分が地域に移行されても継承されるかどうかの大事。技術の向上は一定音大生や経験者が教えられるかもしれないが、心の育成については教員として長年生徒と関わり部活動顧問としての経験がないと難しいと考える。  
そのような事から教員OBもしくは現役教員の兼業が絶対条件になる。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	57名（休団者含む 高校生19名、中学生38名）
	学校名	守山市立明富中学校、守山市立守山南中学校、守山市立守山北中学校 守山市立守山中学校、滋賀県立守山中学校 県立守山高校、県立守山北高校、県立玉川高校、県立大津高校、 県立草津東高校、県立湖南農業高校 私立比叡山高校、私立立命館守山高校、私立近江高校、 私立近江兄弟社高校、
	募集方法	募集チラシを作成し、各学校吹奏楽部に配布 ※昨年8月頃より配付 入団説明会を4回実施
指導者	人数等	合奏指導者2名 パートトレーナー13名
	募集方法	合奏指導者が選任
参加者の移動手段		保護者の送迎、自転車、公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	5,000円／時 1回3時間 自宅～文化会館までの公共交通機関を利用した金額
	その他	コントラバスレンタル代 5,000円／月 楽譜や教材、その他消耗品費
活動財源	会費	1人 5,000円／月 （合奏指導料、パート指導料、保険代、消耗品代すべて含む）
	その他	守山市民文化会館自主事業費を充当
スケジュール	基本活動	毎週土曜日14時～17時合奏練習 その他月に1回3時間のパートレッスン
	年間	3月～4月入団受付 5月初心者を対象にしたLYWOトレーナーによる基礎レッスン 順次依頼演奏参加 9月～10月入団受付 年に一度定期演奏会を実施、また市の行事や依頼演奏に出演
保険加入等		スポーツ安全保険1人800円（月謝に含む）

## 【活動の様子（写真添付）】





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	大津芸能倶楽部プロジェクト		
所在地	滋賀県大津市	設立年	2021年
運営主体	大津芸能倶楽部プロジェクト		
事業目標	<p>古くから芸能にゆかりのある滋賀県大津市の歴史や文化を、芸能の鑑賞・実践を通じて主体的に学ぶ機会を提供することを目的に「大津芸能倶楽部」を創設し、昨年度から活動している。</p> <p>今回、2年目の取り組みとして、持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うため、下記の3つの課題の解決を目指した。</p> <p>①保護者の関心・理解度向上 ②行政や地域、学校との連携強化 ③稽古(活動)の効率化・経費削減</p>		
きっかけ	<p>古くから芸能にゆかりのある滋賀県大津市の歴史や文化を、芸能の鑑賞・実践を通じて主体的に学ぶ機会を提供したいという想いで発足。</p> <p>「フと〜 出会い、自分でやってみる」をテーマに、フと〜 表現に触れ、表現方法を学び自ら表現する機会を子供たちに提供している。</p> <p>この活動を通じて、子供たちの自立心・責任感の芽生え、問題解決能力の習得、自己肯定感の向上に寄与すると考えている。</p>		
団体・組織等の連携	<p>The diagram illustrates the collaborative network of the project. It features four main clusters:          <ul style="list-style-type: none"> <li><b>大津市内の小中学校 (Ōtsu City Elementary and Junior High Schools):</b> Includes '参加生徒の同級生等' (Peers of participating students) and '大津市内の小中学校・教職員' (Teachers and staff). It provides '鑑賞会兼ワークショップの提供' (Provision of appreciation events and workshops) and '参加生徒の同級生等' (Peers of participating students).</li> <li><b>地域文化倶楽部 (Regional Cultural Club):</b> Includes '参加生徒' (Participating students) and 'プロの表現者' (Professional performers). It provides '表現、創作技術習得に関する質問、サポート' (Questions and support regarding expression and creative technique acquisition) and '稽古場の提供' (Provision of rehearsal space).</li> <li><b>地域 (Community):</b> Includes '地域住民・自治連合会' (Residents and neighborhood associations), '稽古場の提供(大津百町館)' (Provision of rehearsal space at Ōtsu Hyakuchōkan), and '地域の文化団体' (Cultural groups in the community).</li> <li><b>行政 (Administration):</b> Includes '公民館・市民センター' (Community centers and city centers), '文化施設(スカイプラザ大津)' (Cultural facilities like Sky Plaza Ōtsu), and '大津市・大津市教育委員会' (Ōtsu City and Ōtsu City Education Commission).</li> </ul>         Arrows show the flow of support, information, and resources between these groups, such as '活動のサポート' (Activity support) from the community to the club, and '参加生徒の同級生等' (Peers of participating students) from schools to the club.</p>		
活動場所	<p>大津市内の小中学校:出張授業や鑑賞会、ワークショップを実施</p> <p>大津百町館(市民有志が運営する築150年以上の古民家):稽古や発表会を実施</p>		
活動概要	<p>今年は、以下のスケジュールで活動を行なった。</p> <p>5月～7月:鑑賞の機会の提供と参加者募集</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.大津市立打出中学校1年生に向けた活動紹介&amp;鑑賞会の開催(5/19)</li> <li>2.行政や学校、地域と連携した情報発信の実施(通年)</li> <li>3.参加希望者とその保護者、地域の方々に向けた鑑賞会&amp;ワークショップを開催(7/30)</li> </ol> <p>8月～11月:プロによる稽古と発表会の実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.大津百町館(地域の施設)でオンライン稽古を主とした稽古会の実施(8-11)</li> <li>2.大津百町館(地域の施設)で発表会&amp;鑑賞会の開催(11/5)</li> </ol>		

## ○本事業による成果

今年度の事業目標として掲げた以下の3つの課題について、それぞれの成果を示す。

### ①保護者の関心・理解度向上

保護者の関心を高めるため7/30に実施した無料体験会では、参加者の全員が”生で見て面白かった”と回答した。

また、子どもたちと一緒に参加した保護者からは、「講師の方々が子どもたちの質問に親身に答えてくれる態度が良かった。」「講師の方に自由に質問できたので、不安がなくなった」等の声をいただいた。

今回の参加者の中には、「実は昨年も子どもは参加したがったが我慢してもらった」という声があった。

このことから、

- 1.保護者に対して、「生で芸能に触れる」という満足度の高い体験を提供できた。
  - 2.保護者に対して、「学校外の指導者」の安心感を伝えられたことで、子供を通わせる不安が払拭できた。
  - 3.活動を継続すること自体が、保護者の関心や理解度の向上につながられた。
- の3点の成果が得られた。

### ②行政や地域、学校との連携強化

今回、昨年同様大津市立打出中学校の1年生(250名)を対象に、活動紹介&鑑賞会を実施した。

2年目ということもあり、準備や本番、その後のやりとりでも、学校側に負担をかけることなく、スムーズに実施することができた。満足度については、全体の80%以上の生徒が”生で見て面白かった””もう一度見たい”と回答し、全体の10%以上の生徒が、”自分もやってみたい”と回答した。

また、情報発信の面では、(メディア)行政機関の記者クラブ約30社に向けたプレスリリースや、(行政)滋賀県庁や大津市役所内、(地域)学区内の自治会(約100件の自治会)、(学校)学区内の小中学校(小学校3校中学校1校)の各方面において、それぞれチラシ配布やポスター掲示に協力いただくことができた。

さらに、滋賀県庁の職員からの提案で、”子ども体験向けリーフレット”に掲載いただけることとなり、このリーフレットがきっかけとなり、大津市外(彦根市)からの参加にもつながった。

このことから、

- 1.学校と連携することにより、子どもたちと”生の芸能”との出会いの場を作れ、”自分もやりたい”という関心を高められた。
  - 2.行政や地域、学校と連携することにより、地域に根ざした情報発信が可能となった。
  - 3.外部団体と連携することにより、当初想定していないプラスの効果(今回の場合、市外の参加者)を得ることができた。
- の3点の成果が得られた。

### ③稽古(活動)の効率化・経費削減

11/5の発表会に向けて、大津の参加者と東京の講師をオンラインでつないで稽古を行った。

今回は、4名(落語2名、コント2名)の参加があり、習熟度に合わせて各5~7回の稽古をそれぞれ実施した。稽古の前後や発表会後のアンケートでは、「東京で活躍するプロから気軽に稽古が受けられて嬉しい」「丁寧に教えてもらえて嬉しかった」など肯定的な声が多かった。

オンラインの稽古は、個別に行うため、個々の性格に合わせたペースで進められたので、大勢に向けて実施するよりも細やかな対応ができるので取りこぼしがなく、”芸能の稽古”との相性は良いと感じた。

また、今回は、大津市外(彦根市)からの参加者がいたため、大津の稽古場を使わず、講師の自宅と生徒の自宅を直接つないで指導する機会が複数あった。その際も特に不便がなく、スムーズに稽古を行うことができた。

このことから、

- 1.オンラインを使うことで、活動の経費(講師や生徒の交通費等)を削減できた。
  - 2.”芸能の稽古”を個別・オンライン指導することで、稽古の効率を高められた。
  - 3.オンラインのため遠方でも稽古に参加でき、移動時間の短縮につながった。
- の3点の成果が得られた。

### ○児童・生徒への指導に関する工夫

5/19学校での鑑賞会や7/30無料体験会では、昨年同様、単に芸能を学ぶのではなく、自分の住んでいる地域とのゆかりを伝えた。このことによって、子どもたちが芸能全体に親近感が湧き、モチベーションにつながった。2年目ということもあり、既にそのことを理解している生徒もあり、活動継続の効果を実感した。

また、オンラインの稽古では、プロと参加者の一対一の稽古ではなく、スタッフも入った3人での稽古という形にした。

スタッフが間に入ることで、プロに直接聞きづらいことを気軽に聞ける雰囲気を作れ、緊張しすぎない空間を作ることができた。

### ○運営上の工夫

少人数のスタッフでも十分な活動を行えるよう、新たな仕組みを0から作るのではなく、行政や地域、学校と連携し、既存の仕組みをうまく使いながら活動できるようにした。

特に情報発信の部分では、行政や地域、学校には既に発信手段があるので、その力を貸してもらえるように、担当者へ協力を仰いだ。昨年、NHKの地域ドキュメンタリーに取り上げられた影響もあり、初年度に比べると理解が早く、スムーズに連携することができた。

また、地域団体が安価で貸し出してくれる施設でオンライン稽古を行うことで、

・「子どもたちも安心して通え、かつ、地域の方々からも応援の声をいただく」というアナログのメリット

・「東京の講師から気軽に稽古が受けられる」というデジタルのメリット

双方のメリットを活かした。

### ○継続的な運営に関する課題・展望

今回、2年目の課題として、①保護者の関心・理解度向上②行政や地域、学校との連携強化③稽古(活動)の効率化・経費削減の3つをあげたが、2年目を終えてみて、この3点は、継続すればするほど解決されていく問題だと強く感じた。

実際、保護者の理解が向上したことにより、昨年は2組だった参加者の数が4組と2倍に増え、行政や学校との連携もスムーズとなり、稽古もより効率的に行うことができた。

そのため、今後の課題として挙げられるのは、“続けていくための”資金をどうやって得るか、という点である。

学校での鑑賞会については、文化庁が別で実施している事業(文化芸術による子供育成事業等)を活用することで、継続は可能であるが、それ以降の部活動の部分については、保護者への費用負担が避けられない。

ただ、既に部活や塾で費用がかかっている現状では、“新しい習い事のためにお金を使うかどうか”、という受け止められ方になってしまい、費用負担をお願いした場合の活動継続は、難しいと感じた。

また、行政や地域に関しても、現在は既存の仕組みの中で無償で協力いただいている形だが、行政の予算の中からこの活動を応援してもらったり、地域から寄付を募ったり、という形を模索はしたが、特に“公平性”の観点で、一団体の声を聞いてもらえる状況ではなかった。

昨年に比べると、部活動関連のニュースを目にする機会も増え、理解は進んでいるとは言えるが、行政や地域、保護者全ての主体が、地域移行の問題を自分ごととして真剣に考え、費用負担も受け入れる、という段階にまでには達しておらず、来年度同じ内容で活動を続けることは難しいと感じている。

### ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

前項にも記載した通り、継続するためには資金が必要になるが、現状、子供たちを取り巻く環境のどの立場の方々も、費用を負担する余裕がない。そのため、国が主体となって、地域移行の重要性を自治体や地域、家庭に働きかけていただくとともに、一定程度の資金を支援する体制が必要だと感じている。

来年度以降、吹奏楽などの既存・大規模な部活動の地域移行を進めていただくことで、全国的な理解は進むと思うので、そういった動向を見ながら、今後の活動を検討していきたいとも思っている。

ただ、この枠組みのおかげで、この2年間、地域の芸術団体だからこそ行える“新たな文化部活動”が実施できたのは確かだと思うので、この期間で得られた知見を、今後の多様な子供たちの文化部活動に活かせるよう、諦めずに活動の道を探っていきたい。

2年間、大変お世話になりました。またこういった取組をご支援いただく機会がありましたら、よろしくお願いいたします。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	5/19鑑賞会:大津市立打出中学校中学1年生・250名 7～11月活動:落語2名、コント2名、合計4名
	学校名	5/19鑑賞会:大津市立打出中学校 7～11月活動: 落語2名(大津市立中央小学校5年生、大津市立打出中学校・2年生) コント2名(大津市立平野小学校6年生、彦根市立南中学校・2年生)
	募集方法	1.大津市立打出中学校1年生に向けた活動紹介&鑑賞会の開催(5/19)  2.行政や学校、地域と連携した情報発信の実施(通年) ・滋賀県庁や大津市役所内でのチラシ配布やポスター掲示 ・記者クラブ約30社に向けたプレスリリース ・学区内の自治会(約100件の自治会)へのチラシ配布やポスター掲示 ・学区内の小中学校(小学校3校中学校1校)でのチラシ配布やポスター掲示  3.参加希望者とその保護者、地域の方々に向けた鑑賞会&ワークショップを開催(7/30)
指導者	人数等	①メインの指導者:全国的に活躍する芸能実演家5名 ②補助指導者:芸能制作経験者1名 ③当日運営スタッフ:1名(地域団体から参加)
	募集方法	各芸能実演家から紹介。 今回、スタッフとして、地域団体からの協力が得られた。
参加者の移動手段		徒歩、自転車
活動費用	指導者謝金等	指導料:5,000円/1回
	その他	稽古場、会場費:2,000-5,000円/回(近くの古民家を活用、参加人数に応じて変動) 宣伝費、旅費交通費、その他:100万円/年
活動財源	会費	昨年度、今年度は0円 今後は、数千円の会費を集めることを検討
	その他	昨年度、今年度は地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業の委託費より捻出。 今後は、公演収益や寄付、その他手段を模索する。
スケジュール	基本活動	8月-11月:発表会に向けた稽古を実施(オンライン) 11月:発表会の実施
	年間	5月-6月:芸能鑑賞会・ワークショップへの参加 7月:無料体験会、入部 8月-11月:発表会に向けた稽古を実施(オンライン) 11月:発表会の実施
保険加入等		スポーツ安全保険:年間800円/人(講師も加入)



## 【活動の様子（写真添付）】

(5/19)大津市立打出中学校1年生に向けた鑑賞会の開催

落語 → 常磐津 → ひとりコント



(7/30)参加希望者とその保護者、地域の方々に向けた鑑賞会&ワークショップを開催

① 鑑賞会（落語→ひとりコント→常磐津）



② ワークショップと質問コーナー(常磐津:一緒に語る/コント:一緒に演じる/落語:一緒に小噺/ 質問コーナー)



(8-11)大津百町館(地域の施設)でオンライン稽古を主とした稽古会の実施 (iPadを使用)



(11/5)大津百町館(地域の施設)で発表会&鑑賞会の開催

① 子供たちの発表会(落語→ひとりコント→落語→ひとりコント)



② 鑑賞会（落語→ひとりコント→常磐津）/集合写真



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	公益財団法人長浜文化スポーツ振興事業団		
所在地	滋賀県長浜市	設立年	1980年
運営主体	公益財団法人長浜文化スポーツ振興事業団		
事業目標	①参加者の将来を通じた文化芸術活動の継続 ②地域の学校との連携による、部活動負担の軽減、質の向上		
きっかけ	<p>長浜市の北部、伊香地域は過疎化等により地域の中学校に吹奏楽部等の文化部がない、または限定されており、市の中心地と比べて文化芸術に触れる機会に格差が生じている。また、吹奏楽部がある学校についても、学校教員による指導は教員の専門性による差や、異動等に左右され、継続的な活動が難しい。加えて、土日等の部活動実施についても教員の負担が大きくなっている。</p> <p>地域の課題として、地域で音楽活動を行っている団体等のメンバーの固定化や高齢化等により、活動の継続が困難になってきており、教育機関との連携もできていないことから、学校と地域の活動との間に隔たりがあり、学校での文化芸術活動が地域での活動になかなか結びついていかない現状がある。</p> <p>このような課題を踏まえて、地域の子どもや世代間の交流、地域の指導者による継続的な指導等を行うことで、学校部活動に代わり得る文化活動として、中高生が地域で質の高い文化芸術活動を将来にわたり継続していける環境を整備するために、本事業を実施した。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	木之本スティックホール(滋賀県長浜市木之本町木之本1757番地6)		
活動概要	<p>7月9日に開講し、2月25日まで全18回活動。参加者で考えたクラブ名「Lumiere Fanfare(ルミエール・ファンファーレ)」として毎回基礎練習、合奏練習等を行う。11月、12月の発表会を目標に、生徒のレベルや演奏課題に合わせた曲目を選曲し、練習を行った。</p> <p>11月13日の長浜音楽祭で最初の発表機会を得て、12月25日には「クリスマスジョイントコンサート」として、地元の音楽団体「ブリーズタウン・ビッグバンド」と合同の発表会を開催した。</p>		

## ○本事業による成果

- ・地域の中学生や高校生がクラブ活動を通して交流し、同じ目標に向かって活動していける体制ができた。また、地域の大人の吹奏楽団体の協力が得られ、サポーターとして協力いただいたり、共に合奏する機会を得るなど、世代間の交流が生まれ、音楽活動に生涯を通して関わっていけるきっかけづくりができた。
- ・地域の吹奏楽部の顧問と指導者との連携・協力体制ができており、生徒の課題や指導方針等、情報共有が図れている。(アンケート結果について、別添のとおり)
- ・中高生を中心とした地域の吹奏楽クラブとして、部活動に代わり得る地域の活動としてのモデル事業の役割を果たしている。(他地域での吹奏楽指導者、音楽関係企業やマスコミ等による取材や視察があった)

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・地域の学校の先生や外部講師が指導者として、積極的にクラブの運営・活動の推進に尽力をいただいております。技術面のみならず、教育的な指導もしっかりと行っていただいております。参加者の自己実現やコミュニケーション能力の向上に大きく貢献している。
- ・担当楽器を決定後、地域の楽器取扱い店による「楽器お手入れクリニック」を活動の中で行うなど、演奏以外の指導も行った。
- ・活動日以外に自主練習可能日を設け、生徒が自主的に練習できる環境を整備し、指導者も立ち会うなど、生徒が自主的、積極的に活動できるよう配慮した。
- ・活動実施後、指導者と運営者、サポーターによる活動の振り返り等の話し合いを毎回行い、課題や方針等の共有を図っていくことができた。

## ○運営上の工夫

- ・ボランティアでのサポーター協力について、「サポーター指導要領」および同意書提出によるサポーター体制を確保し、指導者との指導方法の共有・理解を図った。
  - ・活動日程を原則土曜日の午後とし、部活動と重複しないよう調整して実施した。
  - ・募集にあたっては、吹奏楽部がない地域の生徒を優先して募集した。
  - ・協力を依頼している学校の吹奏楽顧問の教員を交えた、連絡調整会議を実施し、課題等の共有を図った。
  - ・指導者が市内の中学校吹奏楽部を訪問し、生徒の様子を確認したり、指導上の課題等を各顧問と話し合った。
  - ・生徒、保護者、サポーターへの連絡はメールや公式LINEアカウントを利用し、円滑に行えるようにした。
  - ・ホームページ上へ活動ブログをアップし、活動内容を周知したり、合奏練習の様子を動画で撮影し、YouTubeで限定公開(関係者のみ閲覧可能)することで、生徒の自主的な活動のサポートを行った。
- 活動ブログ→<https://nagahama-bunspo-hall.com/suisou-club-blog/>

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・吹奏楽部がない学校からの参加促進(今年度、当該学校からの参加者がなかった)。対象となる学校への周知、連携が必要
- ・楽器や指導者謝礼等を確保していくための資金調達。地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業は今年度で終了となる。次年度活動にあたって「ソニー子ども音楽基金」の助成を申請したが、採用されなかった。国が進める文化部活動改革事業への関りや、その他の助成金等を検討していくが、今後活動を持続していくための資金確保の方法はさらに検討が必要。
- ・長浜市における全域的な活動の展開。現在は長浜市の北部地域を中心に事業を進めているが、参加できる生徒数に限界がある(現在の30名定員が限度)長浜市全域での事業展開を考えた場合、指導者の確保や事務局運営、拠点の確保等課題が多くある。
- ・指導者の継続的な確保。現在の指導者は学校の先生が中心であり、異動等により継続していけるかはわからない。技術的な指導だけでなく、教育的な面での適切な指導ができる指導者の育成や確保が今後の課題。
- ・初心者や経験者の差、希望する楽器パート等、多様化する参加者へのニーズへの対応。楽器ごとの指導支援者の確保等が課題。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・長浜市部活動地域移行にかかるモデル的部活動として次年度以降の事業実施を予定しており、市で設置予定の「長浜市部活動の地域移行推進協議会(仮)」においても今後の活動内容等を検証される。
- ・地域のクラブによる学校部活動の段階的な地域移行のメゾットとして活動を継続、発展させていく。
- ・部活動の地域移行にかかるモデル事業としての方針を明確にし、吹奏楽部がない学校との連携・協力体制を深めていき、参加を促進することで、子どもたちが多様な文化・スポーツ活動に自主的に取り組んでいける環境を整備していく。
- ・国や市の部活動地域移行に係る補助金や委託金等を有効活用し、保護者への金銭的負担をなるべくかけず、誰もが参加しやすい体制を確保していく。一方、将来的には補助金や委託金等に頼ることがない、自立した活動として長年にわたり継続していけるよう、楽器の確保など環境整備を行っていく。
- ・市との連携をより密にし、指導者の質の確保(指導者研修会の実施等)にむけた取り組みを協働して進めていく。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	長浜市内在住の中学生22名、高校生4名 計26名(定員30名)
	学校名	木之本中学校、高月中学校、湖北中学校、長浜北中学校、長浜西中学校、長浜南中学校、長浜東中学校、浅井中学校、虎姫学園、びわ中学校、長浜北高校、近江高校
	募集方法	市内中学校・高校を通じての案内配布、事業団HP、SNS等での発信
指導者	人数等	常任指導者 2名(高校吹奏楽部外部講師1名、養護学校教員(兼職兼業)1名) サポーター 3名
	募集方法	個別に依頼
参加者の移動手段		保護者による送迎、JR
活動費用	指導者謝金等	謝金 1,600円/時間、
	その他	楽器レンタル費用1,323千円 会場使用料
活動財源	会費	年会費 5,000円
	その他	楽器使用負担金 1,500円/月
スケジュール	基本活動	月2回 原則隔週土曜日 14:00~16:00
	年間	通常活動日 7月 9, 16, 30 8月 11, 20, 3 9月 3, 17 10月1, 22 11月 5, 26 12月 17, 24, 25 1月 14 2月 11, 25 (18回) 演奏発表日 11月13日 長浜音楽祭 12月25日 クリスマスジョイントコンサート
保険加入等		スポーツ安全保険(保護者負担800円/年、指導者個人負担800円/年)

## 【活動の様子（写真添付）】

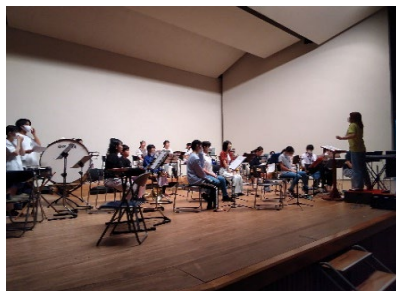
7月9日 開講式



基礎練習



合奏練習



合奏練習



ジョイントコンサート



調整会議



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人アーツシード京都		
所在地	京都府京都市	設立年	2017年1月23日
運営主体	一般社団法人アーツシード京都／京都市東九条地域		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・THEATRE E9 KYOTOに関わる芸術家による多様な芸術体験機会の提供</li> <li>・近隣中学校との連携のきっかけづくり</li> <li>・子ども達の「生きる力」の育成に繋がるプログラムづくり(特に「自分の思いや考えを話す力」)。またそれらに意識を持って取り組める講師やスタッフの関係づくり。</li> </ul>		
きっかけ	<p>THEATRE E9 KYOTO(申請団体が運営する小劇場)と、その最寄りの公立学校である京都市立凌風小中学校(以下、凌風学園)は、2020年度に映画制作のワークショップを校内で実施したことをきっかけに、芸術を活用したアート教育実践の実施検討、またそれらに関する教育的議論や、連携に関する対話を進めてきた。学校が抱える様々な課題解決に向けたアート(表現)活動や、劇場が子どもたちにとって身近になるための活動など、双方にとって有益な連携について模索してきた経緯がある。その最中、部活動の地域移行に関する本事業を知り、凌風学園としても取り組みたい課題であるとのことで、申請に至った。</p>		
団体・組織等の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コア連携校:京都市立凌風小中学校</li> <li>参加者募集、指導内容への指導助言や地域部活動運営にまつわる意見交換(副校長や教員による運営検討会議への参加や活動視察)等</li> <li>●協力:京都市立九条中学校、京都市立下京中学校、京都市立東山泉小中学校</li> <li>●協力:同志社中学校</li> <li>学校webページへの公演情報の掲載</li> <li>●協力:東山青少年活動センター</li> <li>中学生を対象とした演劇創作事業の運営に関するアドバイス</li> <li>●広報協力:京都市地域・多文化交流ネットワークサロン、NPO法人happiness(ハピネス子ども食堂)</li> <li>チラシ配布や子どもへの呼びかけの機会提供等</li> </ul>		
活動場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・THEATRE E9 KYOTO(申請団体が運営する小劇場)</li> <li>・studio seed box(申請団体が運営するスタジオ)</li> </ul>		
活動概要	<p>小劇場及び稽古スタジオの運営。年間およそ40作品 その内主催事業8本程度。年間およそ1万人程度の来館</p>		

## ○本事業による成果

### ●目標達成度について

- ・会員生徒数:5名(内中学生4名)／目標数15～20名。
- ・E9地域文化クラブ応援チケット売上:24,000円(5,000円×3枚、3,000円×3枚)／目標額の10万円以上
- ・近隣中学校からの公演来場者数:合計7名／目標20名
- ・活動期間2022年8月～2023年1月、全11回の活動となり、生徒の自主稽古等も追加することなく、実施することができた。1回あたりの活動時間は2～3時間程度、1ヶ月あたり4時間程度の活動であり、通常の部活動と比較し、生徒・保護者や講師・スタッフの負担も軽減できていると考える。

・子ども達の「生きる力」の育成についても目標を立てており、具体的には、自分の思いや考えを話す力／他者と深く対話し協働する力などのコミュニケーション力／自身で課題を発見し解決に向かおうとする力などの向上を目指していたが、それらについては十分に達成できたと考えている。今回、複数の学校からの参加者で、ほぼ全員が初対面のなか、話し合いながら一つの作品を創り上げた。作品づくりのスタート時にそれぞれ自身の「困っていること」を共有したり、子どもから自発的に「どんな世界であってほしいか／どんな人になりたいか／どんな生き方がしたいか」というメンバーへの投げかけがあったり、多くの深い対話の場があった。アンケート結果の項目でも、この点の達成度について後述する。

### ●アンケート結果より

#### ・実施期間、回数等について

保護者への質問項目。凌風学園校区としては、おおむね実施形態は問題がなかったと考えられる。他の保護者も同様であったが期間／回数／時間数が、短い／少ないという回答が多少みられた点については、現状の学校部活動との比較か、子どもの表現活動としてか等が測れていないこともあり、この項目に対する保護者の要望・意見をより詳細に聞き取る必要があったと考えている。今回、不要となった自主稽古が発生した可能性も考えると、事業計画段階での設定としては適切であったとも考えられる。

ちなみに、講師のブッキングからみると、日時調整が難航した程であり、期間／回数／時間数すべて今回が最大限だったと捉えている。時間設定についても、午前(10:00～12:00等)もしくは夕方(15:00～17:00)等にすれば、前後のスケジュールが組みやすく各々のアーティスト活動とも兼ねやすいことがわかった。

#### ・自分の思いや考えを話す力

この力については、我々が最も重点をおいたポイントだったが、子どもの自己評価として「自分の意見が言えた」かどうかについては、概ね高い評価結果が得られた。「自分の行動や意見に自信が持てるようになった」についても、同様であった。今後「日常生活で、自分の考えや思いを伝えられそうか」についても、子どもの前向きな評価結果がみられた。

コア連携校の凌風学園の生徒については、ほぼ全ての自己評価項目に5をつけているものの、今後の日常生活での表現への自信については4をつけていた。継続的に今回のような活動機会を提供できれば、サポートできるのではと考えている。

・その他、保護者と子どもと同様に、今後もこのような取り組みをさせたいか／したいかについても前向きな回答がみられ、満足度の高い活動が提供できた結果となった。



### ●教育的意義に関するヒアリング結果(凌風学園のみ)

コア連携校である、凌風学園からの参加生徒1名については、参加前後での様子の変化についてヒアリングを行った。クラス担任教員からは「10月頃から行動や発言にかなり大きな変化があり、何が理由かと考えたときに、この活動なのではと考えていた。以前はどちらかというとモジモジとしていて控えめな印象だったが、10月頃から美化委員長への立候補や、その選挙での演説の姿のほか、普段もよく喋るようになった印象がある。発表公演を鑑賞させていただいて、やはりこの活動が彼女に勇気を与えていたのだろうと感じた。」と回答があった。

また部活動の地域移行についても同教員に伺ったところ、教員の働き方改革の面では部活動をなくさないで成立しない一方で、部活動と生徒指導の繋がりや、生徒と教員の関係づくりにおける部活動の存在意義への指摘があった。授業や学級活動だけではみられない生徒の姿(あるいは教員の姿)が、良好な関係構築に繋がっているとのことだった。やはり部活動を地域移行していく際に、こうした効果を維持しながら進めるために、直接指導や運営を行う顧問とは異なる教員の関わり方が必要となる。教員との協働を想定し、学校内での活動の展開も重要な検討要素であると考えた。

凌風学園・小西副校長からは、「部活動となると、その教育目的に配慮していくが必要になるが、THEATRE E9 KYOTOの講師やスタッフの皆さんとはその点に即した情報共有や意見交換ができていた。」とのことで、今後の協働への可能性についても言及いただいた。

### ●近隣中学校との連携について／部活動の地域移行への課題等のヒアリング

これについては、中間報告の通りであるが、学校にとっては「他学校がどのように取り組んでいるか」ということが大きな参考になるため、京都市「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業等の他の連携活動なども活かしながら、各校への情報共有を進めることができると考える。

### ○児童・生徒への指導に関する工夫

●複数名の講師によるジャンルの横断は、結果として子どもの様子を多面的に捉えることができたと考えられる。また、コーディネーターは毎回の活動に立ち合い、活動内容を講師に共有し、引き継ぎながら進めることができたので、毎回の表現活動が積み重なり、豊かな作品創作に繋げることができた。また、個々の芸術経験に影響されないことをねらいとし、学校教育では体験できない内容を重視したが、これにより子ども達の多様な表現がみられた。そして、プロ仕様の劇場、音響・照明という場で成果を発表し、観客の盛大な拍手を浴びる体験は、類い稀な貴重な体験となっている。

●講師やスタッフには教育的知見を備えた人員を配置。同志社女子大非常勤講師でもあるあごうさとし、広く音楽教育活動に携わる葛西友子(大阪音楽大学准教授)、高校でのキャリア教育講演も手がける能政友介、10代との作品創作を行ってきた和田ながら、コーディネーターの松岡咲子(元・大阪音楽大学助手)やリサーチャーの渡辺健一郎も、多数のアートワークショップや芸術教育の現場経験がある。

以上のことから、学校部活動と同等以上の満足度の高さに繋がっていると考えられる。

●中間報告にも記載したが、活動日には原則、演出家1名／講師1名／コーディネーター1名／リサーチャー1名／劇場事務局2～3名／サポートスタッフ2名というスタッフ体制で行った(発表公演時にはテクニカルスタッフを追加)。メンバーほぼ全員で、子どもと一緒にワークに参加することで、子どもの表現意欲を促すことを目指した。

公教育では現状実現が難しい、各々のペースに合わせていくことや、より一層対等な関係構築にも重きを置いた。講師も子どもも、車座になって話し合う時間を毎回1時間以上設定し、日を追うごとに子どもの発言も増え、話し合いの方法についても子ども達から自発的にアイデアが出るようになった。「自分で自身のことを語る場づくり」が実現している。

サポートスタッフについては、講師・葛西友子の所属先である大阪音楽大学の学生に協力を依頼し、子ども達と少し年齢が近い“おにいさんおねえさん”の存在が、子ども達の積極的なコミュニケーションに繋がったとも考えている。平日夜の会場から駅までの道に同行してもらうなど、運営上の安全面にも繋がった。

## ○運営上の工夫

### ●活動場所

アーツシード京都が運営管理している劇場(THEATRE E9 KYOTO)やスタジオ(studio seed box)で行うことで、会場手配がスムーズである。いずれも京都駅から徒歩10～13分程度であり、交通の便も問題がない。また、本番会場で複数回練習が行える環境は、子ども達が伸び伸びと表現できることに繋がっている。対話の場としては劇場は広く独特の緊張感があるため、話しやすいスタジオの方でなるべく行うようにしている。

### ●保険

保険加入について、年間を通じた包括契約を結んでいるため個別の手続きが不要。

### ●連絡手段

・講師やスタッフ側ではメールだけでなく、チャットグループを作成し、クイックな連絡や細かい情報共有等を行っている。

毎回の活動内容も共有し、不在の講師に引き継ぐことで、芸術ジャンルを横断しながらも表現面や教育面では重なり合い、一貫性ある内容が実現している。

・保護者や子どもとの連絡はメールを主に活用しているが、メールに不慣れな保護者も見受けられたため、書面での連絡や、活動の送迎時の顔を合わせたコミュニケーションも取り入れるようにしている。LINEでの連絡を可能にすることができれば、スムーズになると考える。参加申込時は、学校での申込用紙や専用フォームなどで受付をした。

### ●EPAC応援チケット

公演はチケット無料としたが、活動支援を気軽に行える仕組みとして任意で購入できるチケットを設定。金額設定は、10,000円／5,000円／3,000円から選ぶことができる。ここには、作品的価値の提供と享受、活動に対する資金の提供と享受が同時に起こり、サポートする側とされる側の間に豊かな価値の循環を生み出せる可能性がある。

今回、販売目標値には達しなかったが、EPACの活動を支援しただけでなく、作品としての価値に金銭を支払いたいという観客もいたのではないかと観客アンケートから見受けられた。「やりたい人たち」で回していくための仕組みとして、継続しやすい方法だと考えている。

### ●サポートスタッフからファシリテーターへ

今回のサポートスタッフの大学生はアーティスト(打楽器奏者)を目指す人材であったが、彼らが講師陣の指導方法を実際に体験できたことで、アートワークショップのファシリテーターとしての育成にも繋がったと考えられる。同様の仕組みを京都の芸術大学と協働できれば、実演家／アーティストだけでなく、アートプロデュースやコーディネーターの分野でも、今後の展開に期待できる。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

### ●参加生徒の募集

中間報告でも述べた、下記の課題について

・日常では体験できない(＝子どもたちにとって新しい)芸術体験を、子どもたちや保護者にどのように伝えていくか

・子ども達の挑戦意欲をどのように後押しし、踏み出せる機会を提供するか

これらについては、公募プロセスや実施会場への工夫を考えている。公募前に学校内でワークショップを展開したり、校内で活動することについて、検討していきたい。今年度の取り組みにより、凌風学園と下京中学校については、継続的に議論ができる関係性をつくることができた。これを活かして、多様な文化芸術活動の機会を子ども達に広く提供することができればと考える。

### ●教員の参加方法と学校内での活動実施

ヒアリング結果の項目でも前述したが、学校部活動と生徒指導との繋がりを突然奪ってしまうことなく進めるために、教員の無理のない参加方法を検討していきたい。校内での活動の展開を調整、またその際の保険や責任所在を明確にし、生徒の様子を共有する仕組みづくりや保護者との連絡手段(ここにはICTの活用が重要)をつくるが必要になってくる。一方で、今回教員や生徒から「他の学校の生徒との交流が刺激となった。」という声も寄せられたため、他学校生の受け入れ可否や、劇場・スタジオ利用を上手く活用しながら全体の活動計画を組まなければならない。

●他団体や自治体との協働

民間小劇場のみで今回のように事業を運営することは、人手・場所・資金等のあらゆるリソースの不足という面でも難しいと考える。学校現場の働き方改革にアプローチし、部活動の地域移行を進めていくという大きな目的に向けて実施していくには、自治体や芸術関係団体との連携以上に、協働が必要かと考える。

京都は舞台芸術が盛んな地域でもあり、京都芸術センター・ロームシアター京都・NPO法人京都舞台芸術協会等との繋がりががある。例えばこうした団体との協働を目指したい。

また各自治体(府や市の文化芸術担当課や教育委員会等)が、部活動の地域移行についてあまり情報を得ていない印象がある。次年度以降の「文化部活動の地域以降に向けた支援」についても情報を得、つながりある自治体関係者には共有したい。文化庁から各教育委員会への要請がどのようになっているのかについても、把握できると連携がはかりやすい。

●活動財源、会費について

次年度以降の財源調達の見込みが立っていないことが大きな課題である。自治体から補助金等が出るならば、挑戦したい。会費については、家庭環境等に影響されない参加を目指し、徴収していない。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

アーツシード京都としては、部活動の地域移行のみならず多様な文化芸術の機会提供等の面で、近隣中学校との連携は継続して行なっていく。文化部活動の段階的な地域移行について、自治体が運営主体となれば人材や会場提供の面で協働できる可能性がある。今回の事業実施で経験を得た指導者やコーディネーターを派遣し、得られた課題等に継続して取り組んでいくことができる。既存の学校部活動として吹奏楽部が対象となった場合にも、指導実績のある葛西友子を中心に、今回の経験を織り交ぜながら多様な芸術体験プログラムを提供したり、劇場での演奏発表の機会も検討できる。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生1名、中学生4名
	学校名	京都市立凌風小中学校、同志社中学校、亀岡市立中学校、亀岡市立小学校
	募集方法	・6月中旬～7月上旬 凌風学園の生徒を対象に公募。募集チラシを配布。申し込み方法は、専用申込フォームとE9事務局への電話申込のほか、学校でも受けられるように申込用紙をチラシと合わせて配布。 ・8月中旬 E9近隣の中学校(九条中学校、下京中学校、東山泉小中学校)の校長もしくは教頭に参加者募集の協力要請。E9のwebページおよびSNSでの公募も開始。 ・8月下旬～9月上旬 参加者追加募集チラシを、凌風学園、九条中学校、下京中学校、東山泉小中学校に配布。申込方法は、専用申込フォームとE9事務局への電話申込のみ。
指導者	人数等	講師4名(内1名、当団体代表理事)、サポートスタッフ2名、
	募集方法	団体の指名による依頼
参加者の移動手段		公共交通機関(電車、バス)、車(保護者による送迎)
活動費用	指導者謝金等	講師謝金1時間5100円 のべ173200円
	その他	会議出席費1回14000円 のべ112000円 調査謝金及び調査者会議出席 104000円 サポートスタッフ謝金2名 10000円

活動財源	会費	保護者負担経費なし
	その他	・文化庁地域文化倶楽部(仮)創設支援事業補助金 およそ1,500,000円。 ・E9パフォーミングアーツクラブ応援チケット 5000円×3枚、3000円×3枚、合計24,000円。
スケジュール	基本活動	12月の発表公演に向けて、9～11月のうち月2回(平日は19:00～21:00、土日祝日は14:00～16:00)
	年間	<p>6月下旬～7月上旬 参加者公募  7月16日(土) 実演つき説明会@凌風学園 ※申込が無かったため中止  ▷8月9日(火) 第1回プロジェクト運営検討会議</p> <p>●夏の特別ワークショップ(体験会)実施  8月9日(火)13:00～17:30 講師:あごうさとし、葛西友子、能政タ介、和田ながら/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>8月中旬～9月上旬 参加者追加公募</p> <p>●活動① 8月29日(月) 19:00～21:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動② 9月23日(金・祝) 14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、和田ながら/会場:studio seed box</p> <p>●活動③ 10月13日(木) 19:00～21:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、能政タ介/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動④ 10月22日(土) 14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、葛西友子/会場:studio seed box</p> <p>▷10月26日(水) 第2回プロジェクト運営検討会議</p> <p>●活動⑤ 11月5日(土)14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、葛西友子/会場:studio seed box</p> <p>●活動⑥ 11月14日(月) 19:00～21:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、能政タ介/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑦ 11月26日(土) 14:00～16:00 ワークショップおよび創作活動/講師:あごうさとし、葛西友子/会場:studio seed box</p> <p>▷12月5日(月) 第3回プロジェクト運営検討会議</p>
		<p>●活動⑧ 12月5日(月) 18:00～21:00 リハーサル/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑨ 12月6日(火) 18:00～21:00 リハーサル/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑩ 12月7日(水) 公演本番日/19:30開演/会場:THEATRE E9 KYOTO</p> <p>●活動⑪ 1月14日(土)16:00～18:30 ふりかえりの会/会場:THEATRE E9 KYOTO</p>
保険加入等		法人で年間で入っている包括保険があるため個別の契約は無い



## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

**地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業**

団体名	きもの科学部		
所在地	京都府京都市中京区御倉町80	設立年	2022年
運営主体	一般社団法人千總文化研究所		
事業目標	地域の産業であり文化である「きもの」にまつわる有形・無形の文化財を活用した文化教育プログラムを各分野の専門家とともに構築し、京都の伝統文化、伝統技術を深く体系的に学ぶ機会を提供する。さらに、その学びを通じて、子どもの想像性・創造性の育成を目指すこと。		
きっかけ	日本の伝統工芸品の多くは生活様式の変化のなかで需要が減少し、日常生活のなかで手に触れる機会は少なく、まして技術やその担い手のことを知る手段は限られる。一方で、昨今ではSTEAM教育をはじめ学際的な学びが、クリエイティブな人材を育成するものとして注目されている。そうした社会的背景のもと、千總文化研究所は、昨年度より下郡啓夫（函館工業高等専門学校教授・日本STEM教育学会STEAM教育研究会SIG研究代表者）と共に、着物にまつわる有形・無形の文化財を活用したSTEAM教育プログラム開発に取り組んできた。その知見とネットワークを活かし、中学生むけの課外プログラムの構築を試みた。		
団体・組織等の連携			
活動場所	千總ビル5階ホール（京都市中京区御倉町80）		
活動概要	<p>「きもの」を中学校で学ぶ教科と結びつけて、教科横断的に学習する課外プログラム。題材には、運営主体である千總文化研究所が研究対象とする染織品に関する有形・無形の文化財を活用し、指導者は、教育工学、化学、農学、文学の研究者ならびに、友禅染の技術者とデザイナーなど千總文化研究所のネットワークから各分野の専門家を招聘。教育委員会とも連携し、専門家による講義と実演と参加者の体験型ワークショップにより構成。月1～2回（土曜または日曜）、1回2時間程度活動。</p>		

## ○本事業による成果

・教員の働き方改革の観点から、活動への教員の従事はなく、参加者の所属校の教員は自由参観とした。参観された教員並びに京都市教育委員会からは、教科と結びつけて伝統文化・伝統技術を深く学ぶプログラムとして高い評価を得た。また、本事業がパッケージとして提供される場合に授業などで活用したいかどうか、参観された教員にアンケート調査を行ったところ、100%(有効回答数13)が活用したいと回答。本事業で得られた知見を普及させる手段として、各プログラムをパッケージ化することを今後検討したい。

・参加者へのアンケートからは、学びの楽しみを得て、得られた知識を多角的に、自分ごととして捉えようとする様子が伺えた。また保護者へ実施した事後アンケートからは、本事業を通じて着物を身近に感じ、日常生活に様々な気づきや変化がもたらされたことが示唆された。(添付のアンケート分析を参照)

・学校の部活動との関係性については、今回の運営体制では月1~2回程度の実施が限度となるが、他の部活動や習い事との掛け持ちをしたい生徒や頻度の高い活動を希望しない生徒の受け皿として成り立つのではないかと考える。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

・実施時期や体制、学習指導要領との整合性などについて教育委員会に事前に指導を仰いだ。参加対象者の学年は、中学校および義務教育学校後期課程の1(7)年生から3(9)年生となり参加者によって学習範囲に差があるが、学びの意欲を考慮しプログラム内容は3(9)年生に合わせることにした。

・知識の提供だけでなく、教科を横断する様々なワークショップや、普段見ることのできない技術者やデザイナーの実演を交えることで、参加者の主体的な学びを引き出すような構成とした。

## ○運営上の工夫

・学校で学ぶ教科と関連づけながらも、学校では学ぶことのできないプログラムの質を確保するため、各分野の専門家を指導者として招聘。その上で、難易度は教育委員会に確認を行い、プログラムの構成は教育工学の専門家を交えて検討を重ねた。

・プログラムのファシリテートは、教育工学の専門家が担当し、プログラムの導入部分で参加者の興味関心を惹きつけるよう工夫を行った。

・運営補助に大学生アルバイトを起用し、ワークショップを通して中学生と交流を図った。教育機関等との連絡調整は教育委員会に委ねたが、保護者・教員にもプログラムを参観してもらい、活動へのフィードバックを得た。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

・今回の試みより、教育委員会との連携協力体制を構築できた

・プログラムの指導者となる専門家の人材確保は、事業者のネットワークで今後も十分対応が可能である。また、会場も継続して無料利用が可能である。

・ファシリテートについては、今回は教育工学の専門家に委ねたが、大学と連携を図るなど人材を育成することも視野に入りたい。

・資金調達に関しては、本事業のためのファンドの設立を検討中である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

教員へのアンケート調査により、本事業をパッケージとして提供することで、より広がりのある活動となる可能性が示された。プログラムの教材開発を、視聴覚教育やメディア論を専攻する芸術大学の学生とICTの活用も視野に共同開発するなど、より多くの生徒が活用・参加できる方向を検証したい。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	中学生16名
	学校名	京都市立上京中学校、京都市立中京中学校、京都市立下京中学校、京都市立西京極中学校、京都市立西京高校附属中学校、京都市立京都御池中学校、気京都市立二条中学校、京都教育大学附属小中学校、同志社中学校、花園中学校
	募集方法	2022年8月より京都市教育委員会が市内の中学校の校長を訪問しチラシを配布、同時に京都市情報誌およびウェブサイト「京わくわくのトビラ」へ掲載。参加希望者は、千總文化研究所の公式ウェブサイトより申し込み。
指導者	人数等	講義・実演担当:6名、当団体団員:2名、運営補助:6名
	募集方法	運営主体が持つ研究者や技術者、教育機関とのネットワークを活用
参加者の移動手段		公共交通機関または保護者の送迎
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金:5100円/時間、指導者交通費:実費(6名総額:418,260円)、運営補助アルバイト賃金:1050円/時間、交通費:実費(5名総額:8200円)
	その他	ワークショップ材料費:8500円/人、千總ビル5階ホール:無料
活動財源	会費	0円
	その他	委託費
スケジュール	基本活動	【実施回数】月1～2回(土曜または日曜)実施。計5回 【実施時間】午前10時～正午(途中休憩あり)
	年間	【実施日】 2022年10月22日(土):第1回「色ってなんで見えるの？」 2022年11月5日(土):第2回「職人技ってどんな技？」 2022年11月20日(日):第3回「きものに描かれているものは?①」 2022年12月4日(日):第4回「きものに描かれているものは?②」 2022年12月17日(土):第5回「デザイナーって何をつくる人？」
保険加入等		スポーツ安全保険(800円/年)参加者16名、指導者・運営14名。費用は委託費より支出



## 【活動の様子（写真添付）】



第1回ワークショップー京都を3色で表現しようー



第3回講義ー植物の生態を知ろうー



第2回ワークショップー染色の世界を探求しようー



第4回ワークショップーモチーフが語るものは？



第2回実演ー職人技って？



第5回実演ーデザイナーって？

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	堺シティオペラ一般社団法人		
所在地	大阪府堺市	設立年	1979年「堺市民オペラ」として発足 2009年「堺シティオペラ一般社団法人」へ移行
運営主体	堺シティオペラ一般社団法人		
事業目標	「オペラ」と言う総合芸術に携わる堺シティオペラが、地域の教育委員会や学校と連携し、様々な分野で活躍するアーティストや指導者をコーディネートし地域の中・小学生・小学生に学校の部活動に代わり継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を提供する。オペラだけに特化するのではなく、演劇、ミュージカル、ダンス、舞台の裏方、オーケストラ・吹奏楽など、舞台芸術に関する様々なことに触れる機会を作り、音楽や舞台芸術を身近に感じてもらい、今後の子どもたちの将来の芸術文化の普及や発展に寄与する。		
きっかけ	堺シティオペラが、生徒数の減少や教員の働き方改革等の課題に対処し地域の教育現場に貢献と同時に家庭の経済状況に関わらず子どもたちが多様な文化・芸術体験を積むことができるようサポートしたいという思いでジュニアオペラという名称で本活動を立ち上げた。 部活動による教員負担軽減や少子化等への対応を推進する文化庁事業の一つの地域文化倶楽部創設支援事業で本活動を「地域文化倶楽部」として2020年に承認された。		
団体・組織等の連携			
活動場所	堺シティオペラ エタニティ エイト 和泉市立信太中学校、堺市立津久野中学校、堺市立泉ヶ丘東中学校		
活動概要	地域文化倶楽部・ジュニアオペラは、地域の団体である堺シティオペラが主催し文化庁の助成を受け2021年に立ち上げられた事業である。 大阪府内の全小・中学生を対象に部員を募集し、音楽、演劇、ミュージカルなどの表現分野と伝統芸能(狂言や日本舞踊)、舞台芸術や作詞など制作分野を融合した総合文化芸術部として活動している。大阪府内の小・中学生が部員となり、週1回1時間～3時間程度堺シティオペラの施設であるエタニティ エイトで集まり、活動している。講師は、オペラや舞台芸術の様々な分野で活躍するアーティストが担当し、毎回違ったテーマを題材として各講座を開催し指導に務める。 また、2022年度からは堺シティオペラ記念オーケストラのメンバーによる、吹奏楽部の指導も開始し、学校に出向き各パートごとのスペシャリストによる指導も開始した。		

## ○本事業による成果

- ・参加児童は技術の向上だけではなく、学校や・年齢の幅が広く垣根なく友人ができるなどの副次的な効果が得られている。
- ・子どもたちに学校ではない居場所を作ることに貢献し、毎回の講座を楽しみに参加している子が多かった。
- ・保護者からは家庭での日常生活では見せない生き生きとした子ども姿に感動され、今後の継続を希望される方が多い。
- ・小学生の参加が多いので、中学生になってからも舞台芸術に関わる子どもが増えていくと考えられる。
- ・2021年度の活動をベースに学校にも認知していただける機会も増え、直接中学校に行き指導する機会もできた。また学校の部活動の先生との意見交換もでき、実際のクラブ活動ではどのようなことが求められているかを知ることが出来た。今後今年度参加された中学校の先生からの紹介でより多くの学校の先生方に求められる可能性が増えて、2023年度の参加希望を既に依頼されている。
- ・指揮法や作詞、作曲など普段学校や習い事では習えないような機会になった。
- ・指導者として意欲を持たれている先生方にとっては、部活動の内容や質を向上する取組としてよい受け皿になり、優れた人材を青少年育成の現場に招くことができた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・学校では習うことの出来ない現役のアーティストを指導者として選定している。  
専門的な知識をもつ指導者から指導を受けることで、生徒の技術習得や意欲向上、保護者の理解につながっている。
- ・学校の都合などで毎回参加しなくても遅れをとらないよう継続的ではない講座(毎回指導者が代わる)を開催。
- ・地域のイベント(公演)ではオーケストラや現役の歌手と一緒に公演に参加できる機会を提供。
- ・メインの講師以外にも指導補佐が付き添い低学年の児童の練習をサポートするといった工夫も行っている。
- ・年度末には、1年間の成果を発表するための発表会を開催。その題材には子どもたちの自発性や可能性の発達に繋げる独自性を持たせた。
- ・吹奏楽に関しては、楽器の移動も難しいため、本事業では学校へ直接指導者を派遣し、多数の専門分野の講師が楽器の取り扱いの基礎から指導し、顧問の先生にはプロの指揮者から指揮法を指導。

## ○運営上の工夫

- ・子どもたちが様々な経験ができるような様々な分野で活躍する指導者を選定  
(当団体で指導経験のある講師やアーティストを講座に合わせて選定)
- ・活動時間は学校終わりの時間にあわせて参加しやすい時間に調整
- ・生徒たちの募集は当団体のホームページやSNSで告知と、地域の音楽教員にチラシの配布。
- ・保護者との連絡調整については、当団体の事務局員が必ず講座が開催され前日にメールで連絡。
- ・多岐にわたる指導者が対応するため、指導者同士が連絡を頻回に行い参加する児童の内容や他の講座に関しての情報提供も行う。
- ・指導者の参考になるように、他講座の動画データを指導者に配信
- ・地域の公演に参加するなど、他団体とのイベントにも積極的に子どもが参加出来る機会を作る。
- ・活動支援・事業運営のためにリモートレッスンや動画配信などでICTを活用。
- ・地域の学校での部活動の指導者から直接意見を聞くことで、部活動で何を求められているか情報収集。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

保護者や学校の指導者からも継続の希望の声が多数あり、今後も文化庁の支援をいただけるのであれば今年度以上に活動が広がっていくように思われる。

現在、この活動のポイントは月謝や参加費をいただくずにたくさんの生徒が参加できるよう設定しています。そして今後も可能な限り家庭の事情に関わらず、子どもたちが常にレベルの高い舞台芸術を学べる機会を提供したい。

現状では教育委員会からのサポートはほとんどないので、今後はもう少し協力を得られるように働きかけることが課題となる。また、学校に直接チラシを送付するだけでは、中々活動がつかないで個別に学校の指導者を訪問し、指導者や学校のニーズを直接聞き出していき、幅広く学校や教師にこの活動を周知してもらい、生徒に推薦したくなるような仕掛けを作っていきたい。

また、実際の部活動の顧問や学校の先生からの生の声普段指導できないようことを提案できるようにし、離れた学校の音楽教師が地域文化倶楽部を通じてつながることで情報共有ができるようになり、今後の文化芸術関連の学校での指導の発展や向上につなげ、将来の芸術文化の普及と発展に寄与する。

今後は地元の企業や事業所に広報協力等のサポートをしてもらうことにより、将来的に子ども達の文化芸術活動を行政機関や地元の企業・事業所がサポートするシステムを構築することを目標としている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

### 【子どもたちには】

「オペラ」と言う総合芸術に携わる堺シティオペラが、地域の教育委員会や中学校と連携し、様々な分野で活躍する

アーティストや指導者をコーディネートし地域の中学生・小学生に学校の部活動に代わり継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を提供する。オペラだけに特化するのではなく、楽器の演奏(吹奏楽など)、日本の伝統文化、演劇、ミュージカル、ダンス、舞台の裏方など、舞台芸術に関する様々なことに触れる機会を作り、音楽や舞台芸術を身近に感じてもらい、今後の子どもたちの将来の芸術文化の普及や発展に寄与する。

- ・学校ではできないような活動をしてもらい、将来の選択しを広げる
- ・専門性の高い指導を受けられる機会を提供する
- ・参加するしないを自由に選択できるようなシステムにする
- ・様々な価値観を持つ人や、学校や年齢の幅が広く垣根なく交流でき、成長できる環境を提供

### 【教職員、学校には】

地域の中学校では音楽を指導する教師が1名しかいないことも多く、離れた学校の音楽教師が地域文化倶楽部により繋がり今後の学校での指導の向上になるようなイベントを企画し、学校関係者も参加できるように学校や教育委員会と連携を図る。指導者を巻き込んだ活動にし、生徒だけでなく教師も一緒に学べる機会を作る。

地域の学校や教育委員会などの行政機関などと連携をして、生徒や各家庭への広報協力を得るように働きかける。また、地元の企業や事業所に広報協力などを依頼しサポートをしてもらうことにより、将来的に子ども達の文化芸術活動を行政機関や地元の企業・事業所がサポートするシステムを構築することを目標としている。

- ・部活動指導の負担が減る。授業準備など本来業務により時間とエネルギーを割けるようになる。
- ・地域との関係性が強まる。部活動以外でも連携しやすくなる。

### 【地域にとって】

- ・地域のスポーツや文化活動の活性化
- ・地域のなかでの連帯、関係性の向上
- ・地域の企業等のビジネス活性化



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	約 482名
	学校名	大阪府内の小中学生(堺シティオペラでの参加者 → 22名 和泉市立信太中学校 → 吹奏楽部 20名 堺市立津久野中学校 → 2年生 180名 堺市立泉ヶ丘東中学校 → 2年生 260名
	募集方法	チラシによる募集(地域の中学校にチラシの送付) 音楽の先生や顧問に直接相談 2021年の参加者は引き続き参加+2021年度の参加者からの紹介。 SNSでの告知。
指導者	人数等	外部人材を活用 ・歌唱指導(10名) ・楽器演奏指導(13名) ・ピアニスト(4名) ・作詞(1名) ・指揮者(1名) ・作曲(1名) ・ダンス、ミュージカル(2名) ・舞台美術(1名)
	募集方法	当団体に登録しているアーティストや歌手 当団体の記念オーケストラに参加されている音楽家
参加者の移動手段		徒歩・保護者による送迎・電車
活動費用	指導者謝金等	講師謝礼／4,400～5,100円(1時間) 講師補佐／1,600円(1時間) コーディネーター(事務局運営)／1,023円(1時間)
	その他	練習場所(文化施設等を利用した場合)／約3,870～8,790円
活動財源	会費	会費なし
	その他	
スケジュール	基本活動	基本的には平日 週1～2回歌から楽器、作曲、作詞など様々なワークショップを開催し、発表会に向けてのお稽古や、合唱での参加は複数回開催。単発では、学校に行き吹奏楽部の指導や、オペラの指導を行う。
	年間	10月／ダンス・演劇ワークショップ、作詞、かるた唄合唱練習 11月／かるた唄合唱練習・本番、歌と台詞(発表会に向けて)、指揮者による指揮法、小道具ワークショップ 12月／指揮者による指揮法、歌と台詞(発表会に向けて)、ダンス 1月／ダンス、発表会練習、ヴァイオリニストによる講座 2月／発表会練習、打楽器の講座、作曲の講座、オペラ講座(中学校で) 3月／発表会練習と本番・吹奏楽指導(信太中学校)・オペラ歌手に習う歌唱
保険加入等		無

## 【活動の様子（写真添付）】



発表会 【アメージング・ピーターパン】



信太中学校 【吹奏楽指導】



津久野中学校 【オペラ講座】



【ヴァイオリニストに習う講座】

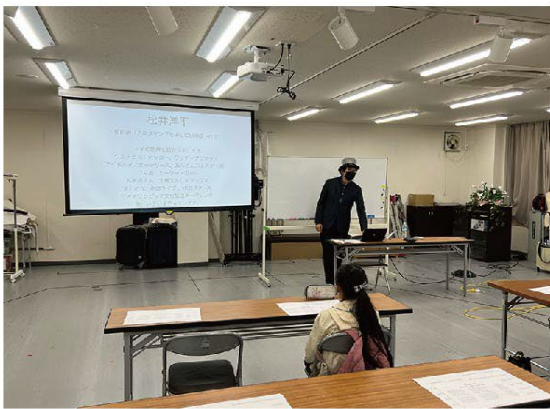




【作曲】



【打楽器】



【作詞】



【オペラ歌手に習う歌唱法】



【指揮】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	公益財団法人日本センチュリー交響楽団		
所在地	大阪府豊中市	設立年	1989年
運営主体	公益財団法人日本センチュリー交響楽団、豊中市		
事業目標	庄内みんなのための音楽教室(エル・システム in 豊中)」を実行することにより、生徒たちの「豊かな心の育成」に加えて「主体的に表現する力」「目標に向けて頑張る力」「コミュニケーション能力」などを育むことに繋がることを目標に掲げて活動する。		
きっかけ	平成29年度より、豊中市は、南部地域活性化構想を掲げており、統合する小中学校の跡地を地域の魅力に直結する活用を計画しています。その計画と連動する形で、統合する小中一貫校において「エル・システムin豊中」を実施することにより、音楽を通して子供たちの個性や取り組む意欲を育むことができると考え事業の計画を立てることとした。		
団体・組織等の連携	日本センチュリー交響楽団が運営コーディネーター・指導者の派遣、全体の統括を行い、豊中市が会場となる学校との調整、他の地域事業との連携・調整、今後の資金調達。エル・システムジャパンが楽器の貸与、講師陣との連携、カリキュラムの進行をサポートを行う。		
活動場所	豊中市立野田小学校、豊中市立島田小学校、センチュリーオーケストラハウス(発表会場)		
活動概要	経済状況や障がいの有無に関係なく誰もが放課後に参加できる小学生対象の無償の音楽教室「庄内みんなのための音楽教室(エル・システム in 豊中)」を開催。エル・システムジャパンのカリキュラムに則った形で、放課後の時間を利用して隔週に1回のワークショップを実施。		



## ○本事業による成果

放課後の学童保育の一部となるような実施をしたため、1年生から6年生まで全学年の生徒が参加できたことは上記の「きっかけ」や「目標」に記載した内容に則した成果が出せたのではないかと考えています。学校の音楽室をお借りして実施しましたが、楽器を準備室に置かせていただく事以外は音楽教員の方々にご面倒をおかけすることなく終えることができました。

また、各学校で積み重ねたワークショップの成果を発表会で披露できたこと、岩手県大槌町で行っているエル・システムの先輩たちが豊中に来て発表会に参加してくれたことは、ヴァイオリンを通じて学校の枠を飛び越えた交流に繋がったと自負しています。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

講師は、当楽団のメンバー、エルシステム経験者、ヴァイオリン奏者・指導者の3名を据えて、子供たちとの接し方が上手な人材を確保しました。生徒たちが飽きないように、各回ごとに最後は発表をして終わるなど、単なる指導ではなく個々の生徒が自発的に参加する雰囲気を作りながらワークショップを行っています。ヴァイオリンはデリケートな楽器だということを楽器の出し入れの時に指導しており、弓をたるましたり、弦を拭いてしまうなど楽器を大切に扱うことも併せて指導しています。

講師一人一人が専門的な技術を持っており、生徒に的確な見本を示しながら指導することができています。

## ○運営上の工夫

講師の選定、確保については、楽団のメンバーだけで考えずに、エル・システムジャパンや豊中市に相談しながら地元で活動する音楽家やエル・システム経験者を据えることで技術だけに偏らないようバランスを整えました。

ワークショップを平日の放課後に行うため、楽団と豊中市の誰かが必ず立ち会えるように調整し、生徒たちの募集については、各学校の先生と豊中市とで連携を取りながら、参加しようか悩んでいる生徒に積極的に声掛けをして参加人数を増やすことができました。

2月25日に開催した発表会では、多くの保護者にお越しいただき、お子様が頑張っている様子を見守って頂きました。

使用楽器はエル・システムジャパンよりあらゆるサイズのヴァイオリンを貸与いただき、生徒の身長に合わせたヴァイオリンで練習することができ、楽器は各学校の音楽準備室で預かっていただきました。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

継続的な運営のための話し合いを幾度となく重ねており、自治体が行う企業版ふるさと納税の活用を模索しておりますが、具体的な実施には至っておりません。

この事業の規模を拡大することになれば講師の数を増やすことも考えますが、現時点で実施回数や参加人数を大幅に増やすことは考えておらず、まずは活動資金に見合った規模感で継続していくことを考えています。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

当楽団の活動資金を本事業に投入することは、楽団の運営上非常に難しいため、自治体が行う事業への転化、自治体の予算取り、企業版ふるさと納税などによる資金の確保がないと、継続して行うことが難しいと考えます。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	25名
	学校名	豊中市立野田小学校、豊中市立島田小学校
	募集方法	各学校で体験会を実施し、学校単位で募集を募った
指導者	人数等	3名
	募集方法	楽団メンバーだけではなく、エル・システムからの紹介、豊中市からの紹介により指導者を選定
参加者の移動手段		公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	地域文化倶楽部助成金を活用
	その他	
活動財源	会費	特に徴収はしていない
	その他	地域文化倶楽部助成金を活用
スケジュール	基本活動	事前協議 2022年5月～9月 各学校でのワークショップ 2022年10月～2023年3月
	年間	下半期のみの開催 活動の成果を発表会という形で実施
保険加入等		行事参加型保険(2月25日発表会)

## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人ユグドラシル										
所在地	〒594-0002 大阪府和泉市上町674番地の1	設立年	2020年								
運営主体	特定非営利活動法人ユグドラシル										
事業目標	活動の実施期間は初年度は月4回程度、次年度より月6～8回を目安に長期的に活動を実施することを目標とする。なるべく土日を中心に活動を展開する。 学校や地域の垣根を越えて切磋琢磨することにより、泉州地域全体の芸術文化レベルの底上げと活性化を図ることができる。 また、学校や教育委員会との連携により、①多くの中学生の目に活動が触れ、参加しやすい②後援を受けられることにより、社会的信用度の向上とコンサート時の集客が容易になる③新たな部活動間のネットワークが構築でき、コンクールやコンサート等幅広い情報共有が可能となる。これらの効果が期待でき、初年度は参加人員30名超え(現在27名で90%)、費用負担はある程度確保しているため、最低限の参加費を保護者に支払ってもらうことで合意。補助金ではプロの指導者による謝金や学生にとって死活問題の楽器の確保及びそれに係る消耗品(木管のマウスピースやバルブオイルなど)及び調整費(キーの調整やタンポの交換等演奏に最低限必要な措置)に補填し、成果発表としてのコンサートを開催するための費用として状況に応じて費用負担を講じた(補助金対象外である備品の購入等)。										
きっかけ	大阪南部には吹奏楽部はいくつも存在しているが、強豪校以外の活動頻度は活発でないうえに、指導者も不在のことが多く、特に新型コロナウイルスの始まりによって非常に多くの中学校の吹奏楽活動が停止及び縮小を余儀なくされた。これに立ち向かったのが当会と、当会と連携している音楽を主体としているNPO団体や任意団体である。資金力や伝手をフル動員して練習場所に毎回ホールを借り受け、様々な地域の駆け込み寺となるべく昨年至る場所で活動を実施し、確かな手応えを感じたため、今年は泉州地域に固定して地域芸術文化の受け皿として確立するモデルとしての活動を計画していたところ、うってつけの補助金が始まったため申請した。										
団体・組織等の連携	<div><p>【関係団体一覧】</p><table><thead><tr><th>団体名</th><th>本事業における関わり方</th></tr></thead><tbody><tr><td>特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会</td><td>業務提携、指導、楽器手配など</td></tr><tr><td>和泉市教育委員会</td><td>学校関係との調整、連携</td></tr><tr><td>和泉市立信太中学校</td><td>アンサンブルの練習場所、楽器保管場所提携など</td></tr></tbody></table></div>			団体名	本事業における関わり方	特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会	業務提携、指導、楽器手配など	和泉市教育委員会	学校関係との調整、連携	和泉市立信太中学校	アンサンブルの練習場所、楽器保管場所提携など
団体名	本事業における関わり方										
特定非営利活動法人西臼杵教育振興連合会	業務提携、指導、楽器手配など										
和泉市教育委員会	学校関係との調整、連携										
和泉市立信太中学校	アンサンブルの練習場所、楽器保管場所提携など										



活動場所	和泉市立信太中学校第二音楽室、堺市立三原台中学校音楽室 大阪市立区民センターホール等
活動概要	<p>1. 指導</p> <p>(1) ソルフェージュ 楽譜を読み込む基礎訓練を行うとともに、その作曲者や編曲者の背景や意図を汲み、自発的に考えさせることにより芸術性の向上は元より感性の醸成や音楽に対する真摯な姿勢を養うことを目的とする。</p> <p>(2) 基礎練習 スケールやコード、ハーモニーの基礎練習を通して、芸術を創る根幹の重要性と身体に基盤を作り、部活外部での一般地域バンドとしてのサウンド作りと特色を見出すことにより、オリジナリティを創造して他とは一線を画す、息の長い組織づくりを目指す。</p> <p>(3) 合奏 基礎練習だけでは意欲が削がれるため、学生の協調性と親和性を深め、人に聴かせる音楽を創り上げるため曲を完成させる意味合いで合奏を行う。吹奏楽は文字通り吹くことにより音楽を作り、単音楽器のため息を合わせることに極意がある。合奏を実施することにより曲を創る楽しさは勿論のこと、息がぴったりと合ったときの爽快感と一体感は何物にも代えがたい感動を生み、より深みに嵌っていく。このことが芸術をより活性化するとともに学生は非行に走らず、健全な精神の修養が可能となる。</p> <p>(4) 企画 ただ基礎練習や合奏だけを繰り返していても何ら対外的にアピールもできず、自己満足で終わってしまうので、成果発表と活動報告を兼ねて年に1～2回コンサートを実施する。コンサート開催にあたって、実行委員の組織からコンサート企画、練習計画、選曲、渉外、広報、会計、監査と実施することは多岐に渡る。これらを積極的に関わらせることにより、どのような事象にあっても将来に渡って役に立てる能力を培い、地域の若手リーダー候補を積極的に育てていく。</p>

## ○本事業による成果

学校や地域の垣根を越えて、様々な地域から学生が参加してくれ、一つの基盤となる演奏団体となり、地域芸術文化の向上及び発展に寄与するという最大の目標はひとまず達成できたように思う。

プロの指導を受けられるという大きなメリットからか、和泉市の中からも信太中、和泉中、はつが野、隣の泉大津市からも誠風中や東陽中などから参加もあり、堺市立三原台中などからも参加があった。

当初の目標では3～4校程度、参加者数も20～25名程度を予定していたが、倍の参加校と、人数も時期によっては50名を超えるときがあり、200%達成となった。また、引率が教員である必要がないことから、外部移行のためのモデル事業としての目に見える成果として、少なくとも、指導中は教員が立ち会うことはなく、その時間は教員が他の会議や翌日の授業の準備、個人の時間に充当できたと聞いており、部活動に教員が縛られることはなく、生徒は専門的知識を均一に教授することができたので、双方にメリットのある事業とすることができた。部活動が週4回平均2時間としたとき、1週間で8時間、月32時間教員の時間を還元することができた計算になる。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

部活動の顧問は専門家でなく、また仮に楽器をしていたとしても、自身が経験したことでしか生徒に指導ができないため、極端な話楽器の持ち方・置き方、メンテナンス方法など演奏以前のことを知らない生徒が多数いたため、各セクション(フルート、クラリネット、サクソ、トランペット、ホルン、トロンボーン、テューバ、ユーフォニアム、コントラバス、打楽器)ごとに専門家の指導を実施し、全員が全くの素人レベルだった者から経験者と言えるレベルの水準にもっていくことができた。吹奏楽は人口が多い割に専門性が高く、多岐に分かれるため、ある程度知識がある人間を複数派遣しなければならず、部活では限界があるものについて今事業で補完及び代替となるような指導方法を実践することとした。

## ○運営上の工夫

人と人の繋がりが非常に大事であり、ボランティアであっても指導に時間をかけてくれ、指導をしたい、地域の文化向上に貢献したいといった奏者を呼びかけ、楽器や知識に偏りがなく指導できたのが非常に有効性が高かった。また、個人持ちのものではあったが、ipadなどでアプリを駆使し、Hz帯や波長、倍音を視認できるように工夫し、時間の短縮による効率的な指導を実施することができた。

そしてさらに、ソロコンクール直前等ではipadを貸与し、リモートでの指導も実施することにより、技術面で追いついていない生徒のサポートも積極的に行うことができた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

場所の確保や時間の確保は勿論のこと、楽器や必要備品の整備・維持はとてつもなくハードルが高く、ICTの有効活用といったことや、部活動の地域移行を本気で実行するなら、備品購入を一切認めない補助金の在り方では到底完全移行は実現しないように思える。部活の備品はあくまで学校のものであり、市など公共団体の財産である。民間の助成金で楽器が購入可能なものは倍率も厳しく、クラウドファンディングなど今誰しもが、どこの団体でも考慮し、実行しているところであり、全国規模での展開が控えている昨今では、相当厳しい展開が待っているように思う。

結局のところ、保護者負担や、補助金・助成金頼みで、備品や維持その他は善意に期待するという決して健全とはいえない財政状況で、常に綱渡りで運営を強いられることになる。これを回避するには、定期的に公演を実施し、固定客をつけ、寄付金や支援金、募金や物品販売など金策に講じる必要がある。なお、有料公演にした場合、ホール代の有料料金割り増し、設備付常料割り増し、著作権使用料、人件費が余分にかかるため、高額かつ大人数を動員できなければかえって余計費用がかかるので不可

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

活動場所や楽器の保管場所を提供してくれる学校なり場所がある地域はよいが、全体的にみて厳しいように思われる。学校や教育委員会などに伝手が無い場合、どのようにそういった場所を確保するのか、公共施設は既に市民団体が使っているところが多いか、保管不可のところも多く、学生に備品である楽器を触らせたくないという団体が普通である。このため、提言するとすれば、国→都道府県→市町村→地区の自治会や公民館、公共団体へ部活動から地域移行を担っている団体への協力と場所の提供に積極的に協力するよう要請をしておいてくださると、他の地域でも移行が段階的にできると思う。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	58
	学校名	信太中、和泉中、はつが野中等部、誠風中、東陽中、三原台中
	募集方法	公募(コンサートでのチラシ配布、個人SNS、指導学校へ声掛け等)
指導者	人数等	12人
	募集方法	提携事業者からの派遣、斡旋
参加者の移動手段		自力(徒歩、自転車、電車、バス、保護者送迎)
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 5,000円/h 指導・事務謝金 2,000円/日
	その他	再委託費(プロ演奏謝金 6,400円/h プロ交通費 2,200円/日)276,760円 成果発表会会場費及び付帯設備費 254,390円 舞台装置レンタル費 240,000円 打楽器レンタル費及び運搬費 500,000円
活動財源	会費	1活動1人500円を全40回(平均25名)=500,000円
	その他	補助金が入金されるまでの法人立替
スケジュール	基本活動	月4回を10ヶ月間実施。使用する学校や参加生徒のスケジュールを元に土日で練習日を決め、まずは基礎練習、そして同パートの練習、セクション練習をして全体練習が基本的なルーティン。基礎練習ではリトミックやソルフェージュ、スケール等の練習を基礎として実施。
	年間	年間スケジュール表に則り実施。3ヶ月に1度進捗状況の確認。成果発表会へ向けて企画委員会を立ち上げ、セットリストから構成、演出までを生徒中心に企画。1月28日に集大成となる成果発表会を実施。終了後は次年度に向けた練習計画や運営について計画。
保険加入等		参加者は個人で入ってもらうことを条件にしたため、運営側では未加入



## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	たじま児童劇団		
所在地	兵庫県豊岡市	設立年	2021年
運営主体	一般社団法人江原河畔劇場		
事業目標	小学生の部、中高生の部とも原則月2回活動する。小学生は最後に成果発表会を、中高生は冬休みを活用して本格的な質の高い公演を行う。定員を40名に拡大して募集する。兵庫県立日高高校演劇部の地域移行を実践していく。		
きっかけ	豊岡市では、全小学校で演劇的手法を用いたコミュニケーション教育を実施しているが、そこで演劇に興味を持った子どもの受け皿がなかったため。地域に演劇部が少なく、演劇活動の場を創出するため。		
団体・組織等の連携	<p>The diagram illustrates the collaborative network for the project. At the center is 'たじま児童劇団' (Tajima Children's Theater). It receives '機会' (Opportunity) and '参加費' (Participation Fee) from '児童・生徒' (Children/Students). It provides '指導' (Guidance) to '兵庫県立日高高校演劇部' (Hyogo Prefectural Nihokan High School Theater Department). It receives '企画・運営' (Planning/Operation) and '会場提供' (Venue Provision) from '江原河畔劇場' (Ehara Kawanabe Theater), which in turn receives '利用料' (Usage Fee) from the theater. '芸術文化観光専門職大学' (University of Art, Culture, and Tourism) provides '指導者派遣' (Instructor Dispatch) to the theater and receives '謝金' (Gratuity) from the theater. '劇団青年団 / (有) アゴラ企画' (Theater Youth Group / (Inc.) Agora Planning) also provides '指導者派遣' (Instructor Dispatch) to the theater. A box on the left indicates '周辺自治体の教育委員会' (Surrounding Local Government Education Committees) provide '児童、生徒への告知' (Notification to Children and Students).</p>		
活動場所	江原河畔劇場		
活動概要	<p><b>【スケジュール】</b>  5月～7月上旬 参加者募集告知  7月下旬 お試しワークショップと保護者説明会  8月～12月 月2回のワークショップ  冬休み 中高生の部による演劇公演(6ステージ)  2月 成果発表会(小学生の部)</p> <p><b>【実施期間・回数・会場】</b>  実施期間: 2022年7月～2023年2月  実施回数: 小学生の部 15回、中高生の部 24回  実施会場: 江原河畔劇場</p> <p><b>【講師】</b>小学生の部: 村井まどか(俳優)、田上豊(劇作家、演出家／芸術文化観光専門職大学)  中高生の部: 平田オリザ(劇作家・演出家／芸術文化観光専門職大学)、田上豊(劇作家、演出家／芸術文化観光専門職大学)</p>		

## ○本事業による成果

### ◎アンケート結果

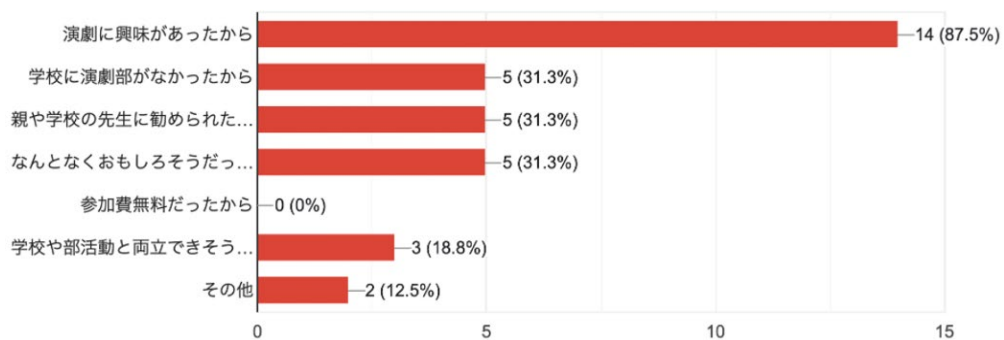
#### 【中高生の部】

##### <感想>

- ・最初は演劇の経験もなく、めちゃくちゃ緊張していましたが、みんな優しく、すぐに馴染むことができたし、演劇自体もすごく楽しくて、来年もやりたいと思っています。
- ・中学校での生活は嫌なことが多いけど、参加して、中学生時代は嫌なことばかりではなくて楽しいこともあると思いました。演劇の楽しさを教えて頂き、ありがとうございました。
- ・とても満足感や達成感がありすごく楽しかったです。できれば来年も参加したいです。
- ・高校卒業しても行きたいくらい楽しかった
- ・他校の子と喋る機会があり、新しい繋がりが増えて、自分自身が成長できてとてもよい経験となりました。オリザさんのご指導も受けさせてもらい、naturalに演技を楽しんでとても楽しかったです！
- ・とても濃密な時間を過ごさせていただき、関わってくださったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。たじま児童劇団での経験を糧に、さらなる高みを目指し、夢に向かって邁進していきます。

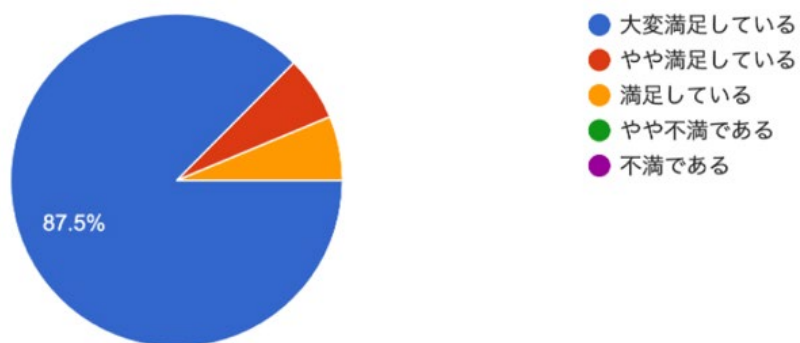
#### 「たじま児童劇団」に参加したきっかけを教えてください

16件の回答



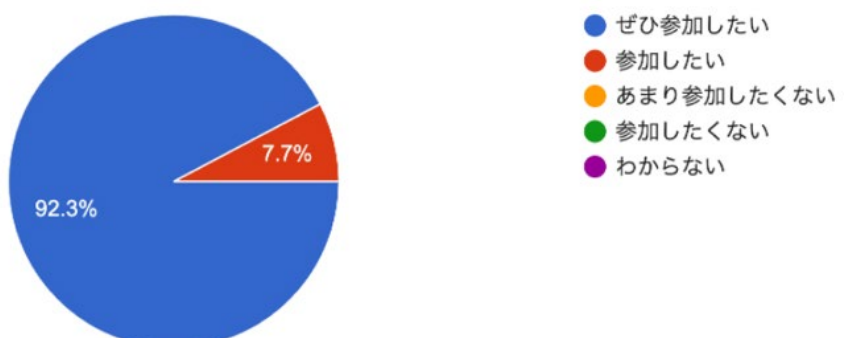
#### 活動内容に満足していますか

16件の回答



#### (高校3年生以外) 機会があればまた参加したいと思いますか

13件の回答



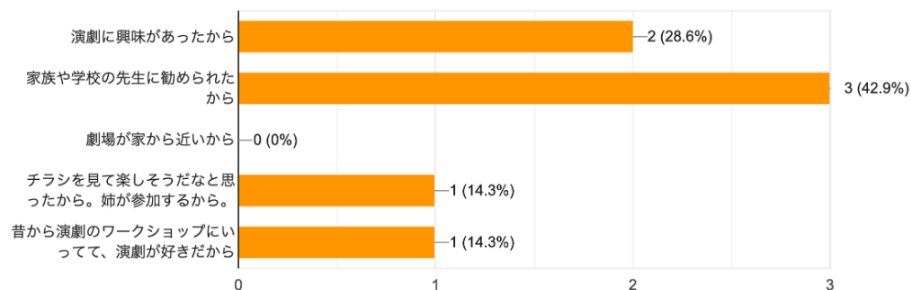
## 【小学生の部】

Q.楽しかった活動を教えてください

- ・演劇をすること
- ・みんなで創作すること
- ・自分達で劇を作るのが楽しかった
- ・最後の発表会
- ・みんなで、劇をつくるとき

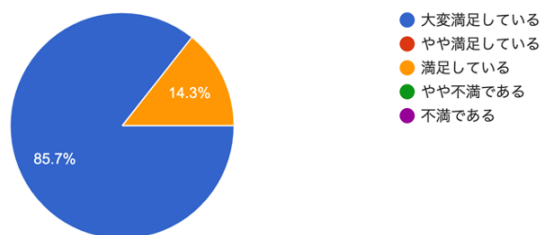
たじま児童劇団に参加したきっかけを教えてください

7件の回答



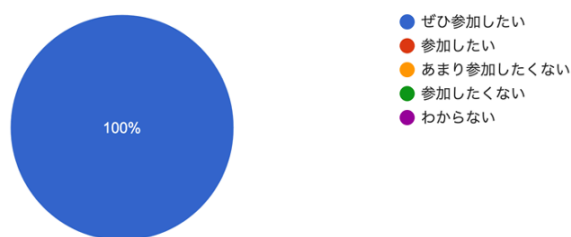
活動の満足度を教えてください

7件の回答



また参加したいと思いますか

7件の回答



## ◎兵庫県立日高高校演劇部での指導成果

演劇部顧問の教員に代わって、児童劇団スタッフが部活動での指導に当たった。看護専科の学校という特性もありコロナ対策が厳しく、当初の予定より訪問回数が減ったものの、シアターゲーム、トレーニング方法、高校生が演じやすい作品紹介などをおこなった。次年度以降のさらなる連携が望まれている。



## ○児童・生徒への指導に関する工夫

指導はプロとして活動している演出家(芸術文化観光専門職大学教員)、俳優、スタッフが務めている。  
芸術文化観光専門職大学の学生がアシスタントとして関わっている。  
劇場設備を利用して本格的な演劇活動を実施している。  
成果発表の場として、一般公開の形で公演を行なっている。  
指導者は全員ハラスメントに関する講習を受けている。

## ○運営上の工夫

- ・各市町の教育委員会の協力を得て、学校でチラシを配布したりポスターを掲示した。
- ・活動場所は運営している江原河畔劇場を中心に、劇場で予定がある際は近隣の公民館を借りて実施した。
- ・劇場の備品(小道具、衣裳、装置など)を活用した。
- ・保護者との連絡手段は主にメールを利用した。心配事などがないか、送迎の際などに声がけをしてヒアリングを行うよう心がけた。
- ・活動内容等はFacebookやTwitterで報告し、活動のPRに努めた。
- ・アシスタントに入っている学生やスタッフに対して毎回フィードバックを行い、メインファシリテーターの育成を視野に入れて活動した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・教育委員会との連携について、今後はより部活動の地域移行が促進できるような取り組みを行いたい。
- ・芸術文化観光専門職大学と連携し、学生に実習の場を提供し、人材の確保や育成を継続したい。
- ・会費徴収に関して保護者からは理解を得ている。継続した運営のために引き続き徴収は必要と考える。
- ・自治体の助成金制度、民間の補助金を検討している。
- ・保険(公益財団法人スポーツ安全協会)への加入を必須とし、安心して参加できる環境を整える。
- ・会場への送迎が保護者の負担となっている。参加しやすいプログラム編成を行う。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

兵庫県但馬地域には演劇部のある学校が少なく(現在2校)、中高生が演劇活動を行う場がほとんどない。  
参加者へのアンケートからも、演劇部がないからたじま児童劇団に参加したという回答があった。  
今年度までの活動は週末を利用して月に2回実施した。予算が見合えば、芸術文化観光専門職大学と連携して人材を確保し、実施回数を増やしたり、平日放課後の実施も可能である一方、但馬地域が広域であり、興味のある児童・生徒が通うことを考えると、いわゆる部活動の活動回数(週3~4回)を担保して移行するのは難しい。活動回数が多ければ保護者の送迎等の負担が増すため、継続して実施するためにも、公共交通機関を利用しやすい時間帯で活動時間を設定したり、保護者にも無理のない設定が必要である。取組状況にも記したが、今年度は28の学校から参加があった。平日の活動と週末の活動でコースを分けたり、地域の特性に合ったプログラムを検討する必要がある。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生の部 19名 中高生の部 20名
	学校名	【小学校】 豊岡市立五荘小学校、豊岡市立城崎小学校、豊岡市立八条小学校、豊岡市立梁瀬小学校、豊岡市立小坂小学校、豊岡市立日高小学校、豊岡市立港小学校、豊岡市立豊岡小学校、豊岡市立弘道小学校、養父市立八鹿小学校、朝来市立系井小学校、竹田小学校、新温泉町立温泉小学校、朝来市立系井小校、豊中市立北丘小学校(大阪) 【中学校】 豊岡市立出石中学校、豊岡市立豊岡南中学校、豊岡市立豊岡北中学校、養父市立八鹿青溪中学校、香美町立村岡中学校、香美町立香住中学校 【高校】 兵庫県立豊岡高校、兵庫県立八鹿高等学校、鳥取城北高校、兵庫県立但馬農業高等学校、兵庫県立豊岡総合高校、兵庫県立千種高等学校、兵庫県立日高高校
	募集方法	5月に、但馬地域の全小学校、中学校、高校にチラシを配布。小・中学校は教育委員会経由、高校は個別に依頼。 劇場のSNS(WEBSITE、Facebook、Twitter)で告知。
指導者	人数等	演出家2名(芸術文化観光専門職大学教員) 俳優1名(当劇場スタッフ)
	募集方法	令和5年4月に直接依頼
参加者の移動手段		保護者の車での送迎、公共交通機関
活動費用	指導者謝金等	指導者(外部):30,000円/回 指導者(当劇場所属)1,050円/時
	その他	チラシ印刷費(参加募集、公演用)148,410円 公演スタッフ費511,000円
活動財源	会費	【小学生の部】 年間7,000円、保険料800円 【中高生の部】 年間20,000円、保険料800円
	その他	中高生の部公演チケット売上 389,040円

スケジュール	基本活動	【小学生の部】月2回(土曜日) 【中高生の部】月2回(日曜日) ※劇場の予定等で調整あり																																																																																																																																																										
	年間																																																																																																																																																											
		<table><tr><td>7月18日</td><td>月祝</td><td>10:30-11:30(WS) 11:30-12:00(保護者説明会)</td><td>小学生お試し</td></tr><tr><td>8月6日</td><td>土</td><td>10:00-12:00</td><td>小学生</td></tr><tr><td>8月20日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>9月3日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>9月10日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>10月1日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>10月15日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>10月29日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>11月12日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>12月3日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>12月24日</td><td>土</td><td>10:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>1月7日</td><td>土</td><td>11:30-12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>2月12日</td><td>日</td><td>9:30～12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>2月18日</td><td>土</td><td>9:30～12:30</td><td>小学生</td></tr><tr><td>2月19日</td><td>日</td><td>9:30～16:30</td><td>小学生</td></tr></table> <table><tr><td>7月24日</td><td>日</td><td>16:30-17:30</td><td>中高生お試し</td></tr><tr><td>8月7日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>8月21日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>9月4日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>9/23～25</td><td></td><td>演劇祭観劇</td><td>中高生</td></tr><tr><td>10月10日</td><td>月祝</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>11月6日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>11月13日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>11月27日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月4日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月24日</td><td>土</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月25日</td><td>日</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月26日</td><td>月</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月27日</td><td>火</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月28日</td><td>水</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月29日</td><td>木</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>12月30日</td><td>金</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月4日</td><td>水</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月5日</td><td>木</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月6日</td><td>金</td><td>10:30-17:00</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月7日</td><td>土</td><td>11:30 / 15:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月8日</td><td>日</td><td>11:30 / 15:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月9日</td><td>月祝</td><td>11:30 / 15:30</td><td>中高生</td></tr><tr><td>1月22日</td><td>日</td><td>10:30-12:30</td><td>中高生</td></tr></table>	7月18日	月祝	10:30-11:30(WS) 11:30-12:00(保護者説明会)	小学生お試し	8月6日	土	10:00-12:00	小学生	8月20日	土	10:30-12:30	小学生	9月3日	土	10:30-12:30	小学生	9月10日	土	10:30-12:30	小学生	10月1日	土	10:30-12:30	小学生	10月15日	土	10:30-12:30	小学生	10月29日	土	10:30-12:30	小学生	11月12日	土	10:30-12:30	小学生	12月3日	土	10:30-12:30	小学生	12月24日	土	10:30-12:30	小学生	1月7日	土	11:30-12:30	小学生	2月12日	日	9:30～12:30	小学生	2月18日	土	9:30～12:30	小学生	2月19日	日	9:30～16:30	小学生	7月24日	日	16:30-17:30	中高生お試し	8月7日	日	10:30-12:30	中高生	8月21日	日	10:30-12:30	中高生	9月4日	日	10:30-12:30	中高生	9/23～25		演劇祭観劇	中高生	10月10日	月祝	10:30-12:30	中高生	11月6日	日	10:30-12:30	中高生	11月13日	日	10:30-12:30	中高生	11月27日	日	10:30-12:30	中高生	12月4日	日	10:30-12:30	中高生	12月24日	土	10:30-17:00	中高生	12月25日	日	10:30-17:00	中高生	12月26日	月	10:30-17:00	中高生	12月27日	火	10:30-17:00	中高生	12月28日	水	10:30-17:00	中高生	12月29日	木	10:30-17:00	中高生	12月30日	金	10:30-17:00	中高生	1月4日	水	10:30-17:00	中高生	1月5日	木	10:30-17:00	中高生	1月6日	金	10:30-17:00	中高生	1月7日	土	11:30 / 15:30	中高生	1月8日	日	11:30 / 15:30	中高生	1月9日	月祝	11:30 / 15:30	中高生	1月22日	日
7月18日	月祝	10:30-11:30(WS) 11:30-12:00(保護者説明会)	小学生お試し																																																																																																																																																									
8月6日	土	10:00-12:00	小学生																																																																																																																																																									
8月20日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
9月3日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
9月10日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
10月1日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
10月15日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
10月29日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
11月12日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
12月3日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
12月24日	土	10:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
1月7日	土	11:30-12:30	小学生																																																																																																																																																									
2月12日	日	9:30～12:30	小学生																																																																																																																																																									
2月18日	土	9:30～12:30	小学生																																																																																																																																																									
2月19日	日	9:30～16:30	小学生																																																																																																																																																									
7月24日	日	16:30-17:30	中高生お試し																																																																																																																																																									
8月7日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
8月21日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
9月4日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
9/23～25		演劇祭観劇	中高生																																																																																																																																																									
10月10日	月祝	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
11月6日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
11月13日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
11月27日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
12月4日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
12月24日	土	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
12月25日	日	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
12月26日	月	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
12月27日	火	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
12月28日	水	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
12月29日	木	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
12月30日	金	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
1月4日	水	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
1月5日	木	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
1月6日	金	10:30-17:00	中高生																																																																																																																																																									
1月7日	土	11:30 / 15:30	中高生																																																																																																																																																									
1月8日	日	11:30 / 15:30	中高生																																																																																																																																																									
1月9日	月祝	11:30 / 15:30	中高生																																																																																																																																																									
1月22日	日	10:30-12:30	中高生																																																																																																																																																									
保険加入等		スポーツ安全保険(保護者負担800円／年)																																																																																																																																																										

## 【活動の様子（写真添付）】



小学生の部:活動写真



小学生の部:活動写真



中高生の部:活動写真



中高生の部:活動写真



中高生の部:活動写真



中高生の部:舞台写真



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	株式会社Global Entertainment-JAPAN		
所在地	兵庫県西宮市	設立年	1998年
運営主体	株式会社Global Entertainment-JAPAN		
事業目標	弊社が企画・運営する日本初の総合エンターテイメント教育機関「G・E-JAPANエンターテイメント・カレッジ(兵庫県西宮本校)」内に、「西宮子ども文化倶楽部(仮称)」を創設し、地域の子どもたちが「エンターテイメント教育」を通じて「自己表現力」や「コミュニケーション能力」を豊かに養うことを目標とする。		
きっかけ	演劇・ダンス・パフォーマンス等、様々なジャンルのエンターテイメントを、ジャンルの枠を乗り越えた繋がりを持ちながら、同じ教育機関で学べる環境を整えたいと考えたのがきっかけです。		
団体・組織等の連携	「G・E-JAPANエンターテイメント・カレッジ」⇄各クラス講師陣←一般社団法人日本エンターテイメント連盟がフォロー		
活動場所	兵庫県西宮市を拠点とする、日本初の総合エンターテイメント教育機関「G・E-JAPANエンターテイメント・カレッジ」		
活動概要	タップダンス・クラウン(道化師)・ジャグリング・パントマイム・ミュージカル等の様々なエンターテイメントジャンルのレッスンの他、出張ワークショップ、全国規模での学校公演・芸術鑑賞会の実施等。		

## ○本事業による成果

普段、学校での教育活動では体験することが難しいと思われるエンターテインメントジャンルを設定した。例「タップダンスクラス」「ジャグリングクラス」「ミュージカルクラス」等。その点では、学校の先生の負担軽減にも繋がったかと思うと共に、専門性の高い指導を行うことが出来た。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

子どもたちが自分自身で受講ジャンルを決められるよう、クラスの選択肢を設けた。また各クラスに専門の講師を置くことによって、子どもたちに「本物」を見せ、生の文化芸術に接する感動を体験させることが出来た。レッスンの最後に成果発表の機会を提供することによって、人前で表現し拍手を頂くことの醍醐味を体験させることが出来た。

## ○運営上の工夫

・各クラスに共通する受講生もいた為、講師間で随時連携して指導方針を策定した。・時間の厳守やレッスン前後の挨拶を徹底することによって、講師から指導を受ける姿勢を学べるようにした。・他の受講生の取組に敬意を払いお互いを認め合えるような環境を整えた。これにより、エンターテインメントの答えは一つではなく様々な表現の可能性があることを伝えられたと思う。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

・長引くコロナ禍で実施の延期や規模縮小を余儀なくされた為、今後は当初の予定通りに実施する準備をして行きたい。・市役所の文化芸術担当者や、教育委員会、近隣の学校の先生方、PTAとより緊密に連携した活動に拡げて行きたい。・現在、私共のスタジオやホールでの成果発表の機会を予定しているが、今後の感染状況が改善されたら、近隣の公共施設やショッピングセンターなどとも連携して、イベント的に子どもたちの発表機会を企画出来たらと考えている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

・学校での部活動から移行して行く大きなメリットとして、指導講師がエンターテインメントの専門家であることが挙げられる。指導の質をより向上させると共に、やはり学校の部活動では時間的に制限されやすい、各受講生へのきめの細かい指導や支援サポート体制を整えて行きたい。発表の機会を随時提供出来るよう、地域コミュニティと親密に連携を取って行きたい。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	延べ23名
	学校名	兵庫県及び大阪府内の小中学校
	募集方法	チラシ配布、近隣ショッピングセンターでのチラシ配布、SNSの活用、ロコ
指導者	人数等	4名
	募集方法	関西のエンターテイメント界の各ジャンルで活躍する一流の講師陣に直接
参加者の移動手段		公共交通期間、徒歩など
活動費用	指導者謝金等	本事業の委託金より
	その他	本事業の委託金より
活動財源	会費	無料
	その他	特になし
スケジュール	基本活動	昨年11月末より具体的な企画を進め、年明けからの実施となった。
	年間	感染状況が改善され次第、実施出来るよう準備を進めていた。
保険加入等		今後、検討したい

【活動の様子（写真添付）】

〔ミュージカルクラス〕



〔ジャグリングクラス〕





## 〔タップダンスクラス〕



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	わくわく音楽会実行委員会		
所在地	兵庫県宝塚市	設立年	2020/4/1
運営主体	兵庫県三田市や近郊に在住のプロアーティスト。 及び三田少年少女合唱団、宝塚少年少女合唱団。		
事業目標	子どもたちが身近な地域で学校の合唱活動に代わり得る継続的で質の高い音楽活動の機会を確保できるように、新たな課外活動の場「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」及び「兵庫青少年の歌声倶楽部」を創設する。		
きっかけ	コロナ禍に入り、特に新卒のプロアーティストが本来活動する演奏の場を失って生計を立てる事ができないまま多くのアーティストがその道を諦めていく現状を見、支援目的で若いアーティストにスポットをあてた演奏会を実施したこと。 一方で、コロナ禍で学校での合唱環境が激減する事を受けて、子どもたちへの質的合唱活動となる演奏会の場を創る必要性が高まったと考えたため。		
団体・組織等の連携	開催地の三田市、三田市総合文化センター郷の音ホール登録アーティスト 各地域の教育委員会、地域のプロ奏者、地域のラジオ放送		
活動場所	三田市総合文化センター郷の音ホール 三田市、宝塚市、神戸市、西宮市、の各市民センター・公民館		
活動概要	わくわく音楽会実行委員会は地域のプロアーティストを発掘し、演奏及び鑑賞機会を設けて演者の周知に務め、生計の一助とし、地域の文化啓蒙に貢献する。また、地域の子ども達への音楽教育の場となる演奏環境を企画し、プロアーティストと音楽を学ぶ子ども達をつなぎ、人材育成の場を提供する事を活動とする。 今回の事業では、幼児～小学4年生対象の「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」、小学5年生～高校生対象の「兵庫青少年の歌声倶楽部」を設置して120名を募集し、年間10～16回の合唱指導を地域の児童合唱指導者が行い、2023年1月15日(日)に三田市総合文化センター郷の音ホール大ホールにて発表会を実施。小さいこども達は童謡や唱歌などを、青少年はミサなどの合唱作品を、地域のプロ奏者で創るオーケストラと共演し、プロ音楽家の演奏を鑑賞した。		

## ○本事業による成果

「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」の目標募集数の120名の内最終94名が参加し、78%に達成した。「兵庫青少年の歌声倶楽部」の目標募集数の30名の内最終23名が参加し、76%に達成した。(中間報告から数字が減少したのは、コロナやインフルエンザなどで欠席が相次いだため)

今回の事業はコロナ禍で学校現場では従来通りに活動できていない「合唱」を目的とし、音楽の授業や部活動で活動できなかった「合唱」を課外活動で実施した点で学校の役割を補填した事は、教員の負担軽減に寄与したと考える。

アンケートでは上記の事について「学校で歌えなかった分、たくさん歌うことができてよかった。」「学校では音楽会も歌えなかったが、おおきなホールで声を出す事ができてよかった」などの声があったことや、部活動については「合唱部がないので、大きな経験をさせていただいて有難かった」「オーケストラの方々と演奏することなんてめったにないから良かった」「戴冠ミサの暗譜は大変だったけど、本番はたくさんの演奏家の音楽に支えられて歌う事ができてよかった。感動した」など、回答を得る事ができた。質的な活動を行った点において、部活動に代わり得ると事業であったと考える。

また週1度の練習頻度は、放課後の生活多様化に伴って、他の部活動や塾などと平行できる無理のない時間量であるため、生徒と指導者の両者にとって持続可能な適切な頻度であったと考える。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」においては、歌うことが楽しく、仲間と一緒に活動することの喜びを得る事ができるように、「兵庫青少年の歌声倶楽部」では学校では実施しない質の高い作品に取り組み、オーケストラとの共演などの体験を遂げ、充実した活動に参加できた喜びを感じる事ができるように指導を心がけた。実施後は指導者による指導研修を行って技術的な内容、子ども達の精神支援について検討協議を行い指導に還元した。

発表会の内容の他に、季節の唱歌や、楽器の演奏、講師による演奏など、周知知識の指導も行った。

## ○運営上の工夫

指導のあり方は、実施する児童合唱の指導者や実演家(声楽家)による研修や勉強会を実施し、改善を目指した。

参加者へは、対象学年が参加しやすい時間(低学年は週末の午前中、青少年は週末の夕方)を実施時間とした。

募集方法は対象生徒の幼・保・学校へ募集チラシを全校配布し、チラシは全学年クラス分けした上で各教育委員会へ配布依頼した。

各地域での練習時間には、地域の児童合唱団の保護者の方々や合唱団のOBOGが連携し円滑に参加者を案内した。

合唱団の団長や役員の方々がコーディネーターの役割を担い、連絡や用具調達、運搬、保管についても役割を担った。

普段から地域の児童合唱活動を営む陣営によって実施したため、関係者にとって無理のない仕組みを構築した。

事業の性質上ICTは連絡使用のみに留め、指導は対面活動に拘った。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所や指導者は、地域の児童合唱団が事業を実施する形となれば安定して継続する事が可能。発表会については、大きなホールではなく、コミュニティホールサイズであれば参加費、入場料収益で十分に実施する事が可能。

自治体・民間企業・行政・文化芸術団体との連携は、この度の事業を結果として示して認知し、今後協力を交渉していくことで連携を産み出していく事が可能。

参加費や入場料の徴収については概ね理解を得ており、地域の児童合唱団が実施する事で減免措置のある施設を利用する事も可能。

青少年の歌声倶楽部における共演者は、指定管理のホールアーティスト登録バンクを今後活用する事も可能。

イベント保険については、大きな事故は可能性が低いが加入しておいた方が安全と考える。

教育期間との連携はもっとも課題。事業の性質上、募集の段階で子ども達に直接を入れることが効果的で、この点はICTなどの情報網は非効率的であった。そのため、継続していくためには募集チラシを全校配布することが必須だが、その業務については現段階では教員の手を借りる他がない。

この点で、協力的な教養育委員会(宝塚市・三田市)は募集チラシの配布を快く引き受けて、市内の学校へ潤滑に情報を届けてくださったお陰で生徒を集める事ができた。

一方、非協力的であった教育委員会(西宮市・神戸市)は、〈教員の負担軽減〉を理由に募集チラシを受け取らない対応を示し、運営側が直接対象地域の学校長へ直接に配布依頼交渉を実施する非効率を起こした。

神戸市にいたっては、その上でも学校内の生徒に配布しない学校が半数を締め、募集に難を生じた。

教員の負担軽減のために行う事業(本事業)が、教員の負担軽減のための政策(募集チラシを受け取らない)のために、地域移行が実施できないという矛盾が起きていることが課題であると考ええる。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」については、幼児～小学4年生を対象に募集し、地域の児童合唱指導者による合唱指導を3～4回設け、指導期間に入るまでに指導者研修を行う。

1学期中に地域の小学校・保育園・小学校へ募集チラシを全校配布して生徒募集し、練習は地域児童合唱団の練習内で実施する。

発表会を地域児童合唱団の子ども達と一緒に発表会を実施し、その後合唱の修学を目指す子ども達へ、地域の児童合唱団を紹介する事で、クラブ活動で実施する合唱教育を、地域へ現場を移行していく。

「兵庫青少年の歌声倶楽部」については、小学5年生～高校生を対象に募集し、地域の児童合唱指導者による合唱指導を10回程度設け、指導期間に入るまでに指導者研修を行う。

1学期中に地域の小学校・中学校・高校へ募集チラシを全校配布し、練習は地域児童合唱団の練習内で実施する。

発表会を地域児童合唱団の子ども達と、地域の実演家(演奏家)との合同演奏を発表会として実施し、その後合唱の修学を目指す子ども達へ、地域の児童合唱団を紹介する事で、部活動で実施する合唱教育を、地域へ現場を移行していく。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	兵庫小さなこどもの歌声倶楽部(年長～小4まで、30名) 兵庫青少年の歌声倶楽部(小5～高校生まで、30名)
	学校名	三田市、宝塚市、神戸市北区、西宮市山口町の市立小学校 三田市、神戸市北区、西宮市山口町の市立中学校
	募集方法	対象地域における学校へ、募集チラシを全校全児童配布
指導者	人数等	地域の児童合唱団の指導者、及び地域の声楽家、ピアニスト、計6名
	募集方法	各地域の児童合唱団、声楽家、ピアニストへ個人交渉
参加者の移動手段		各家庭の自車送迎、電車、徒歩
活動費用	指導者謝金等	文化庁実施の手引きに従って賃金、交通費を発生
	その他	募集チラシ、発表会、などのチラシ作成に係る印刷、デザイン、広告料。 練習会場の貸借料。 楽譜、発送、連絡などの通信料。 その他、消耗費。
活動財源	会費	「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」は参加家族による発表会入場料チケットによる徴収 「兵庫青少年の歌声倶楽部」は参加者から参加費を徴収及び、観衆からの入場料収入
	その他	
スケジュール	基本活動	「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」は土曜日の午前10:00-12:00に実施。 「兵庫青少年の歌声倶楽部」は土曜日の午後15:00-17:00に実施。
	年間	「兵庫小さなこどもの歌声倶楽部」は春に募集して夏に発表会を実施、及び冬に募集し春に発表会実施。練習は年間4回×会場数×発表会数を実施する。 「兵庫青少年の歌声倶楽部」は、春夏に募集して、秋冬にかけてに実施。練習は年間10回実施。
保険加入等		イベント保険の加入を検討

## 【活動の様子（写真添付）】

・兵庫小さなこどもの歌声倶楽部発表会の様子



・兵庫青少年の歌声倶楽部発表会の様子



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人ダンスボックス		
所在地	神戸市長田区久保町6-1-1	設立年	1996年
運営主体	特定非営利活動法人ダンスボックス		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加生徒の創造性や主体性を育むこと、多様な表現方法に触れる中で自身に合う表現方法を見つけること。</li> <li>・地域のなかに生徒にとっての第三の居場所(サードプレイス)をつくること。</li> </ul>		
きっかけ	<p>●美術、音楽、ダンスなどの領域を横断した表現を、地域の施設やアーティストが受け皿となって、中学生が部活動の一環として触れることのできる場</p> <p>●学校等の教育現場には、文化庁「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」で継続して実施してきたが、恒常的な表現の場以上の場を創出したいと考えた。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	神戸市長田区南部 ArtTheater dB神戸、スタジオ・長田教坊、ジョブスペーススラボ、神戸映画資料館、駒ヶ林会館		
活動概要	<p>「地域文化倶楽部:芸術で爆発だ！」</p> <p>■活動の実施期間 ※金曜日展開 令和4年8月～2月</p> <p>■活動の実施回数=16回 1回=90分～210分</p>		

## ○本事業による成果

- ・コロナ禍で学校での活動が制限される中で、これまであまり体験できなかった機会を生み出すことができた。
- ・様々な表現に触れることで、自分を肯定できるようになってきた。
- ・昨年度より継続することで、地域の施設やアーティストとの連携や信頼関係を結ぶことができた。
- ・生徒たちとのフィードバックの中で、自分の言葉で考えていることを言えるようになってきた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・部活動終わりに、生徒たちが、自分達の言葉でフィードバックを話せるような場づくりを心がけた。
- ・生徒達の取り組みたいことを大事にし、自主的・能動的に部活動に取り組むことができるような流れに持って行けるように工夫した。
- ・部活動の前には指導者との打合せを行い、指導方法の見直しを都度行なった。

## ○運営上の工夫

- ・生徒達が、ゲスト講師だけではなく、地域で活動するプレイヤーやクリエイターなど、いろんな表現活動に取り組む大人たちと出会う機会を設けた。
- ・地域の様々な場所を会場にし、地域住民等にとっても当事業の認知拡大に努めた。
- ・神戸市の事業助成に申請し、収入を増やそうと努めたが、採択されなかった。しかしながら、神戸市に当事業の認知を図ることができた。
- ・神戸市教育委員会が運営する神戸市内の全保護者に広報されるツールから情報発信を複数回にわたり実施した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・劇場ArtTheater dB KOBEを中心に、地域のなかのいろんな機能をもつ施設で実施した。また、地域を拠点とするアーティストが講師として関わる事で、連携を深めることができた。
- ・実施前には、校区内の中学校に相談に行き、日程やプログラム内容の助言を得る事ができた。ただ、学校との連携面においては、まだ課題が残る
- ・中学生児童からの自主的に参加するプログラムである。結果的には、文化芸術に関心のある保護者の児童の参加が多かったため、文化芸術に関心のない保護者の児童の参加を得る事が難しいことが課題である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・不登校の児童にとっての受け皿となる部活動の実施。自身を表現する方法、コミュニケーションの様々なあり方を体験する機会を通して、自分自身を肯定する力を養う。
- ・地域全体が子ども達の受け皿となること。地域に位置する様々な施設や、地域で活動するアーティストに出会うことで、児童の人間関係を固定化せず、選択の可能性を広げること。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	のべ90名
	学校名	親和中学、長峰中学校、鷹匠中学、芦屋国際中等教育学校、鷹取中学 他
	募集方法	・ポスター、チラシの配布 ・SNSの活用 ・神戸市教育委員会が運営する神戸市内の全保護者に連絡される「す ぐーる」を通しての情報提供
指導者	人数等	当団体団員 1名 指導者 計9名
	募集方法	募集は行っていない
参加者の移動手段		公共交通機関の利用
活動費用	指導者謝金等	指導者謝金 5,100円×2時間の計算で支払い
	その他	・会場費（会場毎によって異なる賃料） ・各講座で使用する特殊な機材や楽器等は講師からレンタル
活動財源	会費	なし
	その他	参加児童の負担がないように実施したが、参加児童の交通費は保護者 負担
スケジュール	基本活動	8月26日からのほぼ毎週金曜日 16:30-18:00
	年間	8月26日、9月2日、9月23日、9月30日、10月7日、10月14日、10月21日、 10月28日、11月4日、11月11日、11月18日、11月25日、12月9日、12月16 日、12月22日、2月15日
保険加入等		

【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人 やんちゃんこ		
所在地	兵庫県尼崎市	設立年	2015年
運営主体	特定非営利活動法人 やんちゃんこ		
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生からシニア世代が演劇活動を通して、世代間交流を深める。</li> <li>・演劇活動から、コミュニケーション力を高め、表現力、国語力を身につける一助とする。</li> <li>・発達特性を持つ子どもや不登校の子どもたちが活躍できる居場所作りを目指す。</li> <li>・兵庫県立尼崎青少年創造劇場との協力を得ることで、プロの劇団員からの指導を受けることができ、学校では実施できない専門的な活動を実施する。</li> <li>・学校、行政、社会福祉協議会等との連携を図ることで、学校ではみられない生活・家庭環境からの見守り活動へとつなげる。</li> <li>・本活動を通して見られる子どもたちの姿を学校と情報共有することで、個々の支援計画へとつなげる。</li> <li>・演劇活動を通して、集団活動の大切さや表現力を学ぶ。</li> <li>・世代間交流・コミュニケーション力の習得。</li> <li>・不登校や発達特性等の子どもたちの居場所作り。</li> <li>・自己肯定感の向上・地域福祉支援等を目指す。</li> </ul>		
きっかけ			
団体・組織等の連携			
活動場所	尼崎市立花北生涯学習プラザ 尼崎市立花南生涯学習プラザ 当法人施設		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月2～3回 日曜日の午前中を活動時間としている(ただし、公演間近になると毎週日曜日の午前・午後の練習時間となる)</li> <li>・子ども12名、大人14名 小学2年生から80歳までの劇団員で構成</li> <li>・練習はウォーミングアップの発声練習や身体表現のためのゲーム等をした後、台本読み、歴史学習、立ち稽古、大道具や小道具作り等</li> <li>・公演に向けての練習 (言語のコミュニケーション力強化・身体表現力・歌唱練習等)</li> </ul>		

## ○本事業による成果

- ・劇団員は1年間のまとめとして練習してきたことを発表できて充実感でいっぱいであった。
- ・学校でのクラブ活動とは違い、他校の子どもたちと共に活動することが新鮮であり、お互いの向上心も高め合うこととなった。
- ・各学校の校長先生や担任、また教育委員会から次長や指導主事も来られ、学校とは違う生き生きとした姿を観ていただき、地域における世代間交流を踏まえた有意義な活動の価値を感じてもらえた。

※来場者全員の回収ではありません。  
質問により複数回答および未回答もあります。回収数138

### やんちゃんこ劇団 第3回公演 来場者アンケート結果

Q1 今回の劇を何で知りましたか？

チラシを見て	22
ホームページを見て	3
FM尼崎を聞いて	1
友だちが出演している	59
家族が出演している	32
その他	26

Q2 今日の劇はどうでしたか？

感動した	124
ふつう	8
つまらなかった	0
劇団に入りたいな~と思った	4

おかだあん・かみざわみつき・島親子・鳥羽志奈

生徒が出演・神戸新聞を見て

Q3 アンケート記入者の年齢

小学生以下	3	40才代	24
小学生	9	50才代	27
中学生	5	60才代	24
19~29才	5	70才以上	14
30才代	8	無記入	19

Q4 今日の劇を見て、思ったことを自由に書いてください。

#### 小学生以下

- ・ちょっとむずかしかった。もっとわかりやすいやつがいいです。(山口しょう大・男)

#### 小学生

- ・演技をする人はやっぱりすごいなと思いました。真のお父さんも、目が見えない演技をするのがとても上手で、本当に目が見えてないみたいでした。また次の公演もたのしみにしてます。がんばって！  
感動するところもあるけれど、おもしろいところもある話(大富百花)
- ・はじめてみたけどげき団でとてもすごいなあと思いました。この話でやっぱりやさしさもとてもすてきや大切だと思いました。命にかかわることやごはんも大切にしていきたいと思いました。(おかだ あん・女)
- ・かなしいせんそうだなあ。なきそうになりました。ネズミ・ネコかわいかった。みなさん上手でした。  
なんにもお直しはありません。上手でした。(かみざわみさき・女)
- ・かんだうした。(中里琉絃)
- ・おもしろっ!!(男)

#### 中学生

- ・今日の作品を見て、心があたたかくなりました。良い作品でした。円形の舞台の際には左右の客にも顔を見せるといいと思いました。澤井さん、かっこよかったです。次の公演も頑張ってください！(神澤蒼介)
- ・なんか最後のおわりかたが、もやっとするから、そこをかえてほしいと思った。
- ・命の大切さを実感し、とても感動しました。(女)
- ・感動しました。(高田佳奈)

#### 19才~29才

- ・生命の大切さを学び感動しました。一人一人の演技が凄かったです。
- ・感動しました。泣きそうになりました。
- ・とてもすてきでした。涙あり、笑いあり、心があたたかくなりました。“生きる”について考えます。(女)
- ・戦争の怖さと戦時中の1つの家族の物語を知れた。(島・女)
- ・みなさんの情熱が感じられる素敵な劇でした。(女)



## 30才代

- ・普段の姿も見られて良かったです。この頑張りや、学校生活に活きたらと思います。
- ・子ども達のキラキラした目に感動しました!! 命というむずかしいことに向き合って子どもとも話をしたいと思います。本当に良かったです! 感動しました!!(女)
- ・内容の濃い話であつという間でした。
- ・感動しました。(女)
- ・自分達には話だけ聞いた事だけど、実際にその時代に生きて戦った人達が居た事が信じられない、忘れてはいけないと改めて思いました。人を想う気持ち、今の日本国民にもっともっと発信したいと思った。
- ・自分のお爺ちゃんは戦争を経験しているので、また、母と一緒に話をしてみようと思います。(中里健剛)
- ・非常に完成度が高く、見入ってしまいました。今後も頑張ってください。(安藤友希)

## 40才代

- ・みなさんの一生懸命な姿に感動しました。ずっとこの活動が続いていきますように…。(永田理恵・女)
- ・みんな生き生き演じていてすきだった。ダンスと歌もとても楽しい。
- ・小1の子には少しむずかしい内容だったのもう少しわかりやすいといいな…と思った(岡野・女)
- ・すごかったですね!!笑。演出も、ドラムが見えていたり馬が大きかったり、たのしかったです。
- ・元気をもらった。今日のために練習をしてきたんだなぁと思うと感動して涙がでた。
- ・えがわ先生のいつもとは違う顔の姿が見られて良かった。バラの衣しょうがかわいかった(スズキミカ・女)
- ・毎年素敵な公演を見せていただきありがとうございます!
- ・ネコたち、ネズミたちかわいかった。(女)
- ・みなさんすごく沢山練習したことが伝わってくる良い劇でした。
- ・毎回楽しみにしています。
- ・子ども達も大人も立派に演じていて魅せられました♡(高橋福二・男)
- ・生きる(女)
- ・とても感動しました。演者の方々の気持ちが伝わりました。音楽や歌もとても良かったです。(女)
- ・見ごたえある劇でした。涙、涙、ありがとうございます。本当にたくさんの方に支えて頂きありがとうございました!! 素晴らしいかったです!!(木村真里)
- ・最後は涙がなぜかとまりませんでした。
- ・子どもから大人まで、プロもアマチュアも関係なく、ひとつのことに取り組んでおられる姿に感動しました。元気をいただきました。緊張感と笑いの緩急が心地よく、あつという間の90分でした。ここまで創り上げられるのにどれだけの練習と努力を積み重ねてこられたのかと思うと胸がいっぱいです。戦争という重くむずかしく大切なテーマを、子ども達も演じきったことすばらしいと思いました。元気をいただきました。明日から私もがんばります。劇団のますますのご発展をお祈りしております。(吉本圭子 長洲小教頭)
- ・みんな一生懸命ですごく感動しました。戦争は二度とくり返してはいえないと思います。(女)
- ・はじめは劇を見ている感じがしましたが話が進むにつれて入り込んでいきました。NHKの朝ドラを見るより今日見た話の方がよくて心にひびきました。こういったものを見るのは初めてで自分で思いえがいていたものをはるかにしのぐものでした。次回作も必ず見に来たいです。今日がとてもいい一日になりました。ありがとう!!(男)
- ・生あるものみんな等しく命があり大切という、あたり前のことに改めて感じました。(高原有子)
- ・各メンバーの演技力が格段に上がっておられることを感じました。キャストイングもbestでした。(氏家剛)
- ・母の気持ちになると涙が止まりません。最後の曲、エンディングでマスクがびしゃびしゃになりました。ありがとうございました。
- ・とても良かったです。いろいろ考えさせられるお話しでした。(北谷淑子)
- ・オリジナル作品、感動しました。コミカルな演技にも笑わせてもらいました。昨年よりみなさんがパワーアップとレベルアップされて、練習をすごく頑張ったんだなぁと来年も更なる成長を楽しみにしています。(チェーンのおばさん)
- ・難しいテーマでしたが、とても楽しく観させていただきました。考えさせられる事がたくさんあり、胸がドキドキ、ギューとなりました。みなさんの歌、踊り、おしげががとても完成されておりビックリしました。また来年も楽しみにしています。ありがとうございます。色々な年代の方が出演されて、活躍しておられとてもすばらしいと思いました。お子さん達が成長されており、来年もとても楽しみです。(山本淳子)
- ・1部、2部共観ました。山下家の家族が本当の家族の様にみえてきました。感動しました。ありがとう。

## 50才代

- ・とても質の高いお芝居でびっくりしました。みなさん、きらきらしてとても感動しました! ありがとうございます。(鄭真佐美)
- ・難しいテーマに、上手くユーモアを交えていらっしゃったと思います。(男)
- ・衣装が(モンペ上手)が素晴らしい。着物の布地、てり感が光に映えてました。劇団四季のようなオープンステージ、かつ中央がこうなっていることで出演者の重なりが少なく、どこからも良く見え、声もよく通っていた。(島・女)
- ・すごく感動しました。泣き笑い心にどすんときました! すばらしい劇でした。(守永貴美恵)
- ・皆、人間。大丈夫。愛、バラ。ステキな舞台を有難うございました。 ・みんなの本気が伝わってきました。(男)
- ・深い題材でとても考えさせられ、感動いたしました。また、期待しています。
- ・心より感動いたしました! これからも応援しています!(植木加代子・立花小校長) ・涙が出ました。 ・素敵でした(男)
- ・すごく沢山の練習をされていたと思います。積み重ねの成果が大きく花開いてとても感動しました。前々作、前作の頃より皆さん演技が数段上手くなっていらっしゃいました。努力の結晶だと思いました。お馬さんの保管お役に立てて良かったです。
- ・いつもご利用ありがとうございます。来年も期待しています!(立花北生涯学習プラザ 津川恵美)
- ・楽しくて、シリアスで、とても良かったです。次回も楽しみにしています。ただ、靴がピカピカなのは残念でした。(女)
- ・すばらしかったです。胸がつまりそうでした。人間愛(女) ・ブラボー!! 皆さん最高でした。(男)
- ・戦争を知らない世代ですが、今の社会情勢等もあり、平和や共生社会などについて改めて、考えさせられました。ありがとうございます。(男)

- ・とても質の高いお芝居でびっくりしました。みなさん、きらきらしてとても感動しました!ありがとうございました。(鄭真佐美)
- ・難しいテーマに、上手くユーモアを交えていらっしゃったと思います。(男)
- ・衣装が(モンペ上手)が素晴らしい。着物の布地、てり感が光に映えてました。劇団四季のようなオープンステージ、かつ中央がこうなっていることで出演者の重なりが少なく、どこからも良く見え、声もよく通っていた。(島・女)
- ・すごく感動しました。泣き笑い心にどすんときました!すばらしい劇でした。(守永貴美恵)
- ・皆、人間。大丈夫。愛、パラ。ステキな舞台を有難うございました。 ・皆んなの本気が伝わってきました。(男)
- ・深い題材でとても考えさせられ、感動いたしました。また、期待しています。
- ・心より感動いたしました!これからも応援しています!(植木加代子・立花小校長) ・涙が出ました。 ・素敵でした(男)
- ・すごく沢山の練習をされていたと思います。積み重ねの成果が大きく花開いてとても感動しました。前々作、前作の頃より皆さん演技が数段上手くなっていらっしゃいました。努力の結晶だと思いました。お馬さんの保管お役に立ててよかったです。いつもご利用ありがとうございます。来年も期待しています!(立花北生涯学習プラザ 津川恵美)
- ・楽しくて、シリアスで、とても良かったです。次回も楽しみにしています。ただ、靴がピカピカなのは残念でした。(女)
- ・すばらしかったです。胸がつまりそうでした。人間愛(女) ・ブラボー!! 皆さん最高でした。(男)
- ・戦争を知らない世代ですが、今の社会情勢等もあり、平和や共生社会などについて改めて、考えさせられました。ありがとうございました。(男)

## 60才代

- ・とてもおもしろかったです。ご苦労が伝わってきました。(荻野勝己)
- ・風刺がきいて笑いと涙と…市民劇団なのにすばらしい劇でした。(平山直樹)
- ・一人一人が役になりきって、自信をもって演じているのが伝わりました。(男)
- ・劇団の方の生き生きとした姿すばらしい。小中学生の元気がいい(男)
- ・年令もさまざまとても楽しく見る事が出来ました。又観たいと思いますのでお願いします。
- ・テーマもすばらしく皆さんいきいきと楽しそうに演じられて感動しました。(女)
- ・良かったです。続けてほしいです。(小谷由美子)
- ・とても感動しました。子ども達の演技がすばらしかった。最後はなみだなみだでした。(杉山公克)
- ・体験していない世代に少しでも劇を通じて感じられたのではないかと思います。沢山練習ごころう様でした(女)
- ・少し悲しく、でも楽しい時間でした。ありがとうございました。(女)
- ・とても内容が濃くて本当によかったです。(女)
- ・始まりの米兵の会話や状況(B29の機内なのか、地上なのか、なぜゼンガーの手をつなぐのかなどシチュエーション)がわかりにくかったです。映像の投影で補完すればわかりやすくなったのでしょうか。  
演劇としては楽しい場面や悲しい場面、平和を考える場面など引き込まれる要素が満載でした。ただ、太平洋戦争や現在のウクライナ侵略戦争で避難を余儀なくされた。されている方々が、本日の避難生活の様子を描いた部分をどのような思いでご覧になれるのだろうか  
と少し気になりました。(劇中では比較的楽しい場面が多かったのだ。)
- 心を豊かにしてくださる公演のご案内をくださりありがとうございました。手作りの公演で大道具・小道具のご準備がたいへんだと思います。その分プロジェクター等の映像で場面をわかり易くしていただくとより厚みのある内容になるのではと素人ではありますが感じました。(舟本康弘)
- ・ラストシーンで涙が出ました。周りがどんな状況になろうと真くんのような心を持てることが大切だと思いました。ウクライナの人たちのことを思い、一日も早く平和が訪れることを願います。今回も演出がすばらしかったです。
- ・すばらしい劇をありがとうございました。感動して涙が何度もこぼれそうになりました。
- ・重い戦争をベースにして楽しく最後まであきずに見せさせてもらいました。ありがとうございました。
- ・すばらしかった～!泣いた～!(長山現)
- ・とても、感動しました。子どもさん達にも、戦争の事を考える、よい機会になったのでは、と思います。脚本(話の内容)、感動しました。(戦争を、ちがう視点から、とらえておられて。)
- ・ドラム、ピアノ、とてもステキでした。皆さんのお芝居、とてもステキでした。とても、良い時間をありがとうございました。(女)
- ・戦争と死について考えさせられる内容です。感動しました。ありがとうございました。(男)
- ・内容がタイムリーで素晴らしい!ぜひ岸田首相にも見せてあげたい。(巴山民)
- ・劇の内容が、色んな年齢にとけ込みやすく、わかりやすかった。  
戦争と云う悲しい時代を生きた人々の生活が、浮きぼりにされていて、現代の日本のゆるい、幸せボケを、考えさせられる。  
そして、我が娘の生々とした姿に感激しつつ…やんちゃんこ劇団に感謝致します。(巴山佐江子)
- ・すばらしいひとときをありがとうございました。お一人お一人の熱演に感動です。心の中にじんわりとあたたかいものを抱いて帰路につきます。次回も楽しみにしています。(女)
- ・歴史から勉強されて演じられたと伺い、すばらしいと思いました。プロパガンダのおそろしさを今つくづく感じています。  
このような劇が広まり、皆んなで命の大切さを考えてほしいと思いました。熱演を期待しています。(北江有弘)
- ・子ども達の演技がすばらしかった。戦時中を知らない世代なのに役づくりの為に勉強してくれたのだと思うと、これからは世界中で戦争のない平和な時代になって欲しいと思った。(女)

## 70才代

- ・あたたかい気持ちになりました。(女)
- ・戦争のことを伝えていくことが大事(男)
- ・元氣いっぱい演技ありがとうございました孫の成長を楽しみにみております。お世話になりありがとうございます。(小谷昭)
- ・とても感動しました。ありがとうございました(女)
- ・思ったより、良くできていた。
- ・おつかしかった。(女)
- ・内容が無理(女)
- ・今回はとても感動しました。皆んながんばっている姿を見て涙がでました。  
毎回見せてもらってますけど、皆上手になっていくのが楽しみです。次回もがんばって下さい。(女)
- ・大人の方も子ども達も最後まで良く頑張りました。岡武くんのおじいちゃんです。来年も楽しみにしています。ありがとう。(高椋琢治)

## 年齢不明

- ・違う考え方があってお互い理解し合おうと心豊かに大きく生きていきたい。ありがとう。
- ・すばらしい大作！ありがとうございました。みなさまおつかれさまです。
- ・すばらしい劇ありがとうございました。来年度も必ず来ます。
- ・劇団のみなさんのパワーが伝わりました。おもしろかったです。元気が出て来るもの
- ・友達が出演していてとても楽しそうにしていました。
- ・私の目は、他の人より、まぶしさを感じやすく、照明が客席側に向いており目がすごく痛く。劇は素晴らしいと思います。今回の劇は、とても多くのことを考える機会がありすごく勉強になりました。後ろにいた子どもがこわいこわいといっていたのでメッセージ性があり、子どもが喜ぶ劇もみたいと思いました。
- ・戦争おそろしいです。世界の平和を願います。
- ・感激しました。これからも頑張ってください。
- ・戦争はすごくおそろしいと初めからわかっていただけ知っていた以上にこわかったので勉強になったし、感動しました。
- ・たくさんの問いかけ、呼びかけのある公演でした。演者のみなさんにとってもそうだったのではないかと思います。すばらしかったです。ありがとうございました!! 年々レベルアップ、スゴイ!!
- ・いつも感動をありがとうございます。
- ・友だちが主人公ということで、かなりすごいと思いましたが、なによりもだいいにしたので、子どもには、いいと思います。
- ・素晴らしかったです！泣きました！ほんと、見に来て良かった。これぞ原点！（佐野キリコ・女）
- ・とても感動して涙が出ました。お疲れさんでした。大変でしょうが、又、来年も見たいですのがんばってください。ありがとうございました。（高田十美子）
- ・アメリカとの交流をする、まことが印象的だった。ラストで、お兄さんが亡くなるのも印象的だった。ありがとうございました。こんな感じがいいです。（前村育雄）
- ・スポットライトが観客にも当たって、まぶしかった。明るい内容。楽しい気持ちでいれば全てがうまいく、みたいな。

## Q5 次回どんな内容がいいか教えてください。

- ・人が見てかんどうすることや人生がすこしでもよくなるような話がいいと思います。（おかだ あん）〈小学生〉
- ・歴史にかんするもの〈中学生〉
- ・クラシックバレエ（女）〈中学生〉
- ・勉強になる内容など〈19才～29才〉
- ・明るく、動物が出てくる内容。（島・女）〈19才～29才〉
- ・コメディが良さそうです！（女）
- ・笑えて楽しい話を希望します。（チェーンのおばさん）〈40才代〉
- ・昭和時代の家族の話とか、現在でいうと食べられない子供や大人の人に安い食事を利益目的でなく人情でやっている食堂の話とかが見てみたいです。（男）〈40才代〉
- ・周りの予想を反して、今回の続きなどいかがでしょうか……。戦後日本の復興をテーマに、前向きに。（氏家剛）〈40才代〉
- ・戦争のテーマであればまた見たいです（山本優）〈50才代〉
- ・コロナ後の学校での子どもの様子。そして今後。（鄭真佐美）〈50才代〉
- ・「サウンド・オブ・ミュージック」等、ミュージカル「オズのまほう使い」（守永貴美恵）〈50才代〉
- ・歴史物がいいです。（女）〈50才代〉
- ・感動する劇（男）〈50才代〉
- ・元気が出て来るもの〈年齢不明〉
- ・こんな感じがいいです。（前村育雄）〈年齢不明〉
- ・楽しい気持ちでいれば全てがうまいく、みたいな〈年齢不明〉

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・基礎練習については劇団員の中で以前劇団に入っていたという人が中心になって指導にあたり、自然と大人が役割分担をしながら子どもたちへの指導ができていた。
- ・場面ごとにグループ練習の徹底を図ることで、時間の節約と練習の効果を上げることができた。
- ・発達特性をもつ子どもたちもしっかりと自信を持ち大きな声で演じることができていた。今回は心で感じて動くことがとても難しかったが、コミュニケーション力の基本を考える良い機会となり何度も繰り返し学ぶことに寄り添った。
- ・子どもたちが練習中に指導を受けた後、戸惑っている子どもには、常に大人がわかりやすく説明を仕直して、励ましフォローに入るようにしている。
- ・普段と違う公共施設でのマナーやルールについても、きちんと学ぶ機会としている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・演劇を作っていくために大道具や小道具が必要になってくる。今回3回目を迎え、劇団員自ら大道具班や衣装班などの係を作り準備に取り掛かった。そのため、それらの管理についても団員同士で話し合い、当法人の部屋で管理する物や担当者で管理するなどの工夫をしながらできた。今後も継続していきたい。
- ・活動資金については会費を基本にしながら、当法人の基本としている青少年活動支援などの助成金の申請など活用していきたい。
- ・地域での活動を応援してくれる企業からの支援も、今後協力のお願いをしていく。
- ・公演には教育委員会の指導主事や教員、行政の人たちもたくさん来場され、なお一層、活動内容の理解や広報、協力体制の連携が取れるようになった。
- ・来場されたお子さんから、ぜひ一緒に参加させてほしいという声もいただいております、新年度からまた劇団員の増加も予想される。青少年の育成にも今後も発展していくと感じている。
- ・指導者は引き続き、ピッコロ劇団員さんからのご協力をいただき、また現劇団員の中からも養成していける体制を構築していきたい。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・当法人の活動は、少し形態が異なっているかもしれない。それは、中学生に限らず小学生からを対象として活動をしているということである。そして、そこに同じ立場で大人もいるのである。

大人は指導者ではなく、大人も子どもたちと同じメンバーとしている。同じ目標に向かって活動している。メンバーの中の中学生は学校の部活動もしている子どももいた。ただ、昔のように部活動も運動部でなければ毎日毎日の活動もなく、当法人のように日曜日が活動日となると、学校との支障は生じないようであった。

- ・そのような様子から、地域への移行の内容・時期などに関しての縛りではなく、小学生対象から始まる広範囲で事業としていくことも一つだと考える。小学生から学び、体験したことが地域というフィールドで継続されていき、いずれ中学生となり高校生となっていく。ごく自然の流れで子どもたちは地域で育ち、地域の大人と共に活動し、成長していく。当法人も3年を終えた。最初に入った小学生は中学生となり、高校生は成人した。演劇の役も子どもっぽい役から、成長して演じられるようになってきた。不登校だった子どもは学校に行けるようになり、発達特性を持つ子どもは堂々と主役を演じた。この活動が、このまま子どもを成長させ、学校ではない所での活動に自己肯定感を持ち、生き生きとさせているという実績がある。

- ・故に、小学生の間は地域で活動していて、中学校に入って部活動があるからやめてしまい・・・そしてその部活動も中途半端というよりも、小学生から対象としてそのまま中学生に繋がって活動できる部活動地域移行であることが、望ましいと考える。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	12人（小学生9人 中学生2人 高校生1人）
	学校名	尼崎市立塚口小学校 尼崎市立園和北小学校 尼崎市立立花小学校 尼崎市立武庫の里小学校 尼崎市立塚口中学校 尼崎市立武庫中学校 尼崎市立尼崎高等学校
	募集方法	当法人のチラシ、ホームページ等
指導者	人数等	・地域文化芸術施設より 劇団員 3人
	募集方法	立ち上げ時から一緒に企画してきた指導者
参加者の移動手段		自転車、電車、バス 等
活動費用	指導者謝金等	内部コーディネーター 賃金 1,600円/時間 交通費(最寄り駅～塚口)
	その他	練習場所 会場費 尼崎市立生涯学習プラザ（平均 約1回 1000円）
活動財源	会費	子ども 18000円(1500円×12か月) 大人 24000円(2000円×12ヶ月)
	その他	当法人への寄付、企業からの支援など
スケジュール	基本活動	・月2～4回 毎日曜日 10時～12時
	年間	・4月～5月 やんちゃんこ劇団員の募集及びワークショップ ・6月～9月 劇活動の練習(台本読み・立ち稽古・小道具作り等) ・10月～1月 劇活動上演に向けての練習(立ち稽古・衣装合わせ・ホール練習等) ・2月 本番劇上演 ・3月 劇上演後の振り返り・反省会・今後の予定企画の実施
保険加入等		スポーツ安全保険 対象人数 20人

## 【活動の様子（写真添付）】

## 公演当日の様子



## オープニング



尼崎市長と共に

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	多可町播州歌舞伎クラブ		
所在地	兵庫県多可郡多可町	設立年	平成6年
運営主体	多可町教育委員会こども未来課		
事業目標	播州歌舞伎は、もともと全国を巡業していた一座が旧中町(現中区)へ来ることとなった背景がある。そのため、合併した今でも興味を持たれている方の多くは、中区の方である。播州歌舞伎を多可町全体のものにして盛り上げていくことが、関わる人の生きがい・やりがいや人のつながりをつくり、地域への愛着や誇りを生み出すことができると考える。そして、町内の中学生に後継者の一人として活躍してほしい。		
きっかけ	かつては、サポーターや保存会等あったが、その方々も高齢であったり、コロナ禍で参加が難しくなった。そのため、かつてより一緒に活動していただける多可町や近隣住民の方を探していた。今年度、久しぶりの定期公演を行うにあたり、地域を巻き込んで行おうと考えたのがきっかけである。		
団体・組織等の連携	多可町教育委員会こども未来課もバックアップし、実行委員とともに新春公演を行った。 実行委員会には、かつてのサポーターや保存会に所属していた方、また青年団のメンバーや、クラブ員の家族の方にも参加いただいた。		
活動場所	中コミュニティプラザ(兵庫県多可郡多可町中区茂利20)		
活動概要	お土産・チラシ・ポスターデザイン・作成 オープニング企画立案・発表 前日準備・当日お客様の案内やチケットのもぎり等		

## ○本事業による成果

中学生も参加する多可町播州歌舞伎クラブ。小学校の播州歌舞伎クラブや社会教育のカブキッズたかを経験し、中学生でもやりたいという生徒が参加している。ベテランの地域のクラブ員が中学生を指導している。中学生たちは、週に1回の金曜日に活動しているが、カブキッズたかの指導でも指導の手助けをすることができた。約2時間半の時間、歌舞伎に対して熱心に取り組むことができた。学校の部活動に入っているが所属することができる播州歌舞伎クラブである。部活動の地域移行が少しずつ進んでいるが、地域移行のモデルとして、演劇や伝統文化に興味のある生徒が参加しやすい環境である。今回、実行委員を募集し地域の方々と共に作り上げることができ、播州歌舞伎に興味をもつ方・関わる方が増えた。実行委員を介して播州歌舞伎の公演を観劇する方も多かった。文化の継承につながる一助となった。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

週に一度の活動であるので、セリフを覚えるのは各自で覚えることになる。そして、練習の場で確認をするという流れである。動画も配布し指導者が、練習時にできている点、できていない点を指摘し練習に励んでいる。新春公演だけでなく、依頼されての公演もあり、公演の度にお客さんに認めていただいている。多くの方の関わりにより中学生も活動できていると実感している。また、多くの公演の経験を踏まえ、お客さんの前でも堂々と演じることができた。小学生の指導も中学生が手助けすることで、自分の所作の確認にもなるし、どのように伝えたら、小学生にも分かりやすいか、注意することや褒めることなどを通して考えることができた。公演をするとなると中学生も打楽器や大道具・小道具の運搬をする。その際に大道具や小道具の知識も深まっている。また、衣装の確認を通して、歌舞伎衣装への理解も少しずつ深まっている。

## ○運営上の工夫

衣装は自前のものだけではならず、他の歌舞伎の団体にお世話になっている。一般的には借りると何十万円もかかる衣装であるが、3万円で借用できている。指導者同士もお互いの演技について指摘し合ったり、確認しながら行っている。また、クラブの代表は、県外で歌舞伎の指導をしてもらっており、これまで知らなかった知識も吸収できている。これまでこども未来課に関わる職員は2名であったが、撮影やYouTubeでの配信など関わる職員が増えた。そのため、連絡調整や広報などに時間を割くことができた。これまでの定期公演は、こども未来課でも関わる人数は半数ほどであったが、今回は全ての職員が関わることもできた。また、来年度は練習に携わる職員も増え、職員の負担も軽減されることになる。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

現在使用中コミュニティプラザの大会議室には、舞台がありそこで練習できている。しかし、中コミュニティプラザは耐震化ができていないことなどから、生涯学習プラザができ、そこへ移動することになる。現在の基準だとこれまでのような舞台はつくることのできないので、これまでと同様の練習環境が確保できるかどうかというのが課題である。また、活動経費は、町の補助金により運営しているが、それ以外にも補助金をいただかないと活動するのが難しい状況である。衣装の修繕や活動保全など様々な補助金を利用して、これからも続けていく必要がある。役者だけでなく、裏方にも後継者が必要である。教育委員会と連携したり、地域のケーブルテレビ等とも連携したり、公演等でも呼びかける等広報に努めている。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

現在、多可町には部活動以外にもスポーツ21やスポーツ団体、体育協会など様々な団体がある。それらの団体やPTA等とともに部活動の地域移行に関する専門部会を立ち上げ、協議している。これまでの部活動の枠組みと違い、1つだけの部活をするだけでなく、レクリエーション部や部活のかけもちをしたりなど様々なことができるのではないかと考え、地域の方が指導できる持続可能な活動にしていこうとしている。現在も多可町播州歌舞伎クラブは、これまで活動してきた地域のベテランの指導者がお互いに教え合ったり中学生に指導をしたりしているため、演技や歌舞伎に興味のある生徒の受け皿になることができる。また、学校の部活動の時間と違う時間帯に行っているため、部活動を行った後にも参加することができる。化粧教室や着付け教室も行っており、興味のある生徒は学ぶこともできている。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	4名
	学校名	多可町立中町中学校、福崎町立福崎西中学校
	募集方法	4月にチラシを作成し、中学校に配布している。 4月広報の記事で募集。
指導者	人数等	当団体団員3名、地域外の指導者4人
	募集方法	クラブ員が指導しているため、指導者の募集はしていません。
参加者の移動手段		保護者の送迎
活動費用	指導者謝金等	謝金 1,500円/回 外部指導者 交通費 10,000円/回 、謝金 6,250円/時間
	その他	中コミュニティプラザ使用料 無料 運搬費 無料 庁用バス利用料 町内無料 町外 50km以下 7,000円 50km以上 1km増える毎に70円 加算
活動財源	会費	なし
	その他	補助金 80万円(町より) 依頼公演 10万円(寿式三番叟披露の場合)、15万円(物語もの披露の場合)
スケジュール	基本活動	5月中旬から最終公演まで 毎週金曜日 18:30～20:00 カブキッズたか指導 20:00～22:00 多可町播州歌舞伎クラブ練習 ※カブキッズたかの公演が12月にあり、それ以降は、19時からクラブが練習
	年間	令和4年度活動 5月13日開講 1月29日最終公演まで毎週金曜日練習 10月15日 宍粟市千種町高齢者大学公演 11月13日 民俗芸能祭inひょうご出演 11月23日 伝統文化の夢舞台出演(カブキッズたか) 12月11日 こども芸能祭出演(カブキッズたか) 1月29日 多可町播州歌舞伎クラブ新春公演
保険加入等		傷害保険(公演時3000円)、15人、保護者負担無し

【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人石見音楽文化振興会		
所在地	島根県江津市	設立年	2017年
運営主体	一般社団法人石見音楽文化振興会、浜田市、江津市		
事業目標	この地域において、若年層からの音楽文化の振興を図る。 小学校、中学校、高校、大学、というカテゴリーにとらわれず、地域において幅広い音楽活動を実施する。		
きっかけ	島根県の中でも、ここ石見部においては音楽文化に触れあうことが少ない。また、音楽に親しもうとしてもその機会が少なく、楽器演奏などのレベルが総じて低い。		
団体・組織等の連携	<pre> graph TD     A[一般社団法人 石見音楽文化振興会] -- 招聘 --&gt; B[吹奏楽指導者 藤重 佳久]     A -- 移住促進 --&gt; C[各地音楽大学卒業の 若手演奏家]     B -- 指揮 音楽監督 --&gt; D[ハイブリッドwind オーケストラ]     C -- 構成 --&gt; D     D -- 運営 指導 --&gt; E[浜田ジュニアシンフォニック オーケストラ(仮称)]     A &lt;--&gt;  連携・情報交換  F[市教育委員会]     F --&gt; G[市内小、中学校、高校、大学 音楽科教員・吹奏楽部顧問]     G -.-&gt; H[市内各学校吹奏楽部 市内各中学校吹奏楽部]     D -- 指導 活動支援 --&gt; H     H -- 参加 --&gt; E           </pre>		
活動場所	浜田市、江津市 いわみ文化振興センター、振興会江津スタジオ 浜田高校、県立大学		
活動概要	<p>○当初は、中学生をターゲットにしての活動予定だったが、中学生の参加がなかなか見込めなかったため、ターゲットを小学校から大学生と範囲を広げて、世代間交流も交えて行った。</p> <p>○コロナの影響もあったが、募集チラシを何回か配布することで参加者を募り、月2～3回、1回あたり2時間程度の練習を行った。</p>		

## ○本事業による成果

- ・これまで、楽器指導や楽器演奏の機会に恵まれなかった若年層にそういう機会を与えることができた。
- ・小学校では、指導教師が居らず、鼓笛隊や吹奏楽などの活動が次々に廃止に追い込まれており、こうしたことに歯止めをかけるきっかけとなっている。
- ・中学校においても、教員に代わってUIターンの若手音楽家による楽器指導を行っており、教員の負担の軽減に寄与している。
- ・高校では、楽器指導に加えて、地域指導者として部活動を中心的に担っており、顧問の代わりを果たすなど、大きな成果を上げている。
- ・地域における練習については、学校の部活動とは違い他校との交流ができることに加えて、対象世代を拡大したことにより、県大生が小学生を指導するなどのように、年上が年下を面倒を見て、年下が年上を慕うような関係を構築することができ、音楽文化を振興する環境創出に大きく寄与している。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・指導法については、藤重先生の監督のもと、音大卒の音楽家が指導することとしており、少なくとも学校の部活動以上のスキルで指導することができた。
- ・音大で学んできた知識を活かし、演奏指導だけではなく、楽器の扱い方、団体に演奏する時の心構えや、吹奏楽倶楽部で活動するための基本的なマナーなども指導ができています。
- ・指導者のスキルについても、定期的に著名な音楽家を招へいし、個々の演奏技術を確認するなど、研鑽に取り組んでいる。

## ○運営上の工夫

- ・楽器の調達については、特に中学校の理解が進まないために、学校所有の楽器が使用できていない。そのため、参加者が所有する楽器を使用するほか、振興会が所有する楽器を貸し出すほか、廃校となって学校で使用されなくなった楽器を改修し、リペアして貸し出しを行った。
- ・資金の調達には、依頼演奏などを行い、演奏料の収入を得るなど、自主財源の確保に努めるほか、県や市による補助金なども利用している。
- ・石見文化振興センターのホールを使用する場合は、一般来場者の出入口とは別に、地域吹奏楽倶楽部専用の出入口を設け、センターの管理者が不在であっても使用可能なルールを取り決めている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・打楽器のような簡単に持ち運びのできない楽器の使用については、江津スタジオや楽器使用に理解のある浜田高校の吹奏楽部室などで練習するしかなく、練習会場の確保には課題がある。
- ・教育機関との連携については、部活動の地域移行の理解が深まっておらず、特に中学校では全く協力が得られず、参加者を学校を通じて募ることができなかった。
- ・そのため、参加者募集については、新聞折込等の手段に頼らざるを得ず、当初に無かった経費がかかった。
- ・一方、小学校や高校では一定程度の理解が得られることができ、楽器の使用や練習会場の貸し出しなど、協力的であった。
- ・自治体等の補助金は様々活用してきたが、いずれも継続的な補助金ではない。運営経費を継続的に賄う補助金は皆無であり、財政的自立を図る上では、大きな課題である。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・未だ、活動の周知や理解度が深まっておらず、参加者の伸びは鈍い。これを解決するため、藤重先生のご尽力により5月21日にアメリカ空軍太平洋音楽隊を招聘し、地域吹奏楽倶楽部が同じステージに立てるよう企画立案した。これにより、地域吹奏楽倶楽部への参加を促しながら、活動の周知も図る。
- ・この事業は、文化庁の補助が無くとも、振興会の事業として継続していく予定である。そのためには、参加者を増やす必要があるが、学校の理解も不可欠である。令和5年度は改めて学校側への事業説明を徹底したい。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	38名(小学生16名、中学生4名、高校生9名、大学生9名)
	学校名	石見小学校、原井小学校、松原小学校、国府小学校、高角小学校、渡津小学校、桜江小学校、浜田第2中学校、浜田第3中学校、浜田高校、邇摩高校、石見智翠館高校、島根県立大学、リハビリテーションカレッジ
	募集方法	チラシによる 学校で配布するほか、新聞折込を実施
指導者	人数等	5名 藤重先生、振興会会員4名
	募集方法	振興会より要請
参加者の移動手段		保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	指導謝金 1,000円/時間、交通費 20円/キロ
	その他	特になし
活動財源	会費	会費 1,000円/月
	その他	特になし
スケジュール	基本活動	江津スタジオ 月2回 石見文化振興センター 月2回 土日の10時～12時 終盤は、浜田高校 月2回 日の13時30分～16時30分
	年間	令和4年6月～令和5年3月
保険加入等		該当なし

## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般財団法人 みはら文化芸術財団		
所在地	広島県三原市	設立年	2019年
運営主体	一般財団法人 みはら文化芸術財団		
事業目標	一般財団法人 みはら文化芸術財団が拠点を置く文化施設(三原市芸術文化センター ポポロ)を利用し、中学生を対象に様々な人とモノとの出会いや体験を通じて、ふるさと三原を意識すること、新しい自分自身の可能性の発見や作品に込められた作家の想いにふれ、将来の職業選択の幅をひろげる機会とすること。		
きっかけ	三原市から中学生を対象としたプログラムの検討の打診があり、財団では小学生を対象としたものづくりのプログラムは毎年実施し好評を得ていることから、ものづくりの体験を途切れさせることなく、継続したプログラムを実施したいと考えたこと。また、ものづくりだけではなく、他に類をみない三原市が誇るホールを利用して、芸術を支える仕事にふれてもらいたいとの思いから二つのプログラムを企画するきっかけとなった。		
団体・組織等の連携	<p>三原市教育委員会(企画・実施依頼)          市内在住作家・市内史跡 (ものづくりプログラム)          市内演奏団体(舞台芸術プログラム)          三原市社会福祉協議会 (ボランティア体験プログラム)          ポポロ文化ボランティア (財団育成事業)</p>		
活動場所	三原市芸術文化センターおよび周辺		
活動概要	<p>対象: 三原市市内、三原市近隣市町の全中学生 募集人数: 各20名</p> <p>6月ものづくりプログラム 4回 / 8月舞台芸術プログラム 4回 / 9月体験プログラム 1回</p> <p>●6月 ①先人が残した三原市に点在するアートの発見 ②日本伝統の漆について学びながらのMy箸づくり ③木染めに込められた作家に思いをはせながら、伐採木を使用したオブジェづくり ④自分の想像力の豊かさに気づく、コラージュの制作等 各回で目指すべきことを盛り込んだ。</p> <p>●8月 ①コンサートプランナーの仕事 コンサートの実施には長いプロセスや担当者の強い思いがあること ②樹木医の仕事 ホールがそこに集う人の癒しの空間であるために安全性を保つ努力がされていること ③照明・舞台担当の仕事 完璧な舞台を演出するための見えない仕事の大切さを学ぶ ④ホールが全ての人にとって平等に、そして特別な場所であるために、レセプションニストとしての体験を通して自分にできることを考える。</p>		

## ○本事業による成果

《6月プログラム 生徒アンケートより抜粋》

1. 今回の講座で物づくりが楽しくなりました。
2. 今回ボロボロに来なければ体験や話を聞くこともなかったと思うので、とても勉強になったし、とても楽しかった。
3. これから経験できないような経験ができた。
4. 他校の生徒のみんなと出会える良い機会だと思った。
5. よい作品ができてよかった。
6. 町を歩くのは疲れたけど、いろんなことを知れたのでよかった。

《8月プログラム 保護者アンケートより抜粋》

1. いろいろなジャンルの専門家から話が聴けたようで貴重な体験をしたようです。
2. 車いすの体験が印象に残っているようです。
3. 一回、一回特別な体験をしてきたんだと思う。

今回受講するにあたって、友人と相談した、自分で参加を決めたと答えた生徒が50%を超えていたことは、募集時に具体的なプログラムが提案できた成果であり、今後継続する意義は大きいと思われる。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

●6月 ものづくりの各回のプログラムを実施するにあたり、学芸員、芸術系の大学講師もつとめる漆芸家、造形作家、当市にゆかりの深い染色家のアトリエから講師を招くなど、講師陣についてはより専門性を重視し、生徒の満足度を高めた。また、今回のプログラムで生徒が制作した作品を財団が実施した染色展と同時に展示し、多くの来場客に観ていただくなど、制作意欲が湧くような取り組みをした。

●8月 舞台芸術のプログラムでは、実際に舞台用具をさわり、翌日の演奏会のひな壇組みや、曲に合わせた照明の実技などできるだけ本番に近いものを題材として取り上げ、生徒が興味を持って取り組めるよう工夫した。また、障がい者対応などを含め、ホールだけではなく今後の社会活動にも役立つよう心掛けた。

## ○運営上の工夫

参加者の募集については、教育委員会に協力を要請し、近隣市町の中学校全生徒へチラシ配布を行った。活動の連絡については、メールを使用し保護者に伝えることで、スムーズに連絡をとることができた。文化施設の強みを活かし、ホール公演時のスタッフや出演者に指導をお願いすることで質の高い活動ができた。また、以前から当施設を支えてきた人材を大いに活用し、魅力あるプログラムを提供することができた。

SNSを利用し、各回ごとに活動報告を行い情報発信に心がけた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

実施場所、実施要員、実施内容については、概ね今年度の内容を軸に継続実施が可能であると考えている。

課題について

●ものづくりプログラムについては、今後も多様でかつ、できるだけ地域を見直し、考えることができる内容が重要であるとの考えから、プログラムにふさわしいアーティストの発掘、交渉等が課題となる。

●舞台芸術のプログラムについては、毎年同様のプログラムでも十分内容の濃いものとなっていると考え、今年度構築した、他団体との連携が継続する鍵となる。

●実施内容をどのように、いつ、生徒、保護者に周知するか。

●実施時期、実施回数、募集人員は何人程度と考えるか。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

今年度の内容は、従来の学校部活動の段階的な移行にすぐにひもづくようなものではないが、様々なものづくりを継続して実施することにより、一つのものづくりを深掘りする活動ができる可能性が生まれ、年間を通じて地域の文化活動の拠点となる可能性はあると考えている。そのためにも、財団としての登録アーティスト制度を検討することや、近隣の芸術系の大学との連携の方法など、計画的にアーティストを確保するスキームを検討する。

また、同時にハード面に対応する財団職員の人材の育成も重要なポイントとなる。アーティスト、教育委員会、地域団体などと連携して、年間計画をたて、実施できる職員が長期に在籍していることも地域移行の活動をめざすうえで重要である。

来年度以降、ものづくり、舞台芸術(令和5年度についてはホールの大規模修繕のために実施予定なし)を2本の柱としながら、段階的な地域移行の活動について模索していく方針である。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	6月プログラム 9名、8月プログラム4名
	学校名	三原市立宮浦中学校ほか三原市内および近隣の尾道市、世羅町の中学校生徒
	募集方法	2022年3月に一般財団法人みはら文化芸術財団が三原市内および近隣の尾道市、竹原市、世羅町の全中学校の全生徒にチラシを配布
指導者	人数等	当財団職員:5名、船木氏庭園事務局:2名、作家・技術者:5名、演奏家:7名、三原市社会福祉協議会:2名
	募集方法	令和3年度、当財団職員から事業に関わる作家や技術者等に依頼
参加者の移動手段		保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	謝金:7,100円/日、交通費:公共交通機関を利用しての料金
	その他	消耗品費:54,423円 印刷製本費:11,510円 ほか
活動財源	会費	6月プログラム :材料費 3,000円
	その他	当財団負担経費:208,140円
スケジュール	基本活動	6月プログラム:4回 8月プログラム:4回 9月希望者のみ参加:1回 いずれも13時30分～16時
	年間	6月プログラム:①6月5日(日)②6月11日(土)③6月18日(土)④6月25日(土) 8月プログラム:①8月7日(日)②8月11日(木)③8月20日(土)④8月27日(土) 希望者のみ参加:①9月3日(土) いずれも13時30分～16時
保険加入等		レクリエーション補償(中学生、スタッフ加入)

## 【活動の様子（写真添付）】

### 6月meet the art アートに出会う アーティストに出会う

第1回アート発見!! みはら町歩き 市内の知られざるアートスポットにmeet 6月5日(日)



第2回うるしを知る・味わう 漆芸家 田代明樹男 中国地方で採れる国産うるしを使って箸作り

6月11日(土)

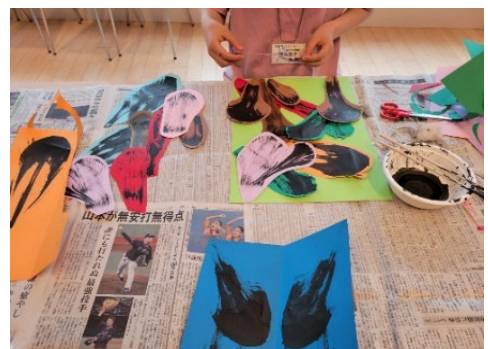


第3回三原の染色家 杉谷富代を知る&木を染めてみよう 坂本牧子

ポポロのケヤキの木がオブジェに変身!! 6月18日(土)



第4回糸引き技法&コラージュ 造形作家 宮下光子 糸引き技法に挑戦!! 6月25日(土)





## 8月meet meet POPOLO ホールを知り尽くそう

第1回What do you want to do? ポポロ館長 片山杜秀にmeet 8月7日(日)



第2回君の知らないポポロ ポポロの外側・内側にmeet 8月11日(木)



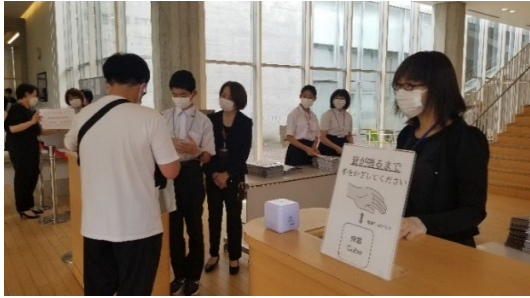
第3回舞台more ポポロが誇る舞台・音響・照明のプロフェッショナルにmeet 8月20日(土)



第4回やってみようvolunteer ポポロのボランティアさんにmeet  
8月27日(土)



第5回ついにポポロデビュー コンサートにmeet 9月3日(土)





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	観音寺マーチングバンド「Humming Wind」		
所在地	〒769-1613 香川県観音寺市大野原町花稲 945-1	設立年	2021年4月
運営主体	観音寺マーチングバンド「Humming Wind」		
事業目標	これまで観音寺市立大野原小学校を核とした取り組みから、当団体が核となり地域で支える体制へと移行することにより、持続可能な部活動と学校の働き方改革の実現の一步となる。また、これまで小学校のみの活動であったものが、観音寺市内外の児童・生徒も参加できるようになり、将来はさらに年齢層が広がることで生涯にわたって取り組むことが可能となり、地域の文化として根付くことが期待できる。		
きっかけ	当団体の設立のきっかけは、母体である観音寺市立大野原小学校のマーチングバンド部のリーダー的な指導者の教員の退職の時期が近づき、その後の指導者の目処が不透明で、存続の危機であったことである。 大野原小学校のマーチングバンド部は、1986年から始まり、四国地区代表として全国大会出場を多く果たし、地域で魅力的な団体である。したがって、存続方法を考えるため、指導者の教員と現役部員・卒業児童の保護者として、2019年5月にサポート隊準備委員会を立ち上げ、運営・管理の受け入れ体制を整えた。そして、2021年4月に大野原小学校と部活動委託契約を締結した。		
団体・組織等の連携	大野原小学校の児童以外にも近郊の児童・生徒を受け入れられるよう、観音寺マーチングバンド「Humming Wind」を新たな団体として設立し、大野原小学校からは部活動の運営・管理を受託している。また、大野原中学校、及び豊浜中学校の生徒が所属しているので、両学校の校長先生との調整をしている。		
活動場所	観音寺市立大野原小学校体育館		
活動概要	年間事業計画に則り、部員たちは12月の全国大会出場を目指し、週5回の練習を基本に活動した。スポット的に外部専門家の講習会を昨年度以上の回数を開催、また、昨年度以上の複数の地域のイベントに出演をした。 また、従来からの課題である教員の部活動に対する対応時間の削減や財源の確保や少子化による部員減少について、事務局にて、大野原中学校や大野原小学校の校長先生、及び、観音寺市教育委員会、地域の企業やOBの方への相談や寄附依頼や部員募集を実施した。		

## ○本事業による成果

### ・事業計画書の目標の検証より;

1. 小学校教員の方の部活動業務軽減について、退職された教員の方達が当団体に所属されたので、学校側の業務は大幅に削減できた。また、中学生の部員を受け入れたが、中学校の先生方の業務はなし、校長先生との調整のみで対応した。しかし、当団体所属の指導者への賃金について、元々小学校の教員であったため財源がなく、本年は委託費から発生した指導料のうち50%を支払に充てることができたが、次年度以降財源が全くない課題が明らかになった。
2. マーチング専門指導者の育成のため、夏休みなど利用してOBの方などへ練習での指導補助をお願いできた。
3. 部員減少に対して、観音寺市内の小学校から1名入部の可能性の打診を受けたが、入部は現時点未定。来年度に向け観音寺市内外に部員募集のポスターとチラシの配布を実施した。
4. 各楽器等パートごとの専門家の講習会を、昨対1.5倍実施でき、部員達の技術とモチベーションの向上に繋がったと思われる。
5. Humming Wind所属員の遠征費用負担減少のため、全国大会旅費として23,870円×33人を本事業の委託費を充てた。
6. 従来、寄付金をフラッグや大道具の製作費に充てていたが、今年度は委託費を充てることで、演出の充実を図ることができ、また、サポート隊の寄付活動負担を軽減できた。

### ・部活動への保護者からの意見;

アンケート結果抜粋;部員74人中28人回収、2023年1月実施。「Q.マーチング活動を通してお子さんが成長されたと思うことをお書きください」への回答:

- マーチングだけでなくその他のことにも全力でがんばろうとするようになりました。人前に出ても物怖じしなくなり度胸や自信ができました。いろんなことに挑戦しようと意欲的にもなりました。
- 自分に自信がついたのか以前と比べて積極性が身についたと思います。先輩を尊敬し慕う気持ち、後輩を庇い気にかける気持ちが育っていると思います。
- とても楽しんでます。練習で疲れていてもマーチングの話が尽きません。全国大会など貴重な経験をして自信にもつながっています。

### ・総括;

部活動の教育的意義として、学校から地域移行しても以下3点について維持できると考える。

1. 学校や家庭では経験できないマーチングバンド活動とそれに付随する団体活動を通じて、子ども達の重要な成長機会を提供できている。
2. 学校や家庭で居場所がない、または、目的意識が薄い子どもが一定割合毎年存在するので、その子ども達の受け皿としての役割を維持できている。
3. 地域移行することで、地域の方や保護者にはこれまで以上に参画していただく機会が増えるので、子ども達を中心とした地域活性化が見込める。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

各楽器等パートごとの専門家の講習会を、昨対1.5倍実施できた。具体的には13人の指導者の方達により、合計84回のスポットでの指導をいただけた。学校の教員では指導が難しい領域が多く、専門家の指導は欠かせない。具体的には、トランペット指導者、パーカッション指導者、トロンボーン指導者、ガード指導者、動きの指導者の講習会を実施し、教員やサポート隊指導者(定時の指導者)ではできない指導(幅広い基本や応用、また、実演して見せることで子ども達の吸収が高まる)をしていただいた。

また、従来は地域のイベントの出演について学校長の判断により出演できない案件もあったが、本団体として責任を持って新たなイベントへの出演の対応も可能となり、子ども達の練習・披露の場や部員募集の機会になり、さらに、地域活性の一助にもなった。

また、2021年度より小学生に加え中学生を受け入れ、練習と大会出場を合同で実施することにしたが、子どもたちの間で大きな問題は発生せず活動できている。ただ、小学生の最高学年の子ども達のリーダーシップ育成については新たな課題と考える。

## ○運営上の工夫

- ・用具(楽器等)調達、運搬、保管について;楽器運搬についてはバンドOBの保護者の方が4トントラックを出していただき、輸送費の実費のみお支払いしている。トラックの管理費はご厚意となっている状態である。保管に関しては、今年度は観音寺市に調整いただき、旧萩原小学校の1室を使用できている。通常の練習時に使用する楽器は、活動場所(大野原小学校)にこれまで通り保管している。
- ・活動場所が学校施設(大野原小学校)の場合;カギの開け閉めや施設の管理方法は、現在の練習時間開始は放課後およそ16時からであるため、従来より継続して大野原小学校の教員方に対応していただいている。今後、遠方の部員を募集する場合など18時以降の練習時間を計画する場合、調整が必要となると考える。
- ・資金調達方法、民間企業とのタイアップ等について;毎年全国大会前の秋に、地域の方、及び企業へ訪問し、寄附のお願いをサポート隊で実施している。
- ・指導者の養成・質の確保について;スポットで来て指導していただく方には、資格を持っている方や高校以上で音楽関係の部活動などの実績があることなど、質に関して内規を設定している。指導者の養成については、スポットでOBの方などに来てもらうよう働きかけて、マーチングバンドの指導者を目指すきっかけ作りを意識している。
- ・活動時間等の在り方等について;本団体の在り方について規約を制定しており、この中でバンド活動が教育活動及び地域の文化向上の一環、さらに、部員のマーチングバンドの演奏演技の技術向上を目的とする、としている。部員の学校生活や家庭生活において無理のない活動時間帯や時期を関係者と調整をして、年間活動計画を立案し、随時調整している。
- ・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について;サポート隊事務局、教員、保護者役員とで分担して、部員の保護者や校長先生や観音寺市教育委員会と連絡調整(年間学校行事とバンドのコンテストやイベントなどの日程の調整と学校出欠扱いなど)をしている。
- ・コーディネーター・ファシリテーター等の役割を担う人材育成は図れているか;地元の楽器取扱店の仲介で、指導者の手配や楽器メンテナンスを有償にて対応いただいている。保護者会やイベント時の窓口など、教員からサポート隊事務局へ順次業務を移管している。
- ・活動場所について;従来からの活動場所である大野原小学校の体育館を、校長先生及び教育委員会との調整の上、継続して使用可能な見通しである。
- ・活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか;子ども達に大会や練習の様子を配信して練習に役立てている。また、部員募集や寄付金集めなど応援してもらえよう、SNSで活動内容を発信している。
- ・関係者全員にとって無理のない仕組みを構築しているか;教員の業務をサポート隊事務局へ順次移行している。一例として、練習時の教員方の人数を減らし、その代わり安全見守りとして年間シフトを組んで保護者が練習に立ち会っている。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・**楽器・ユニフォームについて**; 全国大会金賞を目指し、中学生の部で出場をして2年目となる。課題として、中学生は肺活量もあるので中学生用の楽器が必要となり、また、古い楽器が増えていて楽器は高額であるので買い替えの財源が不足している。
- ・**バンド出演時や遠征時の楽器輸送費について**; 部員OBの保護者の方の4トントラックをご厚意で楽器積み込仕様に荷台を改修していただき対応している。実費のみお支払いしているが、トラックの管理費はご厚意となっている状態である。
- ・**遠方の児童・生徒の部員のための移動手段**; 地方のため移動には車が必要で、子どもの移動手段がないため部員募集が進まない。母体の大野原小学校の児童のみから部員を募集するのでは少子化のため近年部員減少傾向でした。しかし、昨年度より小学校の外部団体としてHumming Windを運営することで、観音寺市内の小学校・中学校から部員を受け入れることが可能となった。しかし、放課後市内から練習会場への移動手段がなく、家族が送迎していただける児童・生徒しか入部できない現状である。市運営の乗り合いバスなどの融通など協力をいただきたいが、市の運営も困難なようである。
- ・**資金調達について**; サポート隊を中心に毎年秋頃に寄附活動をしているが、訪問先も毎年になると心よく寄附という雰囲気は少なくなり、寄附金額も年々減少傾向である。企業にも訪問しているが、同様である。一方、官民の助成への申請実績(観音寺市の「市民活動団体」、ニッセイ財団の「児童・少年の健全育成助成」)はあるが、採択には至っていない。また、市の補助について、学校の部活動であれば市の補助金を受けられることができるが、外部団体の児童・生徒に対しては補助金がないため、部員負担金額が増えてしまっている。特に公共機関や入園料などに対して、学割は使用できるが学生団体割が使用できない(学校長の承認と教員の帯同が条件)ため、遠征費が高くなっている。
- ・**指導者の養成・質の確保について**; スポットでOBの方などに来てもらうよう働きかけて、マーチングバンドの指導者を目指すきっかけ作りを意識している。その成果については長期的になると思われ(就職、子育てがひと段落した後の方が可能性が高い。就職として指導者になってもらうには年収が確保できないため。)、5~10年後には深刻な課題となると想定している。一方、現在の定時の指導者は小学校の元教員の方で、本団体に所属し指導していただいている。教員時の部活動指導において指導料の発生はなく、本団体に所属して謝金の予算を組んでいなかったが、当事業に採択されたことをきっかけに予算計上した。当事業のない来年度は、部費を上げる方向で調整を始めた。しかし、部員減少に繋がる懸念がある。部費を上げる限度もあり、そのため一般的な音楽指導謝金の時給に比較し低く、財源の見通しもないため後継者のなり手が出てこないのではと考える。
- ・**教員の働き方改革の観点について**; 教員の部活動対応をサポート隊へ移行することで、教員の部活動対応時間は確実に減る方向である。しかし、部員が所属する小学校、中学校ともにバンド担当の先生が全くないという状況はしばらくは難しいと考えている。その理由として、学校行事計画を踏まえ、行事が重なり部員の負担が高まらないよう／テスト期間中のバンド活動／出演会場へ他の子ども達よりも学校から早めの移動、といったような調整の窓口の教員が必要と思われる。また、外部団体の活動を校内の友人や先生方に知ってもらい、応援してもらいたいという子ども達の気持ちもあると思うので、それを橋渡しする教員が必要と思われる。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・**高額な楽器のメンテナンスや買い替えについて**; 全国的には少子化で、部の縮小や活動休止の部が存在すると思うので、楽器の貸し借りのシステムがあると無駄がないのではと考える。県内の学校間では、先生方の調整で貸し借りの実績はある。企業や警察音楽隊など比較的ゆとりのある団体との貸し借りが可能だと、質のいい楽器を子どもたちも使用できるのでより好ましい。
- ・**遠方の児童・生徒の部員のための移動手段**; 地方のため移動には車が必要で、子どもの移動手段がないため部員募集が進まない。観音寺市の乗合バスの調整をしてほしい。
- ・**当事業(地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業)について**; 学校の関係者、卒業生やその保護者、及び、地域の方へ広く理解してもらい協力者を増やしていくことで、財源的・人的な負担をみんなで分担できるシステム作りができればと考える。具体的な施策についてはあまりイメージできないが、協力する側のメリットが必要で、例えば、ボランティアで参加した時間及び寄附に対して、「ふるさと納税」のように節税ができるなど。
- ・**本団体のように外部団体の活動に対して**; 学校の部活動と同等の公的な補助がいただけるようなシステムにならないか。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	小学生48人、中学生26人
	学校名	大野原小学校、大野原中学校、豊浜中学校
	募集方法	年度替わりの時期に、学校内外のコンサートを実施して、部員募集を呼びかける。また、ポスターとチラシを観音寺市内外で近隣の学校へ配布した。
指導者	人数等	定時(ほぼ毎週決まった曜日に来ていただける)指導者3人(元小学校教員で退職された方)とスポットで来ていただいている指導者13人
	募集方法	定時での指導者は小学校の教員としてマーチングを指導していただいていた方達が、退職後本団体へ所属して指導いただいている。一方、スポットでの指導者は、マーチング協会から／観音寺市教育委員会から／定時の先生の人脈の中から来ていただいている。
参加者の移動手段		各自で、徒歩、または、自転車。
活動費用	指導者謝金等	定時指導者の方達へは精算報告書通り、時給1000円で年間分は財源がなく、半年分のお支払いのみした。
	その他	小学校の元教員の方なので、元々部活動指導の謝金はなかった。現在、本団体に所属し指導していただいているが、当事業以外には財源がないため謝金は支払えない状況である。来年度は部費を上げる方向で調整を始めた。
活動財源	会費	小学校の部活動に習い、部費として2000円／月を集金している。中学生は特別会計として追加で1000円／月を集金している。 また、直近25年連続で全国大会出場を果たしたが、全国大会(関東で開催)の遠征費が1人8万円程度毎年かかり、部員募集時の子どものバンドをやりたい気持ちに反して保護者の懸念になっている。特に兄弟で部員の家庭では、子ども達と保護者の遠征関連費は家庭において非常に負担となっている。
	その他	少子化のため1つの学校だけでは部員減少傾向は明らかであるので、市内外から部員の募集をしている。各学校1名からでも部活動相当の扱いをしていただければ、大会時の学校の出席扱いや補助金をいただけると、本会の継続的運営には大変助かるので、教育委員会の方と第1回の相談を開始したところである。
スケジュール	基本活動	学校の部活動での活動を踏襲している。普段は、平日週4日、放課度に練習している。週末は土曜日午前中に練習している。大会前は日曜に講習会など実施し、一日練習をしている。
	年間	年度初めに保護者会にて、年間活動を周知している。年度終わりには活動報告と会計報告をしている。 地域のイベント(祭りや音楽祭、イベントなどのセレモニー)に、5回出演した。 四国予選10月、全国大会12月に出場した。
保険加入等		年度初めに、部員全員がスポーツ安全保険に加入(保護者負担800円/年、指導者個人負担800円/年)。

## 【活動の様子（写真添付）】



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	KOCHI中高生ミュージカル部「SKY」 (株)千クリエイティブカンパニー企画		
所在地	高知県高知市	設立年	2021年
運営主体	(株)千クリエイティブカンパニー		
事業目標	①学校の校区を越えた中高生によりミュージカルを制作することで、幅広い交流を図る ②感性、想像力コミュニケーション力を育む。 ③休日に活動することで、学校の先生方の負担軽減を図る ④専門家のスキルを活用し、学校の文化活動をさらに充実した内容で提供する。		
きっかけ	2020年に高知で開催された総合文化祭のオープニングでオリジナルミュージカルを制作したことがきっかけとなり、その後の世代の中高生にも校区を越えたミュージカル制作活動を、学生達の成長の場として提供して行きたいとの考えから2021年にスタートした。		
団体・組織等の連携			
活動場所	高知県高知市大膳町 高知リトルプレイヤーズシアタースタジオ		
活動概要	6月～7月に団員募集をかけたが、コロナウィルス感染拡大の波をうけ、8月まで延長して募集。30名目標のところ8名の申し込みと低迷。そこで、ダンスサポーターとして新たに9名の団員を追加し、合計17名のキャストと2名の学生スタッフで19名の活動となった。8月14日から1月15日までの25回の稽古を実施。1回の稽古は日曜日の13時～17時の4時間。本番は、1月6日高知県立美術館ホールにて14時からと18時～の2回公演を実施。観客動員数は238名。		

## ○本事業による成果

団員数は少なかったが、団員同士のつながりは、深く、学校区を越えた貴重な出会いと、絆を深める活動となった。中でも学校での友達関係に問題を抱え、学校に行けないでいた団員の一人は、このミュージカル活動で自信を取り戻し学校にも通えるようになり、新たな目標を作ることもできた。保護者の皆さんも貴重な体験となった事に参加して良かったと喜んで下さった。また、起業家、文化関係者、教育関係者からなるサポーターズクラブを組織して、活動を見守り貴重な助言をいただいた(別紙参照)ご来場のお客様のアンケートも好評コメントが多く(別紙参照)、参加した中高生も充実感と手応えを感じ、それぞれの自己肯定感に繋がっている。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ①劇団運営は、学生達の自主的活動となるように、部長、副部長はじめ、全員がスタッフを兼任して、自らが作る活動となるようにした。
- ②稽古の終わりには、必ず振り返りミーティングを実施し、情報や気持ちの共有を図り、お互いを理解し合いコミュニケーション力を育む取り組みをした。
- ③演出、振り付け、歌指導は専門家が取り組んだので、ステージもクオリティの高いものになりお役さまアンケートにも高評価をいただくことができた。

## ○運営上の工夫

- ①限られた時間の中での活動で、最大限できることを模索した。病気などでお休みのメンバーには、動画を送るなどITを利用してカバーした。
- ②なるべく中高生の自主的活動となるよう、ウォーミングアップや、会場づくりなどは、学生が担当するなど、なるべく専門家がやってしまうように工夫した。
- ③地域のイベントへの出演機会もいただき、活動を地域の皆さんにも紹介することができた。
- ④起業家、文化関係者、教育関係者からなるサポーターズクラブを組織して、活動を見守り貴重な助言をいただいた(別紙参照)
- ⑤お役さまにもアンケートを実施し、感想をいただき(別紙参照)団員達の自己肯定感の底上げになった。また、今後の活動へのアドバイスもいただけた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ①高知県高校文化連盟主催の開幕行事アトラクションに、ミュージカルを上演することができた。
- ②団員募集に苦戦した。この点で教育機関との連携がもう少し密にはかれたらよかった。教育委員会の後援はいただくことができたが、参加生徒の各学校との連携を図り、それぞれの成長を共有できればよかった。
- ③部費は1回2200円24回分(本番は部費対象から外すため)合計52800円の負担となった。保護者の理解は十分いただいているが、誰でも参加できる金額を考えると少し高価という意見も出た。
- ④次年度からは、助成金も打ち切りとなり、専門家に支払う謝金もなかなか調達が難しい。新しいシステムの構築が必要。例えば登録制にして、もっと安価にできる方法を模索していく必要があるのではないかと、の提案もサポーターの方からもいただいた。良い取り組みなので、継続できる形を文化関係者(文化施設など)の皆さんとの連携を図るのも良いのではないかと。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

これまでの、専門家との密接した関わりでの運営は資金面から難しい。もっと学生が自主的に演劇活動、ミュージカル活動に取り組めるよう、地域の文化施設との連携の中で活動していく新しいシステムを考えていくべきではないか。

サポーターズクラブの委員である、薫工ミュージアムや県民文化ホールなどの空き時間を有効利用したり、文化関係者が自主公演する事業に参加していくなど、ミュージカルに限らず、あらゆる可能性を測ってみると良いのではないかと。

2023年度は、高知市文化振興事業団主催の市民ミュージカルの開催も予定されているので、その事業との連携を図るなどの提案もしていきたい。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	17名
	学校名	高知高校 土佐女子中学高等学校 学芸高校 旭中学校 高知国際高校
	募集方法	ポスター チラシの配布
指導者	人数等	7名
	募集方法	高知リトルプレイヤーズシアター講師陣
参加者の移動手段		公共交通機関の利用 自転車 保護者が車での送り迎え
活動費用	指導者謝金等	@1500 で関わった時間数分
	その他	チケット売上 ’ @1500円かける218枚
活動財源	会費	1回のお稽古@2200×24回
	その他	寄付
スケジュール	基本活動	8/14、21、 9/4、11、25 10/2、9、16、23、30 11/6,7,8,13,27 12/4,11,18,26,27,29 1/4,5,6,15 運営打ち合わせ2/27
	年間	
保険加入等		イベント保険

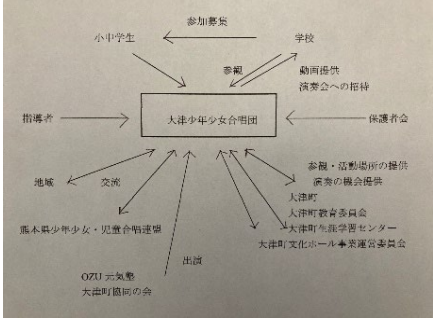
## 【活動の様子（写真添付）】





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	大津少年少女合唱団		
所在地	熊本県菊池郡	設立年	1992年
運営主体	大津少年少女合唱団		
事業目標	<p>○子ども達が自主的に参加し活動していた従来の部活動に代わるものとして、子ども達がこれから生き生きと活動する場を保障する。</p> <p>○子どもが所属する学校内のみならず他の学校の子ども達や地域の人々と交流し、他への理解や喜んで地域に貢献する気持ちを養う。</p>		
きっかけ	活動拠点である大津町は高校サッカーを始め、スポーツの盛んな地域であるが、それに比べて文化面への意識が低いことが懸念されていた。それで地域の文化面の向上を目指して少年少女合唱団を設立するに至った。		
団体・組織等の連携	 <p>関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大津町 ・大津町教育委員会</li> <li>・大津町文化ホール事業運営委員会</li> <li>・熊本県少年少女・児童合唱連盟</li> <li>・OZUげんき塾</li> <li>・大津町協同の会</li> </ul>		
活動場所	大津キリスト教会・大津町文化ホール		
活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生以下は週1回、中高生は週2回、1回2時間の練習を行う。</li> <li>・演奏会やイベント等への出演</li> <li>・年に一度の定期演奏会の開催</li> <li>・訪問演奏及び交流</li> </ul>		

## ○本事業による成果

・前年度の団員数は24名であったが、本事業により新しく11名の団員を迎えることができた。これは町内の全小中学校を訪問して、文化庁から地域文化倶楽部(仮称)に指定されたことを伝えるとともに団員募集を行ったこと、団員による合唱やダンスのYouTube配信、団員が友達を定期演奏会に誘うなどによる成果である。

・団員(中高生)へのアンケートには、全ての団員が、この1年間の活動はとても楽しく、自分を成長することができたことをそれぞれ自分の言葉で書いてくれた。成長の中身は合唱の技術面もあるが、人の前で自分を表現できるようになったことやリーダー力が身についたことなどを上げていた。

・当団は修学前から高校生までという広い年齢層で成り立っていて、合唱団に入っていなければ経験できないいろいろな学校の子ども達と交流することができる。このことについても、団員はアンケートの中で、普段の学校生活では経験できない楽しさがあり、自分にはない考えを知ることができたと答えていた。また、今まで先輩に教えてもらったり助けてもらったりしてきたので、自分もそういう団員になりたいと書いた子が多かった。

・地域との交流に関しては、コロナ禍のために当初予定していた訪問演奏や交流会はできなかったが、定期演奏会に来られた方達やYouTube配信を鑑賞してくださった方達は、大変喜んでくださり、元気をもらえたと言ってくださった。定期演奏会後のアンケート回収率は69%に上り、観客が子ども達の発表に感動し励まされたことが分かる。



## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・当団は修学前から高校生までと年齢層が広いので、理解や技術の習得に差ができるが、練習の時は小さい子の近くに各パートの中高生が立ち、一緒に歌ったり楽譜を見せたりするようにしている。また、練習後にリーダーと指導者で振り返りの時間をもち、子ども達の様子や課題を共有している。
- ・その時に直接指導しているスタッフ以外は、子ども達の様子を観察し、気になることがあったら別室で話を聞くこともある。また、一人ずつ呼んで声を聞いたり成長の度合いを確かめたりした。
- ・全体練習の他に中高生の練習時間を設け、発声や表現についてさらに深い指導をしている。またその時間に次の全体練習で歌う歌を練習し、中高生が小学生以下に教えることができるようにしている。
- ・様々な事情から練習に参加できなかった団員のために、新しい曲の練習動画を保護者ラインと中高生ラインで配信した。

## ○運営上の工夫

- ・保護者会を設け、定期演奏会や強化練習などの日程・内容についてはスタッフと保護者役員で協議し決定した。会費も保護者役員が管理を行った。
- ・保護者会を4つのグループに分け、連絡事項は各グループのリーダーが班員に伝えるようにしてきた。イベント等の出欠についてもリーダーが集約し、指導者に連絡するようにしている。
- ・子ども達の練習や本番の様子は随時、ホームページやSNSで発信し、周りへの啓発と子ども達の意欲向上に繋げてきた。
- ・感染症対策には常に気を配り、入室後の消毒と検温、換気、練習場の清掃を行った。また練習時は透明マスクを着用し、並ぶ際の間隔にも注意してきた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・当合唱団は今年度創立30周年を迎え、その存在は地域に広く知られ実績も認められているので、今後も新入団員を迎え、継続的な運営が可能と思われる。しかし学校以外での活動なので保護者の送迎が不可能な子どもは入団して活動することができない。それが一番の課題であると思われる。
- ・当合唱団に限らず、熊本県全体の課題であるが、文化系の部活動に入部する児童生徒が少なくなっている。県内の各合唱団も団員の減少に悩んでいるところが大半である。子ども達が音楽に触れる機会を増やし、音楽への興味関心を高めることが必要であると思われる。
- ・現在は創立当初からの指導者と卒団生のスタッフによって指導をしているが、これからのことを考えると地域や学校関係者からも定期的に指導に関わる人材を求めている。
- ・現在、町の方針で、当団は文化ホールを使用する際、「減免対象に準ずる」という特典をいただいているが、現状としては年1回の発表会本番だけが減免になり、リハーサルや練習時の使用料は一般の団体と変わらないので、保護者の負担が大きい。定期演奏会の前には数回のリハーサルが必要なので、リハーサル時の使用料についても町に配慮をお願いしたい。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・町内の小学校には以前、音楽部があり、合唱や器楽合奏の活動をしていた。その中から何人かが当合唱団に入団し活動をしているが、更に小学校との連携を深め、部活動に参加していた子ども達の受け皿になっていきたい。
- ・町内の2つの中学校には吹奏楽部があり、熱心な活動が行われている。近い将来、中学校の地域部活動化が進んだ場合、当合唱団が直接的に受け皿になるのは難しいと思われるが、合同の演奏会や研修会などを企画して、町内の子ども達の音楽を愛好する心を育てていきたい。
- ・来年度以降も、今年度のように町内小学校を町生涯学習課の担当者とともに回り、合唱団への周知度を上げ、団員募集を行っていく。
- ・今年度は新型コロナ感染状況の悪化のために、学校関係や町教育委員会などとの話し合いや練習参観の機会を設けることができなかったが、来年度からの実施を検討する。
- ・この3年間、コロナ禍で実現できなかった地域の演奏会への出演を積極的に行い、各学校への案内も出す。また各施設への訪問も積極的に行い、広く交流を深める。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	35名（幼稚園児2名、小学生15名、中学生9名、高校生9名）
	学校名	大津小学校、大津南小学校、菊陽北小学校、白水小学校、大津中学校 大津北中学校、大津高校、熊本北高校、必由館高校、第二高校
	募集方法	・7月に担当者2人で、大津町内の小中学校を訪問し、地域文化倶楽部（仮称）に指定されたことを説明し、団員募集チラシを配った。 ・団員が友達に団員募集チラシを渡したり、定期演奏会に案内したりした。
指導者	人数等	5名（代表は団創立時に依頼を受け、続けて指導してきた。中学校の教員をしていたのでボランティアで関わってきた。他の4名は当団の卒団生。）
	募集方法	募集は特にしていない。
参加者の移動手段		保護者による送迎
活動費用	指導者謝金等	謝金 700円/時間
	その他	大津キリスト教会使用料 1,000円/回 大津町文化ホール使用料 418,170円（1年間） 印刷費（インクカートリッジ・コピー代） 17,077円（1年間）
活動財源	会費	入団費5,000円×1回 年間36,000円（3,000円×12ヶ月）、定期演奏会参加費5,000円×1回
	その他	後援会費57,000円（1年間） 出演謝礼20,000円（10,000円×2回）
スケジュール	基本活動	全体練習 毎週土曜日2時間 中高生練習 毎週木曜日2時間 9月は定期演奏会練習のため、毎週土曜日5時間
	年間	5月 中高生強化練習 6月 ミュージカル配役決定 8月 強化練習 熊本県少年少女・児童合唱祭出演 9月 定期演奏会 卒団生を送る会 12月 クリスマスミニコンサートクリスマス会
保険加入等		スポーツ安全保険（保護者負担700円/年、指導者団負担700円/年）

## 【活動の様子（写真添付）】



定期演奏会に向けての練習



黙食でのお弁当



定期演奏会 10. 9【第1部】



定期演奏会【第2部】



定期演奏会【第2部】  
30周年記念保護者合同演奏



定期演奏会【ミュージカル】



新入団員が入ってからの練習







クリスマスイベントに出演



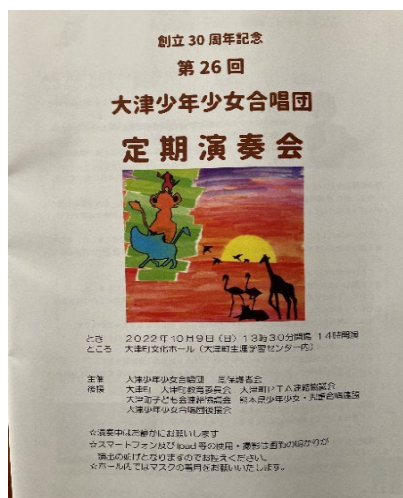
大津町子育てフェスタに出演



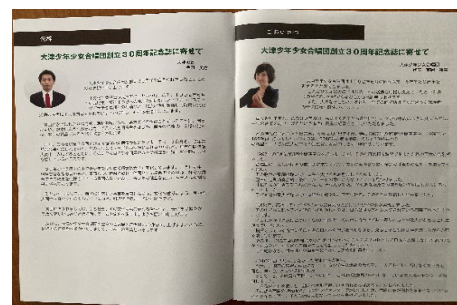
団員募集チラシ



定期演奏会チラシ



定期演奏会パンフレット

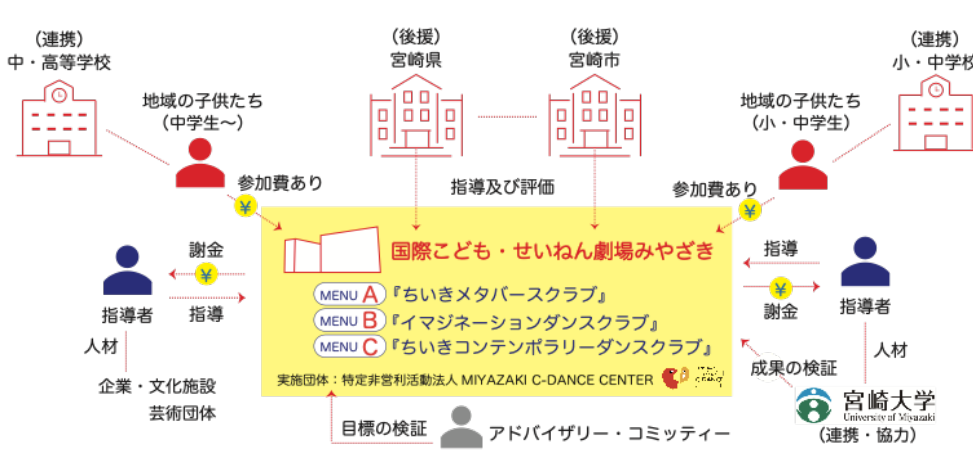


創立30周年記念誌



# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER		
所在地	宮崎県宮崎市	設立年	2008年
運営主体	特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER		
事業目標	<p>申請団体は令和3年度の受託団体である。令和4年度は、前年度の課題の解決と成果の活用を図り、地域文化倶楽部(仮称)の持続可能なモデルづくりに取り組む。</p> <p>本実践研究の目的1 地域の子供たち(特に、中学生)が質の高い文化芸術に親しむための継続的な機会の創出</p> <p>本実践研究の目的2 次代を担う地域の子供たちの文化芸術体験活動の支援</p>		
きっかけ	<p>○2019年3月に、地域の認可保育園の協力の下、申請団体の拠点となる「国際こども・せいねん劇場みやざき」をオープンさせた。また、そのオープンから3年が経過する中で、劇場の存在とその目的(子供と青年に特化したアート空間)が、広く地域に認知されるようになった(例:「国文祭・芸文祭みやざき2020」分野別フェスティバル「小さなアートフェスティバル」の会場)。</p> <p>○劇場オープン当初より、「国際」の付いた劇場に相応しく、世界を視野に入れた活動に地域の子供たちを誘いたいと考えていた。一方、コロナ禍で海外との活動が制限される中、AIやメタバースによるコミュニケーションが一気に広がった。</p> <p>○ダンスが保健体育で取り扱われるため、県の高文連にも高体連にもダンス専門部がない。そのため、高校にダンス部・ダンス同好会があっても活動の場が限られていた。</p> <p>○県内にダンス部がある中学校はごく僅かであり、「中学校にダンス部があれば入りたかった」(中学生)や、「進学先の中学校にダンス部を作って欲しい」(小学生)といったニーズがあった。</p> <p>○また、ダンス部が中学校にないことから、ダンススタジオ(有料)に通ってダンスを楽しむ生徒も多い。その一方で、経済的な理由で通えない生徒もいる。この生徒の貧困による格差とその是正も解決すべき課題となっていた。</p> <p>○文化政策が専門の長嶋由紀子氏(東京大学人文社会系研究科研究員)から、本事業を紹介され、R3年度の本事業への応募を勧めていただいた。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	<p>国際こども・せいねん劇場みやざき(愛称: CandY)</p> <p>「CandY」(Children and Youth)は、昼は隣接する保育園の園児が走り回る体育館、夜と週末にはコンテンポラリーダンスなどの芸術鑑賞の劇場となる。空間活用とアート教育、地域の保育支援、アーティスト育成といったいくつもの顔と役割を持ち、芸術に触れる機会や場が少ない子供や地域住民、そしてアーティストにも開かれた「場」である。</p>		

## 活動概要

年度当初は2つのメニュー(A・B)でスタートしたが、後半にメニューCを追加した。

●メニューA ちいきメタバースクラブ  
 内容:リアルとバーチャルをつなぐ、新しいコンピューティングのスタイルや表現を体験するクラブ  
 対象:地域の中・高校生  
 実施方法:原則メンバー固定の「定期講座」/月2回(年21回)/参加費用:1回1,000円/募集人数:10名  
 達成目標:参加数→募集人数の80%/リピーター数→参加者数の50%  
 学校や地域との連携によって得られる成果等:宮崎市と地域の文化芸術団体、学校が、宮崎市文化振興条例に示された役割をそれぞれが果たすことができる。

【目標の達成状況】  
 参加者数:前期7名/後期5名 のべ参加者数82名  
 主な活動内容は下記の年間スケジュールに記載。  
 (定量的観点)本県では長らく「人口10万人あたりのコロナ感染者数全国1位」が続いた。そこで、県の感染者数の推移を見ながら前期は9回、後期は12回、実施することができた。募集人数に占める参加者数は70%。参加者数に占めるリピーター数は88%。目標値を達成できた要因としては、中・高等学校の従来の文化部で取り扱う内容との差別化を図ったこと、またそれ(内容)が中・高生にとって興味のあるメタバースであったこと等が考えられる。

【事業計画書との差異】  
 ・参加者に中学1年生が多かったことから、前期は当初の計画(2回/月)での実施は難しかった。逆に学校生活に慣れた後期は、次々新しい行事が決定したことから、実施回数が大幅に増えた。  
 ・指導者については、参加者からの要望もあり、特別講師(甲斐達也/株式会社コトログ)はじめ、自他ともに認めるスキルを持つエンジニア・アーティスト、大学教員等(例えば、Microsoft Regional Directorの中村薫/株式会社ホロラボ代表や航空宇宙工学の井口雄三/航空大学校教授、等)を追加した。

●メニューB イマジネーションダンスクラブ  
 内容:メタバース世界に入る前に、たつぷりフィジカル(身体)を楽しむダンスクラブ  
 対象:地域の小学生  
 実施方法①:クール型(前後期)「定期講座」/月2回(21回)/参加費用:1クール12,000円/募集人数:20名程度  
 実施方法②:随時参加可能な体験型/年5回/参加費用:1,000円/募集人数:10名程度  
 達成目標:参加者数→募集人数の80%(前後期)/リピーター数→参加者数の50%(同)  
 学校や地域との連携によって得られる成果等:宮崎市と地域の文化芸術団体、学校が、宮崎市文化振興条例に示された役割をそれぞれが果たすことができる。

【目標の達成状況】  
 参加者数 クール型 前期11名/後期12名 のべ参加者数185名 体験型 のべ参加者数63名  
 主な活動内容は下記の年間スケジュールに記載。  
 (定量的観点)実施回数は、クール型については、前期10回、後期11回(計21回)。募集人数に占める参加者数は57.5%(前期)。参加者数に占めるリピーター数は100%(全期)。募集人数において目標値を達成できなかった要因としては、オーディションを実施したことで、ハードルが高いという印象を与えてしまったことや、前期に地域に活動の様子を紹介する機会がなかったことが考えられる。一方、オーディションを実施したことで責任感が生まれたのか、年度途中で1人も退部者が出なかった。

【事業計画書との差異】  
 ・活動日程については、ほぼ計画通り進めることができた。後期については、計画当初に想定していなかった地域イベントへ参加することができた。  
 ・当初の計画にはなかったが、「クラブを体験してみたい!」という声に応じて、夏休み期間に体験型(全5日)を実施した。「イマジネーションダンスクラブへの参加はハードルが高いと思っていたけどお試しがあってよかった」という感想やHPを見た県北の僻地校や県外(京都)から帰省中の小学生も参加してくれた。なお、体験型の実施後に近隣の小学生2名が入部した。また「イマジネーションダンスクラブ」もインテグレートした12月の公演後にも1名が入部した。

活動概要	<p>●Cコース ちいきコンテンポラリーダンスクラブ          内容:学校の文化部でも地域のバレエスタジオでも取り扱わないコンテンポラリーダンスを文化として体験するクラブ          対象:地域の中・高校生          実施方法:随時参加可能な体験型/年6回/参加費用:3,000円/募集人数:5名程度          達成目標:参加者数:募集人数の80%/リピーター数:参加者数の50%          【目標の達成状況】          参加者数 のべ参加者数20名          (定量的観点)参加回数は6回。募集人数に占める参加者数は67%。参加者数に占めるリピーター数は100%。参加者数が目標値を達成できなかった要因としては、年度途中でスタートしたことや不定期講座としたこと、「鑑賞」を必須として参加費用(3,000円)にチケット料金を含めたこと等が考えられる。また、リピーター数が目標値を達成した第一の要因は、招聘した特別講師(塙睦美/モモンガコンプレックス、仁科幸/同、久保田舞、中川鈴音)の力量だったと捉えている。          【事業計画書との差異】          年度途中で新規クラブをスタートさせることにしたのは、メタバースクラブの参加者に女子がいなかったことが大きい。コンテンポラリーダンスを体験する場がないという声以前からあったこともあり、次年度を待たずに実施することとした。指導者については、新たに予算化せずに、本団体の別事業で招聘した振付家・ダンサーにも協力・依頼した。</p>
------	--

## ○本事業による成果

「教員の負担感軽減に寄与できているか。(従来の学校部活動と比較して従事時間がどう変化したか)」について。本モデルでは、「児童・生徒のニーズの多様化」及び「部活動に代わりうる継続的で質の高い文化芸術活動環境の不足」等の課題を解決するために、「地域文化倶楽部等」に位置付けて3つのメニュー(実践研究)をデザインした。それぞれの実践研究が目指したのは「少子化の中でも、将来にわたり子供たちが文化芸術に継続して親しむ機会を確保すること」及び、「本事業を契機に、生徒や保護者等が地域の活動に主体的に参画すること」であった。従って、成果の観点「教員の負担感軽減に寄与できているか」については、直接的に寄与することはできていない。しかし、児童・生徒のニーズに応えることや、質の高い文化芸術活動環境の提供を諦めていた教員の中には、該当しそうな児童・生徒に本モデルを紹介したり、保護者に進めたりするなど、間接的ではあるが教員の負担感軽減に寄与できていたと言える。

「学校全体としてどのように変化が生じたか。(良くなった点、悪くなった点)」について。本モデルには、地域の小学校が10校、中・高等学校(私立を含む)が8校、計18校の児童・生徒が参加しているが、実態は各校1名、多くて2名であり、学校全体に変化を生じさせるような影響力は期待できない。しかし、各実践に参加した児童・生徒が友達を誘ったり公演等の招待状をクラスで配布したりしたことで、お試し入部したり、その後に入部したりする児童・生徒が現れている。本モデルが、少しずつではあるが学校や地域で認知され始めたのではないかと捉えている。

「アンケート、ヒアリング等の結果など。」及び「学校の部活動との関係性について。(将来、部活動に代わり得る活動として実施していけるか)」について。本モデルが「少子化の中でも、将来にわたり子供たちが文化芸術に継続して親しむ機会を確保すること」を目的としたことで、全てのメニューで、児童・生徒が保護者の同意を得て参加してもらい、それぞれの学校・教員へは、保護者を通して本モデルに子供が参加していることや具体的な活動内容について報告してもらう方法をとった。ただ、メニューAに参加している中学生は学校の部活動にも魅力を感じて参加している。将来、本モデルが学校の部活動に代わり得る活動として実施していけるかは、ニーズ次第であり、学校の土日の部活動の地域移行が当然になれば実施していけるのではないかと捉えている。

### 【その他の成果】(定性的観点)

#### ●メニューA「ちいきメタバースクラブ」の定性的観点

・とても有意義で貴重な体験、経験をさせてもらっている。・社会とつながっていることを体感できるようなクラブ(例えば、東京大学メタバース工学部ジュニア講座の受講を勧められた)。  
 ・全力を注げた。  
 ・みんなで協力してゲームを作りあげた。

#### ●メニューB「イマジンেশンドダンスクラブ」の定性的観点

・参加できない回がすごく残念でした。  
 ・他の学校の学年が違う友だちと一緒に行動できてよかった(兄弟がいないので)。  
 ・他にはない活動をさせてもらえた。  
 ・スケジュールが早めにわかると予定が組みやすい。  
 ・世界とつながれることがしたい。  
 ・活動を記録・整理しながらふりかえる時間があつたらいい。

#### ●メニューC「ちいきコンテンポラリーダンスクラブ」の定性的観点

・宮崎は都会とくらべて様々な舞踊を学べる機会が少なく、舞踊の素晴らしさを感じられる機会が少ないので、このクラブは本当に有難いです。  
 ・普段している動きではなく全く新しい動きができてとても面白かったです。  
 ・自分やときには仲間の身体と向き合うことは大切なのに、学校の部活ではなかなかできないので貴重な体験です。  
 ・宮崎でコンテンポラリーをすることはできないと諦めていたが、このクラブでたくさんの経験と素敵な出会いがあった。環境も整っていて、本当に参加してよかったと毎回思った。  
 ・時間が短すぎて理解しきれなかったり未完成だったりしたので、集中や事前に振り付けの動画をもらえたり、後日にオンラインで質問できたりすると嬉しいです。  
 ・早い段階から予定がわかるともっと参加しやすいです。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

「生徒たちが満足する指導ができているか。(他の学校部活動と同等以上の指導内容となっているか)」について。本モデルの講師を専門家依頼し、それぞれの講師も、知識を教えるに止まらず、興味・関心を引き出すような活動づくりをしていたことやリピーター数が高いことから、参加者の満足度は高いと言える。ただし、学校部活動(小学校はクラブ)と同等以上の指導内容となっているかは、県下に比較対象(同様の学校部活動・クラブ)がないため言及できない。

「技術指導以外の周辺知識(楽器のメンテナンス方法等)の指導も行っている等」について。特にメニューAについては、Oculusの取り扱い方だけでなく、関連機器やソフトについても取り扱いの指導を行なった。

「指導のための研修制度(技術的、精神的)があるか。」について。次年度のメニューB・Cの講師候補者に対し、活動への参与観察や、補助者として実際に活動に参加する研修制度を設けた。

「芸術系大学等との連携(生徒のモチベーションアップ)は図れているのか。」について。本県には芸術系大学・学部等がない。ただし、本申請団体は国内外で活動するアーティスト(振付家)が立ち上げたアートNPO法人である。例えば、毎年、国内の美術館と協働した内容を紹介するなど、参加者のモチベーションアップを図っている。R4年度は、丸亀市の猪熊弦一郎現代美術館や小国町(熊本県)の坂本善三美術館と協働した内容も参加者と共有した。さらに、後期は、本モデルが拠点とする劇場で実施したAFF2(文化庁)の事業にインテグレートできるように仕組めた。また、メニューCについても、講師にお茶の水女子大学文教育学部芸術表現行動学科(舞踊コース)のOGを招聘し、参加者のモチベーションアップを図った。

## ○運営上の工夫

「指導者の養成・質・量の確保について(どのように、誰が、いつ)」について。メニューAは、年度当初にリストアップした候補者(指導者・講師)の中から、活動内容や進み方、参加者の要望等を鑑みながら、特別講師・協力講師を招聘するようにした。メニューBは、R3年度に引き続きR4年度も、教職大学院(教育学・美術科教育・情報教育)を修了した本団体のアーティスト3名(振付家・ダンサー／文化庁の芸術家の派遣事業の講師)と舞踊教育の専門家を主たる指導者とした。メニューCについては、年度途中からスタートしたこともあり、新たに予算化せずに、本団体が実施した事業の関係者(公演出演者、派遣芸術家事業の講師他)にも協力・依頼した。

「活動時間等の在り方等について(ガイドラインの活用等)」について。本モデルでは1回の活動時間を90分に設定し、終了後に、参加者、指導者の時間が許す範囲で質疑応答やふりかえりの時間をとった(30分程度)。保護者を対象としたアンケート調査においても、「ちょうどよい」を選んだ保護者が多かった。活動が盛り上がり90分では終わらない回も少なからずあった。

「生徒たちの募集について(どのように、誰が、いつ)」について。本モデルでは、本団体のHPやSNS等を活用して参加者を募集した。なお、メニューAについては、近隣の公立高校に協力をお願いし、市内の高校へ働きかけをしてもらった。教員からの手応えは感じ、興味・関心を示した高校生もいたが部員として参加するまでには至らなかった。

「地域、保護者、教育機関等との連絡調整について」について。主に本団体のHPとSNS、メールを活用した。

「コーディネーター・ファシリテーター等の役割を担う人材育成は図れているか。」について。

文化庁の「芸術家派遣事業」と兼ねて本団体のスタッフ(アーティストを除く)を対象にコーディネーターの育成を図っている。ファシリテーターの育成については、本団体のスタッフ全員が教員免許状を有しているため現時点では考えていない。

「民間企業とのタイアップ等について」について。R3年度、本団体の活動に興味・関心のある小児科医(地域医療のリーダー)に、事業の成果と今後のタイアップ等についてプレゼンすることができた。その流れで、R4年度は、メニューBの参加者が出演することを条件に、本団体が主催した公演(AFF2採択事業)をタイアップしてもらった。

「用具(楽器等)調達、運搬、保管について」について。メニューAで使用するOculusについては、円高の影響で一気に値上がりし、追加購入が叶わなかった。急遽、スタッフの私物等を総動員して実施した。その他の機材・用具については、本団体の別事業で使用したものを兼用した。保管については、新たに倉庫を購入した。なお、メニューBの参加者が、購入した倉庫の壁面を地域の景観にふさわしくデザインした。※「子どもの力! 倉庫ビフォーアフター」

「活動支援・事業運営のためにICTを活用しているか。」について。積極的に活用している。

「関係者全員にとって無理のない仕組みを構築しているか。」について。R3年度に引き続きR4年度も、コロナ禍の影響で海外での公演活動が中止・延期となった。そのため、overwork覚悟で計画当初にはない活動も実施した。R5年については、すでに海外公演も決定しており、継続的・計画的に実施するためには、無理のない仕組みの構築は必須である。(要検討事)



## ○継続的な運営に関する課題・展望

「自治体、地域民間企業等との連携協力体制の構築ができているか。(今後、構築可能になるか)」について。宮崎市(本団体が拠点とする自治体)の公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から自治体に連携協力体制の構築を提案させていただく予定である。それまでは本モデルを継続実施し、得られた成果を自治体へ報告する。R4年度は、地域民間企業の八紘運輸と連携・協力し、新造船HAKKOUひなたとのPRを目的に、イメージーションダンスクラブの参加者が甲板上で活動成果を披露した。

「人材確保のために教育委員会、地域、団体等の連携が図れているか。」について。宮崎市(本団体が拠点とする自治体)の公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から地域の教育委員会に対し、人材確保のための連携について提案させていただく。それまでは本モデルを継続実施し、得られた成果を地域の教育委員会等へ報告する。R4年度は、9/2に宮崎大学CROC第29回技術・研究発表交流会で事例発表を行った。

「会費徴収に関して保護者・学校等の理解が得られているか。(今後、どのように理解を得ていくか)」について。本モデルでは、参加の条件に保護者の同意を加えたことから、会費徴収に対する理解は得やすかった。今後、公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、先行している事例(例えば、総合型スポーツ倶楽部の会費徴収の金額等)を参考に、自治体、地域の教育委員会に指導していただきながら、会費徴収に対する保護者・学校等の理解を得る手立てを探っていききたい。

「民間の文化芸術団体等との連携は図れているか。」について。本事業を継続的に実施することになれば、自治体において、本事業に興味関心を示している民間の文化芸術団体を紹介していただき、連携協力を呼びかける。

「人材バンク等の活用は図れているか。」について。本事業を継続的・計画的に実施することになれば、積極的な活用を検討する。

「自治体等の補助金制度、民間の基金等の活用。(単年度ではなく、継続的・定期的な)」について。本事業の継続実施を想定し、継続的・定期的な補助金制度や基金等があるかをネットで検索している。また、自治体に対しては、該当する制度ができるときには前もって教えていただきたいとお願いしている。

「会費の徴収について。(金額は妥当か)」について。回数及び時間を鑑み、妥当と思われる会費を設定・実施した。アンケート(保護者)では「妥当な金額」という回答が大多数であった。

「保険(公益財団法人スポーツ安全協会等)への加入を必須としているか。」について。当法人に関わるイベントに対して一括契約をしている。本事業を継続的に実施することになれば、より保障が充実した保険の加入を検討したい。

「減免措置のあるホール等(場所)を利用している等。」について。本団体が運営を任されている、専用かつ安価に利用できる拠点劇場(所有は認可保育園)があるため、継続実施する場合も、減免措置のあるホール等の利用は想定していない。

「クラウドファンディング活用による資金調達等。」について。これまでに活用した経験から、自治体等の補助金制度、民間の基金等の活用ができない場合のみ活用する。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

●特筆すべき課題は3つ。一つは、参加者の体験が、学校部活動と同等に扱われるようになり、中学生が主体的に選択できるようにすること。他の一つは、参加者のニーズを汲んだ複数の「地域文化倶楽部」が活動する状況を地域に創出させること。そのために民間の文化芸術団体や民間企業等との連携協力体制を構築できないかと考えている。最後の一つは、参加者のニーズに自前の機材・用具では応えられないこと。補助金や助成金で購入できる仕組みをつくって欲しい。

●今後に向けた方針・方向性は、宮崎市(本団体が拠点とする自治体)の公立学校(特に、中学校)が地域文化倶楽部を導入することになり、ニーズがあれば、本団体から自治体に連携協力体制の構築を提案させていただこうと考えている。それまでは、本モデルを継続実施し、得られた成果・課題について自治体(教育委員会、他)へ報告する。

●本事業の継続実施を想定し、継続的・定期的な補助金制度の必要性を文化庁や自治体に対して説明し続ける。また、大学が実施する技術研究交流会等で成果・課題について報告することで民間企業等とのタイアップの可能性を拓く。そして、より持続可能なモデルづくりに取り組んでいきたい。

以上について、部活動の段階的な地域移行に向け取り組む宮崎県・宮崎市の各教育委員会の担当者と意見交換を行うことできた。なお、宮崎県では、来年度1月に地域部活動を推進するためのシンポジウムが開催され、そこに本団体も参加する予定です。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	メニューA 前期7名/後期5名 のべ参加者数82名 メニューB クール型 前期11名/後期12名 のべ参加者数185名 体験型 のべ参加者数63名 メニューC のべ参加者数20名
	学校名	小学校・・・宮崎港小、檉北小、江平小、江南小、宮崎西小、宮崎大学教育学部附属小、青島小、木花小、妻南小(西都市)、美郷南小(美郷町) 中学校・・・檉中、大塚中、宮崎学園中、宮崎第一中、日向学院中、宮崎大学教育学部附属中 高等学校・・・宮崎大宮高、宮崎学園高
	募集方法	本団体のHP・SNSに掲載、過去のイベント参加者へのダイレクトメール 実施会場(劇場)エントランスへのチラシ掲示、近隣の学校や近接市町村の「芸術家の派遣事業」(文化庁)実施校へのチラシ配布及び送付。
指導者	人数等	○特別講師等 自他ともに認めるスキルを持つエンジニア・アーティスト、大学教員等(14名) 甲斐達也:株式会社コトログ 猪口雄三:航空大学校(航空宇宙工学) 中村薫:株式会社ホロラボ 樺島 優子:宮崎大学(美術家/美術教育) 犬飼博士:一般社団法人運動会協会 高橋るみ子:宮崎大学(振付家/舞踊教育) 山川祐吾:DNP大日本印刷株式会社 村上剛:東京都現職教員(図画工作専科) 大野源喜:音楽家 西純之介:映像作家 中川鈴音:振付家・ダンサー 久保田舞:振付家・ダンサー 塙睦美:振付家・ダンサー(モモンガコンプレックス) 仁科幸:振付家・ダンサー(モモンガコンプレックス) ○指導者 教職大学院(教育学・美術科教育・情報教育)を修了した本団体のアーティスト(3名) 豊福彬文:振付家・ダンサー・情報教育(んまつーポス) みのわそうへい:振付家・ダンサー・美術家教育(んまつーポス) 児玉孝文:振付家・ダンサー・教育学(んまつーポス)
	募集方法	本団体が実施する事業の関係者(自他ともに認めるスキルを持つエンジニア・アーティスト、大学教員等)の中から、特に本モデルに興味・関心の高い専門家に協力・依頼した。 県外講師については、参加者からの要望や、コロナの状況、モチベーションアップのタイミングを図りながら依頼した。特にR4年度の後期は、本モデルが拠点とする劇場で実施したAFF2(文化庁)の事業等を活用した。
参加者の移動手段		保護者による送迎(小学生・中学生) 公共交通機関の利用、及び自転車・徒歩(中学生・高校生)
活動費用	指導者謝金等	○特別講師等 5,100円/時間/人 ※県外講師のみ旅費補助 ○指導者 1,050円/時間/人
	その他	○賃金(コーディネーター、スタッフ):1,050円/時間 ○会場費:1,100円/時間 ○印刷費(チラシ、活動での使用等):120,000円 ○活動に必要な経費(道具・資料・感染対策等):120,000円
活動財源	会費	メニューA 1回1,000円 メニューB クール型 1クール12,000円 (途中参加の場合は1回1,000円) 体験型 ※活動時間によってその都度設定 メニューC 1回3,000円
	その他	特になし

スケジュール	基本活動	<p>●メニューA ちいきメタバースクラブ 月2回(年21回) 5/1, 5/15, 6/5, 6/26, 7/3, 7/17, 8/7, 8/21, 9/4, 10/2, 10/23, 11/6, 11/28, 12/11, 1/8, 1/22, 1/28, 2/4, 2/5, 2/19, 3/5</p> <p>●メニューB イマジネーションダンスクラブ クール型 月2回(年21回) 前期)4/29, 5/20, 6/3, 6/24, 7/1, 7/22, 8/5, 9/9, 9/16, 9/30 後期)10/21, 11/5, 11/25, 12/18, 12/23, 12/24, 1/6, 1/20, 2/4, 2/17, 3/3</p> <p>●メニューB イマジネーションダンスクラブ 体験型 年5回 8/3, 8/13, 8/17, 8/18, 8/19</p> <p>●メニューC ちいきコンテンポラリーダンスクラブ 年6回 12/20, 12/21, 12/22, 1/28, 2/20, 2/26</p>
	年間	<p>主な活動内容</p> <p>●メニューA ちいきメタバースクラブ 6/4 宮崎日日新聞社の取材を受ける ※7/24 教育紙面に掲載 8/5 カジュアルミーティング/講師: 山川祐吾/DNP大日本印刷株式会社 10/2 東京大学メタバース工学部ジュニア講座の登録・受講 11/6 講義/講師: 猪口雄三/航空大学校(航空宇宙学) 11/9～13 活動拠点で開催されたAFF2事業「メタバースvsダンス」(主催: 本団体)に参加した。講師: 中村薫(エンジニア)、犬飼博士(ゲームクリエイター)、他 2/4 メディキット県民文化センターで開催された、ダンス発表会「ムーブメント・アート・インみやざき2023」(主催: 宮崎県女子体育連盟、他)において、メタバースを活用した司会を行った。／指導: 児玉孝文(んまつーぽす) ※ 2/7 facebookに「アバター司会」の様子をアップした 3/25 地域文化倶楽部合同発表会を開催する(予定)</p> <p>●Bコース「イマジネーションダンスクラブ」 6/5・7/1 「子どもたちが世界のコンテンポラリーダンスを踊ってみた! シリーズ」の活動をfacebookにアップ 8/3～19 夏休み期間中に体験型を開講 5回／のべ参加者数63人 ※8/10 「子どもの力! 倉庫ビフォーアフター」の活動をfacebookにアップ 12/5 「宮崎みなとまつり」(主催: 宮崎市他)で活動の成果を発表した。 また、その様子をYouTubeで海外へ発信した。 (配信: 2022 Yokohama Dance Collectionh)／12/1～／視聴数4.5万回) 12/23～24 活動拠点で開催されたAFF2事業ロングランダンス公演「太くて低い虹」(主催: 一般社団法人namstrops)で活動の成果を披露した。 2/4 メディキット県民文化センターで開催された、ダンス発表会「ムーブメント・アート・インみやざき2023」(主催: 宮崎県女子体育連盟、他)で活動の成果を広く地域に発表した。 2/18・3/3 「もっとダンスが好きになるーTikTok×ミメーシス」の活動をTikTokに投稿 3/25 地域文化倶楽部合同発表会を開催する(予定)</p>
	保険加入等	<p>普通傷害保険 契約種別:レクリエーション 被保険者数 600名 ※当法人に関わるイベントに対して一括契約をしているため、本事業での保険料計上はなし</p>



## 【活動の様子（写真添付）】

### MENU A 『ちいきメタバースクラブ』



### MENU B 『イマジネーションダンスクラブ』



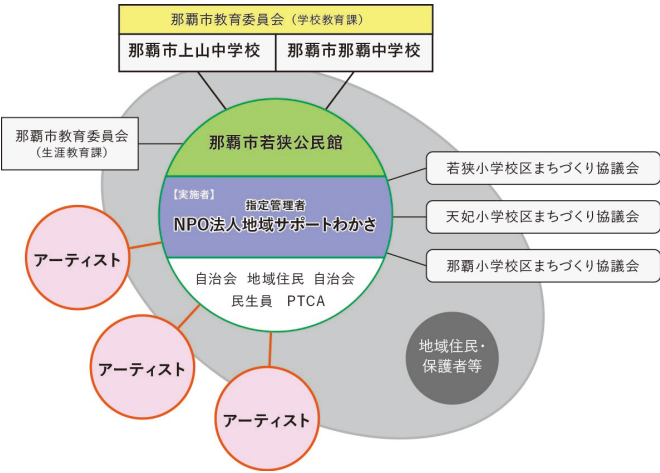
### 『コンテンポラリーダンスクラブ』





# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	特定非営利活動法人地域サポートわかさ		
所在地	沖縄県那覇市	設立年	2007年
運営主体	特定非営利活動法人地域サポートわかさ		
事業目標	<p>美術部のない2つの中学校を対象に、公立公民館を拠点とした「アートな部活動(美術部)」創設に向けて、課題や成果を検証する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者不在のため設立できなかった「美術部(アートな部活動)」の創設</li> <li>・定期的な活動による居場所としての機能を発揮</li> <li>・社会教育の特性を活かした部活動とアート活動をミックスしたプログラムの開発</li> <li>・部活動と地域活動の連携・協働の場や機会の創出</li> </ul>		
きっかけ	<p>那覇市の北西地域にある中学校2校(那覇市立那覇中学校、那覇市立上山中学校)は、文化系部活動が少なく、美術に関する部活動はない。入部希望者がいても担当できる教員(顧問)がいないことを理由に立ち上げが見送られている状況があった。</p> <p>運営団体である地域サポートわかさは、若狭児童館及び若狭公民館の指定管理者として取り組む中で、地域コミュニティの希薄化と青少年を取り巻く環境の変化を感じており、生徒が主体的に取り組む多様な体験活動の場と地域と学校の連携強化、協働活動の充実を求めている。また、教員の負担軽減という社会課題に対し、これまでアーティストと協働で地域特性に応じた社会教育プログラムを開発してきた経験を活かしたいと考えた。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	那覇市若狭公民館を拠点に、那覇文化芸術劇場なはーと、壺屋焼物博物館、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立芸術大学、周辺地域などで活動		

活動概要	<p>那覇市若狭公民館を活動拠点に、2つの中学生を対象とした「アートな部活動(美術部)」を創設。生徒の自主性・主体性を育むことを基本とし、現代的な表現に取り組むアーティストを顧問あるいはゲストに迎え、芸術分野・領域を超えた創造的なアート体験に取り組んだ。</p> <p>「アートな部活動」は、次の3つのプログラムで複層的に構成され、様々なアート体験ができるように配慮した。</p> <p>①生徒自身が目標を定め年間を通して取り組む創作課題(自主制作)の「つくる部」  ②現代アーティストの潮流やアートの歴史に学び、実際に作品を鑑賞したり作品を鑑賞する上で求められる批評眼を養う「観る部」  ③現代アーティストによるアーティストトークやワークショップを体験し、その活動や経験に触れる「オルタナティ部」</p> <p>実施回数・プログラム</p> <p>●毎週火水木実施(全102回)</p> <p>①「つくる部」(83回)</p> <p>②「観る部」講師:土屋誠一(美術批評家・沖縄県立芸術大学准教授)(6回)</p> <p>③「オルタナティ部」(全13回)</p> <p>・「ユーチュー部」(2回)顧問:藤井光(現代美術家・映像作家)</p> <p>・「ダンボール部」(4回)顧問:儀間朝龍(現代美術家・イラストレーター)</p> <p>・「ポストポスト部」(4回)顧問:平良亜弥(現代美術家・パフォーマー)</p> <p>そのほか、講師・ゲスト</p> <p>・照屋勇賢(現代美術家)</p> <p>・阪田清子(現代美術家・沖縄県立芸術大学准教授)</p> <p>・山城知佳子(現代美術家・東京藝術大学准教授)</p> <p>●地域行事等に積極的に関わることで、教育的効果を高めるとともに、取り組みの周知にも繋げた。</p> <p>・若狭児童館「お化け屋敷」、若狭地域文化祭、若狭公民館まつり等</p>
------	--

## 〇本事業による成果

- ・美術部創設のニーズを把握していながらも、教員の業務過多及び指導者の不在等の理由で実現できずにいた2つの中学校の生徒を対象とした「アートな部活動(美術部)」を立ち上げ、取り組むことができた。
- ・各学校の美術室で実施した「出張!アートな部活動」により、生徒及び教科担任以外の教員への周知につながり、学校との連携体制を強化することができた。
- ・部員は、同じ興味関心を持つ仲間として、学校を超えた交流が生まれた。
- ・不登校や保健室登校の生徒も参加し、居場所として機能した。
- ・国内外で活躍するアーティストの多様な表現と制作に向かう真摯な姿勢に触れることで、視野を広げ、制作意欲を高めることができた。
- ・多世代交流や地域行事等への参画の機会により、キャリア教育としての成果も得られることができた。

- ・アンケート結果を見ると、全部員が「楽しかった」と回答し、次年度以降の継続を求めている。
- ・約9割の生徒が「新しい発見があった」としており、アートに対する認識が変わったことが示されている。
- ・保護者アンケートでは、全ての回答者から、子どもの様子を「楽しそう」、次年度以降「継続を希望する」と回答している。
- ・美術教科担任へのヒアリングでは、「多忙でこれ以上業務負担を増やすことはできないため、地域で部活動を担っていただけるのはありがたい」とコメントをいただいた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・学校では消極的な生徒や不登校の生徒でも、それぞれが自分らしく楽しく安心して活動できるような雰囲気づくりに努めている。
- ・生徒の自主性と主体性を尊重し、それぞれの興味関心、制作ペースに応じて指導するように留意している。
- ・発達障害や情緒が不安定で気になる言動を行う生徒に対しては、学校と情報共有し、共通認識のもと対応するように心がけた。
- ・地域行事で活動する機会や発表する場を設けることで、地域社会の成員としての意識の醸成に努めた。
- ・「ユーチュー部」では、在留外国人を含めた多様な大人を交えたプログラムとすることで、多文化共生社会について考える契機とした。
- ・芸術の専門教育を受け、教員免許取得や指導の経験がある運営団体職員（4人）が連携し、生徒の取り組みをサポートした。
- ・活動が単調にならないように、また、視野を広げ制作意欲が高まるように、国内外で活躍するアーティストを講師として招き、活動に触れる機会を提供している。
- ・公立文化施設や芸術大学への見学を取り入れ、視野を広げると同時に創作意欲を高めるように努めた。

## ○運営上の工夫

- ・児童館、公民館の指定管理者を務める運営団体の特性とネットワークを活かし、対象中学校をはじめ、教育委員会、SSWなどの支援員と連携、情報交換できる体制を構築した。
- ・那覇文化芸術劇場なは一と文化専門員や沖縄アーツカウンシルPO、学習支援コーディネーターなどの専門家の協力を得て、この取り組みの意義を確認すると同時に、活動の方向性について助言をいただいた。
- ・活動場所の若狭公民館研修室の利用料を免除した。
- ・部員及び保護者との連絡には公式LINEを活用した。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

- ・学校をはじめ関係機関との連携体制が構築でき、技術指導だけではなく居場所としての役割も担うことができる。
- ・基本活動については、児童館及び公民館事業の一部として位置付けることで継続可能となるが、国際的に活躍するアーティストを招聘してのプログラムについては、別途資金確保が必要となる。
- ・那覇文化劇場なは一と（那覇市文化振興課）、沖縄アーツカウンシル、那覇市文化協会等の専門機関とのネットワークが構築できたことにより、部活動に専門家を招聘しなくても各団体が実施するプログラムに参加することで低予算で体験、指導できる可能性が広がった。
- ・部活動の会場とした若狭公民館は利用料金の減免措置があるため、活動を継続しやすい環境にある。
- ・経費全てを会費で賄うことになると高額になるため理解を得るのは難しい。児童館や公民館の事業予算や別途補助金等外部資金を確保することで部員（保護者）の負担軽減を検討する。
- ・会費については、安価な適正額を設定できたとしても、支払いが困難となる家庭があることも想定できる。全ての中学生が参加しやすいように子どもの居場所事業等との連携によって消耗品費等の捻出も検討したい。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

- ・令和5年度は、若狭公民館の取り組みとして位置づけて「アートな部活動」を実施する。
- ・担当職員を2人体制にし、事業進捗や生徒の見守り、安全管理体制を整える。
- ・基本的な活動は、生徒自身が目標を定め、自主的に取り組むように促す。
- ・教科担任をはじめ校長や教員と情報共有する場を設け、指導の方向性や教育的意義（配慮）を共有して取り組んでいく。その際、教員が負担を感じないよう配慮し、部活動の内容については運営団体が主導して企画・運営・指導を行う。
- ・学校との連携を強化し、公民館研修室だけではなく2つの中学校の美術室も活用し、地域行事、学校行事と連動した取り組みを行えるようにする。
- ・公立文化施設等の展示企画やワークショップに出向き、多様な体験が得られるようにする。
- ・那覇市の「公共施設等管理団体等が実施する子どもの居場所運営事業」と連携することで、消耗品費等活動にかかる経費を捻出する。
- ・今年度実施した「ユーチュー部」のように遠隔地から講師を招くプログラムは、オンラインを活用して実施できるように検討する。
- ・那覇市子ども会育成連絡協議会の子ども会安全保険に加入することで、事故等が発生した際に対応できるように安全面に配慮する。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	14名(上山中4名・那覇中10名)
	学校名	上山中学校・那覇中学校
	募集方法	部員募集チラシを作成し、上山中学校・那覇中学校の全生徒に学校を通じて配布。また、両中学校の美術室にて「出張アートな部活動」を実施し、体験を通じて取り組み内容を周知した。
指導者	人数等	11人(運営団体職員4人・外部の専門家・アーティスト7人)
	募集方法	年間のプログラム内容を検討した上、連携・協力関係のある外部の専門家・アーティストに依頼
参加者の移動手段		通常の活動は徒歩。公共文化施設等で実施する場合は、公共交通機関を利用するか運営団体スタッフによる送迎
活動費用	指導者謝金等	指導者・コーディネーター 謝金 1,050円/時間 謝金(外部指導者)謝金 5,100円/時間、交通費 1,100円
	その他	材料・消耗品費 360,050円 会場使用料(若狭公民館) 無料
活動財源	会費	なし
	その他	運営団体自主財源
スケジュール	基本活動	毎週火・水・木 16:00～18:00
	年間	4月 学校・アーティスト等調整、部員募集 6月 上山中・那覇中にて「出張！アートな部活動」 7月 若狭児童館「お化け屋敷」会場づくり参画 7月～12月 月1回「観る部」実施 8月以降 随時「オルタナティ部」実施 11月 若狭地域文化祭「ダンボール商店」で参加 2月 若狭公民館まつりにて成果発表展示
保険加入等		子ども会安全保険(那覇市子ども会育成連絡協議会) 400円×14名 レクリエーション保険 2,000円



## 【活動の様子（写真添付）】

### ①「つくる部」の様子



### 上山中学校・那覇中学校で実施した「出張アートな部活動」

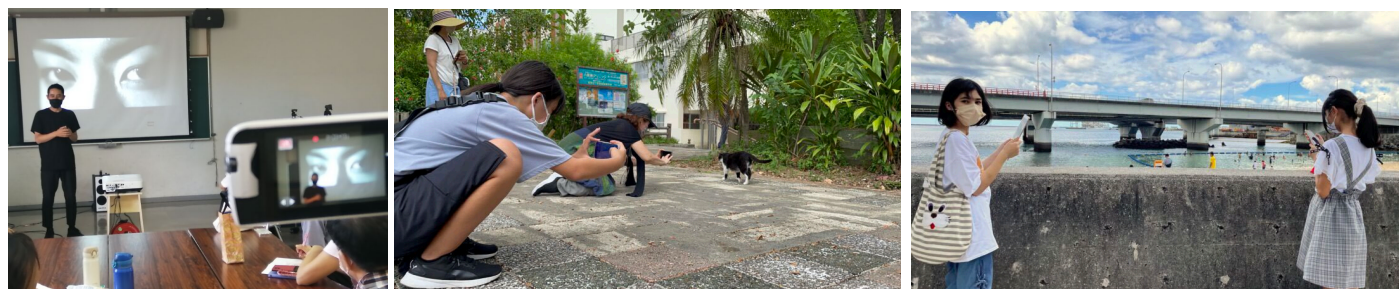


### ②「観る部」の様子



### ③「オルタナティブ部」の様子

#### ・「ユーチューブ部」 講師：藤井光





・「ダンボール部」 講師:儀間朝龍



・「ポストポスト部」 講師:平良亜弥



・「オルタナティブ」 その他のゲスト講師



照屋勇賢@文化芸術劇場なは一と



山城知佳子@若狭公民館



阪田清子@沖縄県立芸術大学

# 成果報告書

## 地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	ジュニアジャズオーケストラおきなわ		
所在地	沖縄県那覇市	設立年	2016年
運営主体	一般社団法人 琉球フィルハーモニック		
事業目標	子どもたちにとってルーティン化された活動として週2回の練習会や、発表の機会を設ける。また、活動施設や地域の関連団体との運営会議などを通して対象児童の現状に即した運営体制の構築を図る。		
きっかけ	地域の小学校において、金管バンド部の指導を充分にできる教諭がいないために、年間を通した子どもたちの音楽活動ができていない現状を知り、学校や家庭以外の居場所として、プロのジャズミュージシャンから指導を受ける環境を2016年から整えて来ました。 全国的にも珍しい小学生のビッグバンドが、子どもたちにとって、楽器や音楽に触れる居場所として、放課後の活動の選択肢として、地域で活動する文化活動となりえるのではないかと考えました。		
団体・組織等の連携	那覇市教育委員会 NPO法人地域サポートわかさ 那覇市若狭公民館 那覇市立若狭小学校 那覇市立那覇中学校 若狭小学校区まちづくり協議会 沖縄県吹奏楽連盟 沖縄県ジャズ協会		
活動場所	那覇市若狭公民館(那覇市若狭2丁目12-1) 3Fホール		
活動概要	那覇市若狭公民館ホールを会場に、那覇市立若狭小学校、曙小学校、泊小学校、那覇小学校、天妃小学校の児童対象に、子どもたちに接する上で必要な研修を受けた有償のプロのジャズミュージシャンと、OB等のボランティア指導員によるジャズビッグバンドの活動を、運営事務局が運営する。		

## ○本事業による成果

対象小学校の校長先生との会議機会が持てたことにより、学校の現状がリアルタイムに把握でき、スタッフや講師のメンバーへの対応に活かすことができた。

校長先生の活動に対する理解が深化したことにより、コロナ禍以降の学校での取り組みとして、講師によるコンサート開催の提案があるなど、積極的な関わりを得ることができ、連携体制の強化につながった。

講師やスタッフの研修として、コロナ禍の児童にみられる精神的影響や、発達状況に合わせた指導に役立つ情報を得ることができ、日々の指導における質の向上につながった。

スタッフの育成が実現できたことにより、メンバーの変化への対応にも安定性が増し、更にOBフェローとの信頼関係も構築できた。

## ○児童・生徒への指導に関する工夫

プロのジャズミュージシャンと運営スタッフ対象に年2回の研修を開催し、子どもの発達状況に対する接し方の研修を行う。

プロのジャズミュージシャンの指導料を有償にすることにより、継続的な指導が担保される。

運営スタッフの見守りにより安全確認を実施し、楽器の指導に専念する講師の負担を軽減する。

自発的な活動を尊重し子どもたちにとって居心地のいい環境を整える。

## ○運営上の工夫

地域に密着した活動及び関係形成のため、参加児童の学校区まちづくり協議会へ参加し関係性を深め、地域の祭りなどに参加することにより認知度が上がることを目指す。

プロのジャズミュージシャンの出席スケジュールの管理ができ、担当楽器の講師が楽器指導に専念し子どもたちの精神的な変化にも安心して対応できる環境体制の構築が整っている。

運営スタッフの役割分担ができ、講師の出席確認や保護者対応、メンバーの出席状況管理や会場管理者への報告作業にSNS広報、メンバーの安全確認と専門性を活用した連携体制が構築できた。

## ○継続的な運営に関する課題・展望

対象小学校の児童にとって、例えばマスクの強制がなくなっても外したくないなど、今後、新型コロナの影響がどのように残っていくかに留意して子どもたちに接するという課題が考えられる。

また、子どもたちの参加料が無料であることを担保するために、講師料や楽器修繕費、そしてスタッフ人件費などの必要経費をまかなう安定的な資金確保が課題である。

その一方で、活動8年目となる次年度には、初年度6年生だった学年が高校を卒業し、大学や社会に出ていく年齢となるので、OBフェローが中高生だったこれまでとは違う関わりが期待される。

今後、コロナ前のような商業施設のイベントなども再開することにより発表の機会が増え、地域社会に露出することで、地域での認知度が増し、地域文化活動として定着する展望が開ける。

## ○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

方針:①今年度、学校長による活動への理解が深まったことにより、次年度は、学校内での広報活動が児童の状況にあわせてきめ細やかに実施可能となる。

②学校内の活動との連携ができ、期間限定の金管バンドなどの部員が、楽器の上達やジャズ体験の中で達成感と自己肯定感が向上、文化活動への積極的な参加が実現する。

③学校行事との連携が可能となると、本格的な地域移行が実現できる。

提案: 学校内部活と競合しない形態の活動により、学校教師の負担がない提案型の地域文化活動の事例として他地域へ広める方向性を提案する。



○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	25名
	学校名	那覇市立若狭小学校、曙小学校、那覇小学校、泊小学校、天妃小学校
	募集方法	募集イベントとして、講師によるコンサート&楽器体験会を開催。 並行して、募集チラシを作成し、地域エリアにポスティングで配布。(当時のコロナの影響により、学校での配布に学校長の難色を示したため)
指導者	人数等	6名
	募集方法	継続している活動なので固定のメンバーにて実施している。 入替や代理が必要な場合は、運営事務局による選出後、個別に声かけし依頼。
参加者の移動手段		徒歩、保護者等による送迎
活動費用	指導者謝金等	1回 指導時間1時間 3,500円／1名
	その他	運営スタッフ人件費 運営スタッフ交通費 楽器修繕費 活動専用端末の通信費 消耗品費
活動財源	会費	無料
	その他	当該委託料 教育財団などからの助成金や補助金の活用。 一般からの寄付。 不足する場合は法人負担。
スケジュール	基本活動	毎週2回、木曜日(17:00～18:30)、日曜日(14:30～16:00)
	年間	募集イベント(例年5～7月頃) 地域イベント出演(随時、年4回) 発表会(例年2月下旬～3月上旬)
保険加入等		例年は、年度初めにほぼメンバーが確定していたため、その時点で保険加入できていたが、今年度は新型コロナの影響により、メンバー確定のタイミングが遅れたために、事業独自の保険加入はせずに、法人加入の保険により対応することとした。

## 【活動の様子（写真添付）】

写真候補案：練習会、本番、フェローとの様子、研修会、  
地域との関わり(第2回運営会議、まち協)の6種







写真4: 検討・運営会議

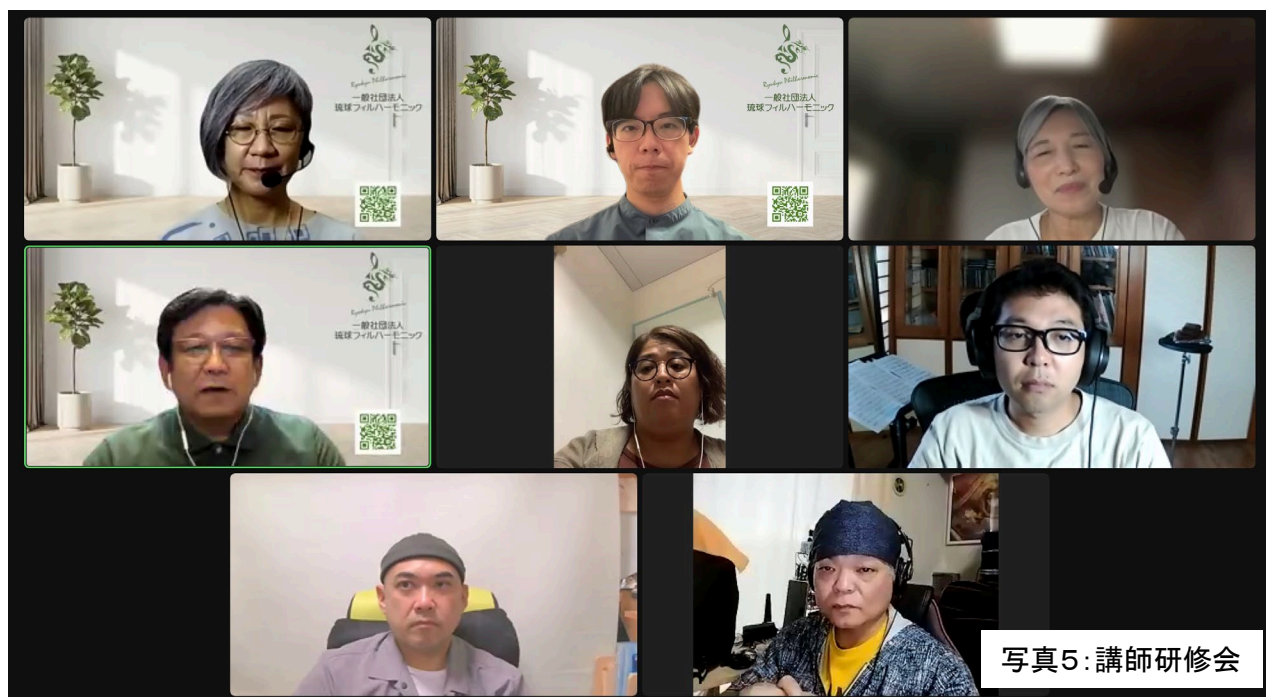


写真5: 講師研修会